

第23回  
文京区政に関する世論調査  
報告書

平成 27 年 12 月

文 京 区



## はじめに

文京区では、平成22年6月に「文京区基本構想～歴史と文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち『文の京』」を策定し、これに沿って総合的かつ計画的な区政運営を進めてまいりました。

来年度は、平成29年度を初年度とする新たな「基本構想実施計画」を策定してまいります。本計画は、基本構想に掲げた将来都市像の実現に向けた、第3期の計画であり、より総合的な見地から事業を効果的・効率的に進めていくための基盤整備を担う「行財政改革推進計画」を包含した計画として、区民の皆様との協働により策定してまいります。

このため、区では、区政を話し合う集い、広聴はがき、区民の声（ホームページ）など各種の広聴活動を行い、区民の皆様のご意見、ご要望の把握に努めております。

今回、この広聴活動の一環として、第23回の世論調査を実施いたしました。今回の調査では、「定住意向」「区政運営」「協働・協治」「防災・安全・まちづくり」「コミュニティ」「子育て・教育」「高齢者」「消費者相談」「文化・スポーツ振興」「循環型社会」「議会」「広聴」の12項目について調査しました。この調査結果につきましては、今後の区政運営の貴重な基礎資料として活用させていただきます。

おわりに、調査にご協力いただきました区民の皆様にご心からお礼申し上げます。

平成27年12月

文京区長 成澤 廣修



# 目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	3
2 調査の内容	3
3 調査の設計	3
4 回収結果	3
5 地区区分	4
6 集計にあたって	4
7 分析にあたって	5
8 母集団との比較	5
9 回答者の特性	6
II 調査結果の分析	7
1 定住意向	9
1-1 居住年数	11
1-2 定住・転出意向	13
1-3 住み続けたい理由	16
2 区政運営	19
2-1 満足に感じている区の施策	21
2-2 不満に感じている区の施策	24
2-3 さらに力を入れてほしい区の施策	27
2-4 区の財政状況に対する関心	28
2-5 区の財政状況に対する印象	32
2-6 財政の健全化を更に進めていくために必要なこと	36
3 協働・協治	39
3-1 参加している団体・組織・グループ	41
3-2 参加している団体・組織・グループの活動分野	44
3-3 今後参加してみたい地域活動	47
4 防災・安全・まちづくり	51
4-1 災害への備え	53
4-2 防災行政無線（屋外スピーカー）の認識状況	56
4-3 防災行政無線（屋外スピーカー）の使用状況	59
4-4 感震ブレーカーの設置状況	62
4-5 今後力を入れてほしい防犯対策事業	66
4-6 自転車の安全利用施策	69
4-7 シェアサイクル事業を行ううえで重要と思われること	71
4-8 周辺地域のまち並み・景観に対する満足度	73
4-9 文京区歩行喫煙等の禁止に関する条例の認知度	76

# 目 次

5	コミュニティ	79
5-1	町会・自治会への参加状況	81
5-2	町会・自治会活動への参加意向	85
5-3	町会・自治会に期待すること	89
5-4	国際化に対応していくために特に必要だと感じる事	92
6	子育て・教育	95
6-1	子育て支援のために取り組むべき施策	97
6-2	子育て支援サービスの認知度・利用経験・今後の利用意向	100
6-3	青少年健全育成に関して地域の大人たちが行うべきこと	114
6-4	学校支援活動の認知度・今後の協力意向	117
7	高齢者	121
7-1	高齢者あんしん相談センターの認知度	123
7-2	高齢者あんしん相談センターの認知事業内容	126
8	消費者相談	129
8-1	消費者相談コーナーの認知・利用状況	131
9	文化・スポーツ振興	133
9-1	2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて 区民の関心・意識を高めるために期待する取組	135
9-2	2020年東京オリンピック・パラリンピック終了後に 残るレガシー（遺産）として期待するもの	137
9-3	普段の運動頻度	139
10	循環型社会	141
10-1	「2R」推進のために区が重点的に行うべきこと	143
11	議会	145
11-1	区議会活動の認知媒体	147
11-2	区議会のホームページの閲覧状況	149
11-3	区議会の活動として期待すること	150
12	広聴	153
12-1	区役所本庁の窓口の利用状況	155
12-2	区役所本庁窓口での対応職員の印象	158
Ⅲ	質問と回答	161

# I 調査の概要





## 1 調査の目的

本調査は、区民の区政に対する意識や意向、意見や要望等を統計的手法によつて的確に把握することを目的として行った。

## 2 調査の内容

第23回文京区政に関する世論調査は、「区政全般」をテーマとし、次の12項目について調査した。

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| (1) 定住意向        | (7) 高齢者       |
| (2) 区政運営        | (8) 消費者相談     |
| (3) 協働・協治       | (9) 文化・スポーツ振興 |
| (4) 防災・安全・まちづくり | (10) 循環型社会    |
| (5) コミュニティ      | (11) 議会       |
| (6) 子育て・教育      | (12) 広聴       |

## 3 調査の設計

- |            |                                    |
|------------|------------------------------------|
| (1) 調査地域   | 文京区全域                              |
| (2) 調査対象   | 文京区在住の満20歳以上の個人（住民基本台帳による）         |
| (3) 標本数    | 2,500サンプル                          |
| (4) 対象者の抽出 | 層化2段無作為抽出法（5地区に分類し対象者を抽出）          |
| (5) 調査方法   | [配布] 郵送配布<br>[回収] 郵送回収またはインターネット回答 |
| (6) 調査期間   | 平成27年8月20日（木）～9月4日（金）              |
| (7) 調査機関   | 株式会社 総合企画                          |

## 4 回収結果

### (1) 地区別

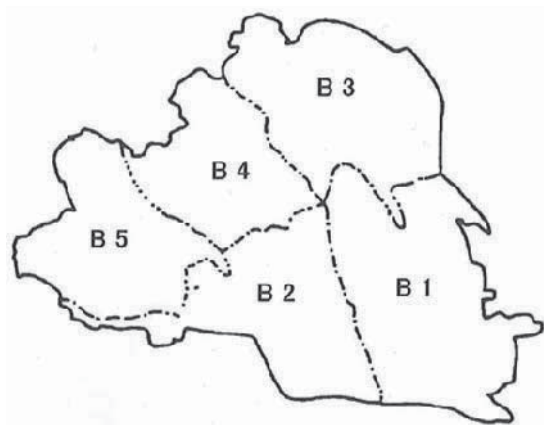
	満20歳以上人口（構成比）	標本数	有効回収数	有効回収率
全 体	177,961 (100.0%)	2,500	1,196	47.8%
B 1 地区	42,844 (24.1%)	600	286	47.7%
B 2 地区	34,208 (19.2%)	475	224	47.2%
B 3 地区	45,152 (25.4%)	625	308	49.3%
B 4 地区	29,527 (16.6%)	425	197	46.4%
B 5 地区	26,230 (14.7%)	375	173	46.1%
地区不明	-	-	8	-

※満20歳以上人口：平成27年7月1日現在

### (2) 回収方法別

	有効回収数	（構成比）
全 体	1,196	(100.0%)
郵送	976	(81.6%)
インターネット	215	(18.0%)
持参	5	(0.4%)

## 5 地区区分



地区	町名(丁目)
B 1	根津、弥生、本郷、湯島、西片、白山(1丁目)、向丘(1丁目)
B 2	後楽、春日、水道、小石川(1～4丁目)、関口(1丁目)、小日向(1丁目)、白山(2丁目)
B 3	千駄木、本駒込、向丘(2丁目)、白山(5丁目)
B 4	千石、白山(3・4丁目)、大塚(3・4丁目)、小石川(5丁目)
B 5	音羽、目白台、大塚(1・2・5・6丁目)、関口(2・3丁目)、小日向(2～4丁目)

## 6 集計にあたって

- (1) 図表中の「n」(number of caseの略)は、各設問の回答者数を示し、比率算出の基数である。
- (2) 集計は百分率とし、小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、回答比率を合計しても100.0%ちょうどにならず、1%の範囲で増減することがある。
- (3) 回答の比率(%)は、その設問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問は、すべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- (4) 集計は、①単純集計、②フェイスシートとのクロス集計、③設問間のクロス集計の3種類を行った。
- (5) 標本誤差は回答者数と得られた結果の比率によって異なるが、層化二段無作為抽出法による場合の誤差(信頼度95%)は次の式によって得られる。

<標本誤差算出式>

$$b = 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

$b$  = 標本誤差 (二段抽出の場合)  
 $N$  = 母集団全体  
 $n$  = 比率算出の基数 (回答者数)  
 $P$  = 回答の比率

今回の調査結果の場合、誤差及び信頼の範囲は次ページの表のとおりであり、「ある設問の回答者数が1,196人で、その設問中の選択肢の回答比率が60%であった場合、その答比率の誤差の範囲は、最高でも±4.01である」というようにみる。

<標本誤差早見表> (信頼度：95%)

回答比率 (P) 基数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,196	± 2.45	± 3.27	± 3.75	± 4.01	± 4.09
800	± 3.00	± 4.00	± 4.58	± 4.90	± 5.00
600	± 3.46	± 4.62	± 5.29	± 5.66	± 5.77
400	± 4.24	± 5.66	± 6.48	± 6.93	± 7.07
200	± 6.00	± 8.00	± 9.17	± 9.80	± 10.00
100	± 8.49	± 11.31	± 12.96	± 13.86	± 14.14

(注) Nはnより非常に大きいため、 $\frac{N-n}{N-1} \approx 1$  とみなせるので、 $\frac{N-n}{N-1} = 1$  として計算した。

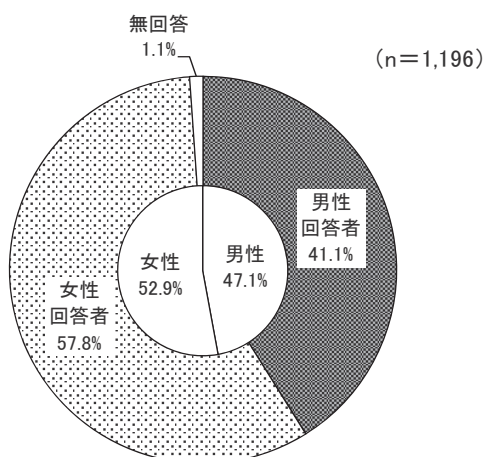
## 7 分析にあたって

- (1) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化してある。
- (2) クロス結果の帯グラフや表について、表側（分析の軸）となる設問に「無回答」がある場合、これを表示しない。ただし、全体の件数には含めているので、表側（分析の軸）の件数の合計が、全体の件数と一致しないことがある。
- (3) 複数回答の設問におけるクロス結果の棒グラフは、上位10項目に限定している場合があり、その際、「その他」は対象から除き表示していない。
- (4) クロス集計時に、基数 (n) が小さい数字になる場合は誤差が大きいため注意が必要であり、コメントを省略していることがある。
- (5) ライフステージの分類は以下のとおりである。

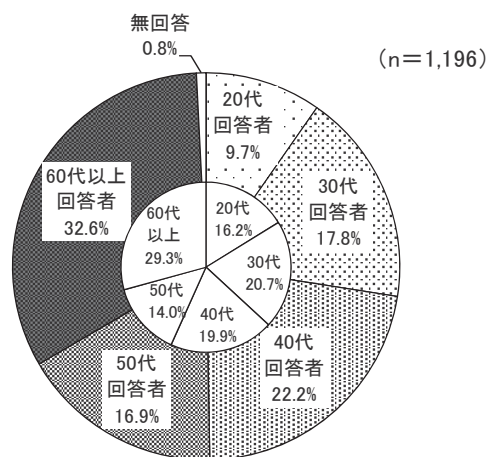
- ・ 独身期：40歳未満の独身者
- ・ 家族形成期：40歳未満の子どもがいない夫婦、または一番上の子どもが就学前の人
- ・ 家族成長前期：一番上の子どもが小・中学生の人
- ・ 家族成長後期：一番上の子どもが高校・大学生の人
- ・ 家族成熟期：64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
- ・ 老齢期：65歳以上の人
- ・ その他：40歳～64歳の独身者、40歳～64歳の子どもがいない夫婦など

## 8 母集団との比較

(1) 性別構成



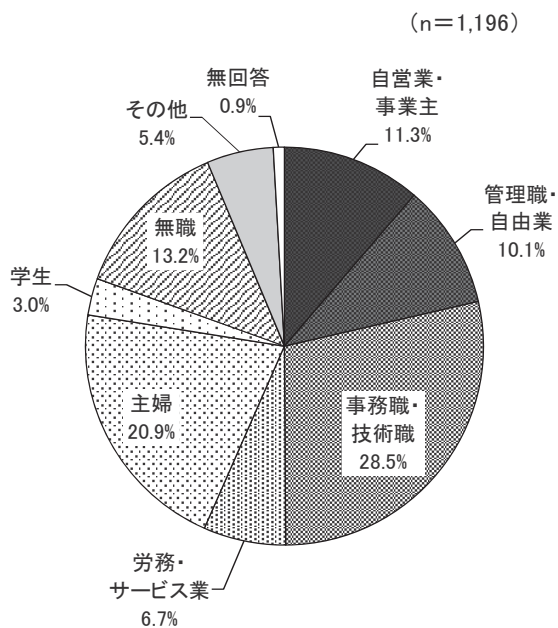
(2) 年代構成



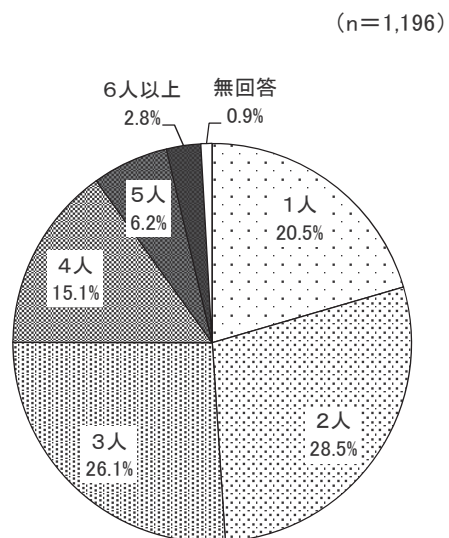
(注) 円内は母集団、外円は調査回答者の構成比を示している。

## 9 回答者の特性

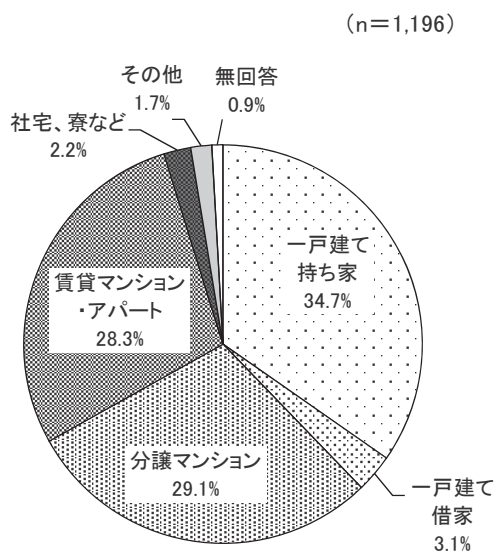
(1) 職業



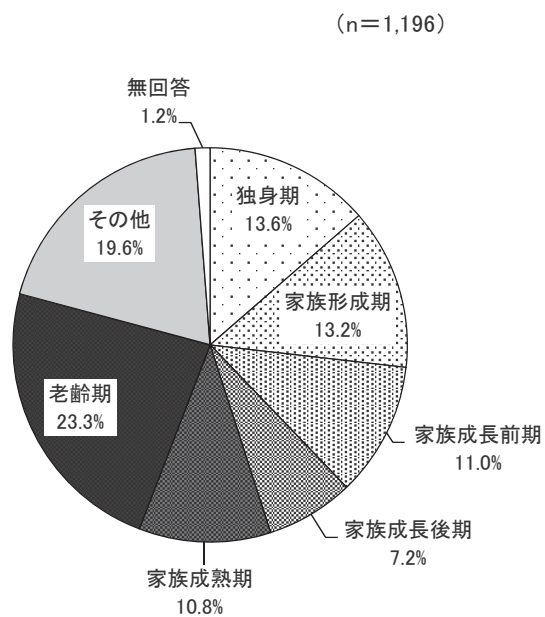
(2) 家族人数



(3) 居住形態



(4) ライフステージ



## II 調査結果の分析



# 1 定住意向

- 
- 1 - 1 居住年数
  - 1 - 2 定住・転出意向
  - 1 - 3 住み続けたい理由
-



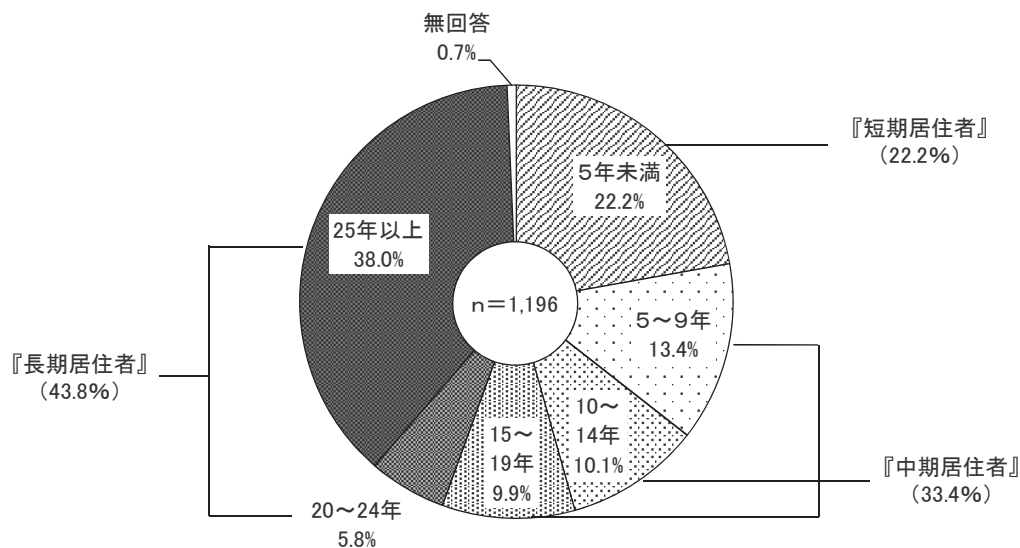


# 1 定住意向

## 1-1 居住年数

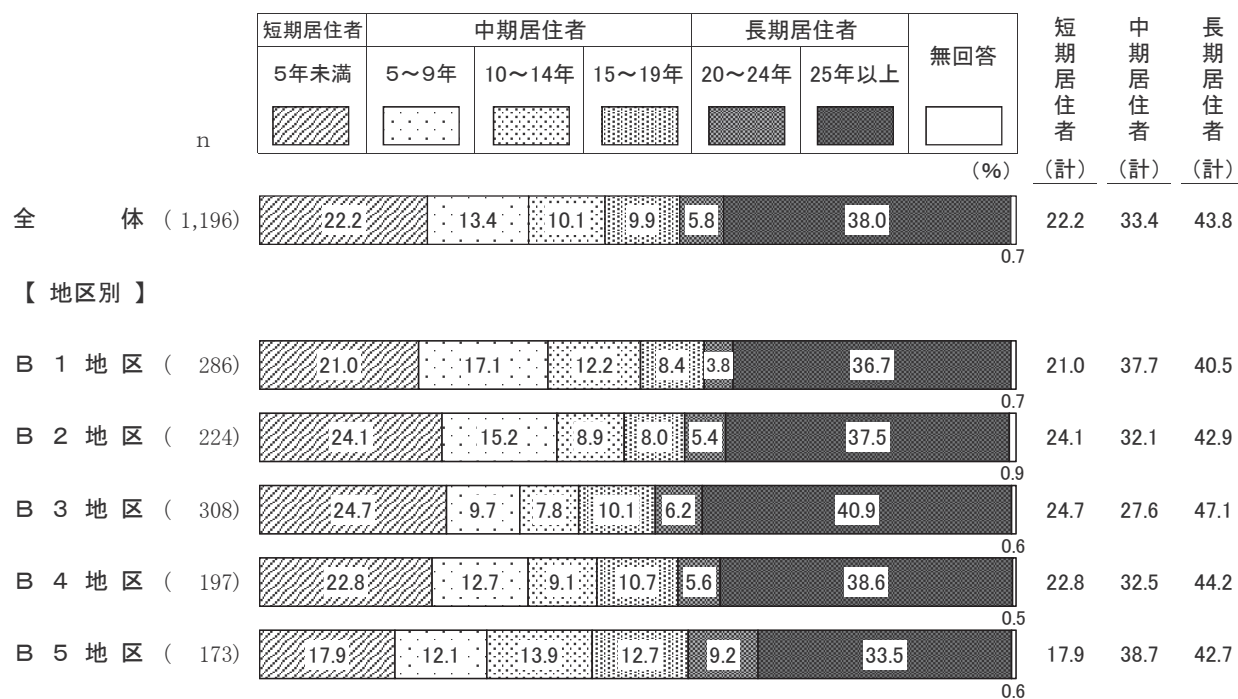
問1 あなたは、文京区にお住まいになって何年になりますか。(○は1つ)

図1-1-1 居住年数



居住年数をたずねたところ、「5年未満」の『短期居住者』（22.2%）が2割台、「5～9年」（13.4%）、「10～14年」（10.1%）、「15～19年」（9.9%）を合わせた『中期居住者』（33.4%）が3割台、「20～24年」（5.8%）、「25年以上」（38.0%）を合わせた『長期居住者』（43.8%）が4割を超えている。（図1-1-1）

図 1 - 1 - 2 居住年数—地区別

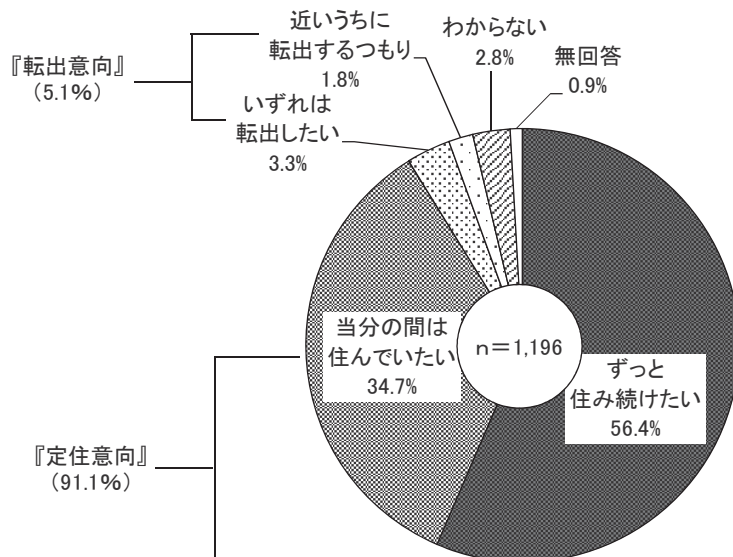


地区別にみると、『中期居住者』はB 1 地区、B 5 地区でともに4割近く、『長期居住者』はB 3 地区で5割近くと多くなっている。(図 1 - 1 - 2)

## 1-2 定住・転出意向

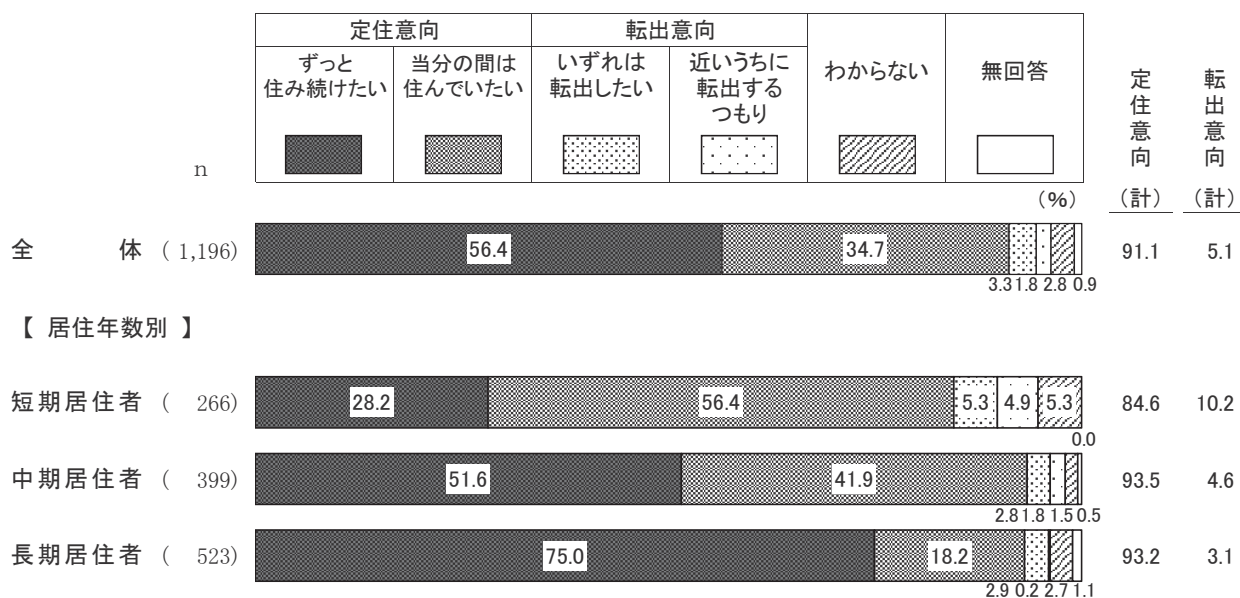
問2 あなたは、これからも文京区に住み続けたいと思いますか。(○は1つ)

図1-2-1 定住・転出意向



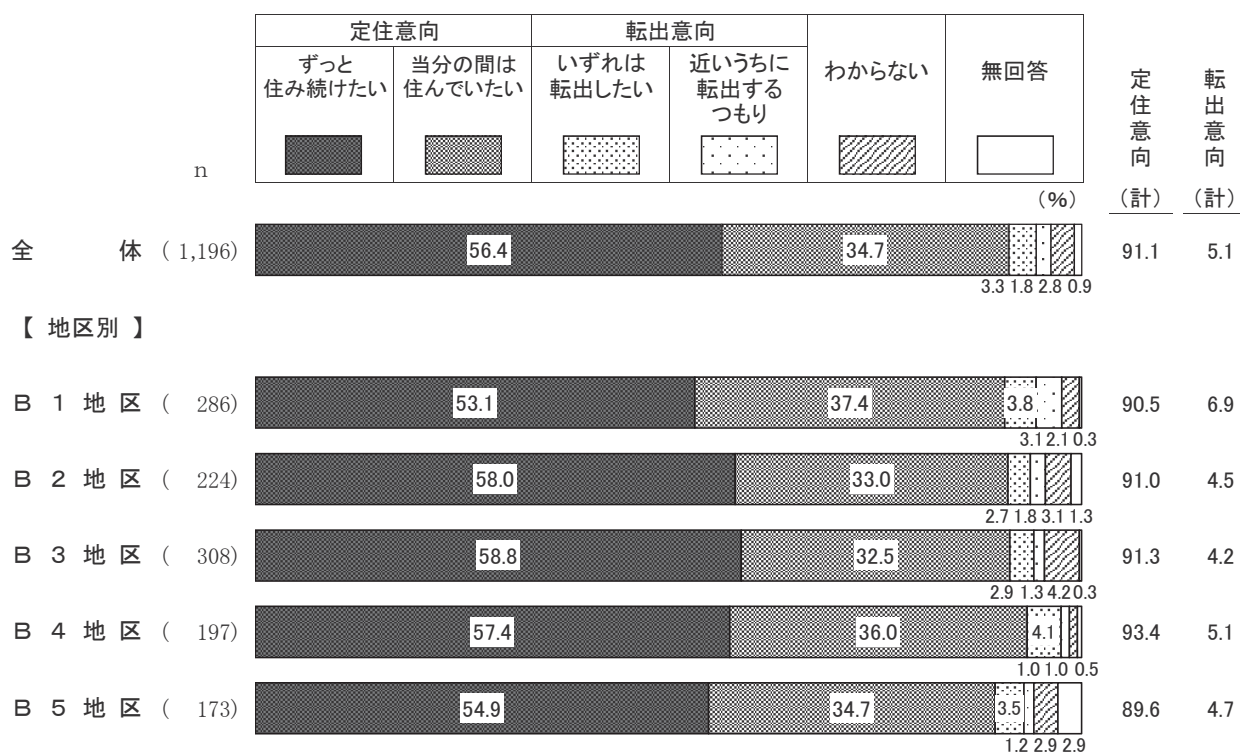
定住・転出意向をたずねたところ、これからも文京区に「ずっと住み続けたい」(56.4%)が5割半ばを占め、「当分の間は住んでいたい」(34.7%)を合わせた『定住意向』(91.1%)が9割を超えている。一方、「いずれは転出したい」(3.3%)、「近いうちに転出するつもり」(1.8%)を合わせた『転出意向』(5.1%)は1割に満たない。(図1-2-1)

図 1-2-2 定住・転出意向—居住年数別



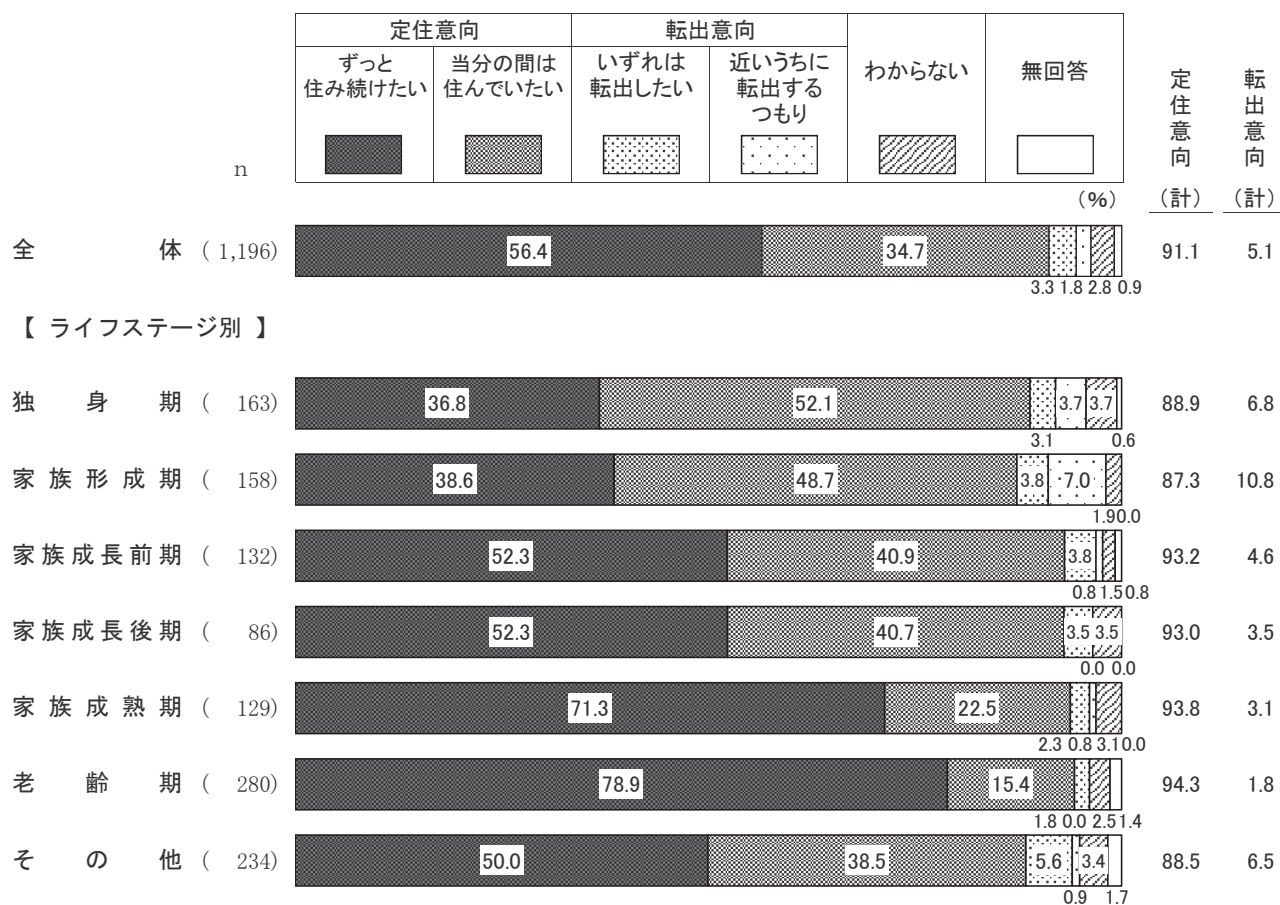
居住年数別にみると、「ずっと住み続けたい」は居住年数が長いほど多く、長期居住者で7割半ばと特に多くなっている。『定住意向』はいずれの居住年数でも8割以上を占めており、短期居住者で8割半ば、中期居住者、長期居住者でともに9割を超えている。(図1-2-2)

図 1-2-3 定住・転出意向—地区別



地区別にみると、「ずっと住み続けたい」はすべての地区で5割を超えており、『定住意向』はB5地区を除く地区で9割を超えている。(図1-2-3)

図 1-2-4 定住・転出意向－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「ずっと住み続けたい」は老齢期で8割近く、家族成熟期でほぼ7割と多くなっており、次いで家族成長前期、家族成長後期、その他でそれぞれ5割を超えている。独身期、家族形成期はともに4割近くとなっている。『定住意向』は家族成長前期から老齢期でそれぞれ9割を超え多くなっている。(図1-2-4)

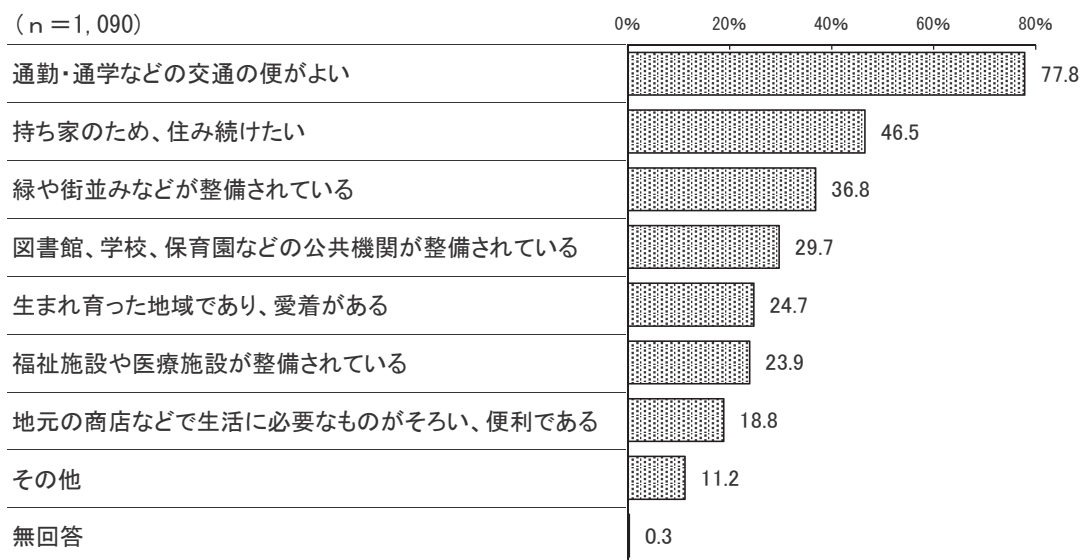
### 1-3 住み続けたい理由

【問2で「1. ずっと住み続けたい」または「2. 当分の間は住んでいたい」と回答した方に】

問2-1 住み続けたいと思う理由は何ですか。

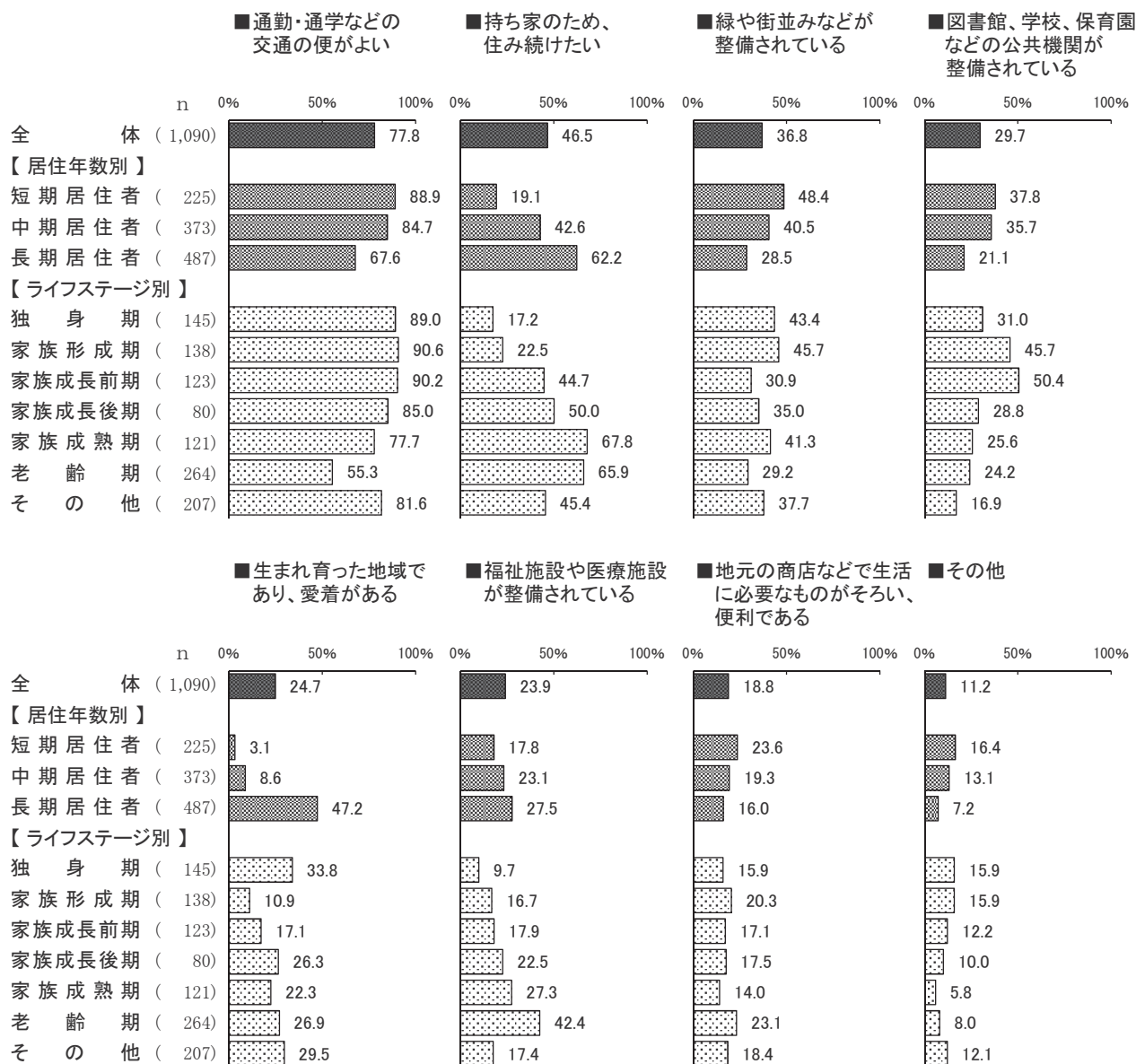
次の中からあてはまるものを3つまで選んで、右の欄に番号をご記入ください。

図 1-3-1 住み続けたい理由



これからも文京区に「ずっと住み続けたい」または「当分の間は住んでいたい」と答えた方（1,090人）に、住み続けたい理由をたずねたところ、「通勤・通学などの交通の便がよい」（77.8%）が8割近くと最も多く、次いで「持ち家のため、住み続けたい」（46.5%）、「緑や街並みなどが整備されている」（36.8%）、「図書館、学校、保育園などの公共機関が整備されている」（29.7%）などの順となっている。（図1-3-1）

図1-3-2 住みたい理由—居住年数別／ライフステージ別



居住年数別にみると、「通勤・通学などの交通の便がよい」、「緑や街並みなどが整備されている」、「図書館、学校、保育園などの公共機関が整備されている」などは居住年数が短いほど多くなっている。一方、「持ち家のため、住みたい」、「生まれ育った地域であり、愛着がある」、「福祉施設や医療施設が整備されている」は居住年数が長いほど多くなっている。

ライフステージ別にみると、「通勤・通学などの交通の便がよい」は独身期、家族形成期、家族成長前期でそれぞれほぼ9割、「図書館、学校、保育園などの公共機関が整備されている」は家族形成期で4割半ば、家族成長前期で5割と多くなっている。「持ち家のため、住みたい」はライフステージが上がるほど多く、家族成熟期や老齢期で6割半ばを超えている。また、「福祉施設や医療施設が整備されている」もライフステージが上がるほど多く、老齢期で4割を超え多くなっている。一方、「生まれ育った地域であり、愛着がある」は独身期で3割を超え多くなっている。（図1-3-2）





## 2 区政運営

- 
- 2-1 満足に感じている区の施策
  - 2-2 不満に感じている区の施策
  - 2-3 さらに力を入れてほしい区の施策
  - 2-4 区の財政状況に対する関心
  - 2-5 区の財政状況に対する印象
  - 2-6 財政の健全化を更に進めていくために必要なこと
-

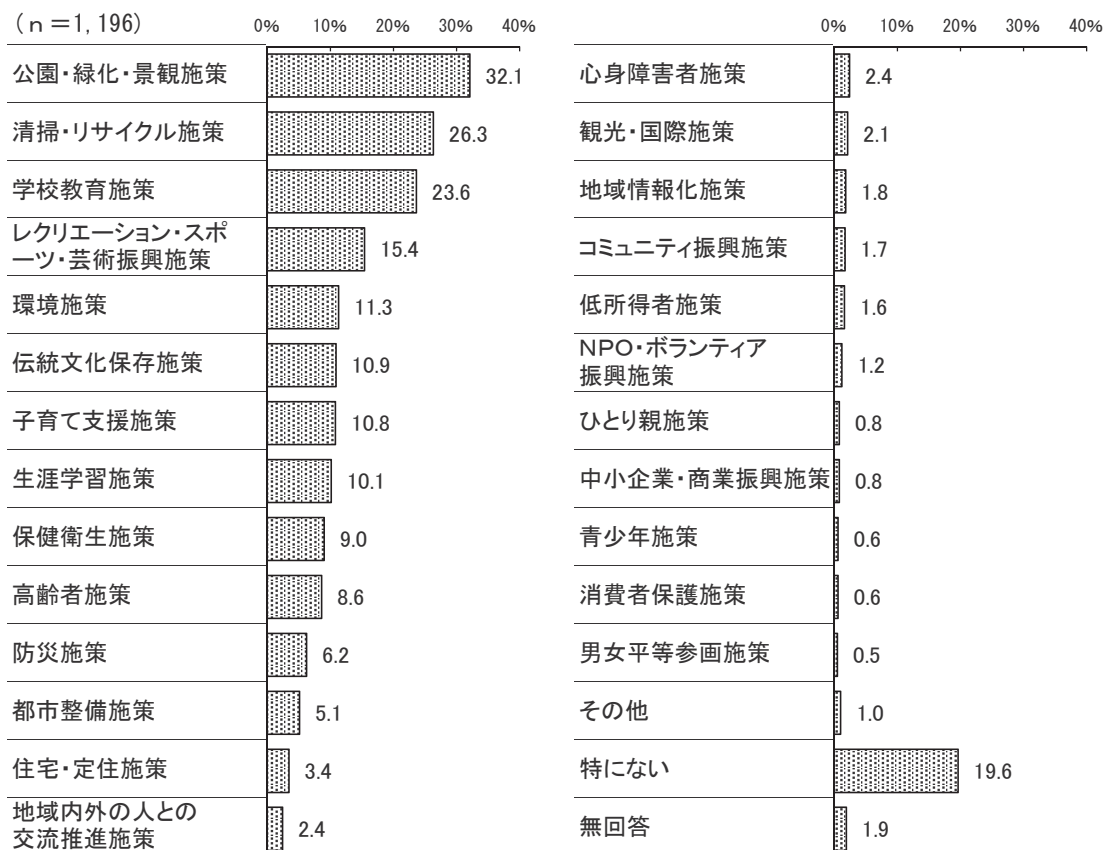


## 2 区政運営

### 2-1 満足に感じている区の施策

問3 次の区の施策のうち、あなたが満足に感じているものはどれですか。  
次の中からあてはまるものを3つまで選んで、右の欄に番号をご記入ください。

図2-1-1 満足に感じている区の施策



満足を感じる区の施策についてたずねたところ、「公園・緑化・景観施策」(32.1%)が3割を超え最も多く、次いで「清掃・リサイクル施策」(26.3%)、「学校教育施策」(23.6%)、「レクリエーション・スポーツ・芸術振興施策」(15.4%)などの順となっている。

(図2-1-1)

表2-1-1 満足に感じている区の施策—性別／性・年代別

(%)

		n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体		1,196	公園・緑化・ 景観施策 32.1	清掃・ リサイクル施策 26.3	学校教育施策 23.6	レクリエーション ・スポーツ・芸術 振興施策 15.4	環境施策 11.3
【性別】	男 性	492	公園・緑化・ 景観施策 30.7	清掃・リサイクル施策 ／学校教育施策 26.4		レクリエーション ・スポーツ・芸術 振興施策 15.7	伝統文化保存施策 12.2
	女 性	691	公園・緑化・ 景観施策 32.6	清掃・ リサイクル施策 26.5	学校教育施策 21.6	レクリエーション ・スポーツ・芸術 振興施策 15.2	生涯学習施策 12.0
男 性	20 代	49	公園・緑化・ 景観施策 30.6	学校教育施策 28.6	レクリエーション ・スポーツ・芸術 振興施策 26.5	清掃・ リサイクル施策 24.5	環境施策 12.2
	30 代	87	公園・緑化・ 景観施策 27.6	学校教育施策 26.4	清掃・ リサイクル施策 20.7	レクリエーション ・スポーツ・芸術 振興施策 18.4	伝統文化保存施策 17.2
	40 代	105	学校教育施策 29.5	公園・緑化・ 景観施策 27.6	清掃・ リサイクル施策 24.8	子育て支援施策 21.0	レクリエーション ・スポーツ・芸術 振興施策 14.3
	50 代	81	公園・緑化・ 景観施策 33.3	清掃・ リサイクル施策 32.1	学校教育施策 24.7	レクリエーション ・スポーツ・芸術 振興施策 16.0	伝統文化保存施策 14.8
	60代以上	170	公園・緑化・ 景観施策 32.9	清掃・ リサイクル施策 28.2	学校教育施策 24.7	高齢者施策 16.5	環境施策 14.1
女 性	20 代	66	公園・緑化・ 景観施策 40.9	清掃・ リサイクル施策 15.2	学校教育施策／環境施策／保健衛生施策 13.6		
	30 代	126	公園・緑化・ 景観施策 28.6	清掃・ リサイクル施策 23.0	学校教育施策 21.4	子育て支援施策 17.5	レクリエーション ・スポーツ・芸術 振興施策 16.7
	40 代	160	公園・緑化・ 景観施策 31.3	学校教育施策 28.1	清掃・ リサイクル施策 25.6	子育て支援施策 20.0	レクリエーション ・スポーツ・芸術 振興施策 17.5
	50 代	121	公園・緑化・景観施策 ／清掃・リサイクル施策 28.1		学校教育施策 24.8	環境施策 17.4	生涯学習施策 15.7
	60代以上	217	公園・緑化・ 景観施策 35.9	清掃・ リサイクル施策 31.8	学校教育施策／高齢者施策 17.5		生涯学習施策 16.1

性別に上位の施策をみると、男女ともに第1位は「公園・緑化・景観施策」、第2位は「清掃・リサイクル施策」、第3位は「学校教育施策」（男性は第2位と同率）、第4位は「レクリエーション・スポーツ・芸術振興施策」と上位の項目に差はみられない。

性・年代別に上位の施策をみると、男性40代で第1位が「学校教育施策」となっており、他の性・年代では「公園・緑化・景観施策」が第1位となっている。また、男性20代、男性30代、女性40代では第2位が「学校教育施策」となっている。一方、「高齢者施策」は男性60代以上では第4位、女性60代以上では第3位となっている。（表2-1-1）

表 2-1-2 満足に感じている区の施策－ライフステージ別

(%)

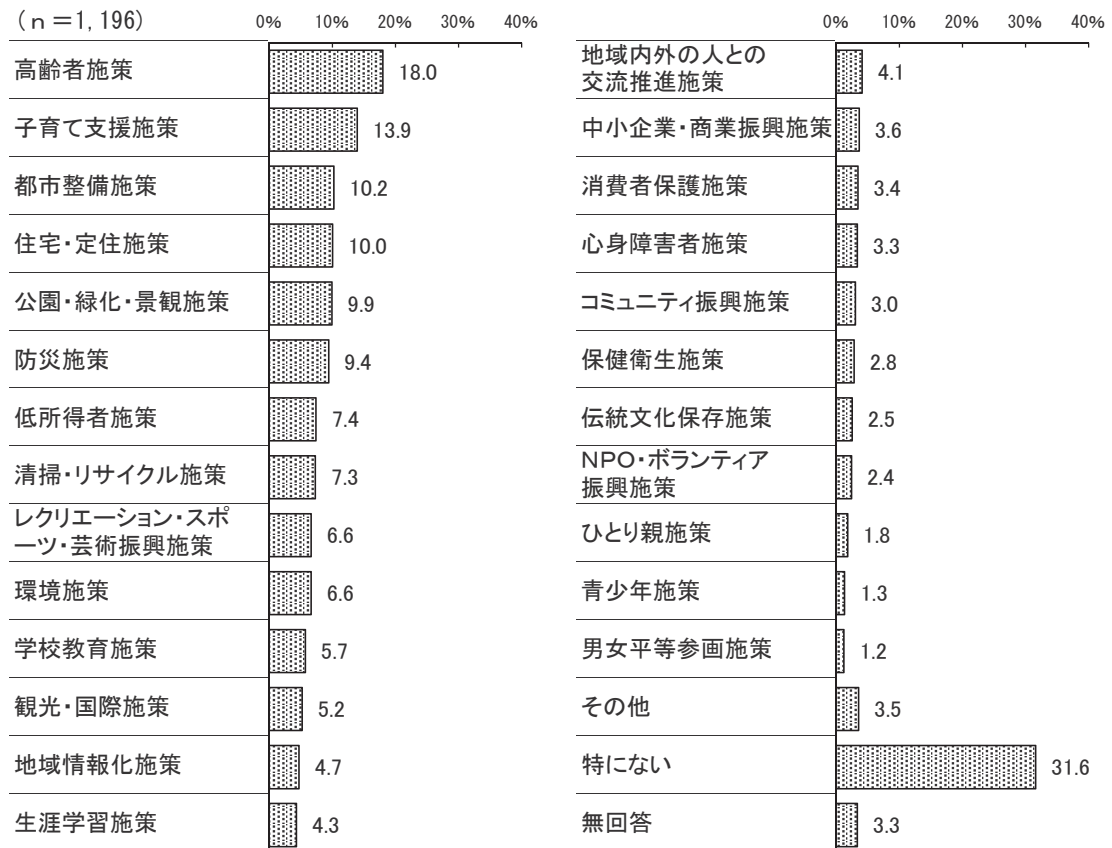
		n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体		1,196	公園・緑化・ 景観施策 32.1	清掃・ リサイクル施策 26.3	学校教育施策 23.6	レクリエーション ・スポーツ・芸術 振興施策 15.4	環境施策 11.3
【 ライフ ステージ 別 】	独 身 期	163	公園・緑化・ 景観施策 31.9	清掃・ リサイクル施策 22.7	学校教育施策 20.9	レクリエーション ・スポーツ・芸術 振興施策 15.3	環境施策 11.7
	家 族 形 成 期	158	公園・緑化・ 景観施策 33.5	清掃・リサイクル施策／学校教育施策 ／子育て支援施策 20.9		レクリエーション ・スポーツ・芸術 振興施策	レクリエーション ・スポーツ・芸術 振興施策 16.5
	家 族 成 長 前 期	132	学校教育施策 49.2	子育て支援施策 31.8	公園・緑化・ 景観施策 25.8	レクリエーション ・スポーツ・芸術 振興施策 19.7	清掃・ リサイクル施策 18.2
	家 族 成 長 後 期	86	学校教育施策 39.5	清掃・ リサイクル施策 27.9	公園・緑化・ 景観施策 26.7	子育て支援施策 20.9	レクリエーション・ス ポーツ・芸術振興施策 ／生涯学習施策 10.5
	家 族 成 熟 期	129	公園・緑化・ 景観施策 34.1	清掃・リサイクル施策 ／学校教育施策 30.2		レクリエーション ・スポーツ・芸術 振興施策 18.6	生涯学習施策 14.0
	老 齢 期	280	公園・緑化・ 景観施策 35.4	清掃・ リサイクル施策 31.4	高齢者施策 19.3	学校教育施策 18.6	環境施策 15.0
	そ の 他	234	公園・緑化・ 景観施策 33.3	清掃・ リサイクル施策 28.2	レクリエーション ・スポーツ・芸術 振興施策 16.7	伝統文化保存施策 13.7	環境施策 12.4

ライフステージ別に上位の施策をみると、独身期、家族形成期、家族成熟期、老齢期、その他では第1位が「公園・緑化・景観施策」となっている。家族成長前期、家族成長後期では第1位が「学校教育施策」となっており、家族成長前期ではほぼ5割、家族成長後期ではほぼ4割と多くなっている。また、家族形成期、家族成長前期では第2位が「子育て支援施策」、老齢期では第3位が「高齢者施策」となっている。（表2-1-2）

## 2-2 不満に感じている区の施策

問4 次の区の施策のうち、あなたが不満に感じているものはどれですか。  
次の中からあてはまるものを3つまで選んで、右の欄に番号をご記入ください。

図2-2-1 不満に感じている区の施策



不満を感じる区の施策についてたずねたところ、「高齢者施策」(18.0%)が2割近くと最も多く、次いで「子育て支援施策」(13.9%)、「都市整備施策」(10.2%)、「住宅・定住施策」(10.0%)などが1割台が続いている。「公園・緑化・景観施策」(9.9%)以下は1割未満となっており、「特にない」(31.6%)が3割を超えている。(図2-2-1)

表2-2-1 不満に感じている区の施策—性別／性・年代別

(%)

		n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全	体	1,196	高齢者施策	子育て支援施策	都市整備施策	住宅・定住施策	公園・緑化・ 景観施策
			18.0	13.9	10.2	10.0	9.9
【性別】	男	492	高齢者施策	子育て支援施策／都市整備施策		住宅・定住施策	公園・緑化・ 景観施策
	女性	691	高齢者施策	子育て支援施策	公園・緑化・ 景観施策	防災施策	住宅・定住施策
			18.7	13.0		11.4	10.0
			17.2	14.6	9.8	9.7	8.8
男	20代	49	都市整備施策 ／公園・緑化・景観施策		高齢者施策／住宅・定住施策／地域情報化施策		
			10.2		8.2		
	30代	87	子育て支援施策	都市整備施策	公園・緑化・景観施策 ／観光・国際施策	学校教育施策／ 住宅・定住施策	
			29.9	14.9	11.5		9.2
	40代	105	子育て支援施策	公園・緑化・ 景観施策	高齢者施策／都市整備施策／住宅・定住施策		
		16.2	13.3	12.4			
50代	81	都市整備施策	高齢者施策	防災施策	住宅・定住施策	環境施策／中小企 業・商業振興施策	
		17.3	14.8	12.3	11.1	8.6	
60代以上	170	高齢者施策	低所得者施策／住宅・定住施策		防災施策	都市整備施策	
		36.5	12.9		12.4	11.2	
女	20代	66	清掃・ リサイクル施策	レクリエーション ・スポーツ・芸術 振興施策	低所得者施策／都市整備施策／観光・国際施策		
			10.6	9.1	7.6		
	30代	126	子育て支援施策	公園・緑化・ 景観施策	学校教育施策	住宅・定住施策	レクリエーション ・スポーツ・芸術 振興施策
			31.0	13.5	11.9	9.5	8.7
	40代	160	子育て支援施策	公園・緑化・ 景観施策	防災施策	環境施策	学校教育施策
		22.5	14.4	11.3	10.6	10.0	
50代	121	高齢者施策	防災施策	低所得者施策／住宅・定住施策		生涯学習施策／都市 整備施策／公園・緑 化・景観施策	
		23.1	14.0	9.1		8.3	
60代以上	217	高齢者施策	防災施策	低所得者施策／環境施策／住宅・定住施策			
		30.0	10.6	9.7			

性別に上位の施策をみると、男女いずれも第1位は「高齢者施策」、第2位は「子育て支援施策」（男性は同率で「都市整備施策」）となっている。「住宅・定住施策」は男性で第4位、女性で第5位、「公園・緑化・景観施策」は男性で第5位、女性で第3位となっている。

性・年代別に上位の施策をみると、男女ともに30代、40代で「子育て支援施策」が第1位となっており、男女ともに30代でほぼ3割と多くなっている。男性60代以上、女性50代、60代以上で「高齢者施策」が第1位となっており、男性60代以上で3割半ば、女性60代以上で3割と多くなっている。また、女性50代、60代以上で「防災施策」が第2位となっている。（表2-2-1）

表 2-2-2 不満に感じている区の施策－ライフステージ別

(%)

		n	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
全 体		1,196	高齢者施策 18.0	子育て支援施策 13.9	都市整備施策 10.2	住宅・定住施策 10.0	公園・緑化・ 景観施策 9.9
【 ライフ ステージ 別 】	独 身 期	163	都市整備施策 12.3	公園・緑化・ 景観施策 11.0	清掃・ リサイクル施策 10.4	レクリエーション ・スポーツ・芸術 振興施策 9.8	高齢者施策 8.6
	家 族 形 成 期	158	子育て支援施策 36.1	公園・緑化・ 景観施策 10.1	学校教育施策 7.6	住宅・定住施策 7.0	都市整備施策 6.3
	家 族 成 長 前 期	132	子育て支援施策 34.8	学校教育施策 24.2	公園・緑化・ 景観施策 18.9	住宅・定住施策 14.4	都市整備施策 12.1
	家 族 成 長 後 期	86	高齢者施策 16.3	防災施策 15.1	都市整備施策 ／公園・緑化・景観施策 12.8		子育て支援施策 ／環境施策 11.6
	家 族 成 熟 期	129	高齢者施策 21.7	子育て支援施策 12.4	防災施策 10.9	生涯学習施策 10.1	都市整備施策 9.3
	老 齢 期	280	高齢者施策 36.1	住宅・定住施策／防災施策 12.1		低所得者施策 10.7	都市整備施策 ／環境施策 10.0
	そ の 他	234	高齢者施策 17.9	住宅・定住施策 11.1	都市整備施策 10.3	防災施策 9.8	清掃・ リサイクル施策 7.7

ライフステージ別に上位の施策をみると、第1位は独身期で「都市整備施策」、家族形成期、家族成長前期で「子育て支援施策」、家族成長後期、家族成熟期、老齢期、その他で「高齢者施策」となっている。家族形成期、家族成長前期の「子育て支援施策」、老齢期の「高齢者施策」はいずれも3割半ばと多くなっている。また、家族成長前期で「学校教育施策」が第2位となっており、2割半ばと多くなっている。(表2-2-2)



## 2-3 さらに力を入れてほしい区の施策

問5 次の区の施策のうち、あなたがさらに力を入れるべきだと考えるものはどれですか。順位をつけて3つまで選び、下の欄に番号をご記入ください。

図2-3-1 さらに力を入れてほしい区の施策



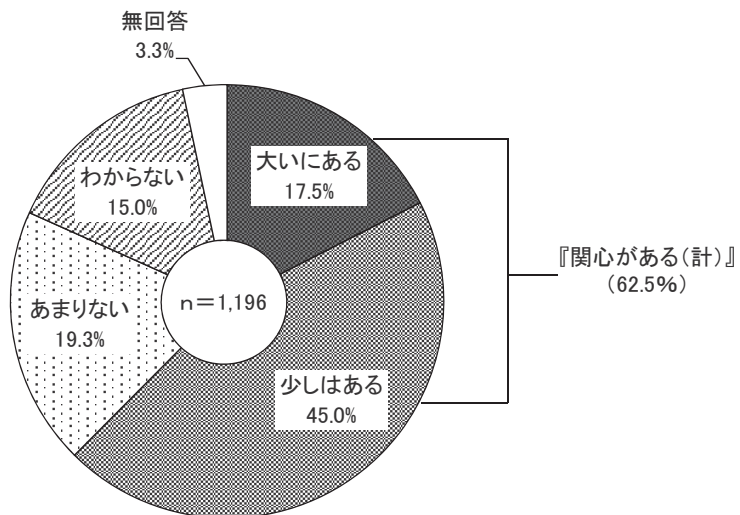
さらに力を入れてほしい区の施策についてたずねたところ、第1位は「高齢者施策」(19.9%)が2割と最も多く、次いで「子育て支援施策」(17.7%)、「学校教育施策」(8.7%)、「防災施策」(4.8%)、「都市整備施策」(4.2%)などの順となっている。

第1位から第3位までを合計すると、「高齢者施策」(35.2%)が3割半ばと最も多く、次いで「子育て支援施策」(29.1%)、「防災施策」(20.2%)、「学校教育施策」(16.6%)、「公園・緑化・景観施策」(15.0%)などの順となっている。(図2-3-1)

## 2-4 区の財政状況に対する関心

問6 あなたは、区の財政状況に関心がありますか。(○は1つ)

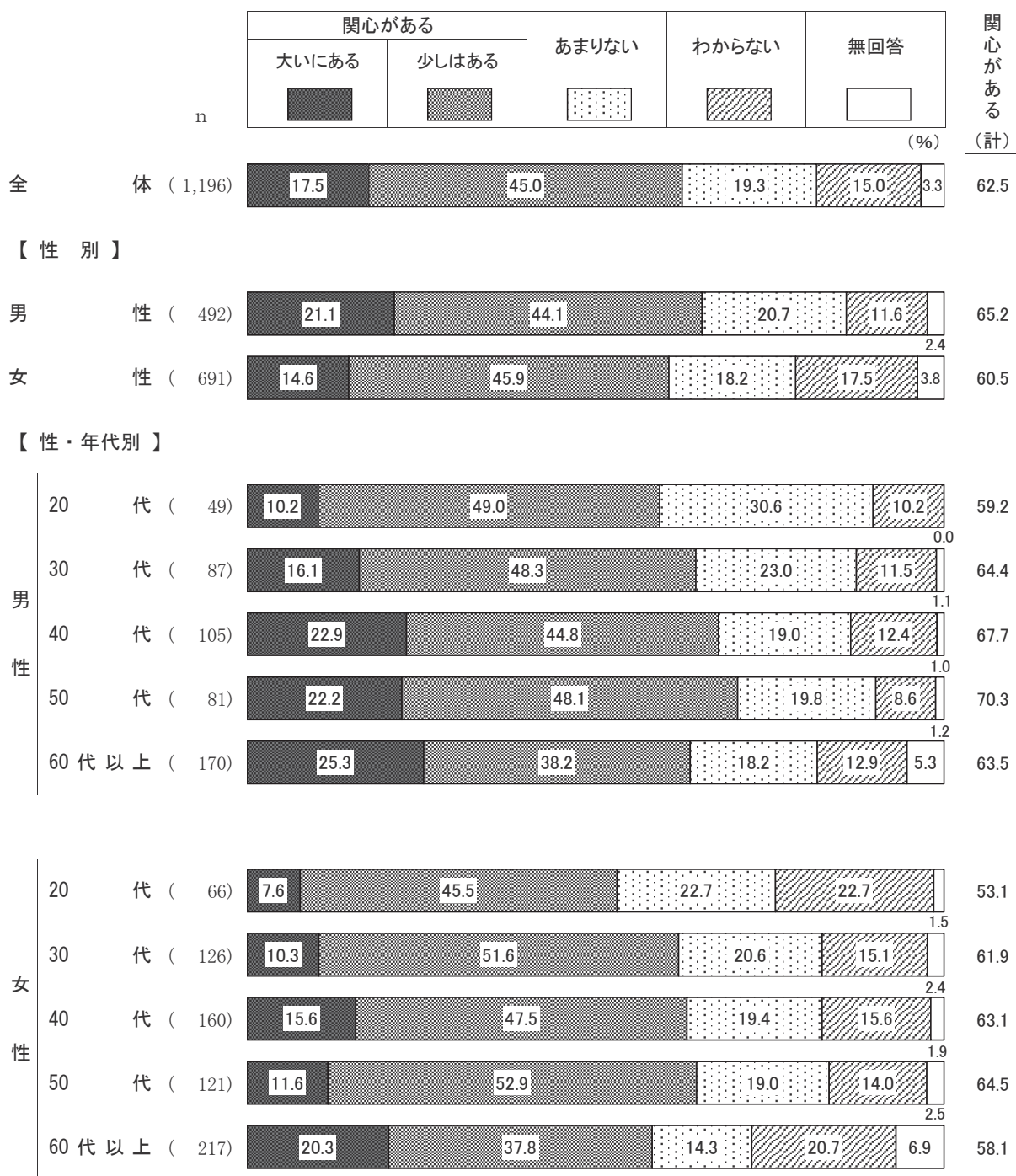
図2-4-1 区の財政状況に対する関心



区の財政に対する関心についてたずねたところ、「大いにある」(17.5%)と「少しはある」(45.0%)を合わせた『関心がある(計)』(62.5%)は6割を超えている。一方、「あまりない」(19.3%)はほぼ2割、「わからない」(15.0%)は1割半ばとなっている。

(図2-4-1)

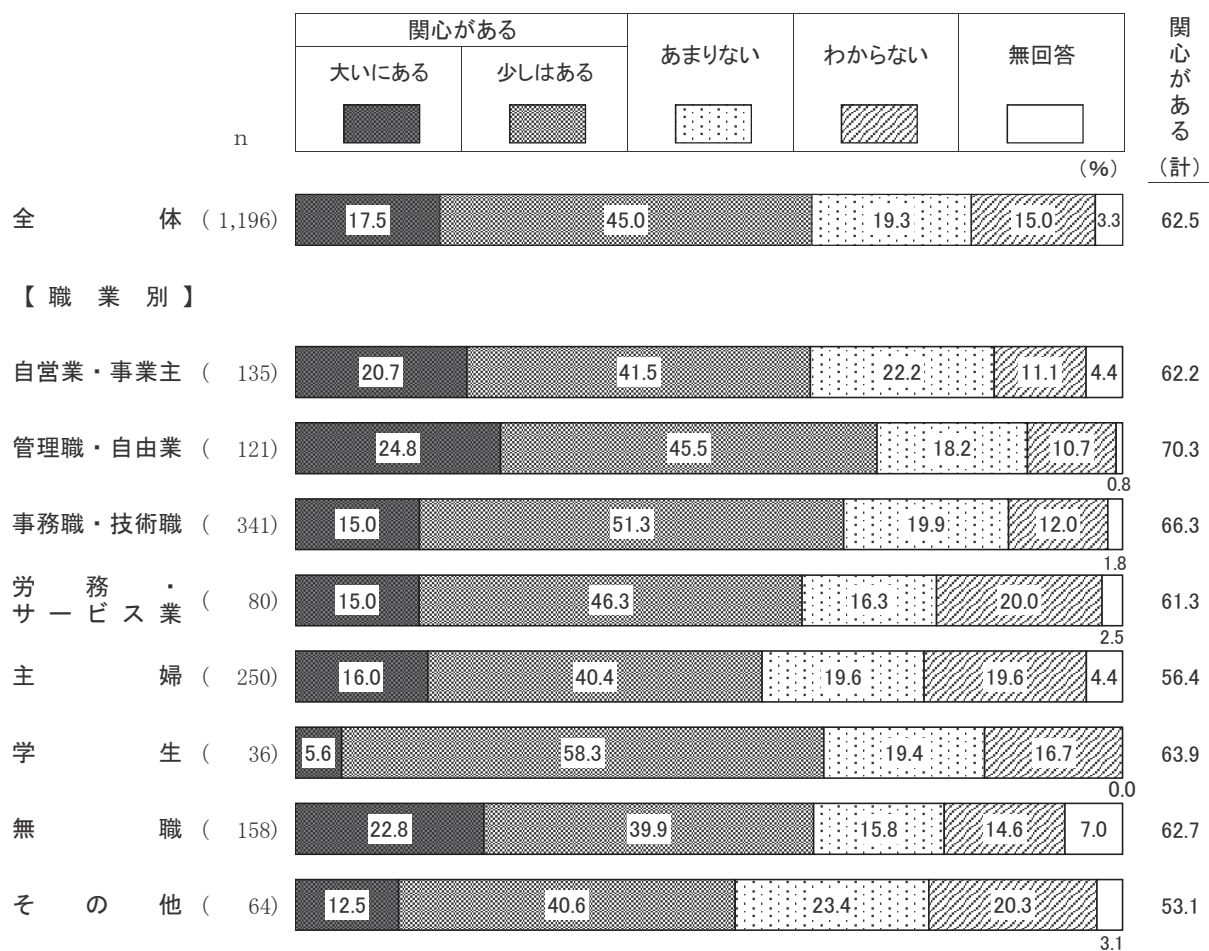
図 2-4-2 区の財政状況に対する関心—性別／性・年代別



性別にみると、『関心がある（計）』は男性のほうが4.7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『関心がある（計）』は男女ともに50代までの年代で年代が高いほど多くなっており、男性50代で7割、女性50代で6割半ばとなっている。一方、「あまりない」はおおむね年代が低いほど多く、男性20代でほぼ3割と多くなっている。（図2-4-2）

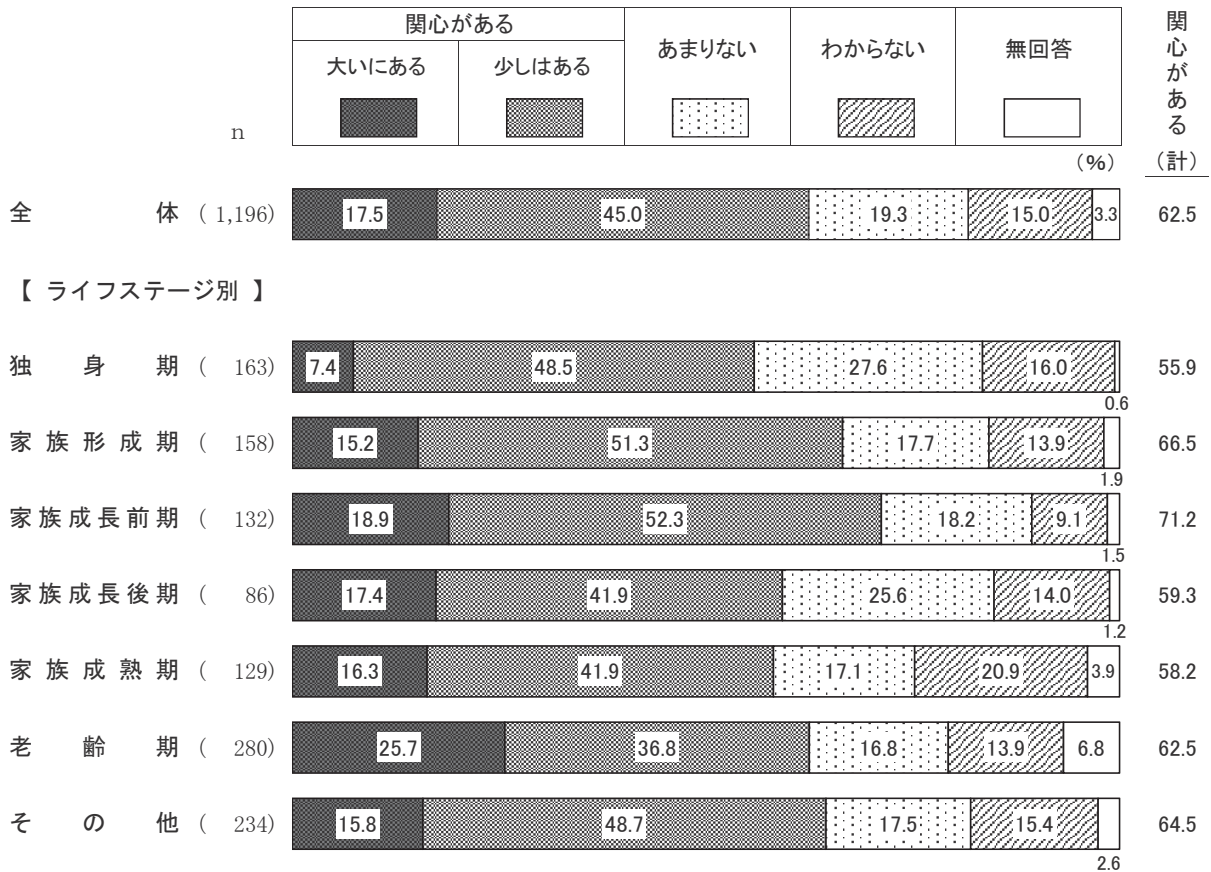
図 2-4-3 区の財政状況に対する関心—職業別



職業別にみると、『関心がある（計）』は管理職・自由業で7割と多く、次いで事務職・技術職で6割半ばとなっている。一方、主婦、その他でともに5割台と少なくなっている。

(図 2-4-3)

図 2-4-4 区の財政状況に対する関心—ライフステージ別



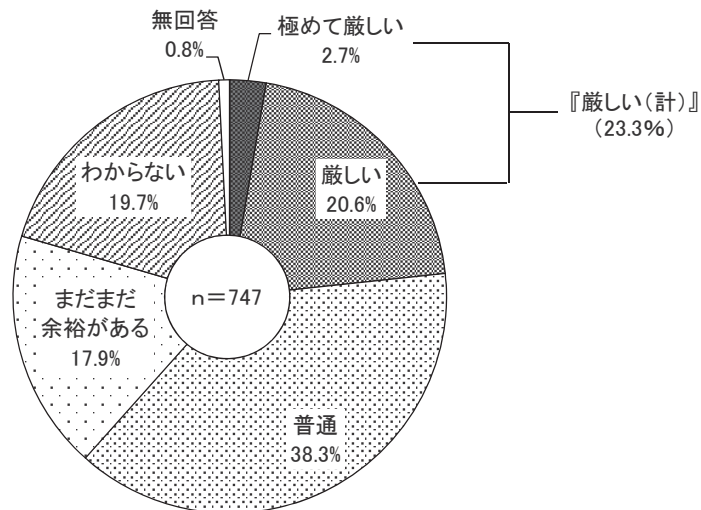
ライフステージ別にみると、『関心がある（計）』は家族成長前期で7割を超え、家族形成期で6割半ばと多くなっている。一方、「あまりない」は独身期で3割近くと多くなっている。  
(図 2-4-4)

## 2-5 区の財政状況に対する印象

【問6で「1. 大いにある」または「2. 少しはある」と回答した方に】

問6-1 区の財政状況について、どのような印象をお持ちですか。(○は1つ)

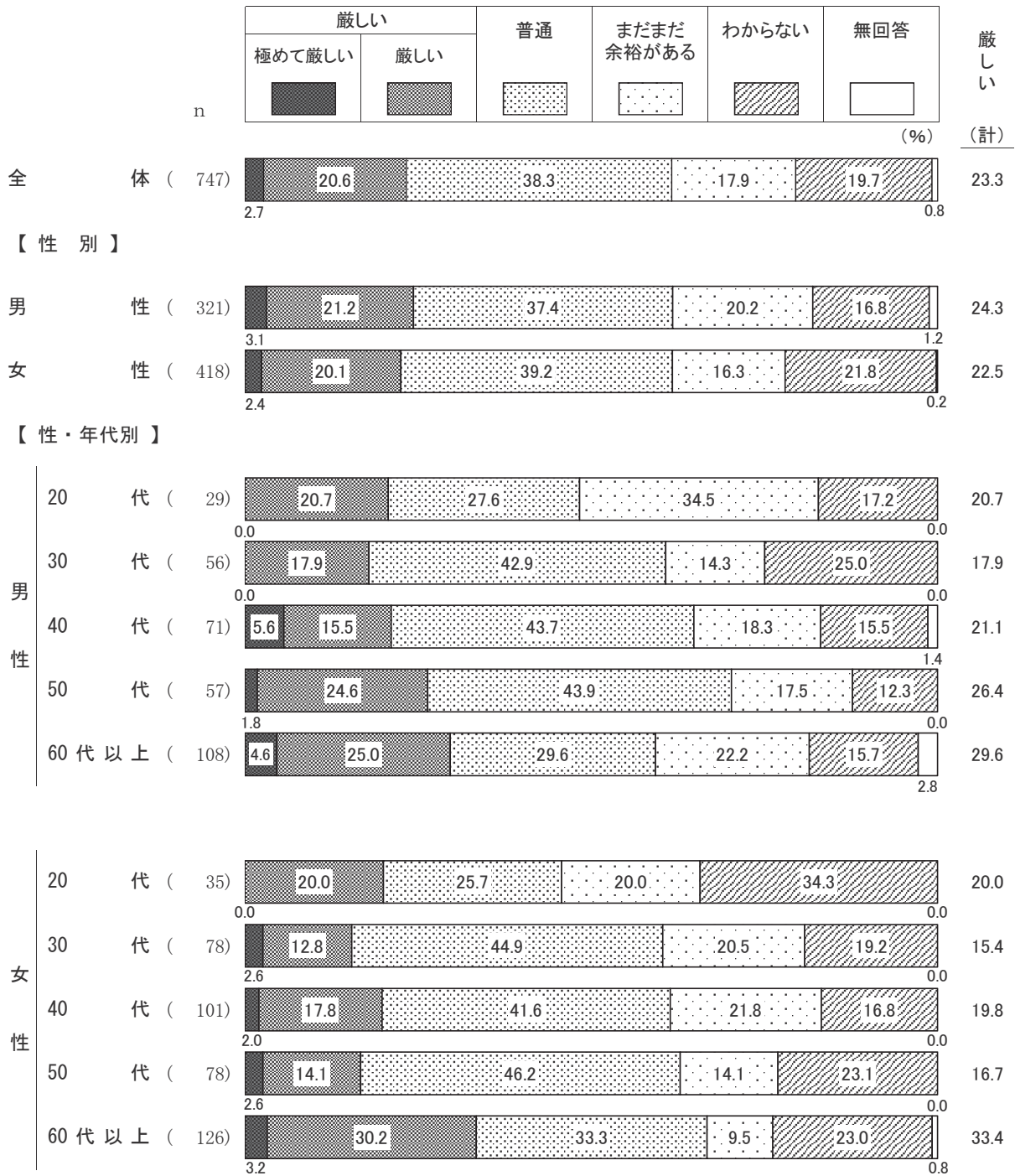
図2-5-1 区の財政状況に対する印象



区の財政状況に対する関心が「大いにある」または「少しはある」と答えた人(747人)に、区の財政状況に対する印象についてたずねたところ、「普通」(38.3%)が4割近くと最も多くなっている。「極めて厳しい」(2.7%)と「厳しい」(20.6%)を合わせた『厳しい(計)』(23.3%)が2割を超え、「まだまだ余裕がある」(17.9%)が2割近くとなっている。

(図2-5-1)

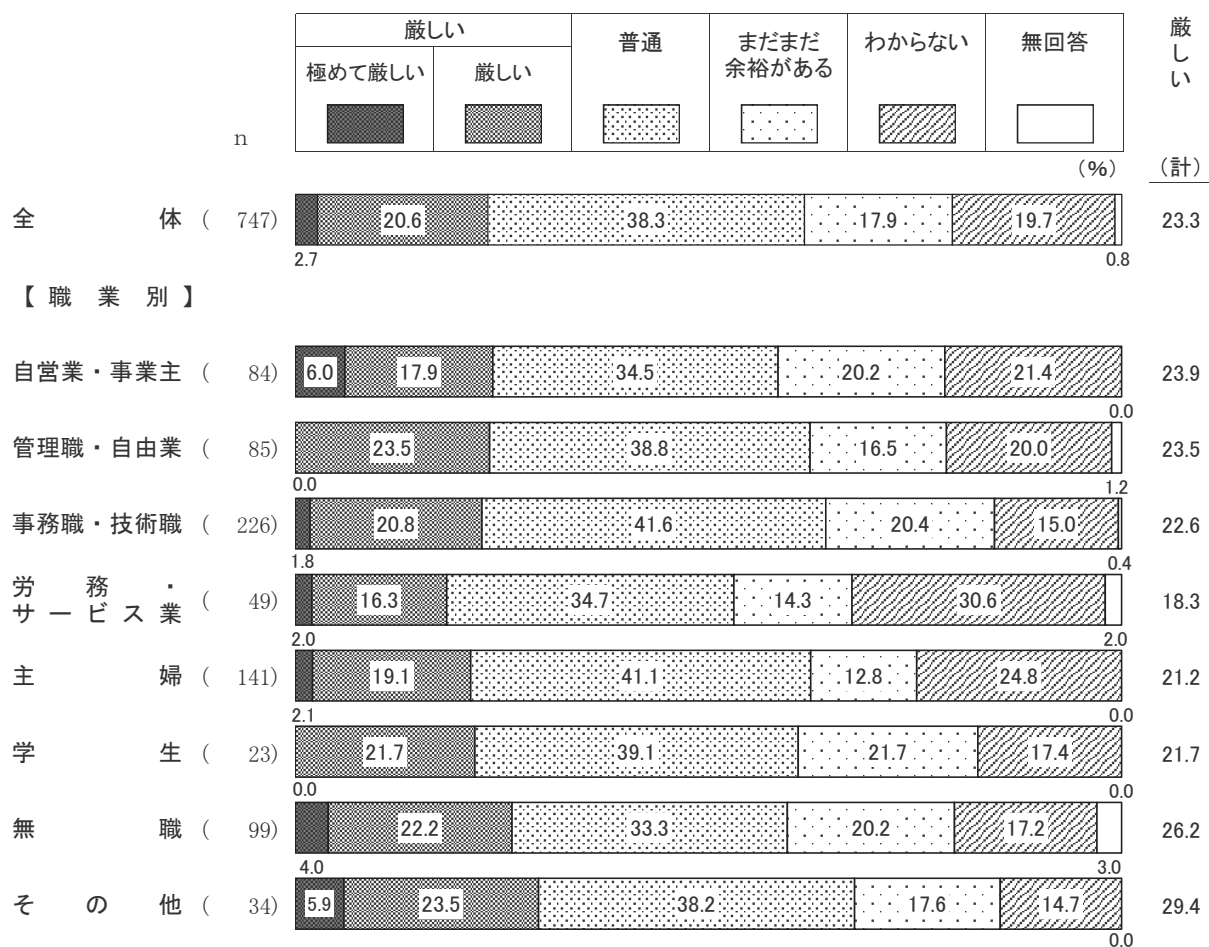
図2-5-2 区の財政状況に対する印象—性別／性・年代別



性別にみると、『厳しい（計）』、「普通」は男女間に大きな差はみられない。「まだまだ余裕がある」は男性のほうが3.9ポイント、「わからない」は女性のほうが5.0ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『厳しい（計）』は女性60代以上で3割を超え、男性60代以上で3割近く、男性50代で2割半ばと多くなっている。男女ともに30代で1割半ばとそれぞれ最も少なくなっている。「まだまだ余裕がある」は男性20代で3割半ば、「わからない」は女性20代で3割半ばと多くなっている。（図2-5-2）

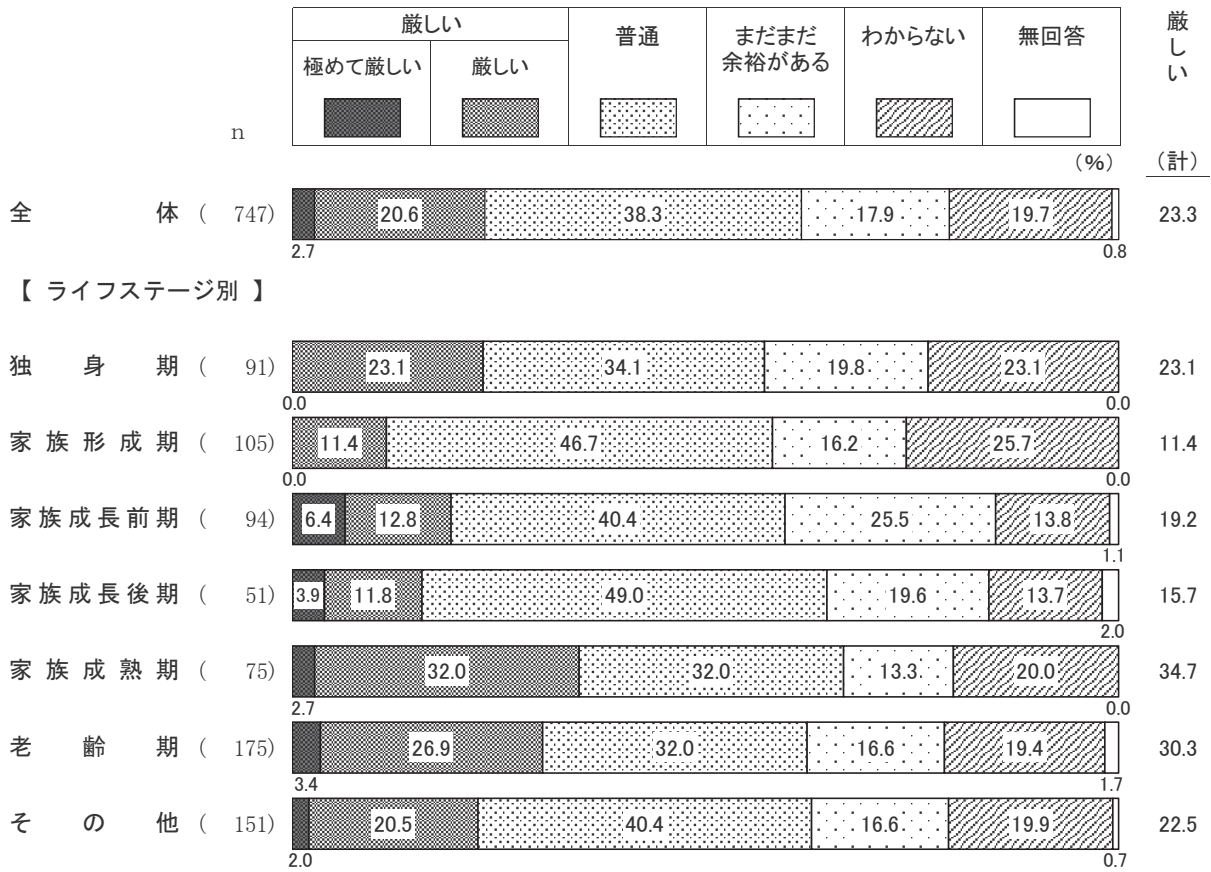
図 2-5-3 区の財政状況に対する印象—職業別



職業別にみると、『厳しい（計）』は労務・サービス業では2割未満となっており、それ以外の職業では2割を超えている。（図2-5-3）



図 2-5-4 区の財政状況に対する印象—ライフステージ別

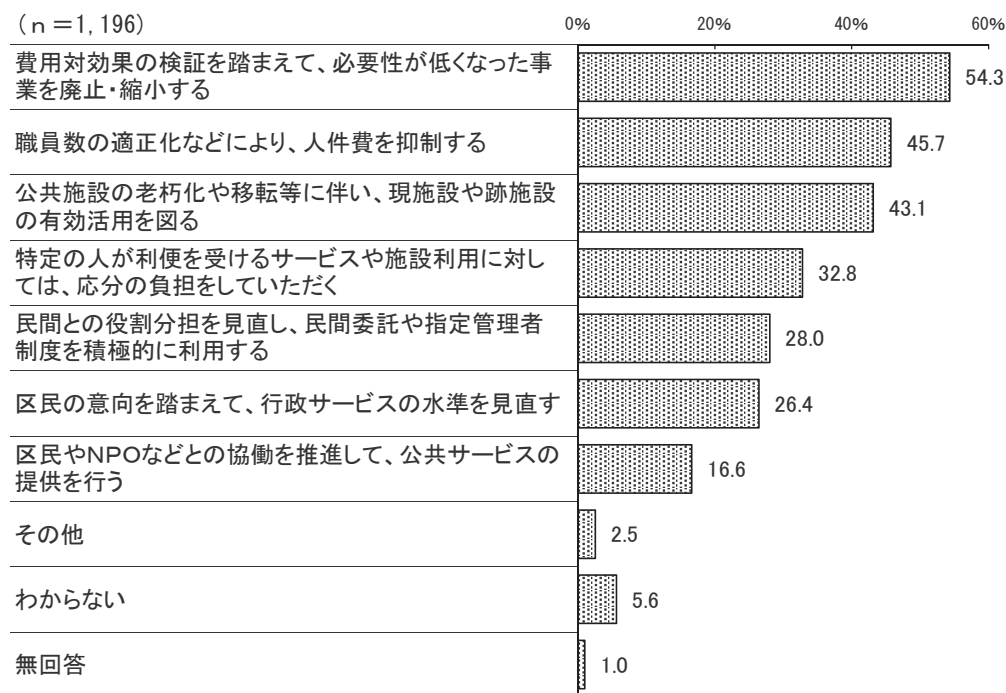


ライフステージ別にみると、『厳しい（計）』は家族成熟期で3割半ば、老齢期で3割と多くなっている。一方、「まだまだ余裕がある」は家族成長前期で2割半ば、「わからない」は家族形成期で2割半ばと多くなっている。（図 2-5-4）

## 2-6 財政の健全化を更に進めていくために必要なこと

問7 財政の健全化を更に進めていくためには、今後どのようなことに力を入れていくべきだと考えますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで、右の欄に番号をご記入ください。

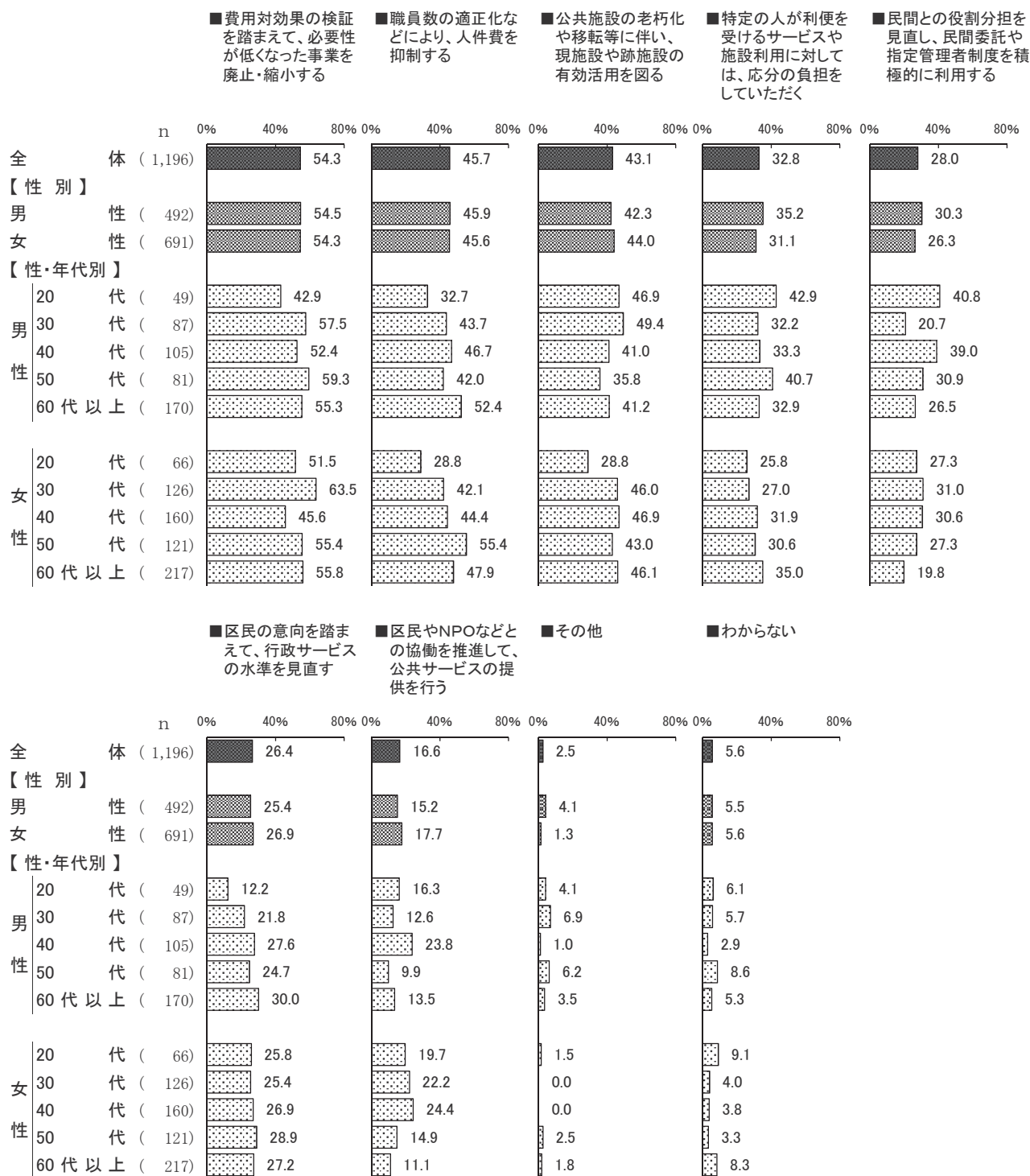
図2-6-1 財政の健全化を更に進めていくために必要なこと



財政の健全化を更に進めていくために必要なことについてたずねたところ、「費用対効果の検証を踏まえて、必要性が低くなった事業を廃止・縮小する」(54.3%)が5割半ばと最も多く、次いで「職員数の適正化などにより、人件費を抑制する」(45.7%)、「公共施設の老朽化や移転等に伴い、現施設や跡施設の有効活用を図る」(43.1%)、「特定の人が利便を受けるサービスや施設利用に対しては、応分の負担をしていただく」(32.8%)などの順となっている。

(図2-6-1)

図2-6-2 財政の健全化を更に進めていくために必要なこと－性別／性・年代別



性別にみると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別にみると、「費用対効果の検証を踏まえて、必要性が低くなった事業を廃止・縮小する」は女性30代で6割を超え、「職員数の適正化などにより、人件費を抑制する」は男性60代以上、女性50代でともに5割を超え、「特定の人が利便を受けるサービスや施設利用に対しては、応分の負担をしていただく」、「民間との役割分担を見直し、民間委託や指定管理者制度を積極的に利用する」は男性20代でともに4割を超え多くなっている。(図2-6-2)



## 3 協働・協治

- 
- 3-1 参加している団体・組織・グループ
  - 3-2 参加している団体・組織・グループの活動分野
  - 3-3 今後参加してみたい地域活動
-

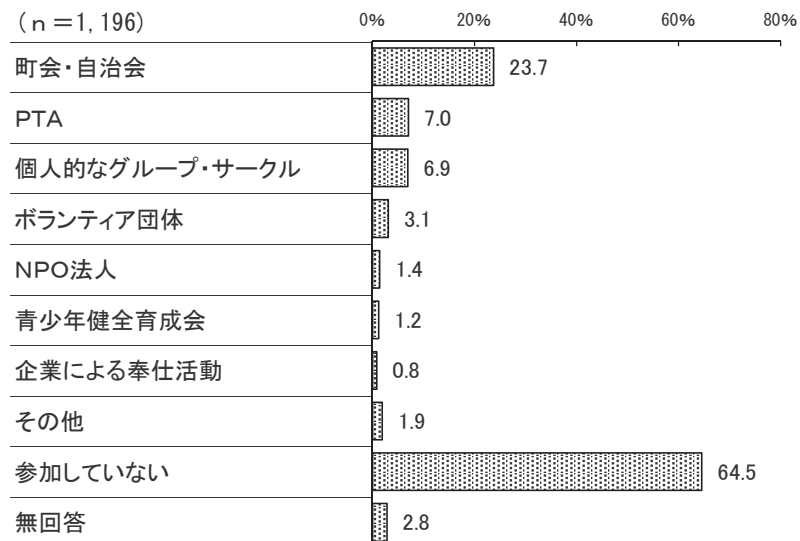


### 3 協働・協治

#### 3-1 参加している団体・組織・グループ

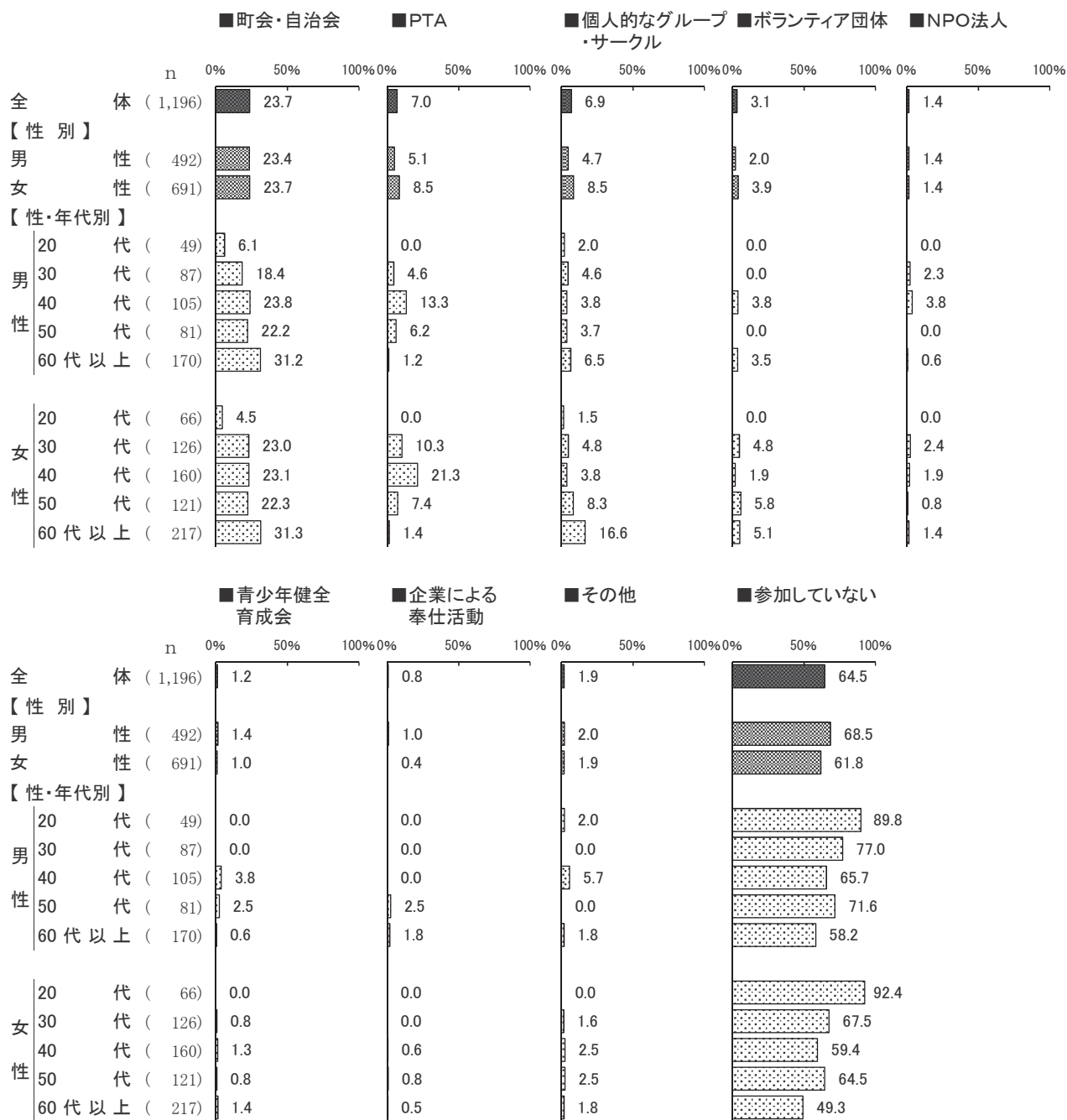
問8 区内でNPO、ボランティア団体及び町会・自治会等の地域に貢献する活動を行っている団体、組織やグループの活動に参加していますか。  
次の中から参加しているものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

図3-1-1 参加している団体・組織・グループ



参加している団体・組織・グループについてたずねたところ、「町会・自治会」(23.7%)が2割を超え最も多く、次いで「PTA」(7.0%)、「個人的なグループ・サークル」(6.9%)、「ボランティア団体」(3.1%)などの順となっているが、「町会・自治会」を除き、いずれも1割未満となっている。一方、「参加していない」(64.5%)は6割半ばとなっている。(図3-1-1)

図3-1-2 参加している団体・組織・グループ—性別／性・年代別

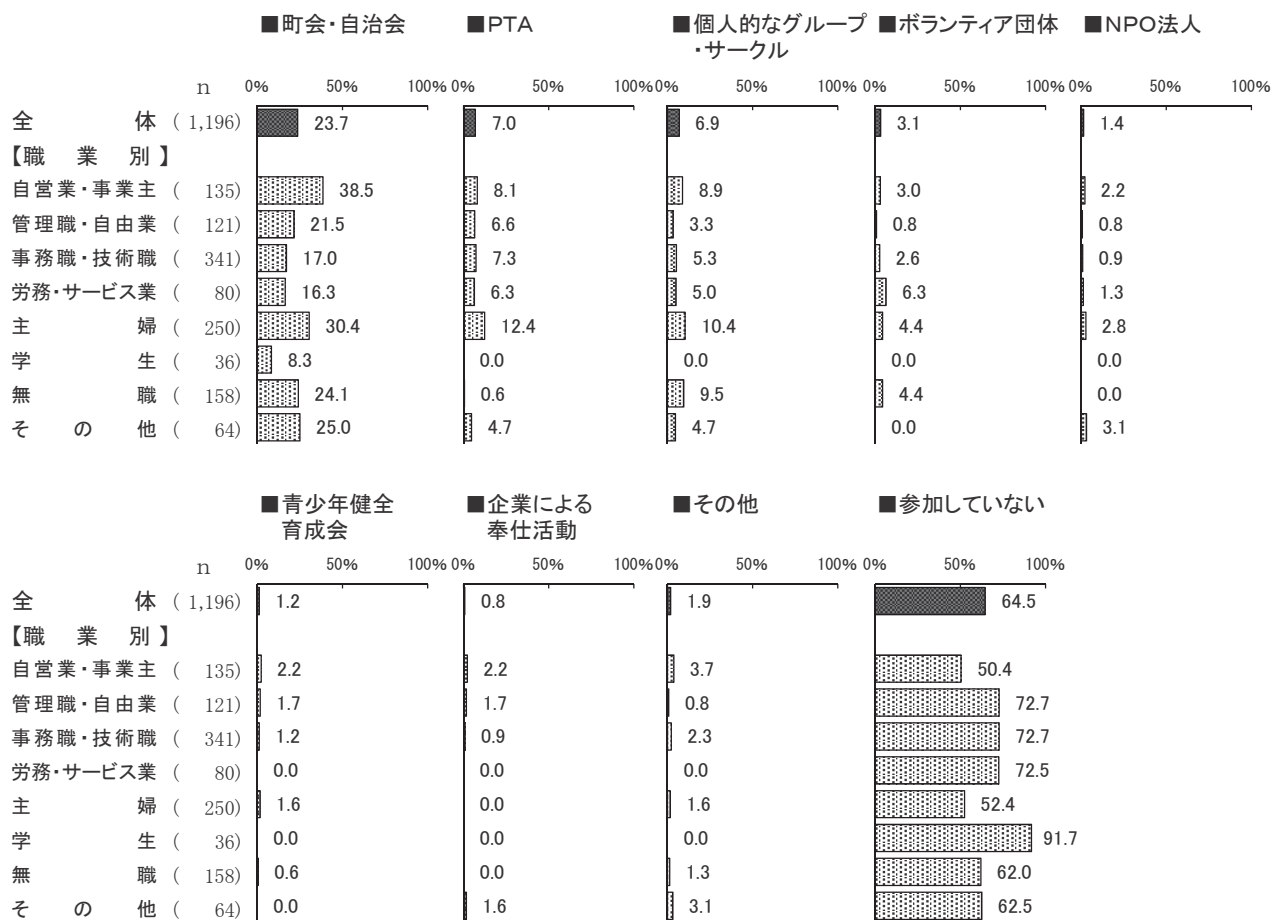


性別にみると、女性のほうが「個人的なグループ・サークル」で3.8ポイント、「PTA」で3.4ポイント高くなっており、「参加していない」は男性のほうが6.7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「町会・自治会」は男性60代以上、女性60代以上でともに3割を超えている。「PTA」は女性40代でほぼ2割と最も多く、男性40代で1割を超え、女性30代となっている。「個人的なグループ・サークル」は女性60代以上で1割半ばとなっている。一方、「参加していない」は男性20代、女性20代でともに9割前後と多くなっている。(図3-1-2)



図3-1-3 参加している団体・組織・グループ職業別



職業別にみると、「町会・自治会」は自営業・事業主で4割近く、主婦で3割と多くなっている。「PTA」は主婦で1割を超えている。一方、「参加していない」は学生で9割を超え、管理職・自由業、事務職・技術職、労務・サービス業でそれぞれ7割を超えている。

(図3-1-3)

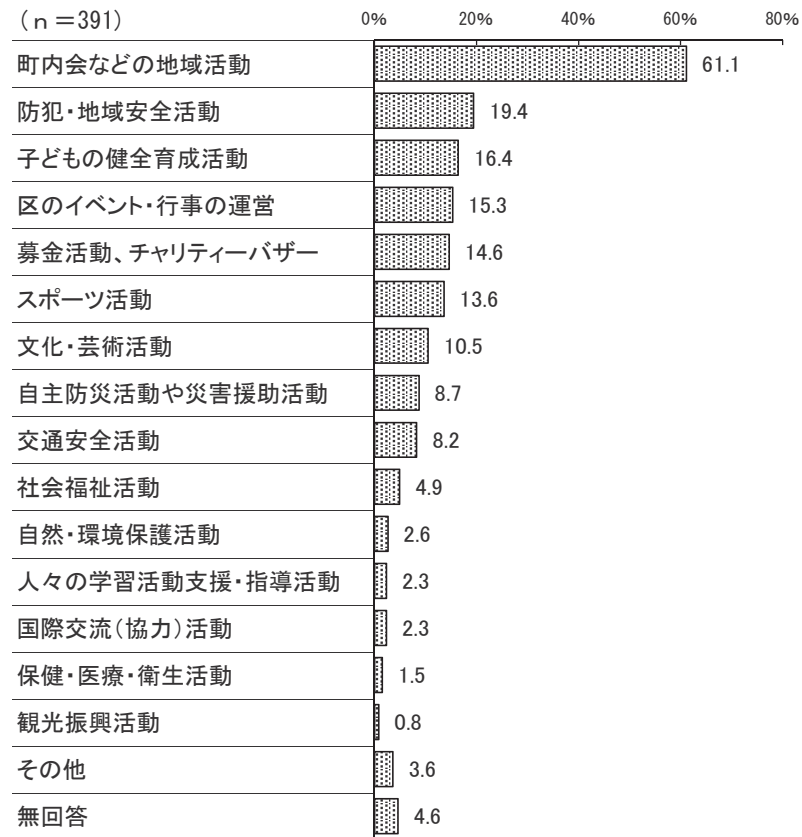
### 3-2 参加している団体・組織・グループの活動分野

【問8で「1.」から「8.」と回答した方に】

問8-1 その活動はどのような分野ですか。

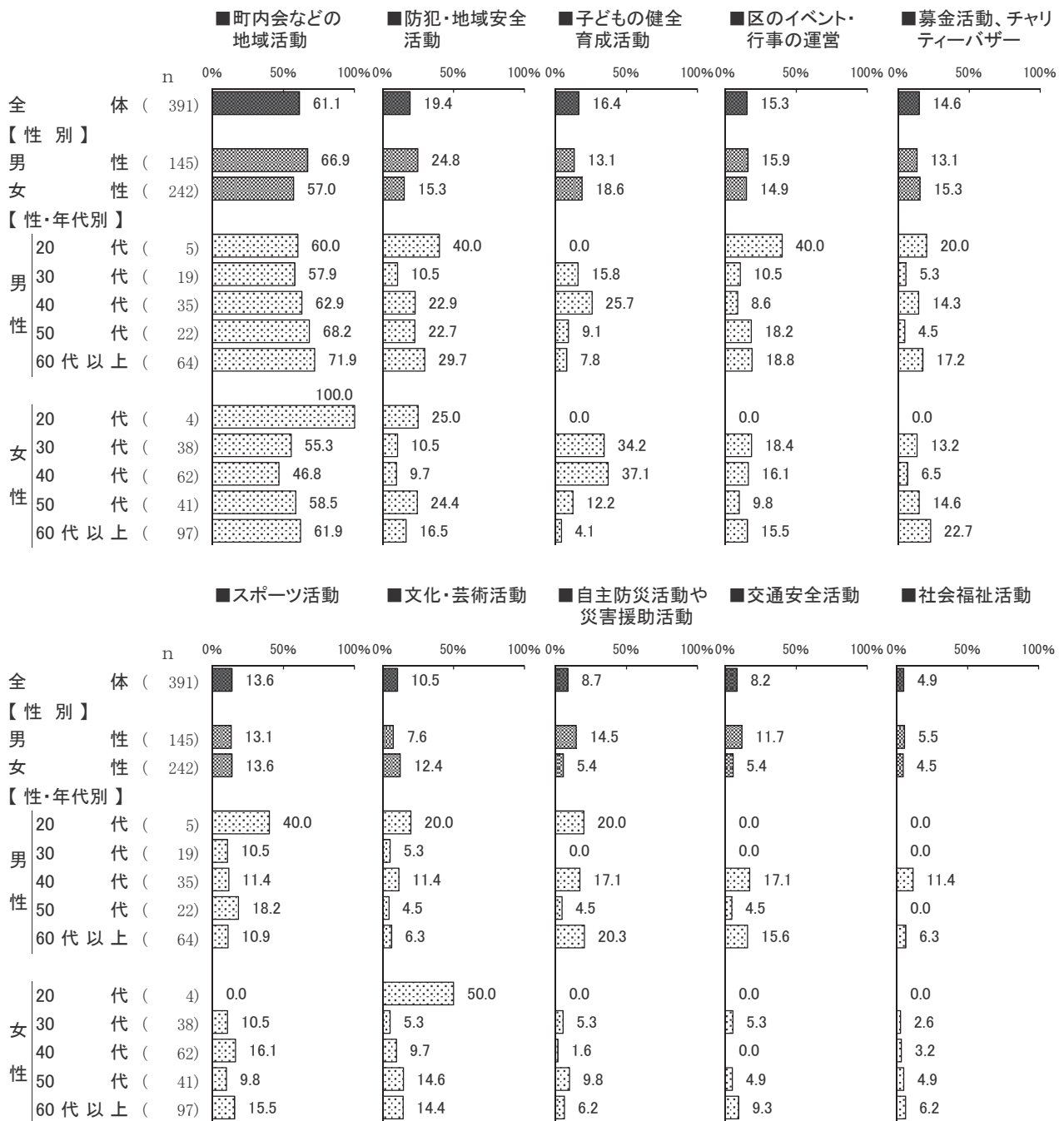
次の中から参加しているものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

図3-2-1 参加している団体・組織・グループの活動分野



団体・組織・グループの活動に参加していると答えた方(391人)に、参加している団体・組織・グループの活動分野についてたずねたところ、「町内会などの地域活動」(61.1%)がほぼ6割と最も多く、次いで「防犯・地域安全活動」(19.4%)、「子どもの健全育成活動」(16.4%)、「区のイベント・行事の運営」(15.3%)、「募金活動、チャリティーバザー」(14.6%)、「スポーツ活動」(13.6%)などの順となっている。(図3-2-1)

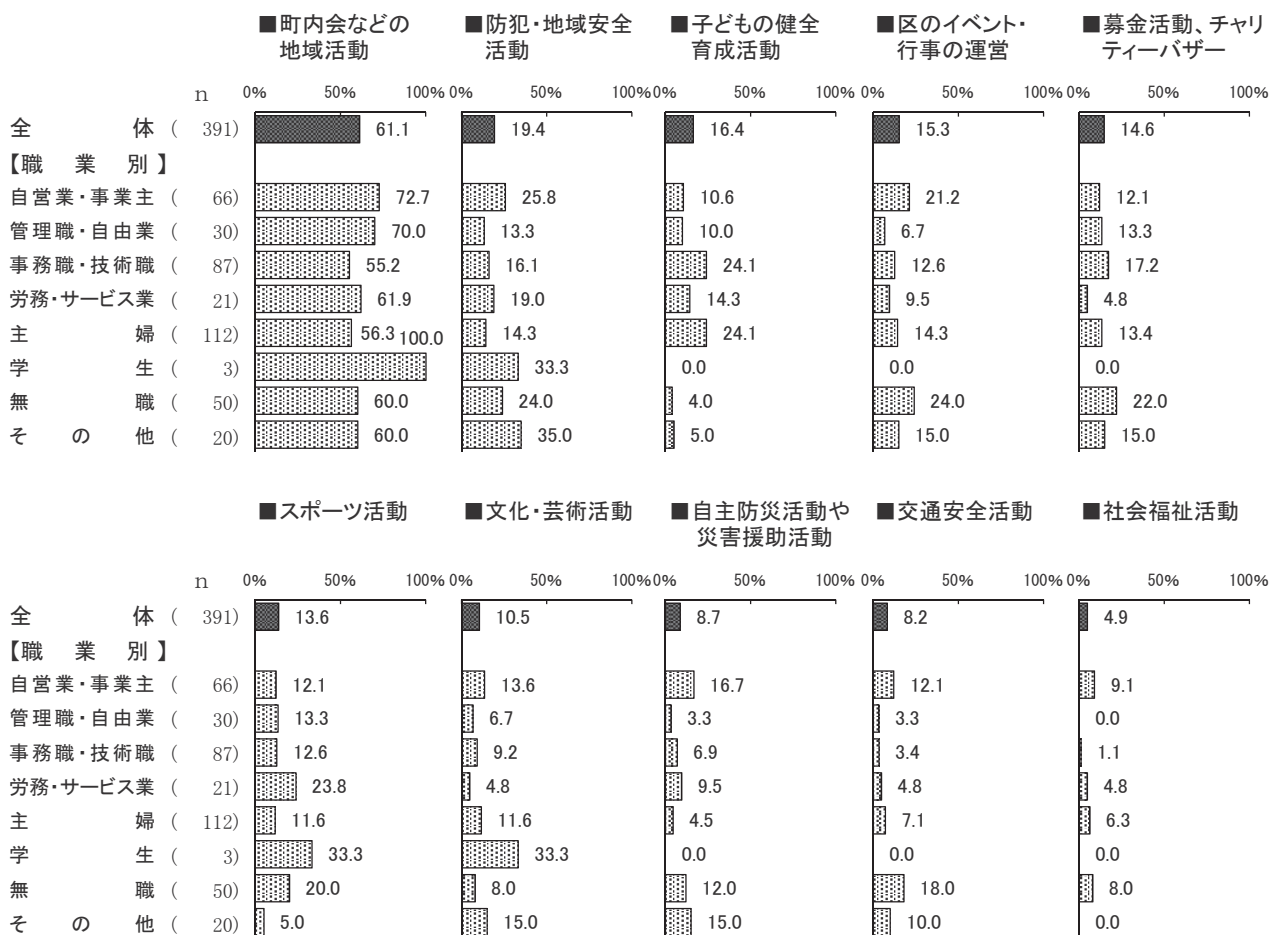
図3-2-2 参加している団体・組織・グループの活動内容【上位10項目】－性別／性・年代別



性別にみると、男性のほうが「町内会などの地域活動」で9.9ポイント、「防犯・地域安全活動」で9.5ポイント、「自主防災活動や災害援助活動」で9.1ポイント高くなっている。一方、女性のほうが「子どもの健全育成活動」で5.5ポイント、「文化・芸術活動」で4.8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「町内会などの地域活動」は男性はおおむね年代が高いほど多い傾向となっており、男性60代以上で7割を超えている。「子どもの健全育成活動」は女性40代で4割近く、女性30代で3割半ば、男性40代で2割半ばとなっている。（図3-2-2）

図3-2-3 参加している団体・組織・グループの活動内容【上位10項目】－職業別

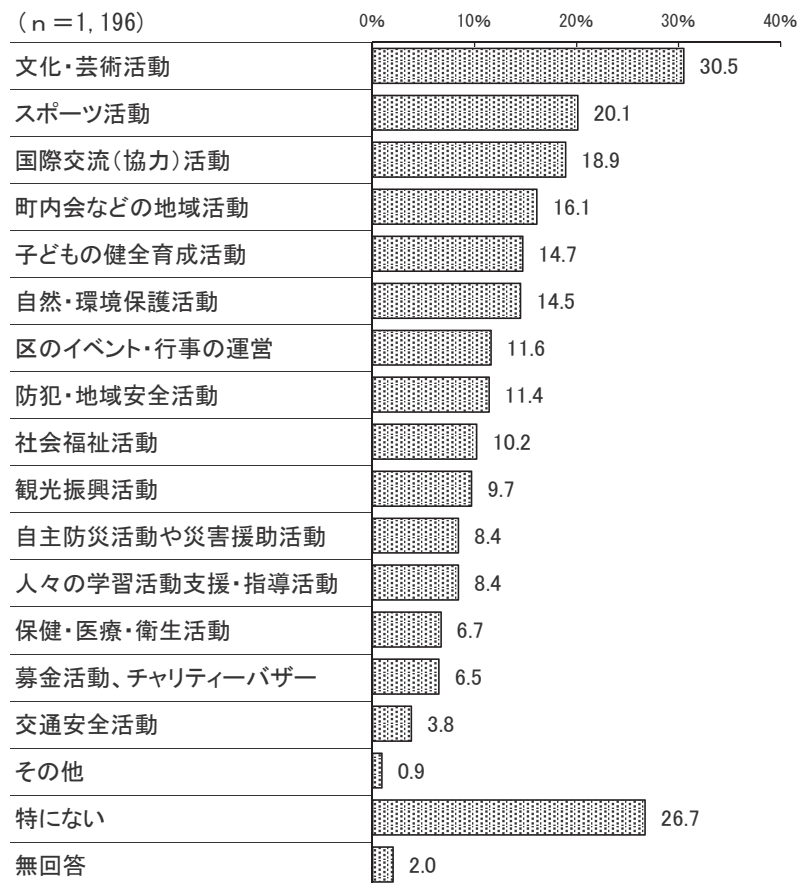


職業別にみると、「町内会などの地域活動」は自営業・事業主、管理職・自由業とともに7割以上と多くなっている。「防犯・地域安全活動」は自営業・事業主で2割半ば、「子どもの健全育成活動」は事務職・技術職、主婦とともに2割半ば、「区のイベント・行事の運営」は無職で2割半ば、自営業・事業主で2割、「スポーツ活動」は労務・サービス業、無職とともに2割を超えている。(図3-2-3)

### 3-3 今後参加してみたい地域活動

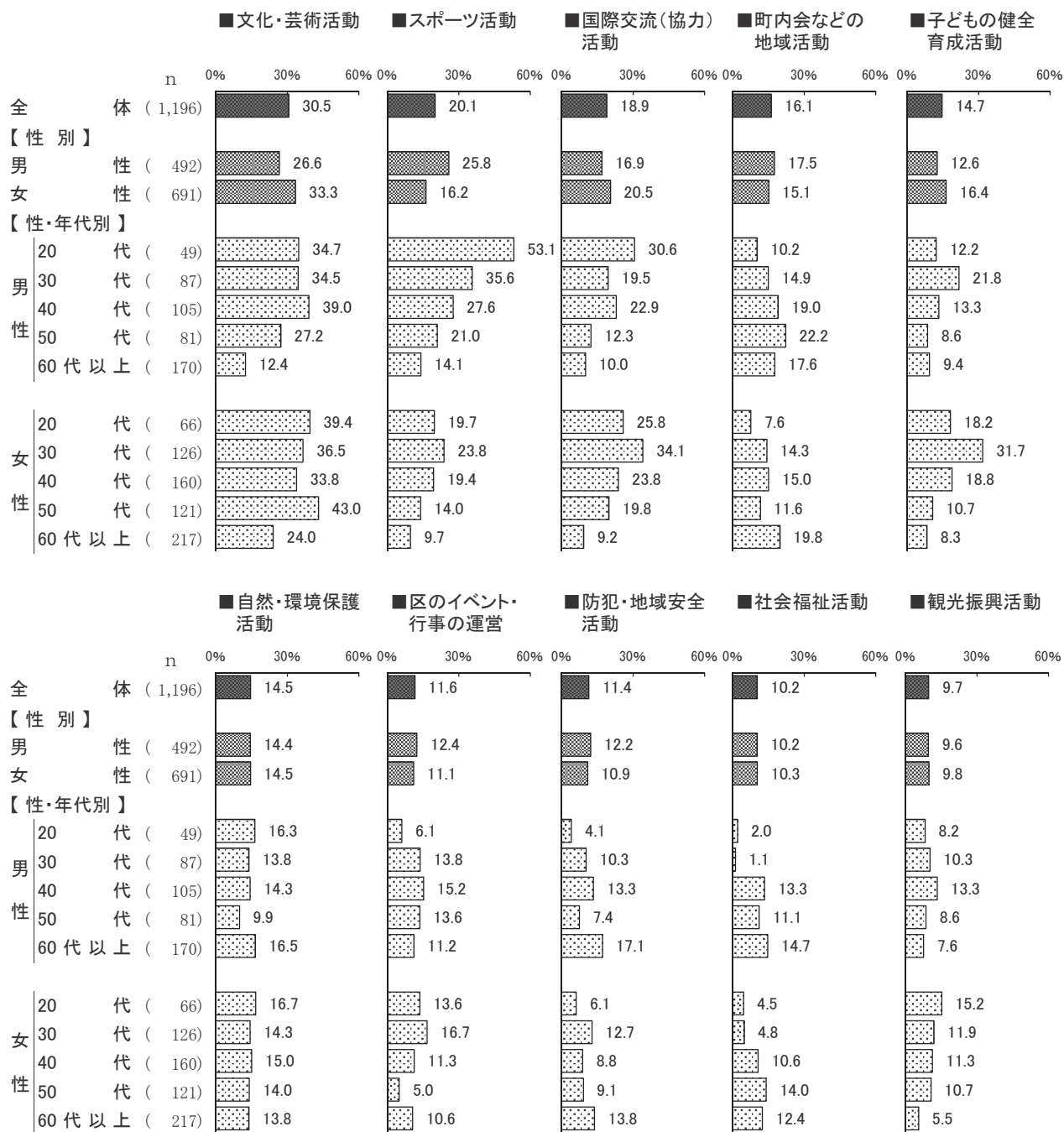
問9 今後参加してみたいと思う地域での活動はどのような分野ですか。  
次の中から参加してみたいものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

図3-3-1 今後参加してみたい地域活動



今後参加してみたい地域活動についてたずねたところ、「文化・芸術活動」(30.5%)が3割と最も多く、次いで「スポーツ活動」(20.1%)、「国際交流(協力)活動」(18.9%)、「町内会などの地域活動」(16.1%)、「子どもの健全育成活動」(14.7%)、「自然・環境保護活動」(14.5%)などの順となっている。(図3-3-1)

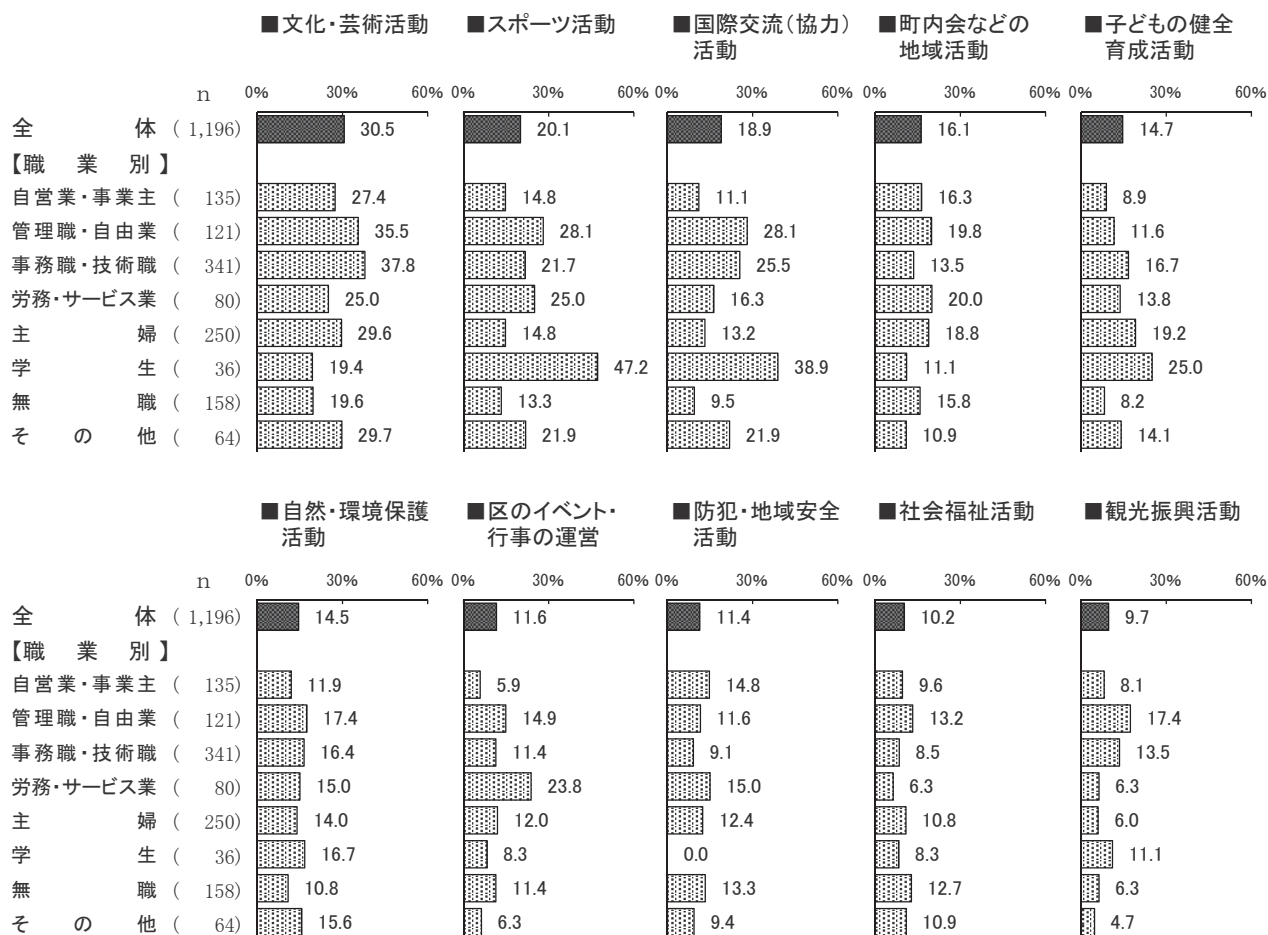
図3-3-2 今後参加してみたい地域活動【上位10項目】－性別／性・年代別



性別にみると、男性のほうが「スポーツ活動」で9.6ポイント高く、女性のほうが「文化・芸術活動」で6.7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「スポーツ活動」は男女ともにおおむね年代が低いほど多い傾向で、男性20代で5割を超え、男性30代で3割半ばと多くなっている。「国際交流（協力）活動」は女性30代で3割半ば、20代で3割、「子どもの健全育成活動」は男女ともに30代が多く、女性30代でほぼ3割、男性30代でほぼ2割となっている。（図3-3-2）

図3-3-3 今後参加してみたい地域活動【上位10項目】－職業別



職業別にみると、「文化・芸術活動」は管理職・自由業、事務職・技術職で3割半ばを超え、「スポーツ活動」は学生で5割近く、「国際交流(協力)活動」は学生で4割近く、「子どもの健全育成活動」は学生で2割半ばと多くなっている。「区のイベント・行事の運営」は労務・サービス業で2割を超え、「観光振興活動」は管理職・自由業で2割近くとなっている。

(図3-3-3)





## 4 防災・安全・まちづくり

- 
- 4-1 災害への備え
  - 4-2 防災行政無線（屋外スピーカー）の認識状況
  - 4-3 防災行政無線（屋外スピーカー）の使用方法
  - 4-4 感震ブレーカーの設置状況
  - 4-5 今後力を入れてほしい防犯対策事業
  - 4-6 自転車の安全利用施策
  - 4-7 シェアサイクル事業を行ううえで重要と思われること
  - 4-8 周辺地域のまち並み・景観に対する満足度
  - 4-9 文京区歩行喫煙等の禁止に関する条例の認知度
-

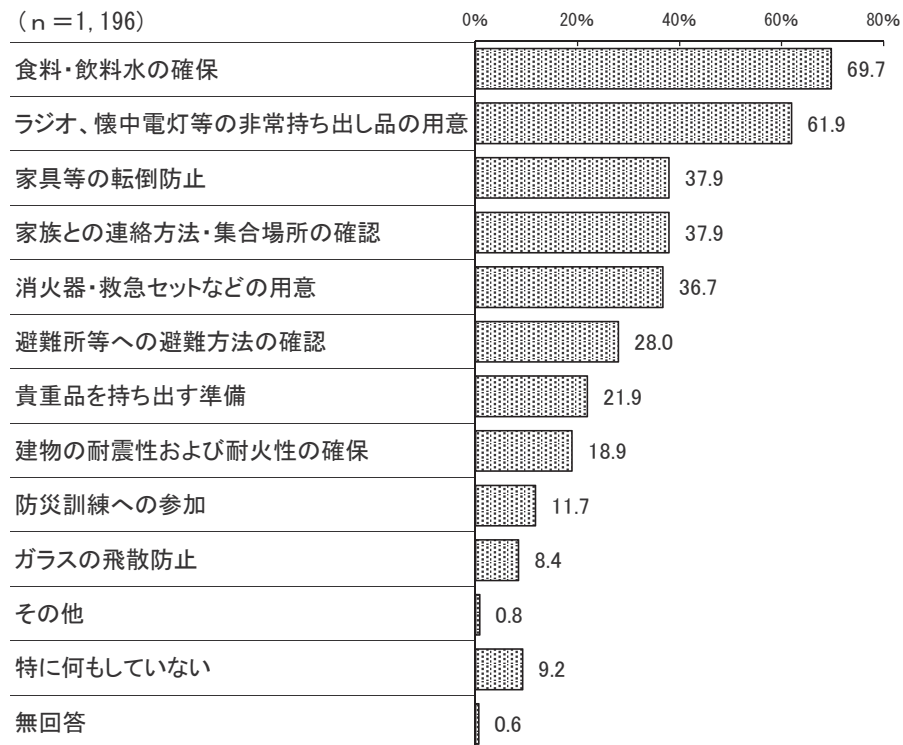


## 4 防災・安全・まちづくり

### 4-1 災害への備え

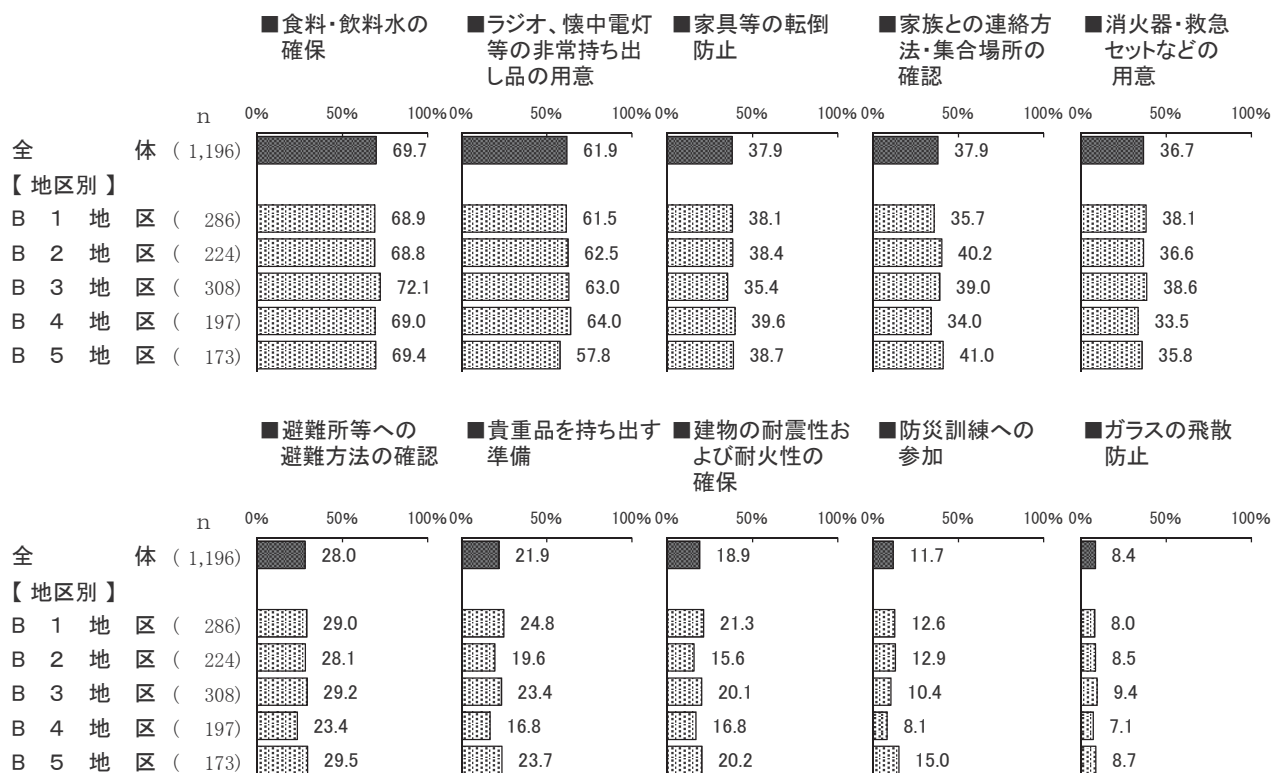
問10 あなたは、災害に備えてどのような対策をとっていますか。  
次の中からいくつでもお選びください。(〇はいくつでも)

図4-1-1 災害への備え



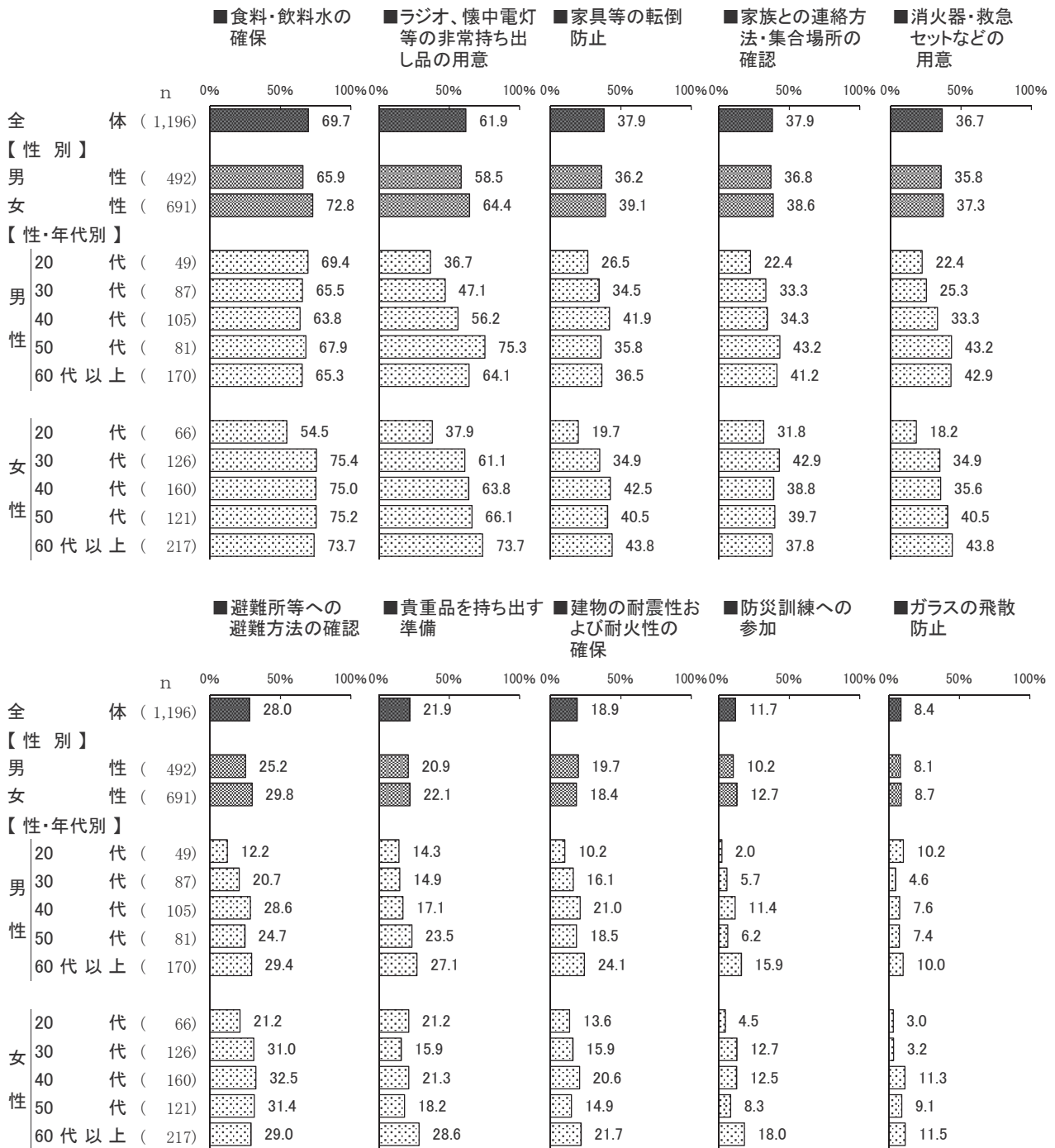
防災への備えについてたずねたところ、「食料・飲料水の確保」(69.7%)がほぼ7割と最も多く、次いで「ラジオ、懐中電灯等の非常持ち出し品の用意」(61.9%)、「家具等の転倒防止」、「家族との連絡方法・集合場所の確認」(ともに37.9%)、「消火器・救急セットなどの用意」(36.7%)などの順となっている。(図4-1-1)

図 4-1-2 災害への備え【上位10項目】—地区別



地区別にみると、「食料・飲料水の確保」、「ラジオ、懐中電灯等の非常持ち出し品の用意」、「家具等の転倒防止」など地区による差はほとんどみられない。「家族との連絡方法・集合場所の確認」、「消火器・救急セットなどの用意」、「避難所等への避難方法の確認」、「貴重品を持ち出す準備」などB4地区で比較的少なくなっている。(図4-1-2)

図4-1-3 災害への備え【上位10項目】－性別／性・年代別



性別にみると、「建物の耐震性および耐火性の確保」を除く項目で女性のほうが高くなっており、「食料・飲料水の確保」で6.9ポイント、「ラジオ、懐中電灯等の非常持ち出し品の用意」で5.9ポイント、「避難所等への避難方法の確認」で4.6ポイント高くなっている。

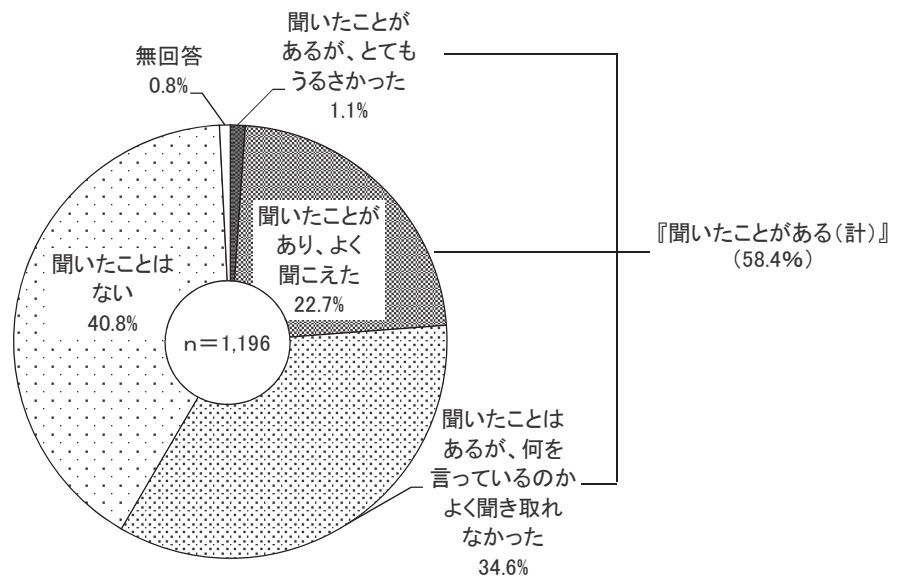
性・年代別にみると、「食料・飲料水の確保」は男性はすべての年代で6割台となっているが、女性は20代のみ5割半ばと少なく、30代以上では7割半ばとなっている。「ラジオ、懐中電灯等の非常持ち出し品の用意」は男性50代で7割半ばと多く、女性は年代が高いほど多い傾向となっており、女性60代以上で7割を超えている。「消火器・救急セットなどの用意」は男女ともにおおむね年代が高いほど多く、男女ともに50代、60代以上で4割を超えている。

(図4-1-3)

#### 4-2 防災行政無線（屋外スピーカー）の認識状況

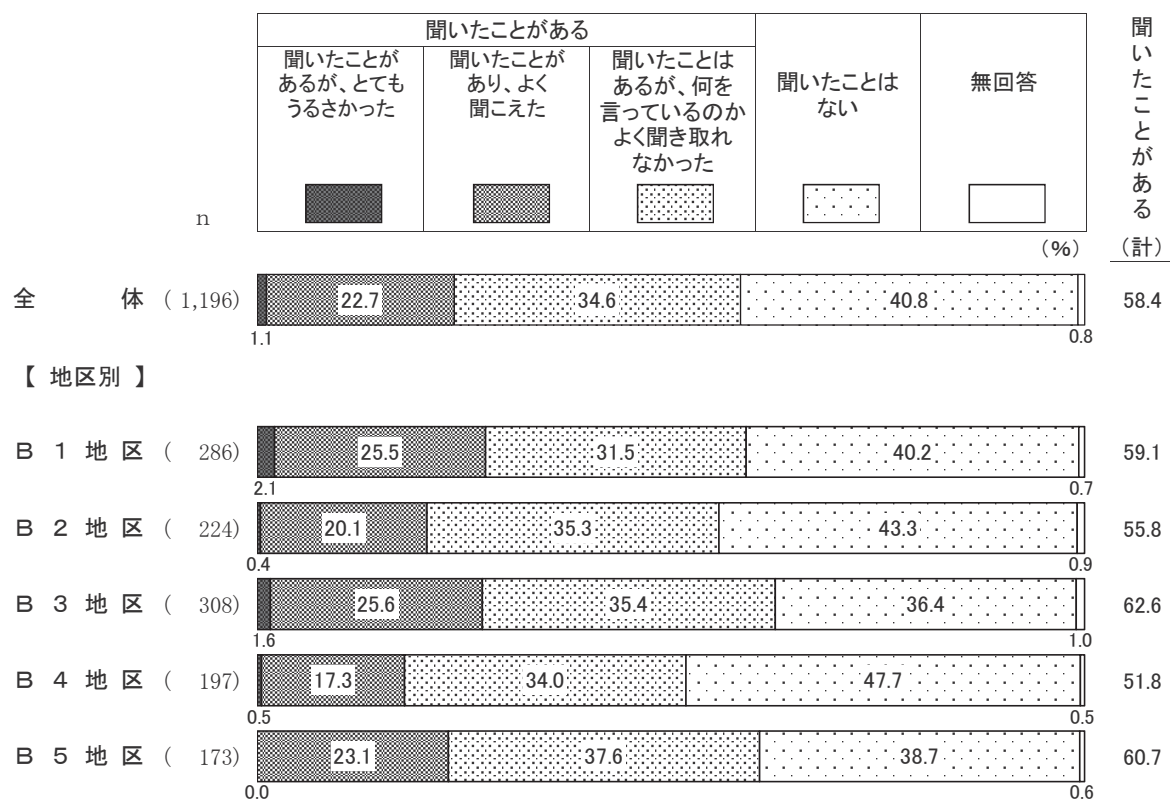
問11 区では災害時に災害情報等を広域的に伝達する目的で、区内学校や公園等に「防災行政無線（屋外スピーカー）」を設置しています。防災訓練時や試験放送等で年に数回、「防災行政無線（屋外スピーカー）」を使用し放送を行っています。あなたは聞いたことがありますか。（○は1つ）

図4-2-1 防災行政無線（屋外スピーカー）の認識状況



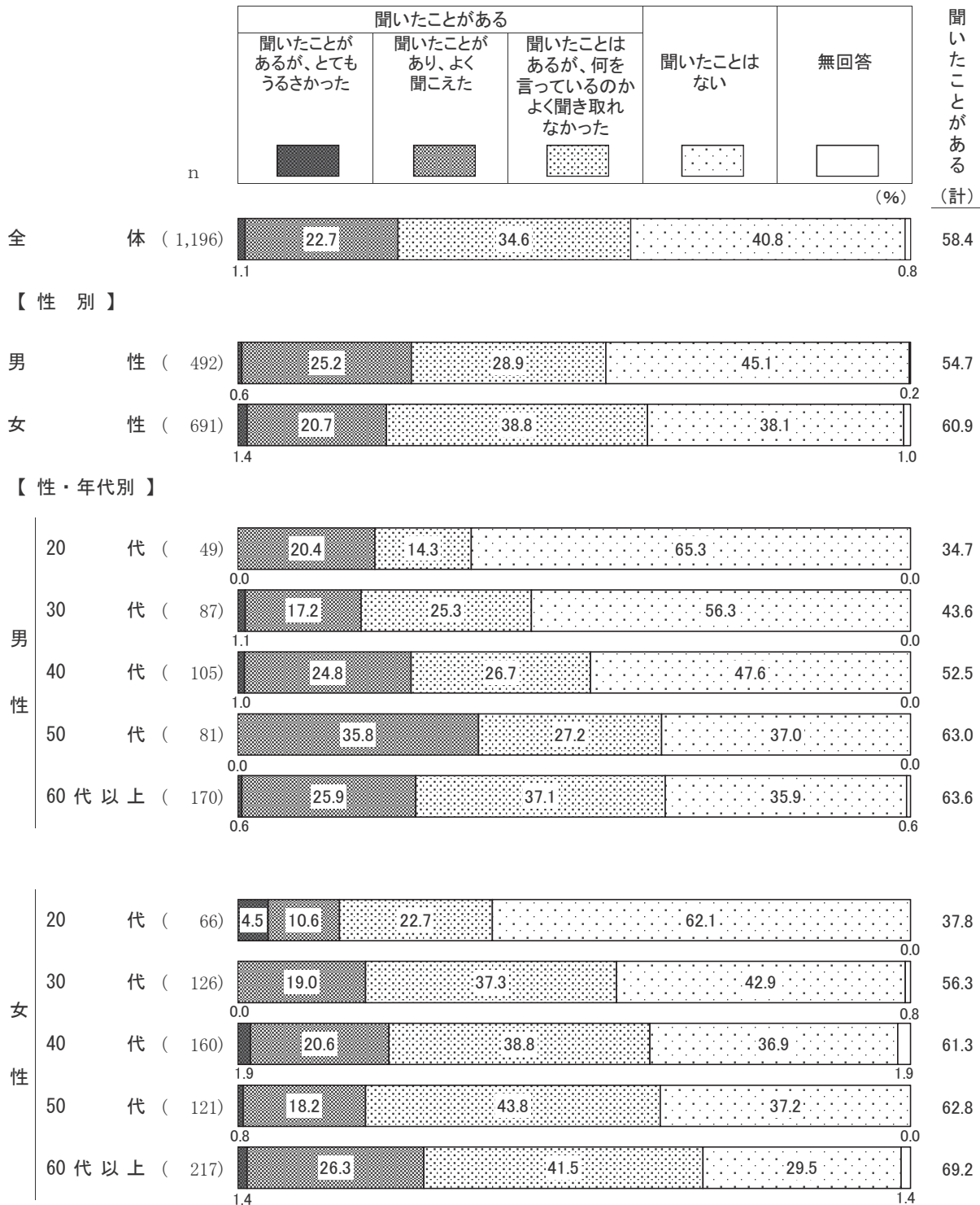
防災行政無線（屋外スピーカー）の認識状況についてたずねたところ、「聞いたことがあり、よく聞こえた」（22.7%）が2割台、「聞いたことはあるが、何を言っているのか聞き取れなかった」（34.6%）が3割半ばとなっている。これに、「聞いたことがあるが、とてもうるさかった」（1.1%）を合わせた『聞いたことがある（計）』（58.4%）は6割近くとなっている。一方、「聞いたことはない」（40.8%）がほぼ4割となっている。（図4-2-1）

図4-2-2 防災行政無線（屋外スピーカー）の認識状況－地区別



地区別にみると、「聞いたことがあるが、よく聞こえた」はB1地区、B3地区、B5地区で2割半ばとなっており、『聞いたことがある（計）』はB3地区、B5地区で6割を超えている。一方、B4地区は「聞いたことがあるが、よく聞こえた」が2割未満となっており、『聞いたことがある（計）』はほぼ5割と最も少なくなっている。（図4-2-2）

図4-2-3 防災行政無線（屋外スピーカー）の認識状況－性別／性・年代別



性別にみると、「聞いたことがあり、よく聞こえた」は男性のほうが4.5ポイント高く、「聞いたことはあるが、よく聞き取れなかった」は女性のほうが9.9ポイント高くなっている。『聞いたことがある（計）』は女性のほうが6.2ポイント高くなっている。

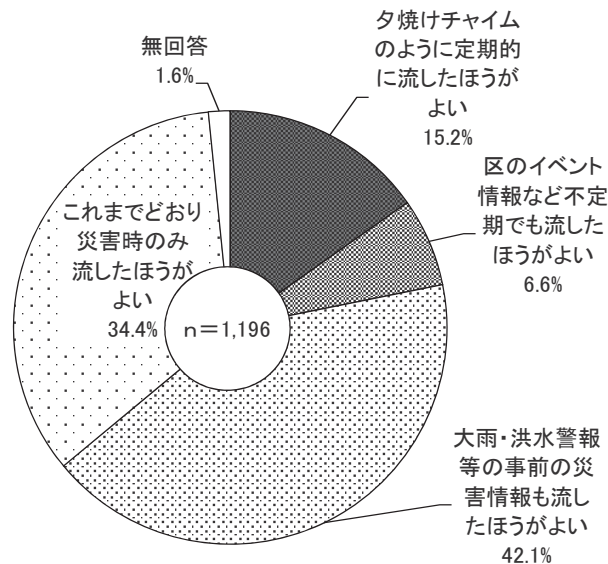
性・年代別にみると、「聞いたことがあり、よく聞こえた」は男性50代で3割半ばと多く、男性40代、60代以上、女性60代以上でそれぞれ2割半ばとなっている。「聞いたことはあるが、何を言っているのかよく聞き取れなかった」は男女ともにおおむね年代が高いほど多い傾向となっている。一方、男女ともに20代は「聞いたことはない」が6割を超えている。（図4-2-3）



#### 4-3 防災行政無線（屋外スピーカー）の使用方法

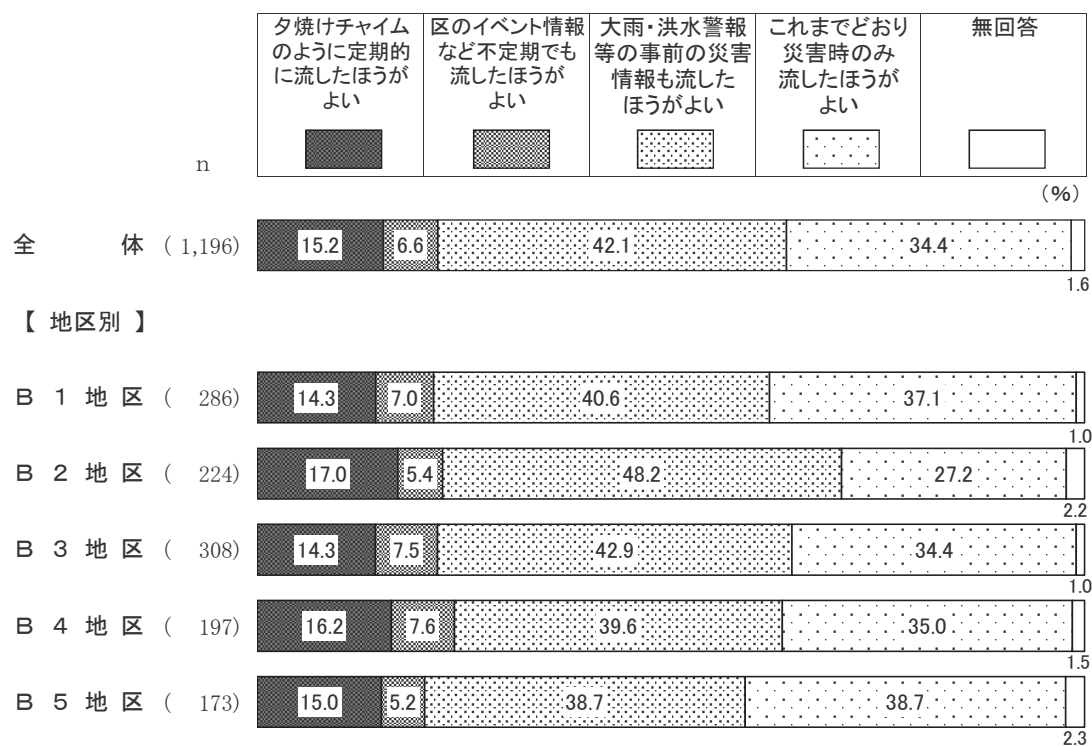
問12 区では、緊急性を強調するため、「防災行政無線（屋外スピーカー）」を災害時のみ使用するよう考えています。「防災行政無線（屋外スピーカー）」の使用方法について、あなたがもっとも適切と思うものを次の中からいずれか1つお選びください。（○は1つ）

図4-3-1 防災行政無線（屋外スピーカー）の使用方法



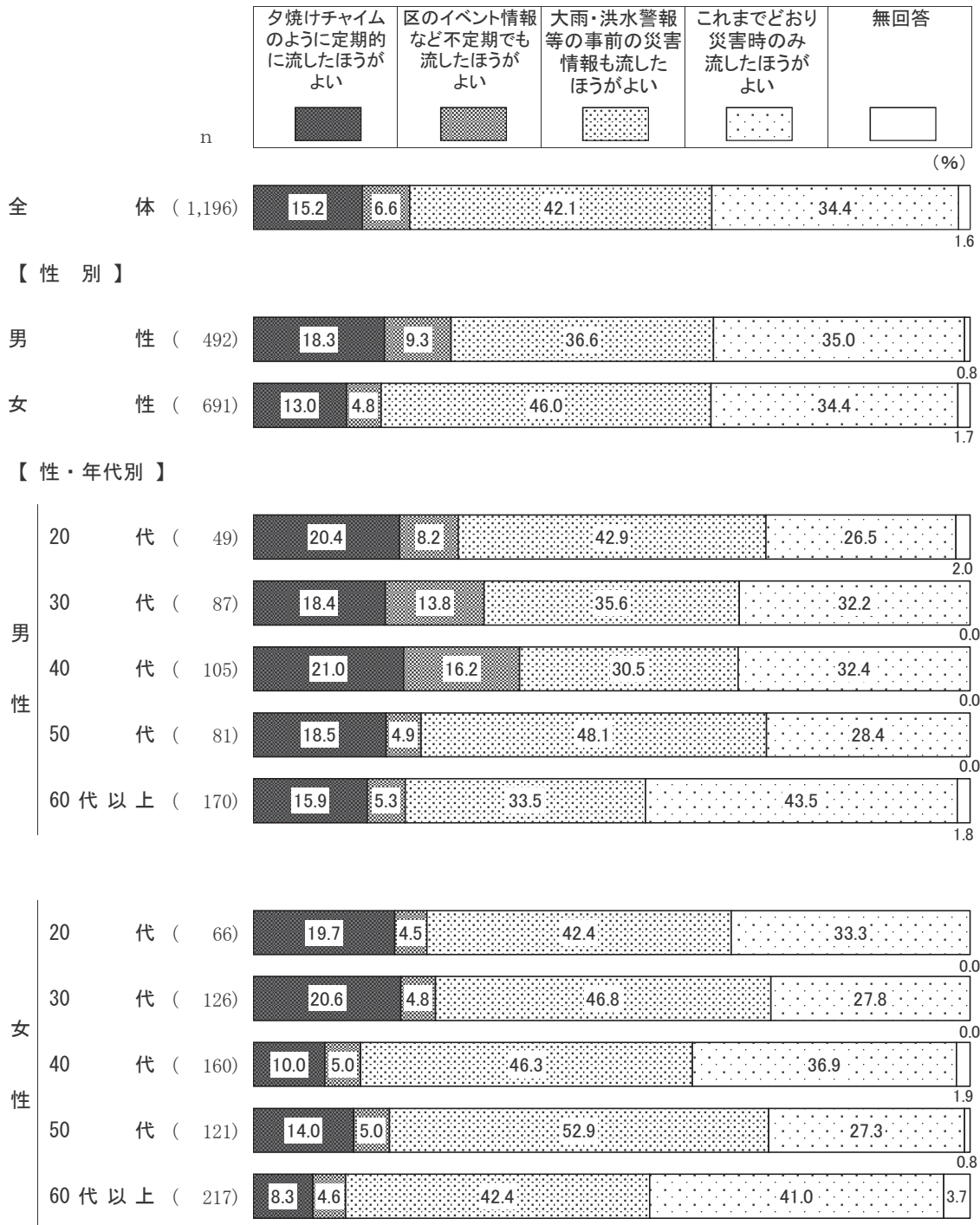
防災行政無線（屋外スピーカー）の使用方法についてたずねたところ、「大雨・洪水警報等の事前の災害情報も流したほうがよい」（42.1%）が4割を超え最も多く、次いで「これまでどおり災害時のみ流したほうがよい」（34.4%）が3割半ばとなっている。一方、「夕焼けチャイムのように定期的に流したほうがよい」（15.2%）は1割半ば、「区のイベント情報など不定期でも流したほうがよい」（6.6%）は1割未満となっている。（図4-3-1）

図4-3-2 防災行政無線（屋外スピーカー）の使用方法—地区別



地区別にみると、「大雨・洪水警報等の事前の災害情報も流したほうがよい」はB 2 地区で5割近くと多く、「これまでどおり災害時のみ流したほうがよい」はB 1 地区、B 5 地区で4割近くと多くなっている。（図4-3-2）

図4-3-3 防災行政無線（屋外スピーカー）の使用方法—性別／性・年代別



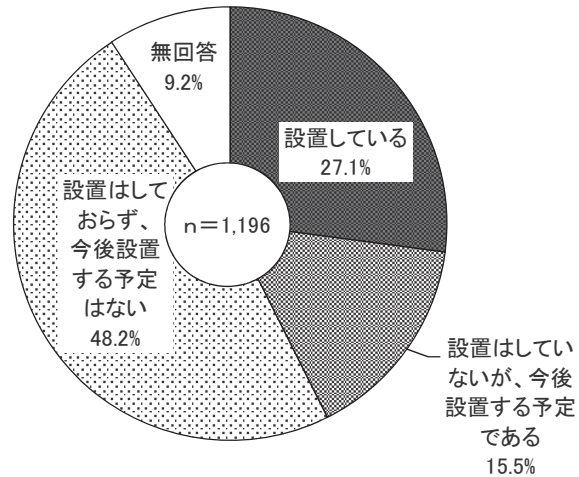
性別にみると、「夕焼けチャイムのほうに定期的に流したほうがよい」は男性のほうが5.3ポイント高く、「大雨・洪水警報等の事前の災害情報も流したほうがよい」は女性のほうが9.4ポイント高くなっている。

性・年代別では「夕焼けチャイムのように定期的に流したほうがよい」は男性20代から50代、女性20代、30代でそれぞれ2割前後、「区のイベント情報など不定期でも流したほうがよい」は男性30代、40代でともに1割を超えている。「大雨・洪水警報等の事前の災害情報も流したほうがよい」は男女ともに50代で多く、女性50代で5割を超え、男性50代で5割近くとなっている。一方、「これまでどおり災害時のみ流したほうがよい」は男女ともに60代以上で4割を超えている。(図4-3-3)

#### 4-4 感震ブレーカーの設置状況

問13 地震による電気火災を防ぐため、設定値以上の震度の地震発生時に自動的に電気の供給を遮断する「感震ブレーカー」の設置が推奨されています。あなたのご自宅では「感震ブレーカー」の設置を行っていますか。(○は1つ)

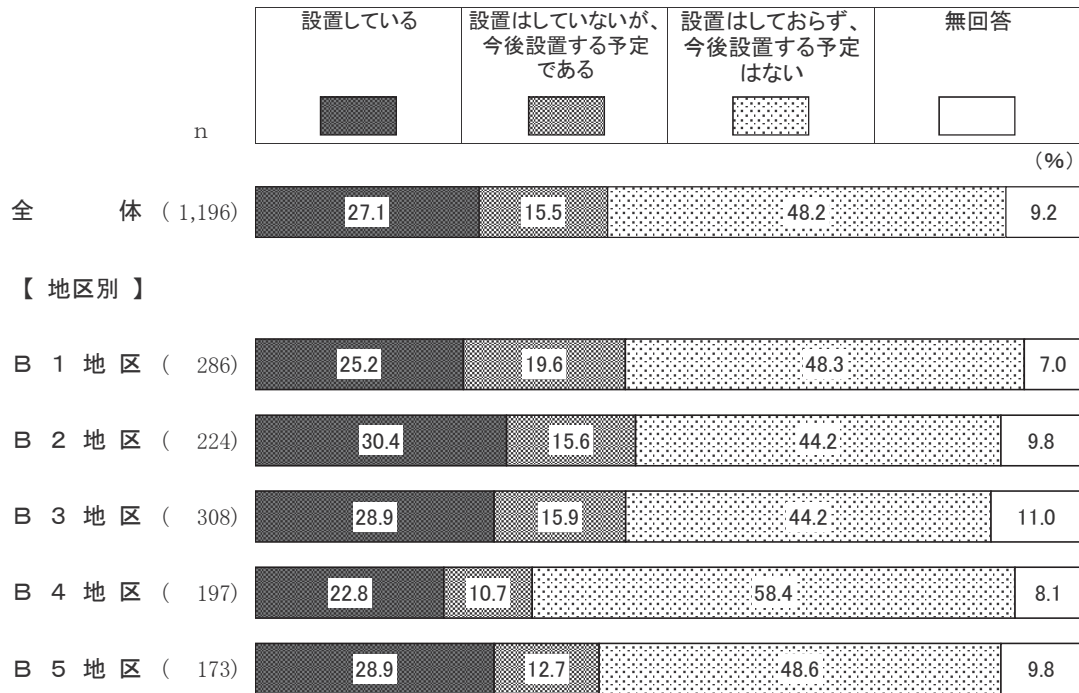
図4-4-1 感震ブレーカーの設置状況



感震ブレーカーの設置状況についてたずねたところ、「設置している」(27.1%)は3割近く、「設置はしていないが、今後設置する予定である」(15.5%)は1割半ばとなっている。一方、「設置はしておらず、今後設置する予定はない」(48.2%)が5割近くを占めている。

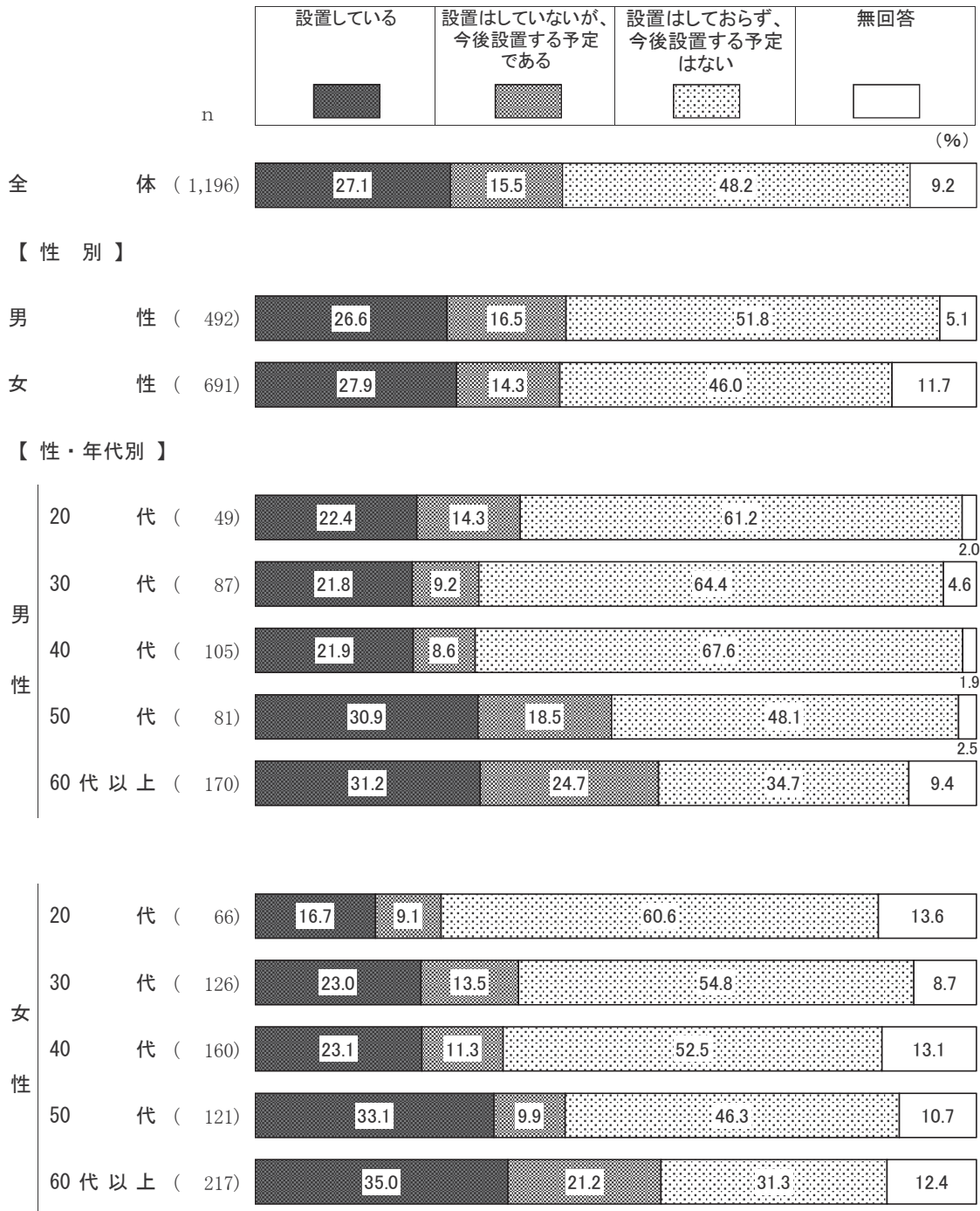
(図4-4-1)

図4-4-2 感震ブレイカーの設置状況—地区別



地区別にみると、「設置している」はB2地区で3割と多くなっている。B4地区は「設置している」がほぼ2割と少なく、「設置はしておらず、今後設置する予定はない」が6割近くと多くなっている。(図4-4-2)

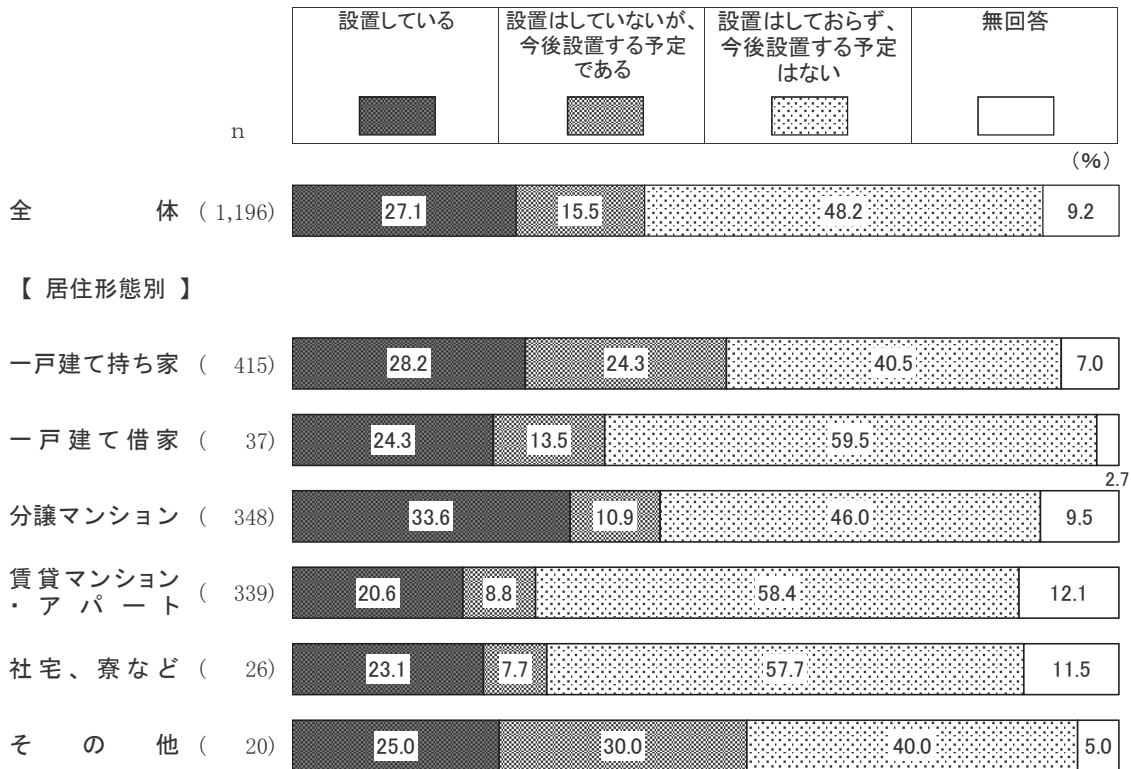
図 4-4-3 感震ブレーカーの設置状況－性別／性・年代別



性別にみると、「設置している」、「設置はしていないが、今後設置する予定である」は男女間で大きな差はみられない。

性・年代別にみると、「設置している」は男女ともに50代、60代以上で3割を超え多くなっている。また、「設置はしていないが、今後設置する予定である」は男女ともに60代以上で2割を超えている。一方、「設置はしておらず、今後設置する予定はない」は男性20代から40代、女性20代でそれぞれ6割を超え多くなっている。(図4-4-3)

図 4-4-4 感震ブレイカーの設置状況—居住形態別

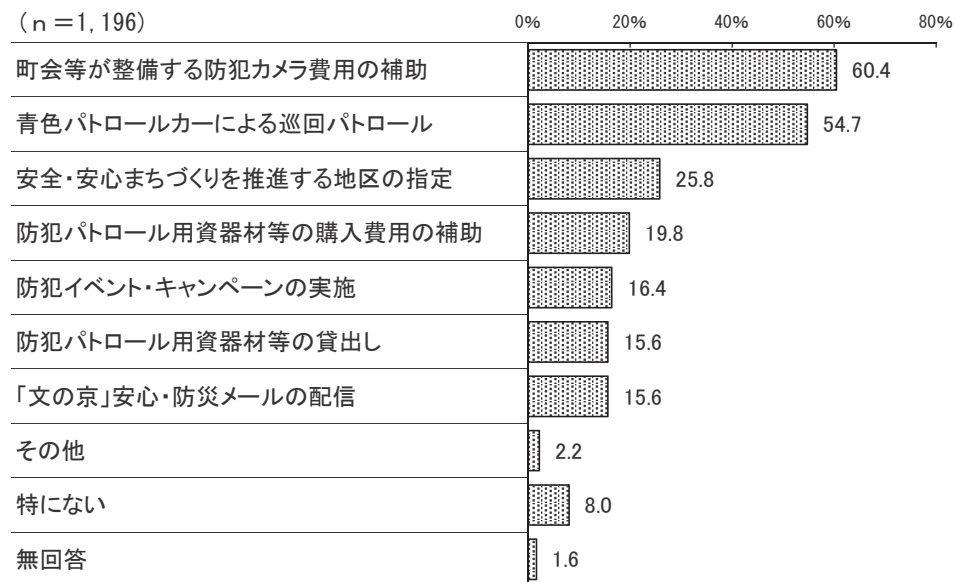


居住形態別にみると、「設置している」は分譲マンションで3割を超え、一戸建て持ち家で3割近くとなっている。「設置はしていないが、今後設置する予定である」は一戸建て持ち家で2割半ば、その他でともに3割と多くなっている。一方、「設置はしておらず、今後設置する予定はない」は賃貸マンション・アパート、社宅、寮などでともに6割近くと多くなっている。  
(図 4-4-4)

#### 4-5 今後力を入れてほしい防犯対策事業

問14 区が行っている次の防犯対策事業について、今後特に力を入れてほしいと思うものはどれですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで、下の欄に番号をご記入ください。

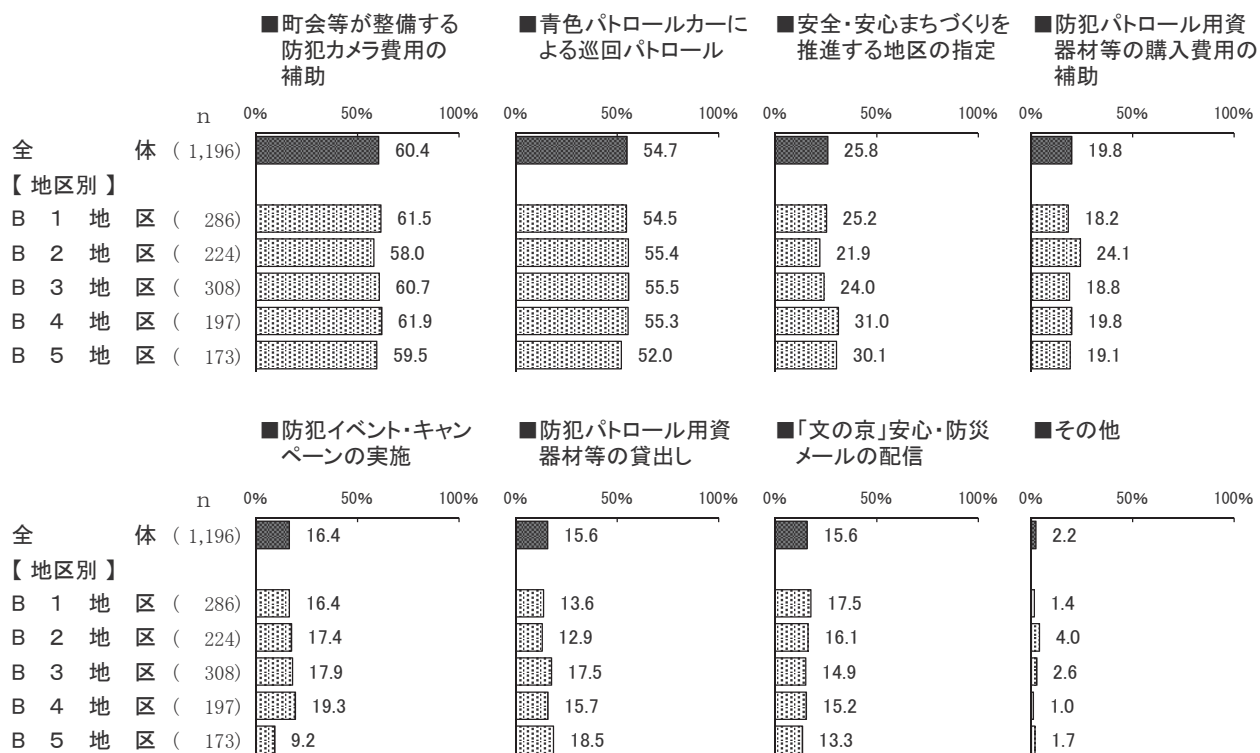
図4-5-1 今後力を入れてほしい防犯対策事業



今後力を入れてほしい防犯対策事業についてたずねたところ、「町会等が整備する防犯カメラ費用の補助」(60.4%)が6割と最も多く、次いで「青色パトロールカーによる巡回パトロール」(54.7%)、「安全・安心まちづくりを推進する地区の指定」(25.8%)、「防犯パトロール用資器材等の購入費用の補助」(19.8%)などの順となっている。(図4-5-1)

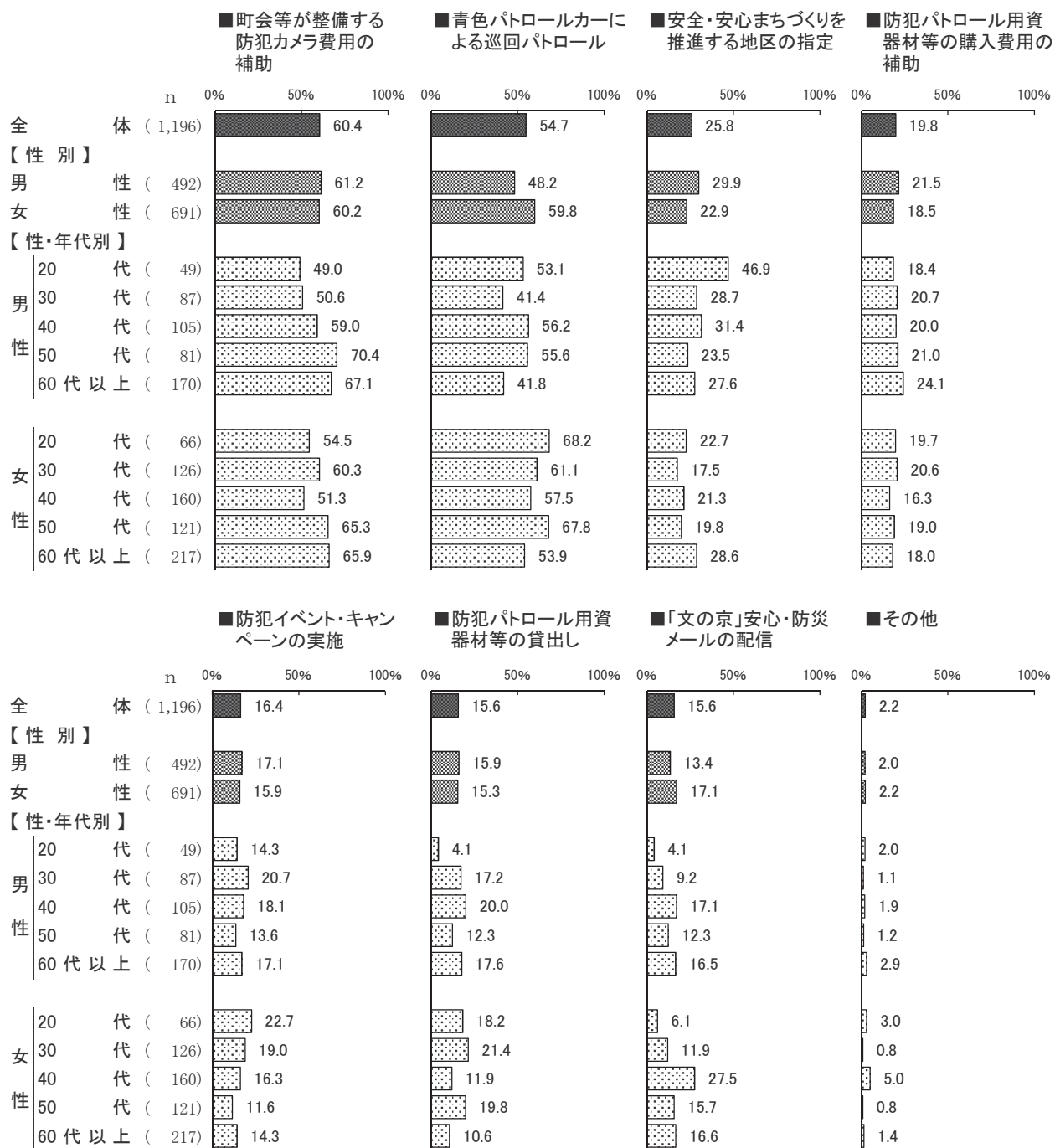


図4-5-2 今後力を入れてほしい防犯対策事業—地区別



地区別にみると、地区による大きな差はみられないが、「安全・安心まちづくりを推進する地区の指定」はB4地区、B5地区でともにほぼ3割と他の地区より多くなっている。「防犯イベント・キャンペーンの実施」はB5地区で1割未満と少なくなっている。（図4-5-2）

図4-5-3 今後力を入れてほしい防犯対策事業—性別／性・年代別



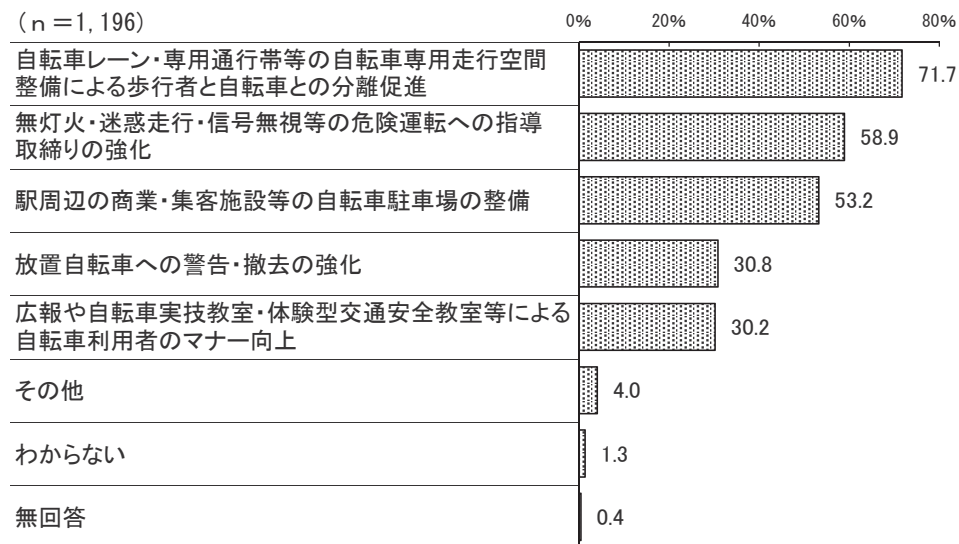
性別にみると、「青色パトロールカーによる巡回パトロール」は女性のほうが11.6ポイント、「安全・安心まちづくりを推進する地区の指定」は男性のほうが7.0ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「町会等が整備する防犯カメラ費用の補助」は男女ともにおおむね年代が高いほど多く、男性50代で7割、男性60代以上で7割近く、女性50代、60代以上でともに6割半ば、「安全・安心まちづくりを推進する地区の指定」は男性20代で4割半ば、「『文の京』安心・防災メールの配信」は女性40代で3割近くと多くなっている。（図4-5-3）

#### 4-6 自転車の安全利用施策

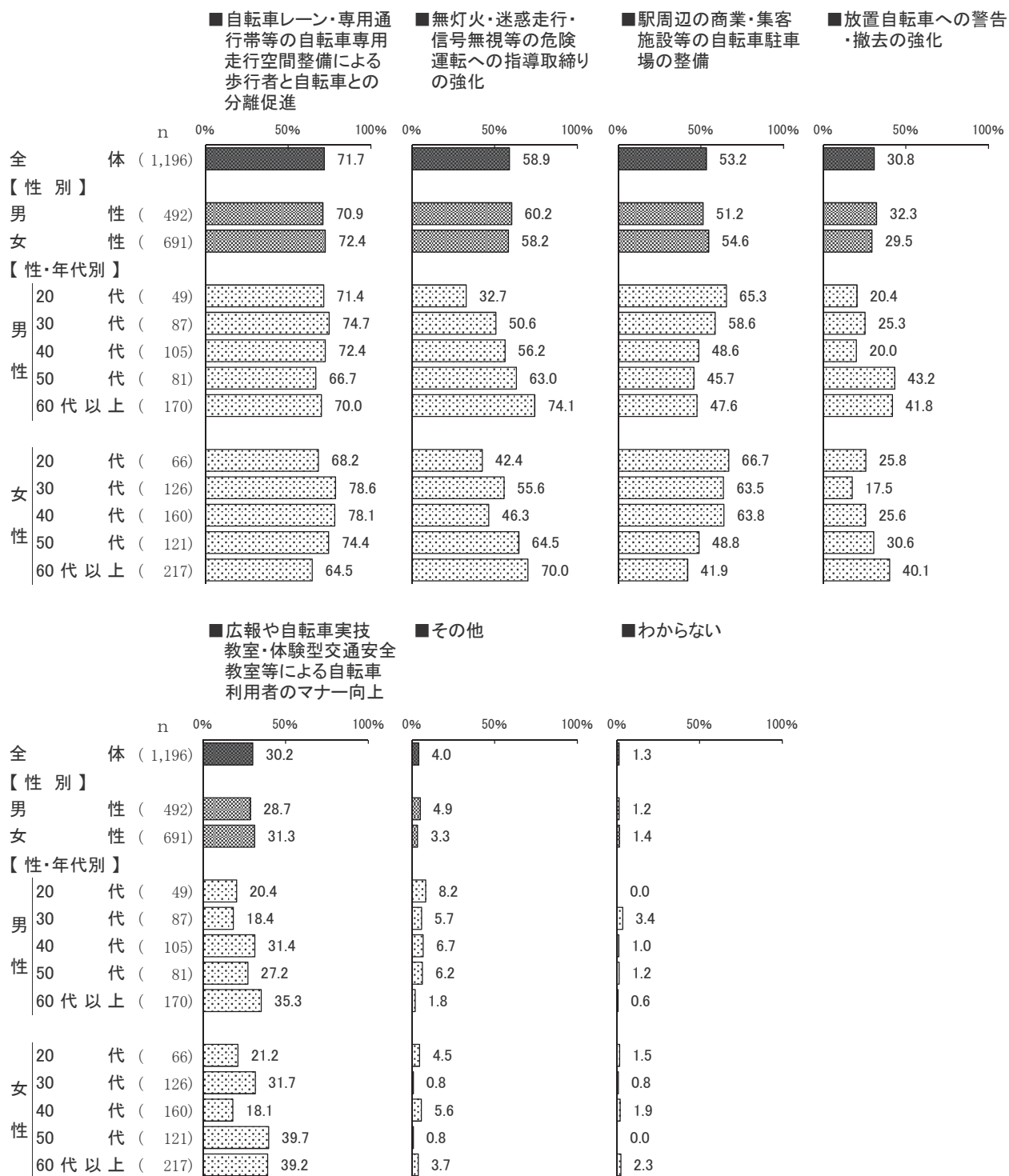
問15 自転車の安全利用推進のためには、区はどのようなことを重点的に行うべきと考えますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで、下の欄に番号をご記入ください。

図4-6-1 自転車の安全利用施策



自転車の安全利用施策についてたずねたところ、「自転車レーン・専用通行帯等の自転車専用走行空間整備による歩行者と自転車との分離促進」(71.7%)が7割を超え最も多く、次いで「無灯火・迷惑走行・信号無視等の危険運転への指導取締りの強化」(58.9%)、「駅周辺の商業・集客施設等の自転車駐車場の整備」(53.2%)などの順となっている。(図4-6-1)

図4-6-2 自転車の安全利用施策—性別／性・年代別



性別にみると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別にみると、「無灯火・迷惑走行・信号無視等の危険運転への指導取締りの強化」は男女ともにおおむね年代が高いほど多く、男女ともに60代以上で7割を超え、50代で6割を超え多くなっている。また、「放置自転車への警告・撤去の強化」もおおむね年代が高いほど多く、男性50代、60代以上、女性60代以上でそれぞれ4割を超えている。一方、「駅周辺の商業・集客施設等の自転車駐車場の整備」は男女ともにおおむね年代が低いほど多く、男性20代、女性20代から40代でそれぞれ6割半ばと多くなっている。(図4-6-2)

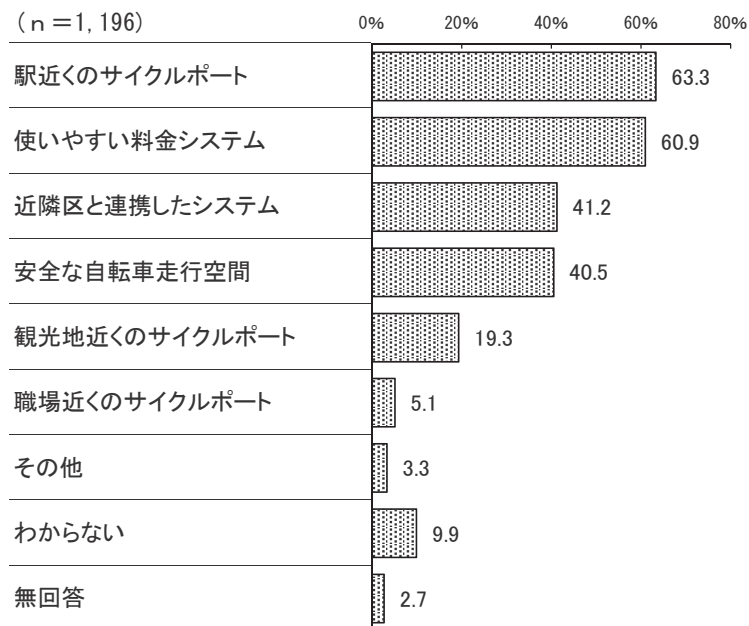
#### 4-7 シェアサイクル事業を行ううえで重要と思われること

問16 「シェアサイクル事業」を行ううえで、重要であると思われるものはどれですか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで、下の欄に番号をご記入ください。

※「シェアサイクル事業」とは…

地域内に複数の専用のサイクルポート(自転車の貸出・返却拠点)を設置し、どのポートで自転車を借りてどのポートで返却してもよいシステムを構築した貸し自転車事業

図4-7-1 シェアサイクル事業を行ううえで重要と思われること



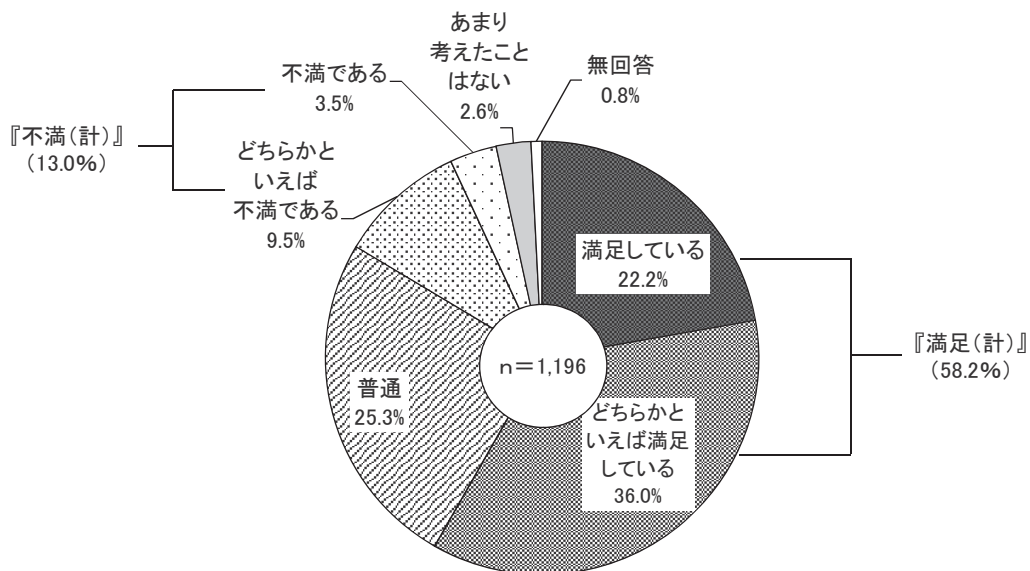
シェアサイクル事業を行ううえで重要と思われることについてたずねたところ、「駅近くのサイクルポート」(63.3%)が6割を超え最も多く、次いで「使いやすい料金システム」(60.9%)、「近隣区と連携したシステム」(41.2%)、「安全な自転車走行空間」(40.5%)などの順となっている。(図4-7-1)



#### 4-8 周辺地域のまち並み・景観に対する満足度

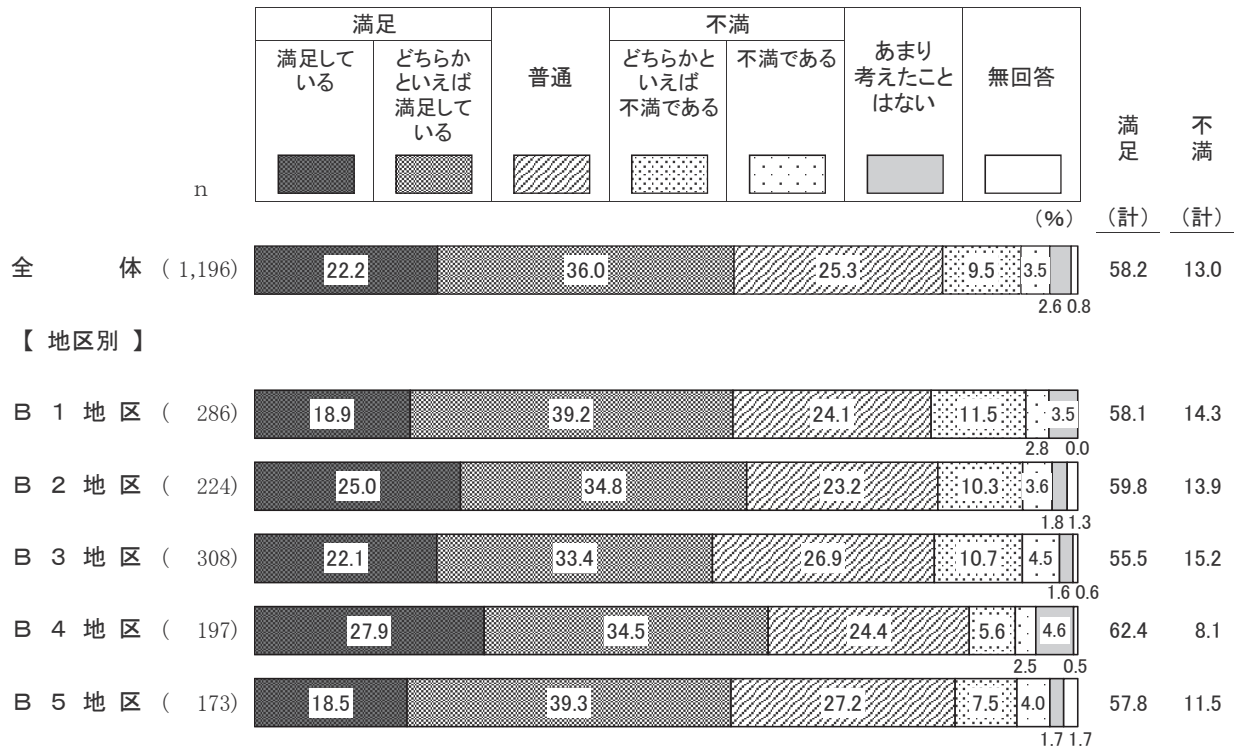
問17 あなたがお住まいの周辺地域のまち並み・景観について、どのように感じますか。  
(○は1つ)

図4-8-1 周辺地域のまち並み・景観に対する満足度



周辺地域のまち並み・景観に対する満足度についてたずねたところ、「満足している」(22.2%)、「どちらかといえば満足している」(36.0%)を合わせた『満足(計)』(58.2%)は6割近く、「普通」(25.3%)が2割半ばとなっている。一方、「どちらかといえば不満である」(9.5%)、「不満である」(3.5%)を合わせた『不満(計)』(13.0%)は1割台となっている。(図4-8-1)

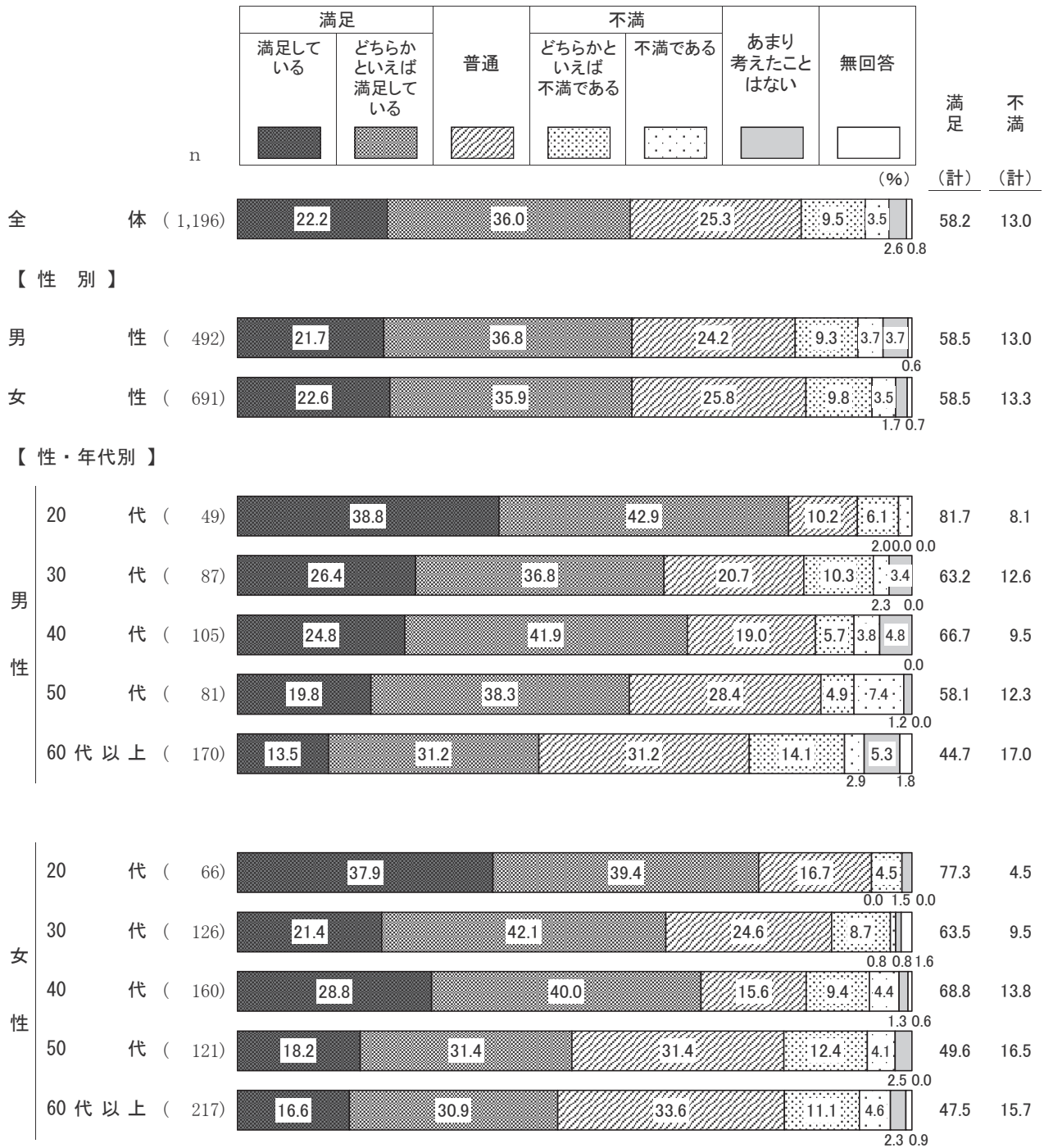
図4-8-2 周辺地域のまち並み・景観に対する満足度—地区別



地区別にみると、『満足（計）』はすべての地区で5割を超えており、B4地区で6割を超えている。一方、『不満（計）』はB4地区で1割未満と少なく、他の地区は1割台となっている。（図4-8-2）



図4-8-3 周辺地域のまち並み・景観に対する満足度—性別／性・年代別



性別にみると、男女間で大きな差はみられない。

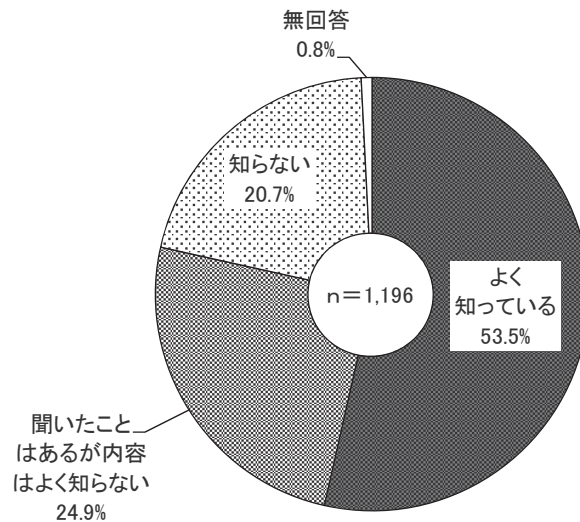
性・年代別にみると、『満足（計）』は男女ともにおおむね年代が低いほど多い傾向であり、男性20代で8割を超え、女性20代で8割近くと多くなっている。一方、男性60代以上、女性50代、60代以上はそれぞれ5割を下回っており、『不満（計）』が1割半ばを超えている。

(図4-8-3)

#### 4-9 文京区歩行喫煙等の禁止に関する条例の認知度

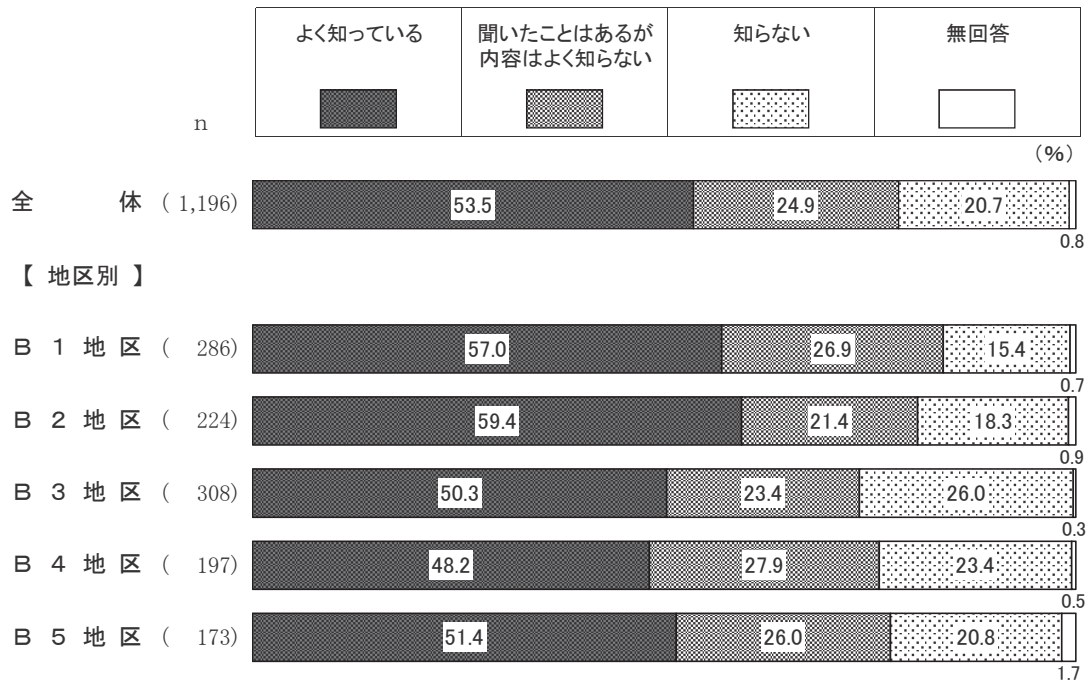
問18 区では、平成21年4月1日から「文京区歩行喫煙等の禁止に関する条例」を施行し、区内の公共の場所(屋外に限る)における歩きタバコポイ捨て及び駅出入口前などの重点地域での路上喫煙を禁止しています。このことをご存じですか。(〇は1つ)

図4-9-1 文京区歩行喫煙等の禁止に関する条例の認知度



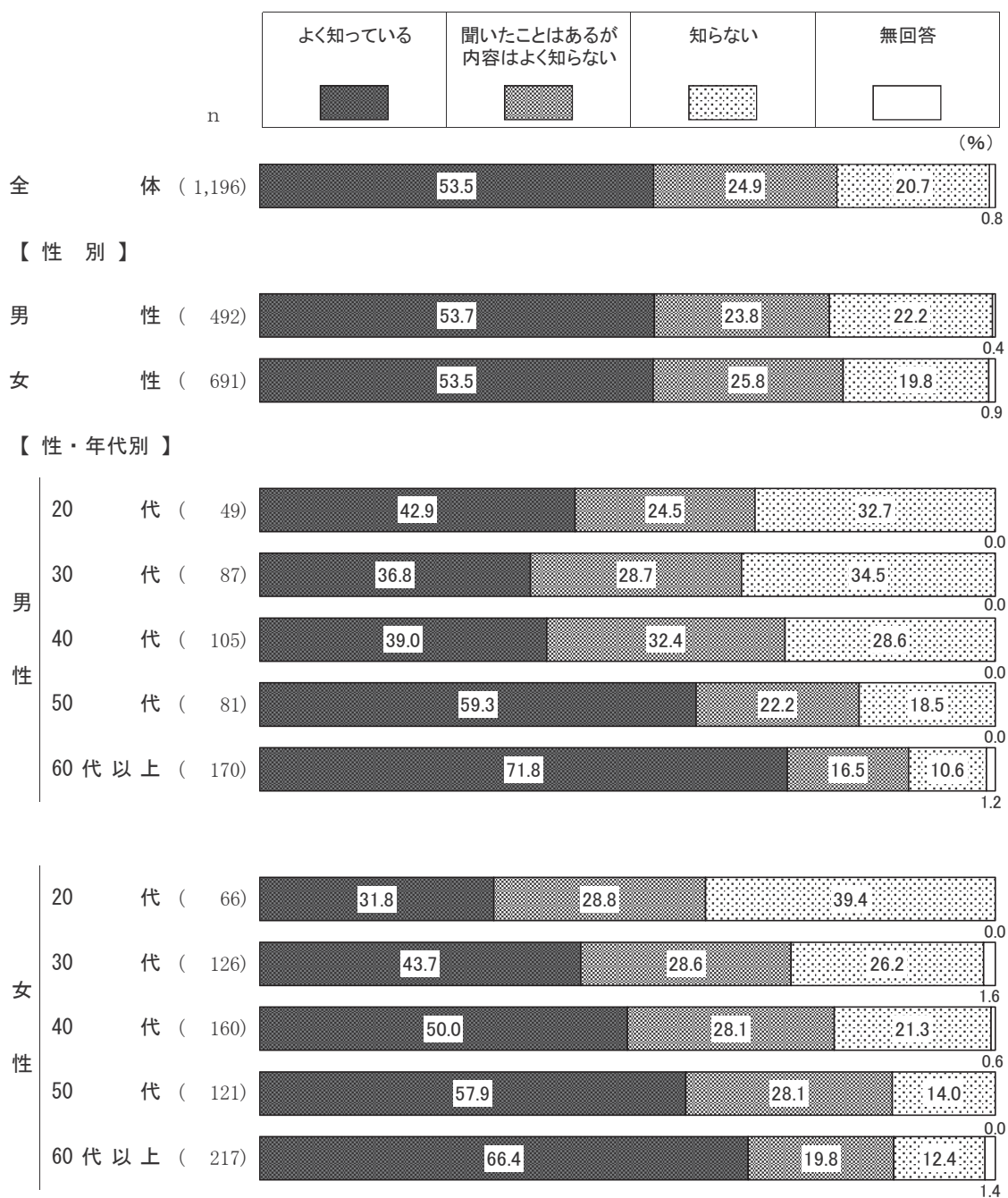
文京区歩行喫煙等の禁止に関する条例の認知度についてたずねたところ、「よく知っている」(53.5%)が5割を超えている。「聞いたことはあるが内容はよく知らない」(24.9%)が2割半ば、「知らない」(20.7%)が2割となっている。(図4-9-1)

図4-9-2 文京区歩行喫煙等の禁止に関する条例の認知度—地区別



地区別にみると、「よく知っている」はB 1地区、B 2地区でともに6割近くと多くっており、B 4地区で5割を下回っている。(図4-9-2)

図 4-9-3 文京区歩行喫煙等の禁止に関する条例の認知度—性別／性・年代別



性別にみると、男女間で大きな差はみられない。

性・年代別にみると、「よく知っている」は男女ともにおおむね年代が高いほど多く、男性60代以上で7割を超え、女性60代以上で6割半ばとなっている。一方、「知らない」は女性20代でほぼ4割、男性20代、30代でともに3割を超え多くなっている。(図4-9-3)

# 5 コミュニティ

- 
- 5-1 町会・自治会への参加状況
  - 5-2 町会・自治会活動への参加意向
  - 5-3 町会・自治会に期待すること
  - 5-4 国際化に対応していくために特に必要だと感じること
-

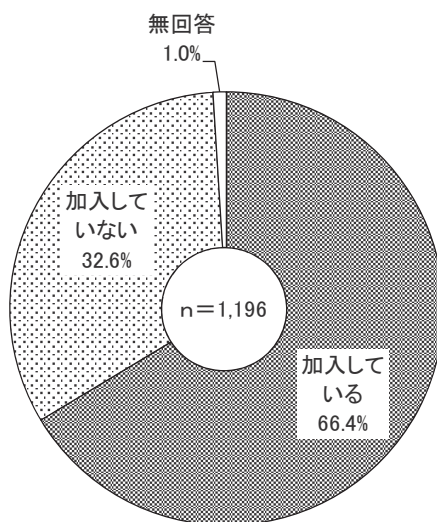


## 5 コミュニティ

### 5-1 町会・自治会への参加状況

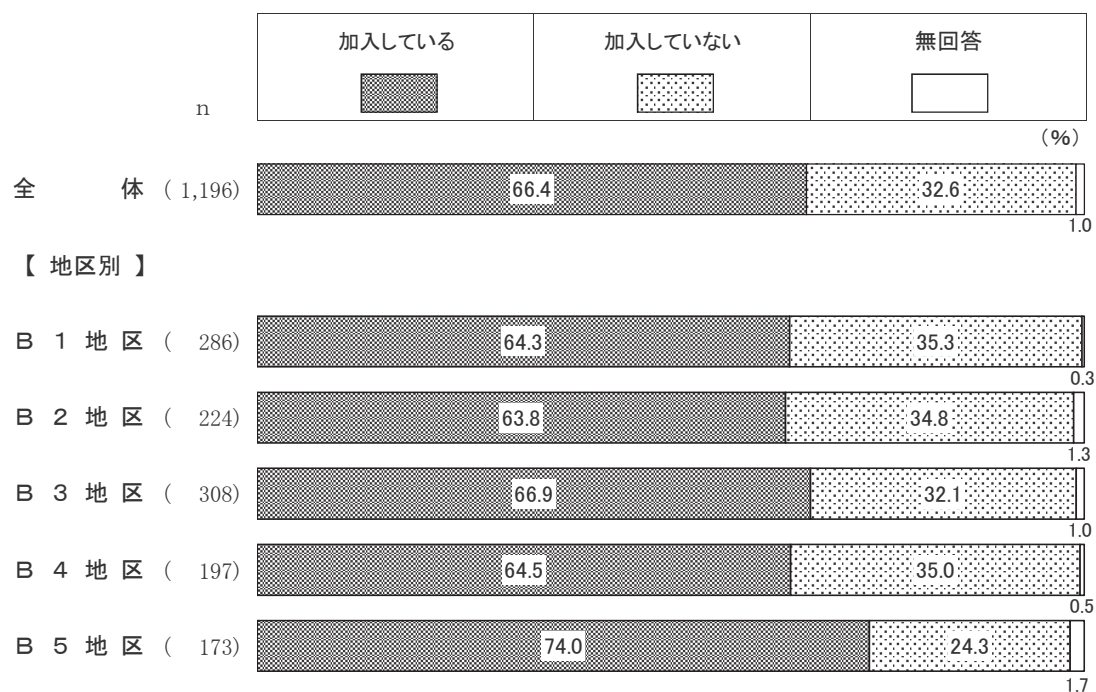
問19 あなたの世帯は、町会や自治会に加入していますか。(○は1つ)

図5-1-1 町会・自治会への参加状況



町会・自治会への参加状況についてたずねたところ、「加入している」(66.4%)は6割半ば、「加入していない」(32.6%)は3割を超えている。(図5-1-1)

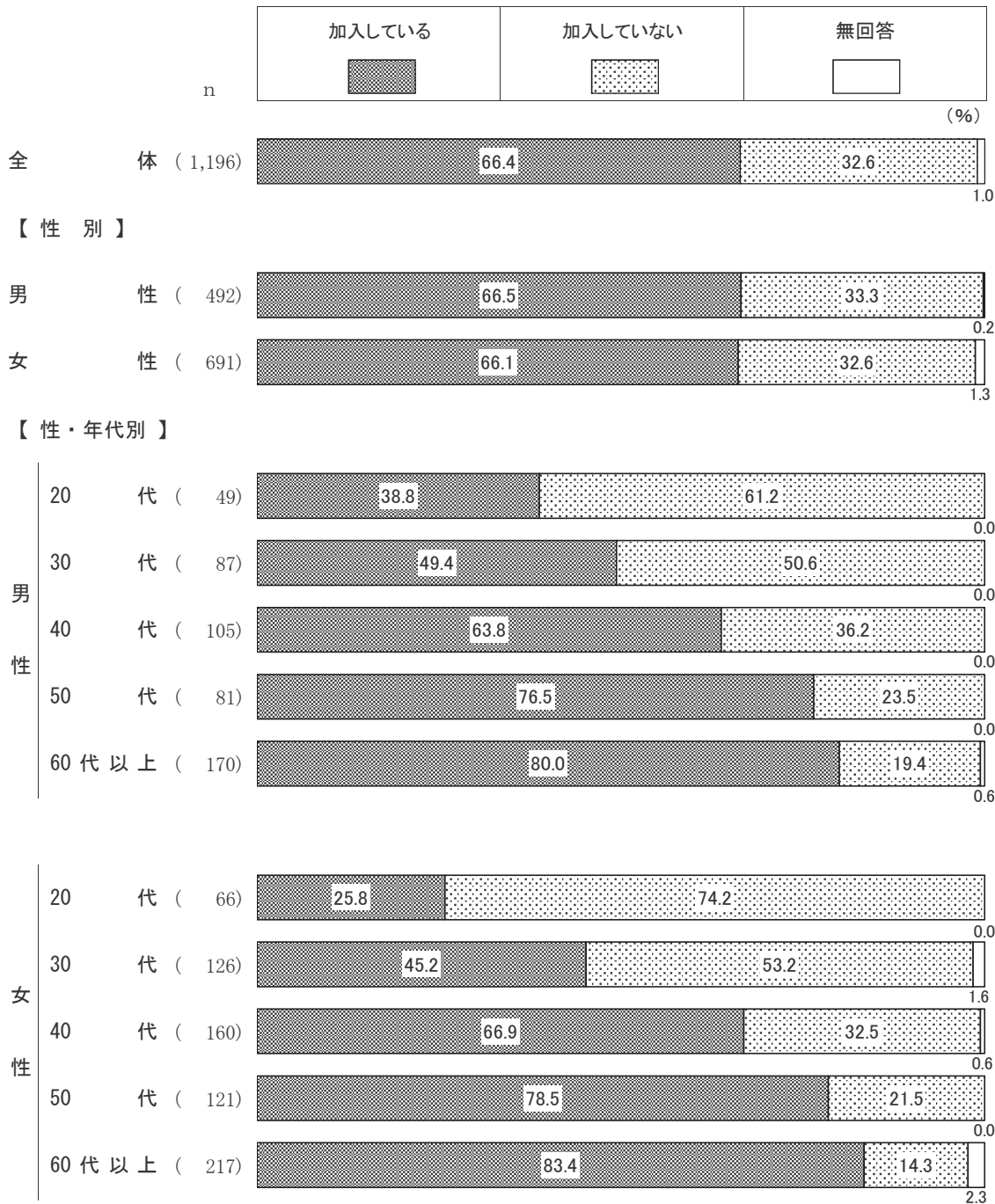
図 5 - 1 - 2 町会・自治会への参加状況—地区別



地区別にみると、「加入している」はB 5地区で7割半ばと多く、他の地区は6割半ばとなっている。(図 5 - 1 - 2)



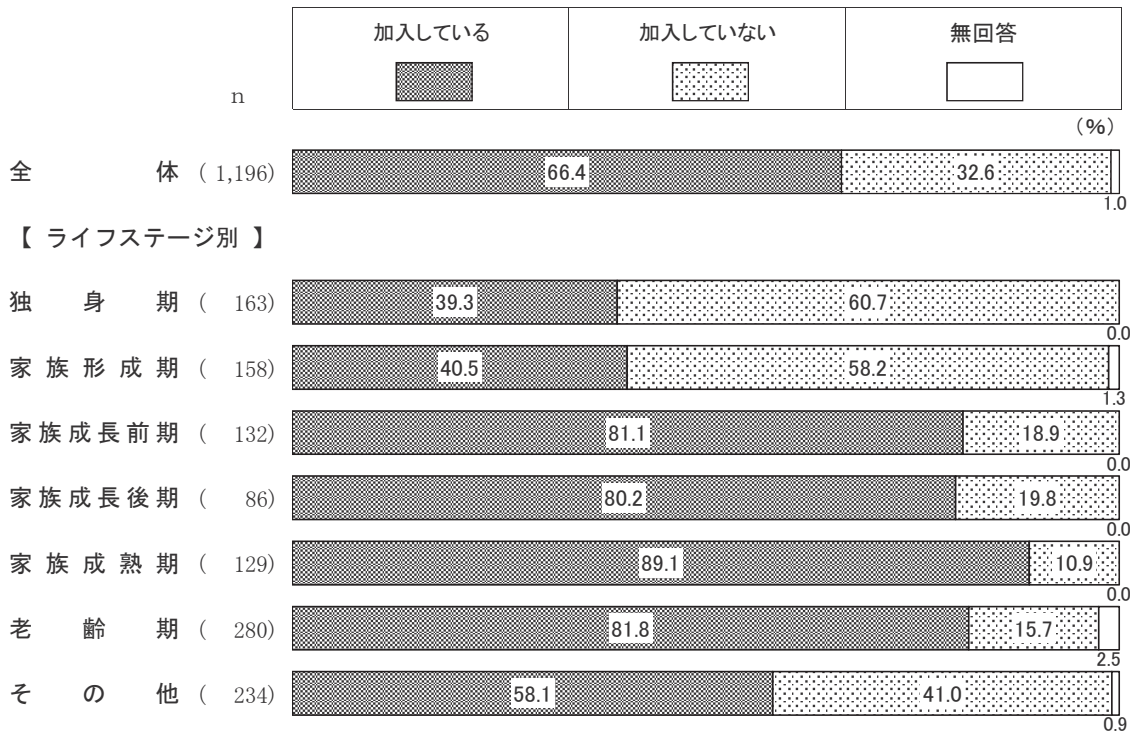
図5-1-3 町会・自治会への参加状況—性別／性・年代別



性別にみると、男女間で大きな差はみられない。

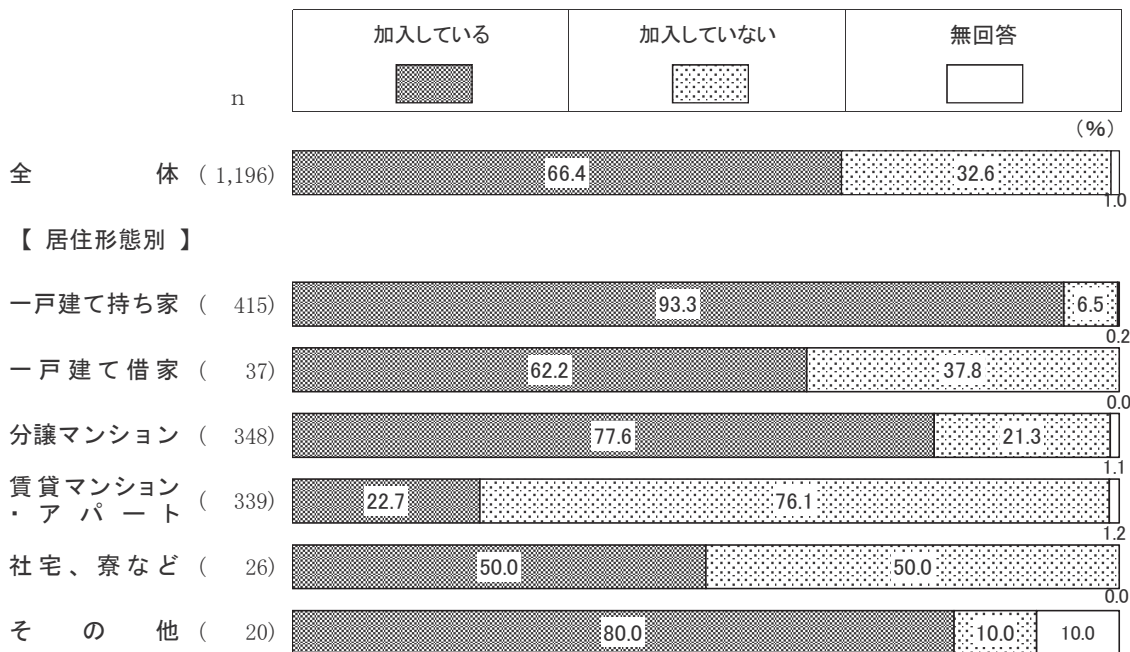
性・年代別にみると、「加入している」は男女ともに年代が高いほど多く、男女ともに60代以上で8割を超え、50代で7割半ばから8割近くと多くなっている。一方、男女ともに20代、30代は「加入していない」が「加入している」を上回っており、「加入していない」は男性20代でほぼ6割、女性20代で7割半ば、男女ともに30代で5割を超えている。(図5-1-3)

図5-1-4 町会・自治会への参加状況－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「加入している」は家族成長前期、家族成長後期、家族成熟期、老齢期でそれぞれ8割を超えている。一方、独身期、家族形成期は「加入していない」がともに6割前後と「加入している」を上回っている。(図5-1-4)

図5-1-5 町会・自治会への参加状況－居住形態別

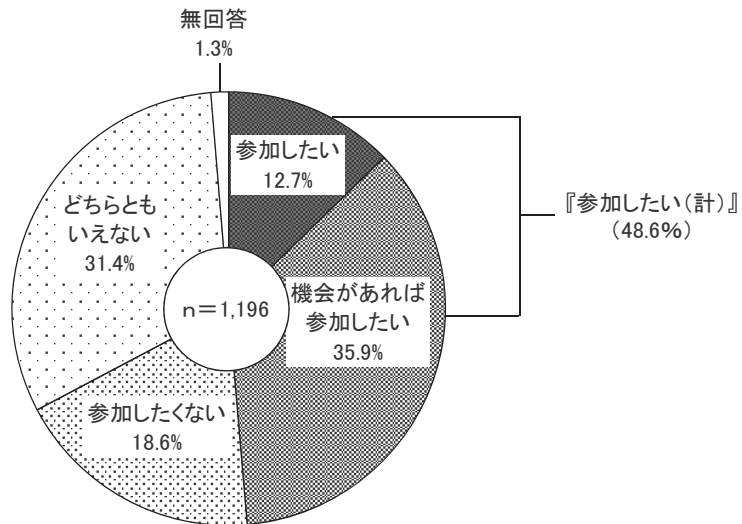


居住形態別にみると、「加入している」は一戸建て持ち家で9割を超え、その他で8割、分譲マンションで8割近くと多くなっている。一方、賃貸マンション・アパートは「加入していない」が7割半ばと多くなっている。(図5-1-5)

## 5-2 町会・自治会活動への参加意向

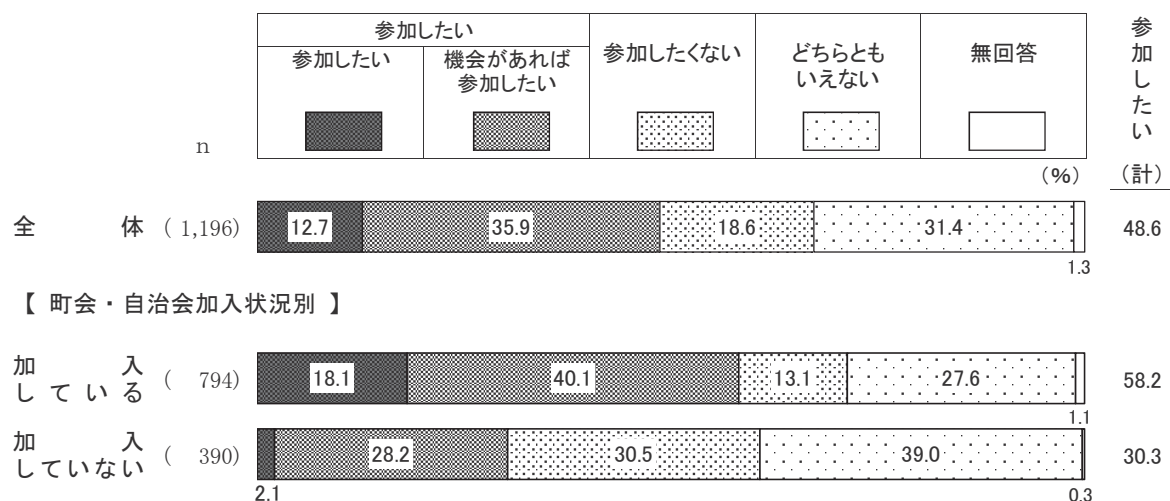
問20 あなたは今後、町会や自治会活動に参加したいと思いますか。(○は1つ)

図5-2-1 町会・自治会活動への参加意向



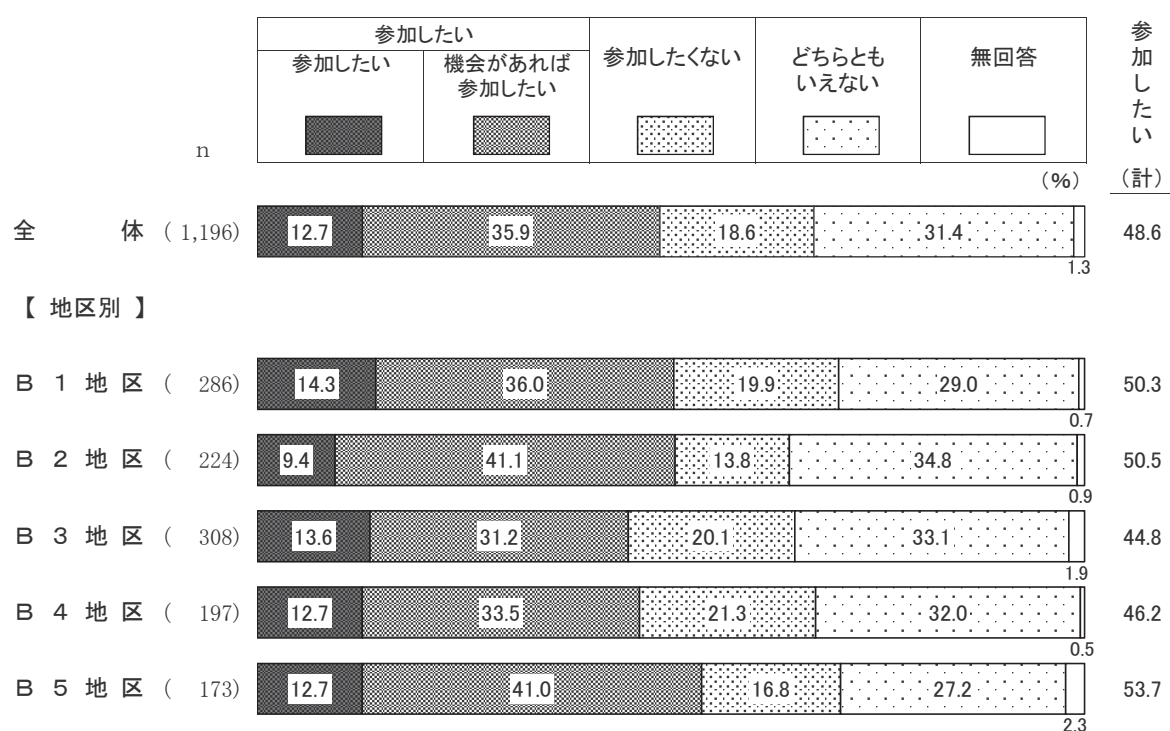
町会や自治会活動の参加意向についてたずねたところ、「参加したい」(12.7%)、「機会があれば参加したい」(35.9%)を合わせた『参加したい(計)』(48.6%)は5割近くとなっている。一方、「参加したくない」(18.6%)は2割近く、「どちらともいえない」(31.4%)がほぼ3割となっている。(図5-2-1)

図5-2-2 町会・自治会活動への参加意向—町会・自治会加入状況別



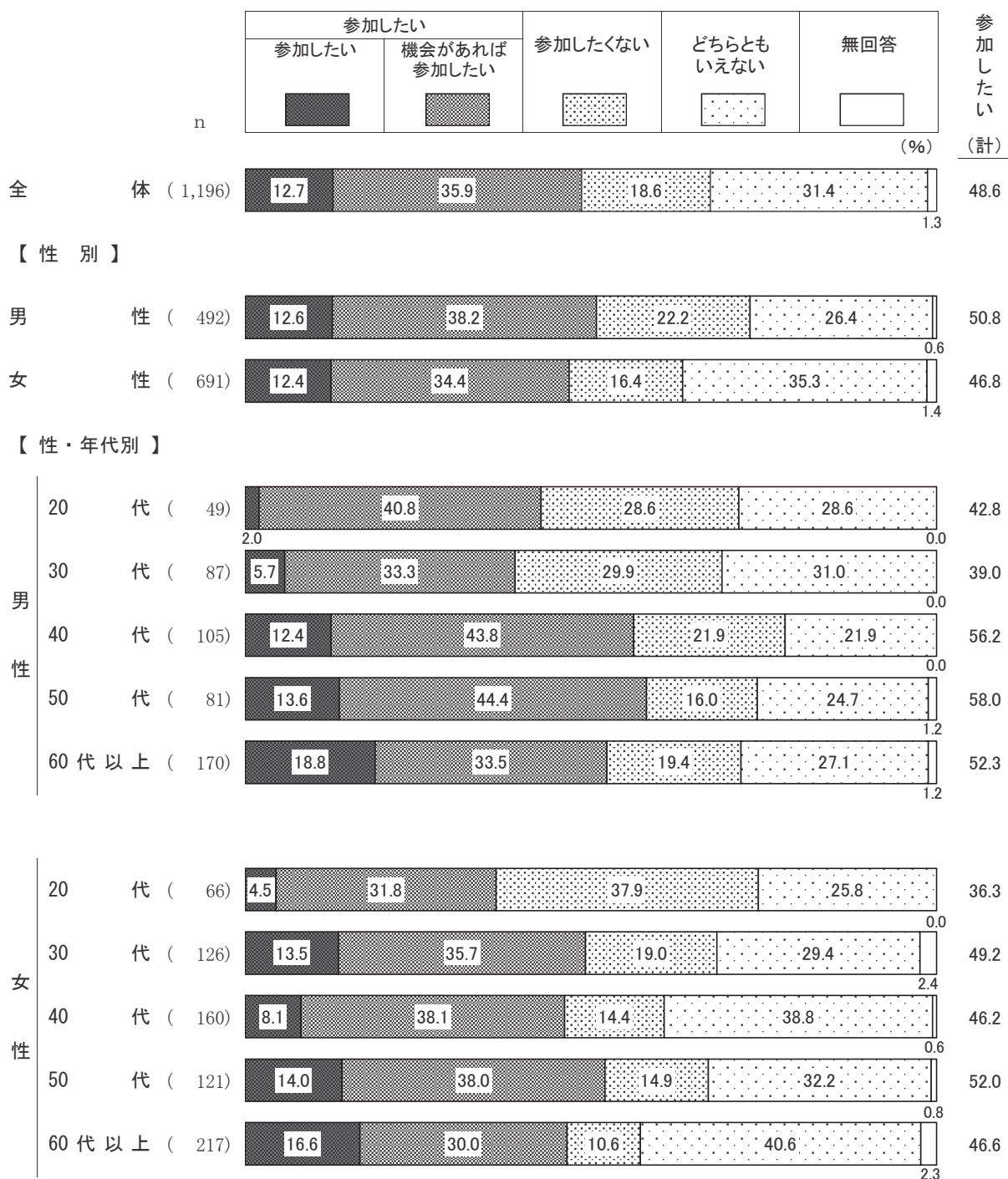
町会・自治会の加入状況別にみると、『参加したい（計）』は加入している人で6割近く、加入していない人で3割となっている。（図5-2-2）

図5-2-3 町会・自治会活動への参加意向—地区別



地区別にみると、『参加したい（計）』はB1地区、B2地区、B5地区でそれぞれ5割を超えている。（図5-2-3）

図5-2-4 町会・自治会活動への参加意向－性別／性・年代別

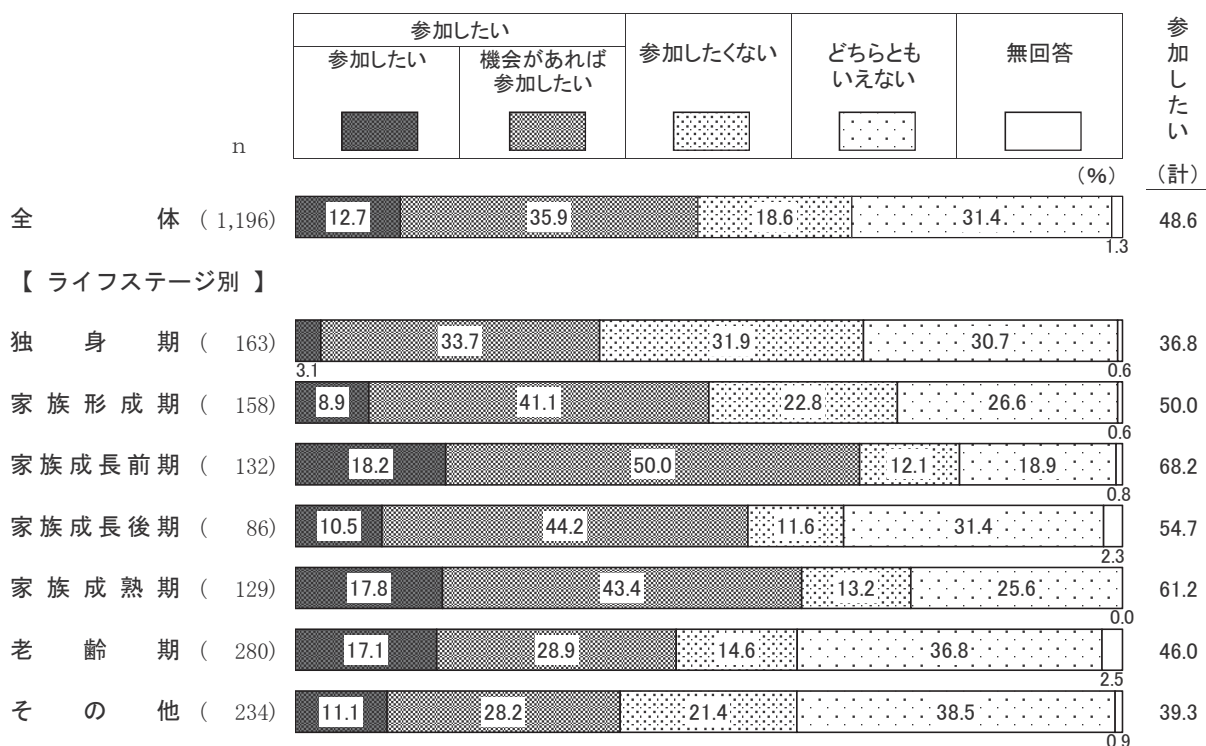


性別にみると、『参加したい（計）』は男性のほうが4.0ポイント高くなっている。男性は他方で「参加したくない」も5.8ポイント高く、女性は「どちらともいえない」が8.9ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「参加したい」は男性は年代が高いほど多く、男性60代以上で2割近く、女性は50代、60代以上でともに1割半ばとなっている。また、『参加したい（計）』は男女ともに50代で多く、男性50代で6割近く、女性50代で5割を超えている。一方、「参加したくない」は女性20代で4割近く、男性20代、30代でともに3割近くと多くなっている。

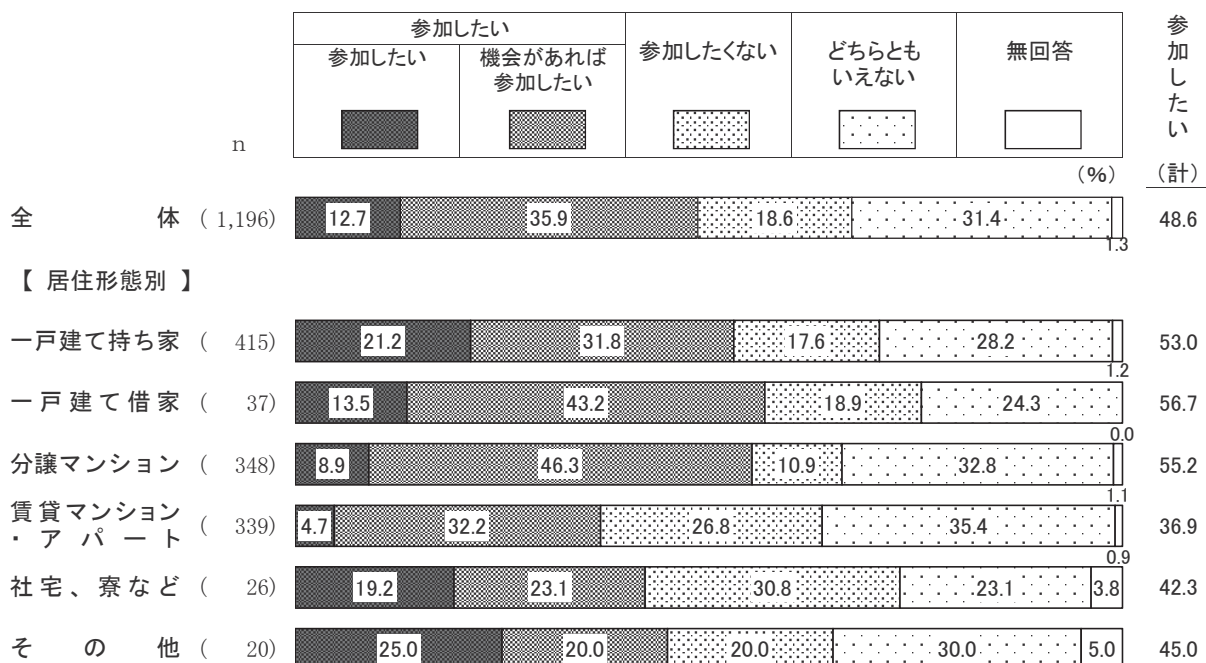
(図5-2-4)

図5-2-5 町会・自治会活動への参加意向－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、『参加したい（計）』は家族成長前期で7割近く、家族成熟期でほぼ6割と多くなっている。一方、独身期で3割半ばと少なくなっている。老齢期、その他は「どちらともいえない」が3割半ばから4割近くとなっている。（図5-2-5）

図5-2-6 町会・自治会活動への参加意向－居住形態別

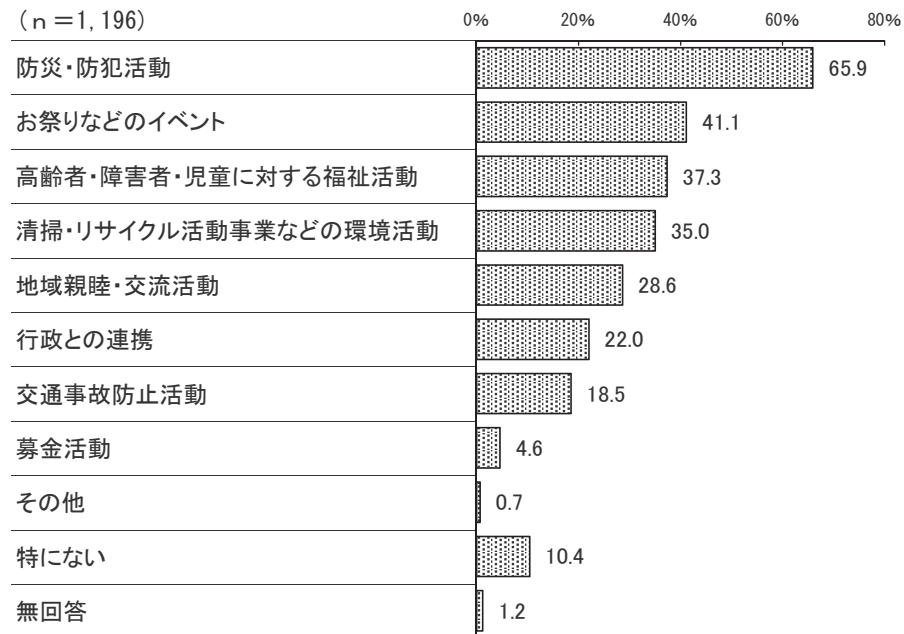


居住形態別にみると、『参加したい（計）』は一戸建て持ち家、一戸建て借家、分譲マンションで5割半ばと多くなっている。一方、「参加したくない」は社宅、寮などでほぼ3割、賃貸マンション・アパートで2割半ばとなっている。（図5-2-6）

### 5-3 町会・自治会に期待すること

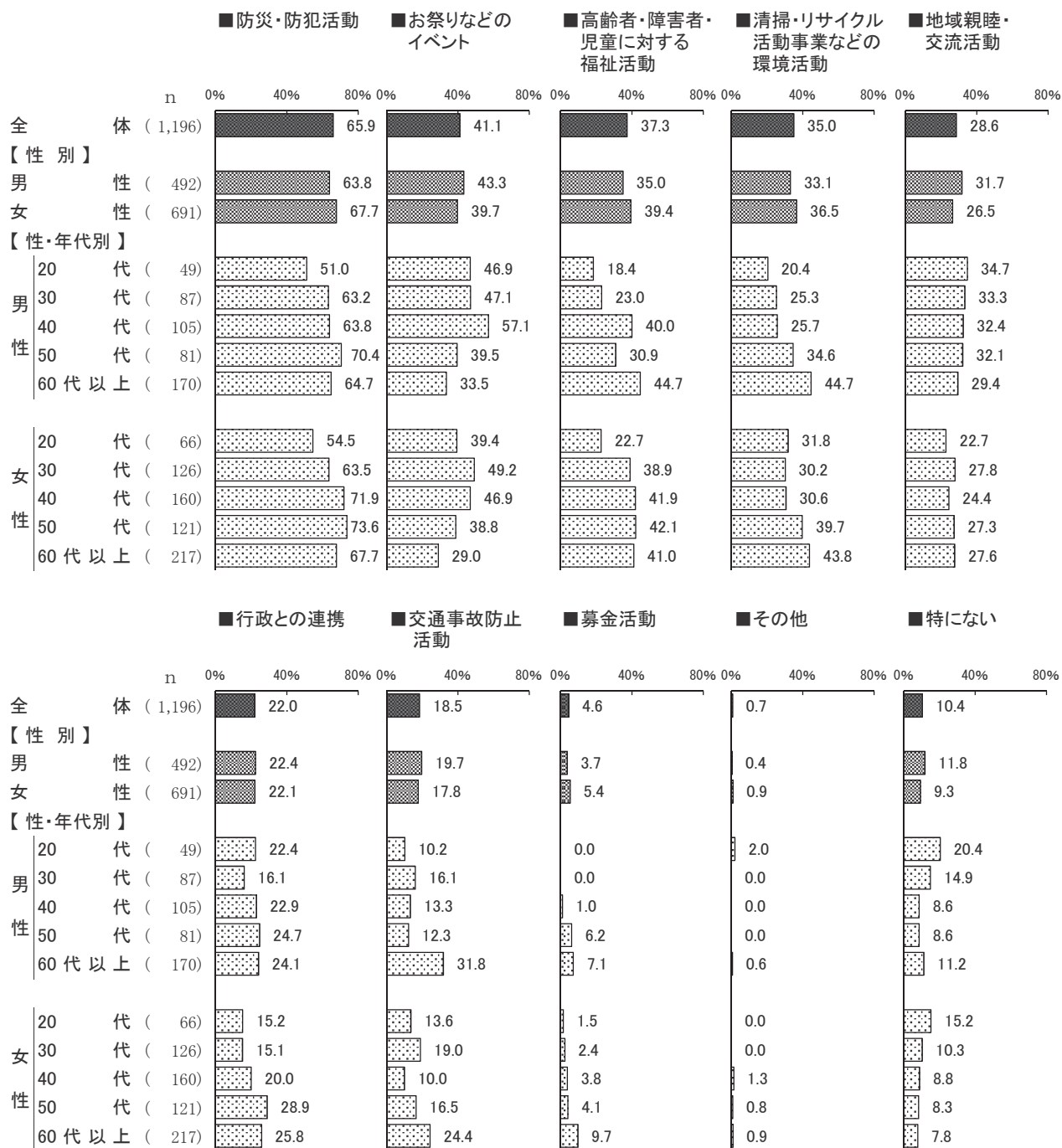
問21 町会・自治会に期待する内容はどのようなことですか。  
次の中からいくつでもお選びください。(〇はいくつでも)

図5-3-1 町会・自治会に期待すること



町会・自治会に期待することについてたずねたところ、「防災・防犯活動」(65.9%)が6割半ばと最も多く、次いで「お祭りなどのイベント」(41.1%)、「高齢者・障害者・児童に対する福祉活動」(37.3%)、「清掃・リサイクル活動事業などの環境活動」(35.0%)などの順となっている。(図5-3-1)

図5-3-2 町会・自治会に期待すること－性別／性・年代別



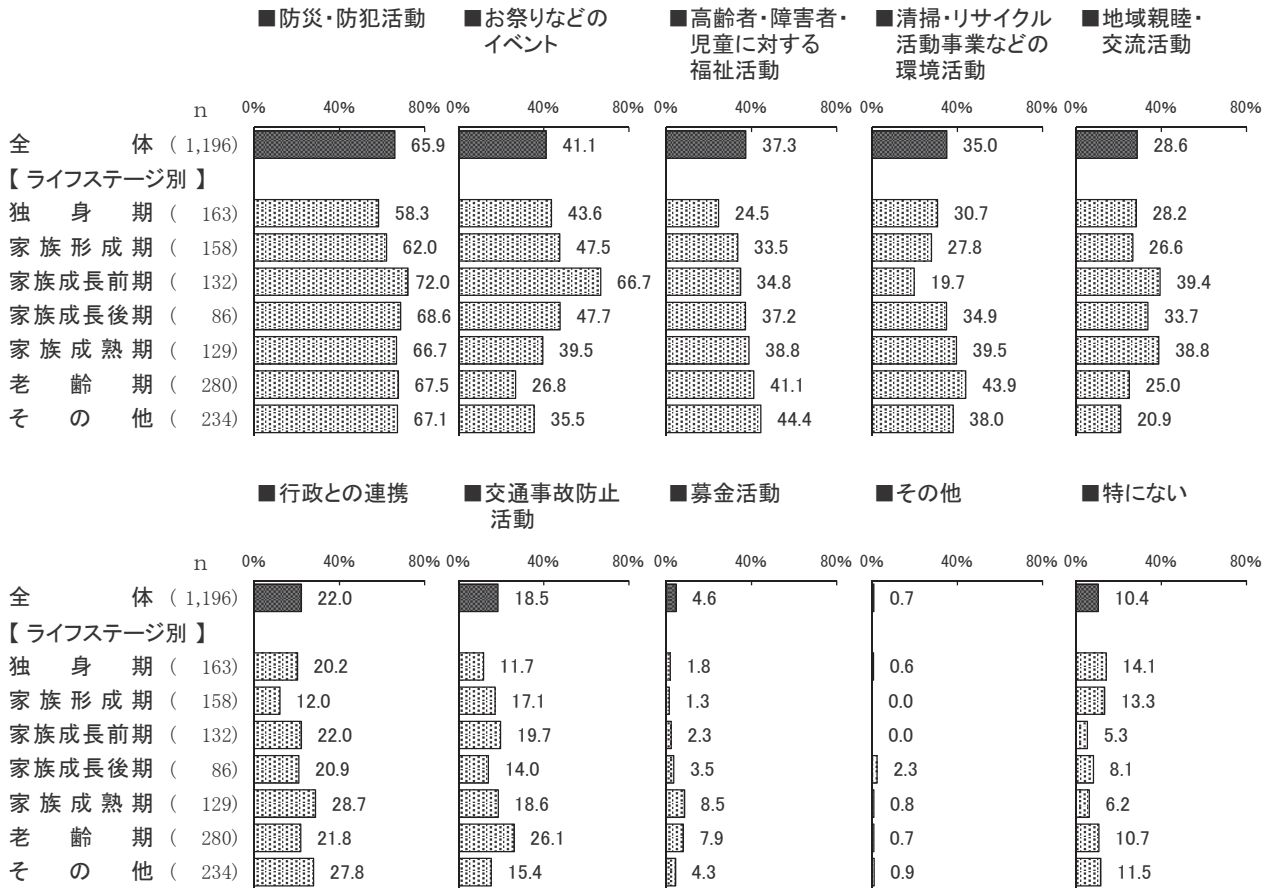
性別にみると、「地域親睦・交流活動」は男性のほうが5.2ポイント、「高齢者・障害者・児童に対する福祉活動」は女性のほうが4.4ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「防災・防犯活動」は男性50代、女性50代、60代以上でそれぞれ7割を超え、「お祭りなどのイベント」は男性40代で6割近くと多くなっている。「清掃・リサイクル活動事業などの環境活動」は男女ともにおおむね年代が高いほど多く、男女ともに60代以上で4割を超えている。また、「交通事故防止活動」は男性60代以上で3割を超えている。

(図5-3-2)



図5-3-3 町会・自治会に期待すること－ライフステージ別

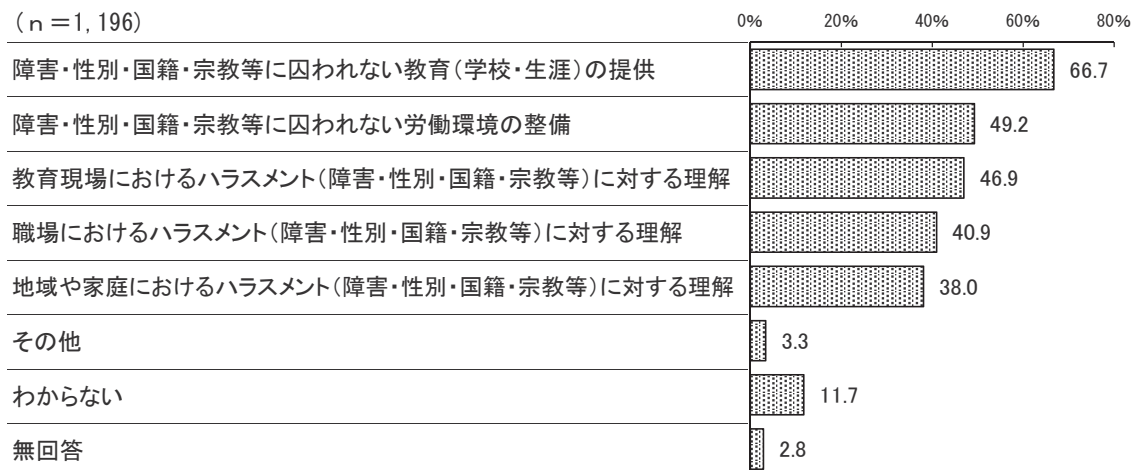


ライフステージ別にみると、「お祭りなどのイベント」は家族成長前期で6割半ばと多くなっている。「高齢者・障害者・児童に対する福祉活動」はステージが上がるほど多く、老齢期で4割を超えており、また、その他で4割半ばとなっている。「地域親睦・交流活動」は家族成長前期、家族成熟期でともに4割近くと多くなっている。(図5-3-3)

## 5-4 国際化に対応していくために特に必要だと感じること

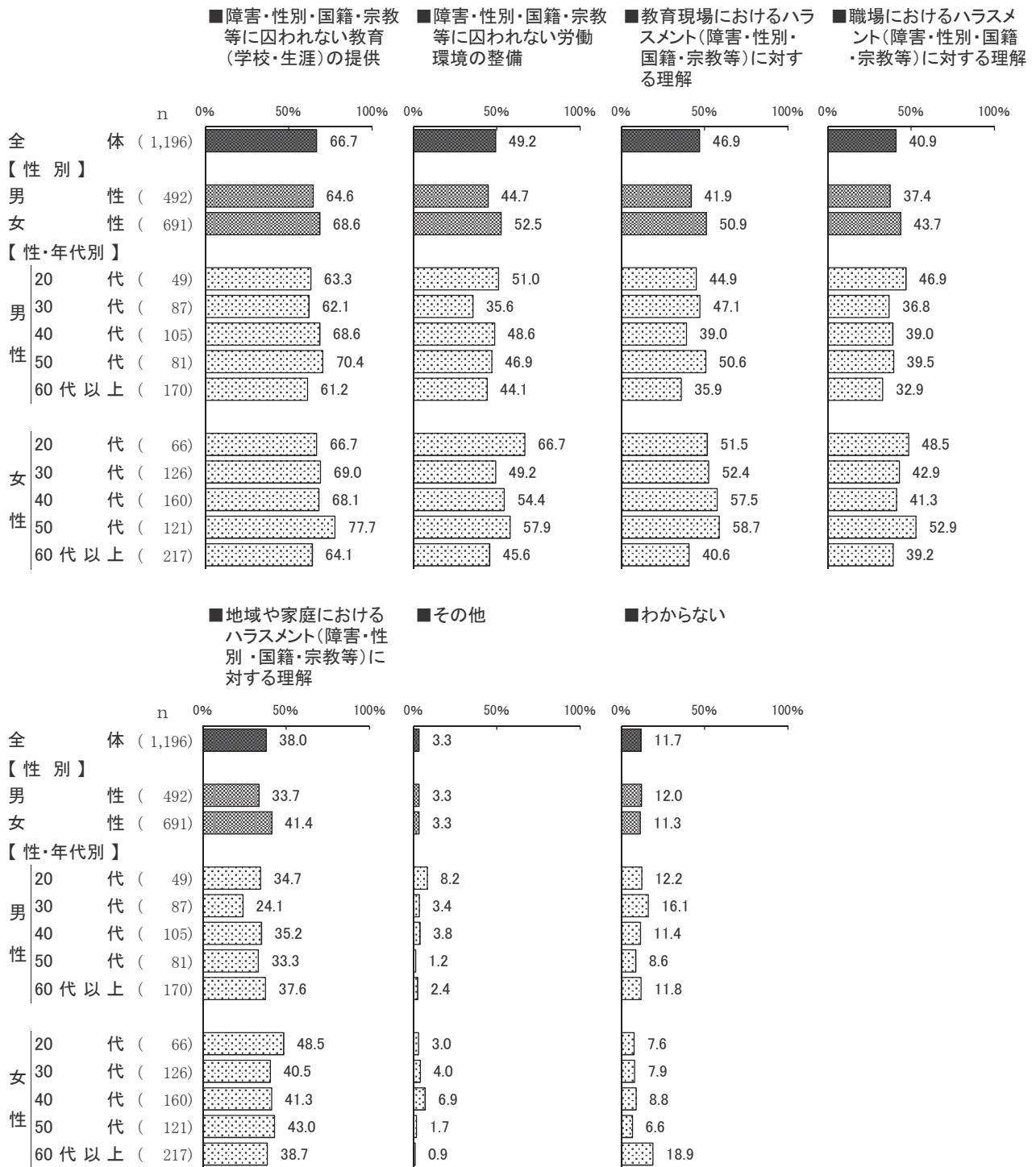
問22 多様な文化や考え方、性別や年代を超えた価値観が問われる現代社会において、国際化は言語だけでなく、社会や地域、教育現場や職場にもその必要性が求められています。今後、国際化に対応していくために特に必要だと感じることは何ですか。次の中からいくつでもお選びください。(〇はいくつでも)

図5-4-1 国際化に対応していくために特に必要だと感じること



国際化に対応していくために特に必要だと感じることについてたずねたところ、「障害・性別・国籍・宗教等に囚われない教育(学校・生涯)の提供」(66.7%)が6割半ばと最も多く、次いで「障害・性別・国籍・宗教等に囚われない労働環境の整備」(49.2%)、「教育現場におけるハラスメント(障害・性別・国籍・宗教等)に対する理解」(46.9%)などの順となっている。(図5-4-1)

図5-4-2 国際化に対応していくために特に必要だと感じること－性別／性・年代別



性別にみると、女性のほうが「教育現場におけるハラスメント（障害・性別・国籍・宗教等）に対する理解」で9.0ポイント、「障害・性別・国籍・宗教等に囚われない労働環境の整備」で7.8ポイント、「地域や家庭におけるハラスメント（障害・性別・国籍・宗教等）に対する理解」で7.7ポイント高くなっており、全般的に女性のほうが高くなっている。

性・年代別にみると、「障害・性別・国籍・宗教等に囚われない教育（学校・生涯）の提供」は女性50代で8割近く、「障害・性別・国籍・宗教等に囚われない労働環境の整備」は女性20代で7割近く、「職場におけるハラスメント（障害・性別・国籍・宗教等）に対する理解」は女性50代で5割を超え、「地域や家庭におけるハラスメント（障害・性別・国籍・宗教等）に対する理解」は女性20代で5割近くとなっている。（図5-4-2）



## 6 子育て・教育

- 
- 6-1 子育て支援のために取り組むべき施策
  - 6-2 子育て支援サービスの認知度・利用経験・今後の利用意向
  - 6-3 青少年健全育成に関して地域の大人たちが行うべきこと
  - 6-4 学校支援活動の認知度・今後の協力意向
-

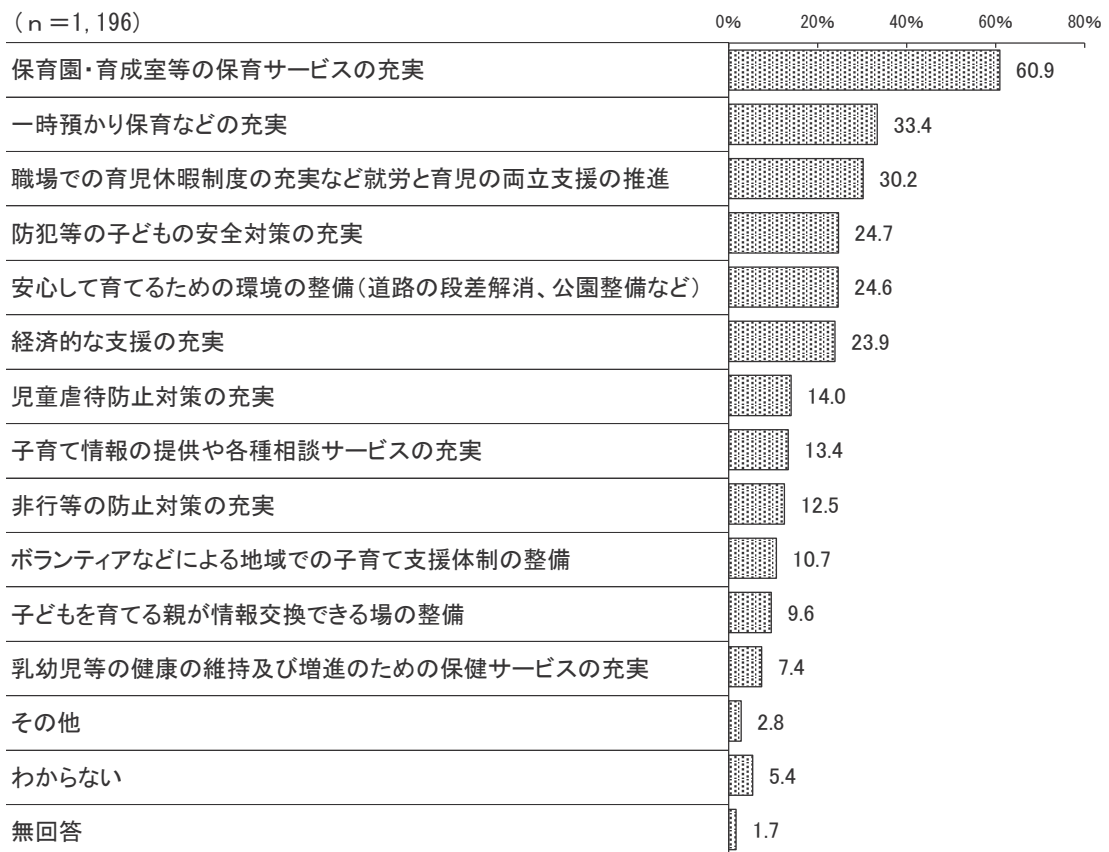


## 6 子育て・教育

### 6-1 子育て支援のために取り組むべき施策

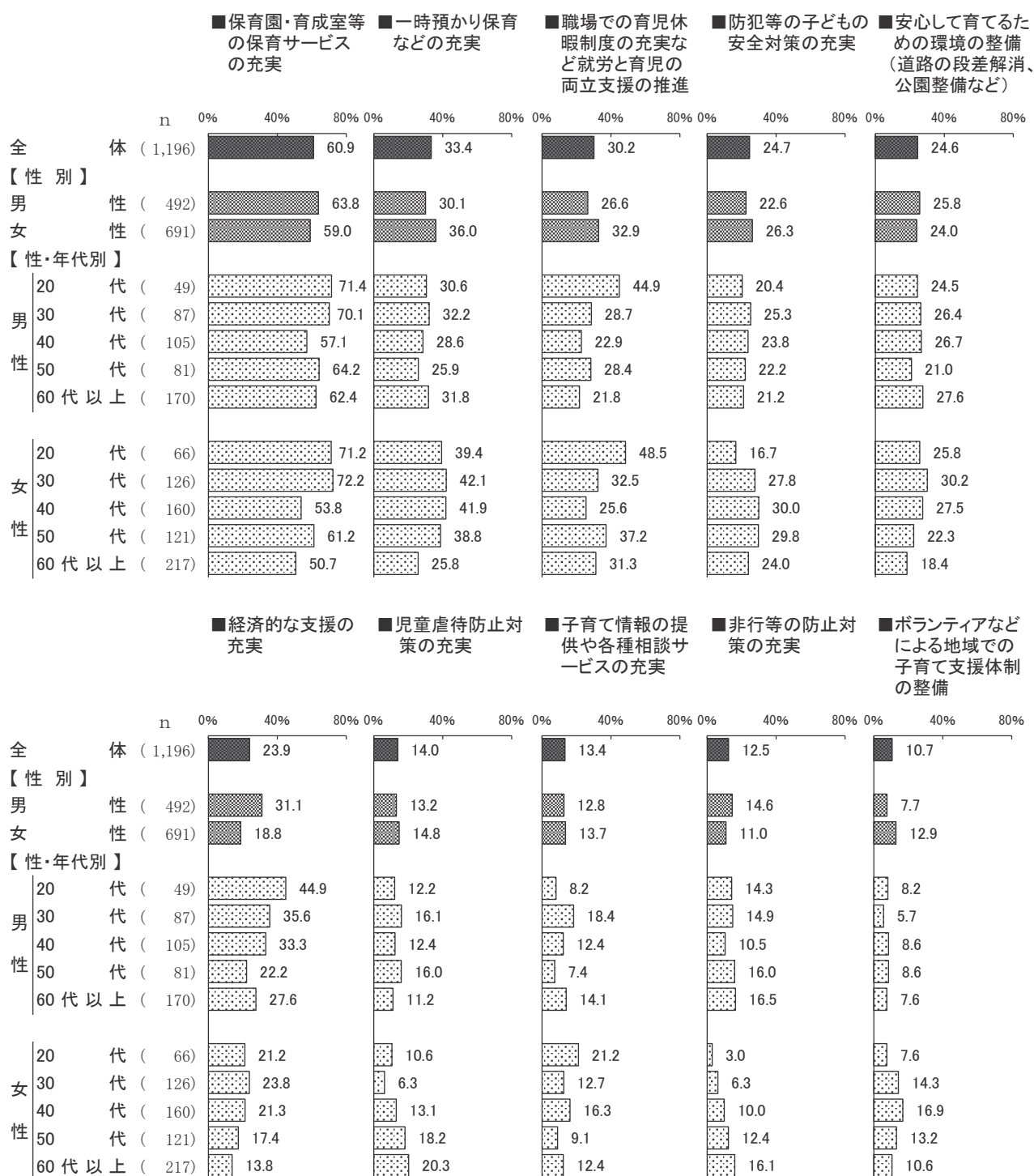
問23 子育て支援策として、区はどのような施策を実施すべきと思いますか。  
次の中からあてはまるものを3つまで選んで、下の欄に番号をご記入ください。

図6-1-1 子育て支援のために取り組むべき施策



子育て支援のために取り組むべき施策についてたずねたところ、「保育園・育成室等の保育サービスの充実」(60.9%)がほぼ6割と最も多く、次いで「一時預かり保育などの充実」(33.4%)、「職場での育児休暇制度の充実など就労と育児の両立支援の推進」(30.2%)、「防犯等の子どもの安全対策の充実」(24.7%)、「安心して育てるための環境の整備(道路の段差解消、公園整備など)」(24.6%)、「経済的な支援の充実」(23.9%)などの順となっている。(図6-1-1)

図6-1-2 子育て支援のために取り組むべき施策【上位10項目】－性別／性・年代別

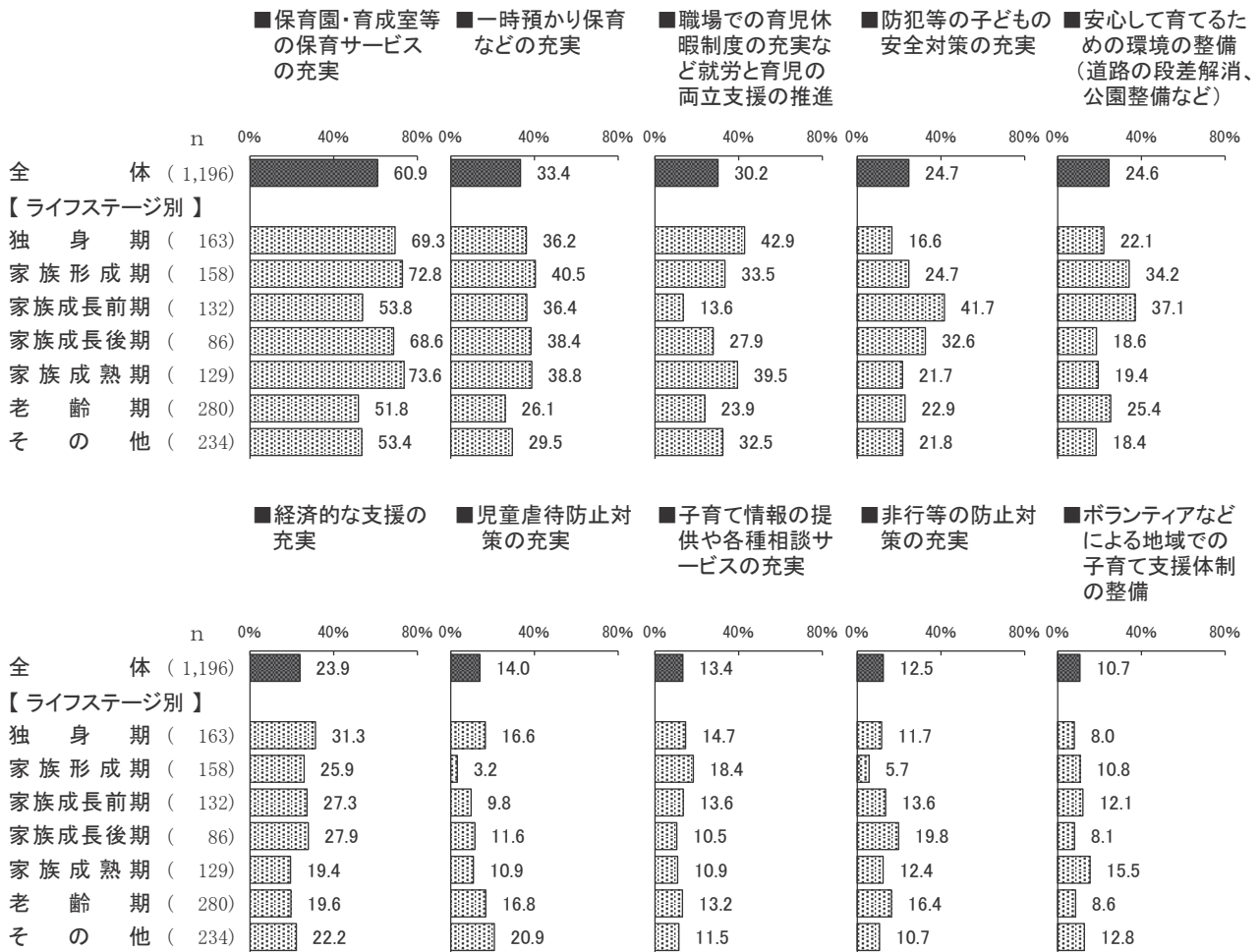


性別にみると、男性のほうが「経済的な支援の充実」で12.3ポイント、「保育園・育成室等の保育サービスの充実」で4.8ポイント高くなっている。一方、女性のほうが「職場での育児休暇制度の充実など就労と育児の両立支援の推進」で6.3ポイント、「一時預かり保育などの充実」で5.9ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「保育園・育成室等の保育サービスの充実」は男女ともに20代、30代でほぼ7割、「職場での育児休暇制度の充実など就労と育児の両立支援の推進」は男女ともに20代で4割を超えて多くなっている。「経済的な支援の充実」は男女ともにおおむね年代が低いほど多く、男性20代で4割半ば、男性30代、40代でともに3割半ばとなっている。(図6-1-2)



図6-1-3 子育て支援のために取り組むべき施策【上位10項目】－ライフステージ別

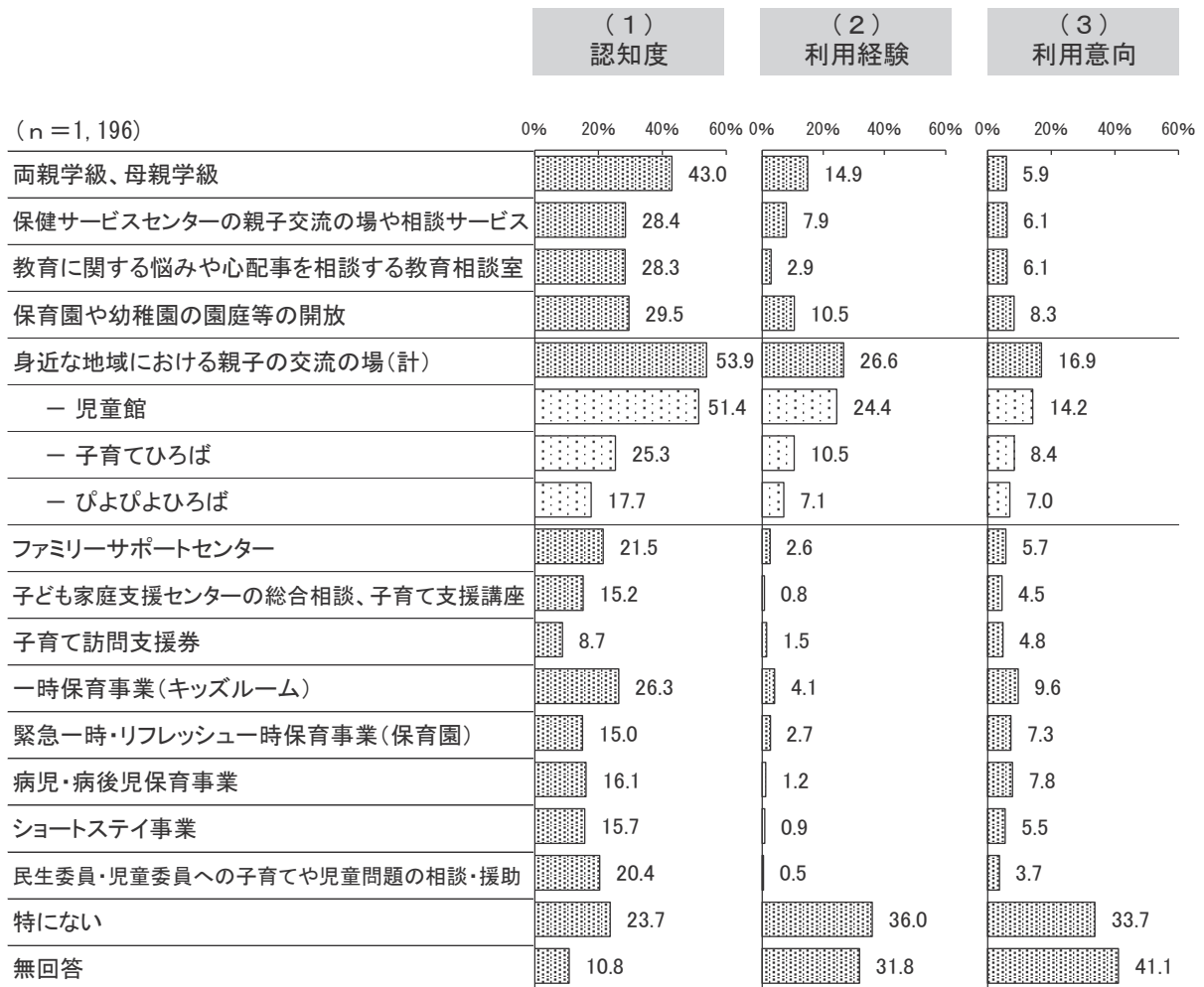


ライフステージ別にみると、「保育園・育成室等の保育サービスの充実」は家族形成期、家族成熟期でともに7割を超え、「職場での育児休暇制度の充実など就労と育児の両立支援の推進」は独身期で4割を超え、「防犯等の子どもの安全対策の充実」は家族成長前期で4割を超え、「安心して育てるための環境の整備（道路の段差解消、公園整備など）」は家族形成期、家族成長前期でともに3割を超え多くなっている。（図6-1-3）

6-2 子育て支援サービスの認知度・利用経験・今後の利用意向

問24 子育て支援サービスについてお伺いします。  
 次の(1)～(3)について、それぞれいくつでもお選びください。  
 (1)ご存知のサービスをすべてお選びください。(〇はいくつでも)  
 (2)利用したことがあるサービスをすべてお選びください。(〇はいくつでも)  
 (3)今後(今後も)利用したいサービスをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

図6-2-1 子育て支援サービスの認知度・利用経験・今後の利用意向



子育て支援サービスの認知度についてたずねたところ、「児童館」（51.4%）がほぼ5割と最も多く、次いで「両親学級、母親学級」（43.0%）、「保育園や幼稚園の園庭等の開放」（29.5%）、「保健サービスセンターの親子交流の場や相談サービス」（28.4%）、「教育に関する悩みや心配事を相談する教育相談室」（28.3%）などの順となっている。

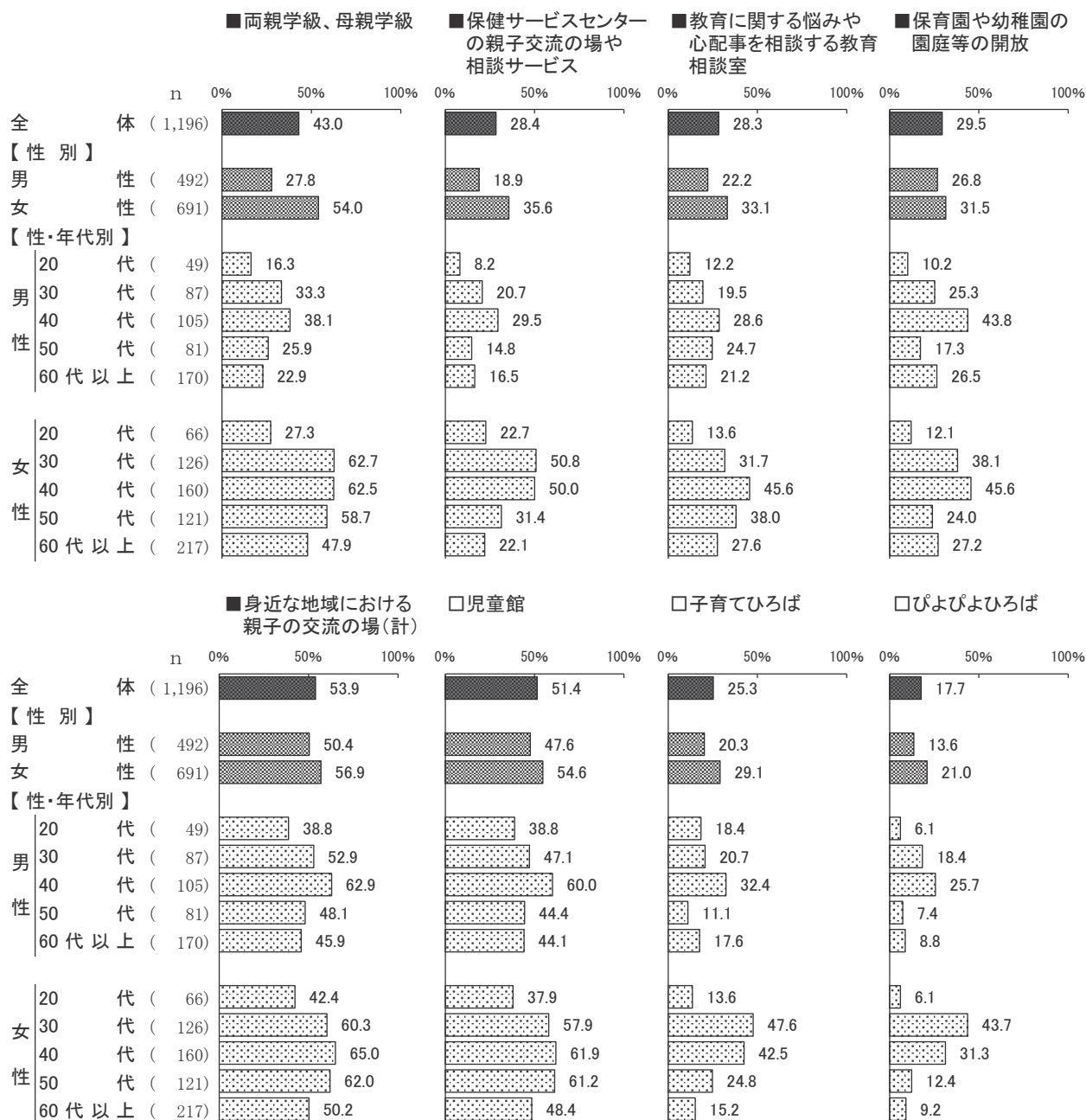
「児童館」、「子育てひろば」、「ぴよぴよひろば」のうちいずれかを知っているを合計した『身近な地域における親子の交流の場（計）』（53.9%）は5割を超えている。

利用経験については、「児童館」（24.4%）が2割半ばと最も多く、次いで「両親学級、母親学級」（14.9%）、「保育園や幼稚園の園庭等の開放」（10.5%）などの順となっている。

『身近な地域における親子の交流の場（計）』（26.6%）は2割半ばとなっている。

利用意向については、「児童館」（14.2%）が1割半ばと最も多く、次いで「一時保育事業（キッズルーム）」（9.6%）、「子育てひろば」（8.4%）、「保育園や幼稚園の園庭等の解放」（8.3%）、「病児・病後時保育事業」（7.8%）などの順となっている。「教育に関する悩みや心配事を相談する教育相談室」および「ファミリーサポートセンター」から「民生委員・児童委員への子育てや児童問題の相談・援助」は利用利用経験より利用意向の割合の方が多くなっている。（図6-2-1）

図6-2-2 子育て支援サービス（1）認知度—性別／性・年代別



認知度について性別にみると、すべての項目で女性のほうが高く、「両親学級、母親学級」で26.2ポイント、「保健サービスセンターの親子交流の場や相談サービス」で16.7%、「ファミリーサポートセンター」で13.8ポイント、「教育に関する悩みや心配事を相談する教育相談室」で10.9ポイント、「一時保育事業（キッズルーム）」で10.7ポイントなど、10ポイント以上の差となっている。

性・年代別にみると、ほとんどすべての項目で女性30代または40代で多くなっており、「両親学級、母親学級」が6割を超え、「保健サービスセンターの親子交流の場や相談サービス」が5割、「児童館」がほぼ6割、「一時保育事業（キッズルーム）」が4割半ば、「病児・病後児保育事業」が3割半ばなどとなっている。女性30代で40代より高いのは「子育てひろば」、「ぴよぴよひろば」、「緊急一時・リフレッシュ一時保育事業（保育園）」、「ショートステイ事業」などとなっている。女性40代で30代より高いのは「教育に関する悩みや心配事を相談する教育相談室」、「保育園や幼稚園の園庭等の開放」、「ファミリーサポートセンター」、「民生委員・児童委員への子育てや児童問題の相談・援助」などとなっている。

一方、男性については、ほとんどの項目で40代で最も多く、「児童館」が6割、「保育園や幼稚園の園庭等の開放」が4割を超え、「両親学級、母親学級」が4割近くとなっている。

(図6-2-2)

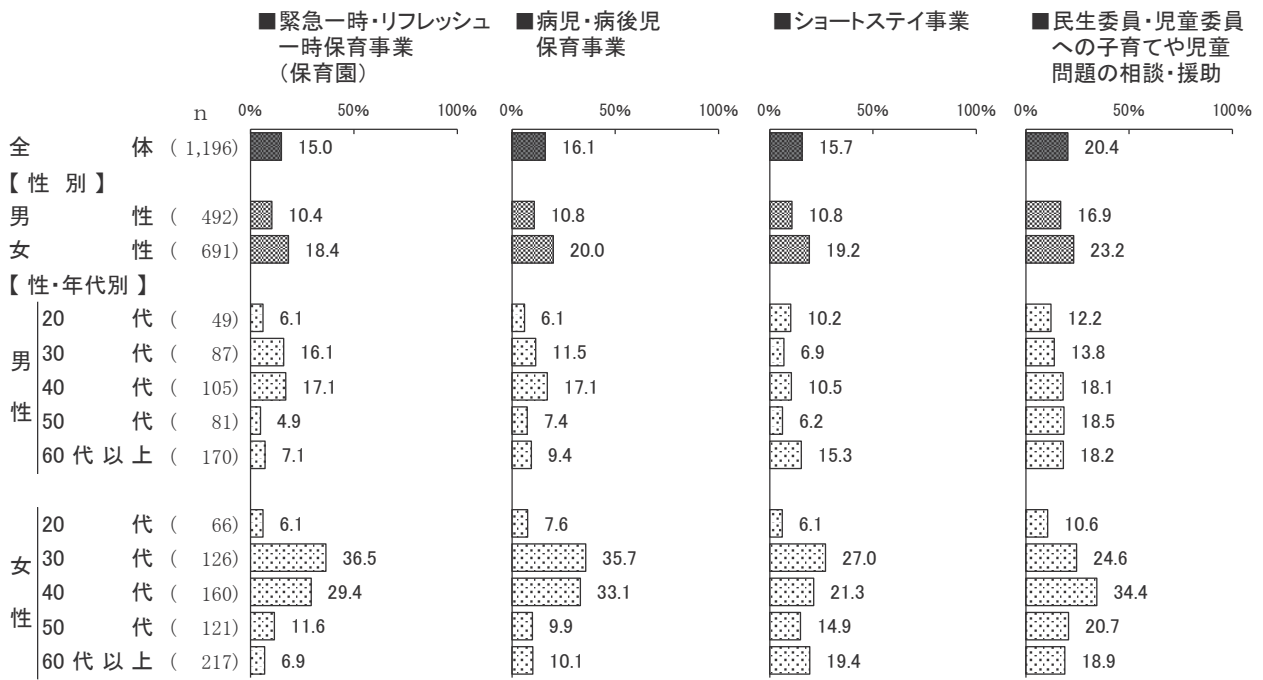
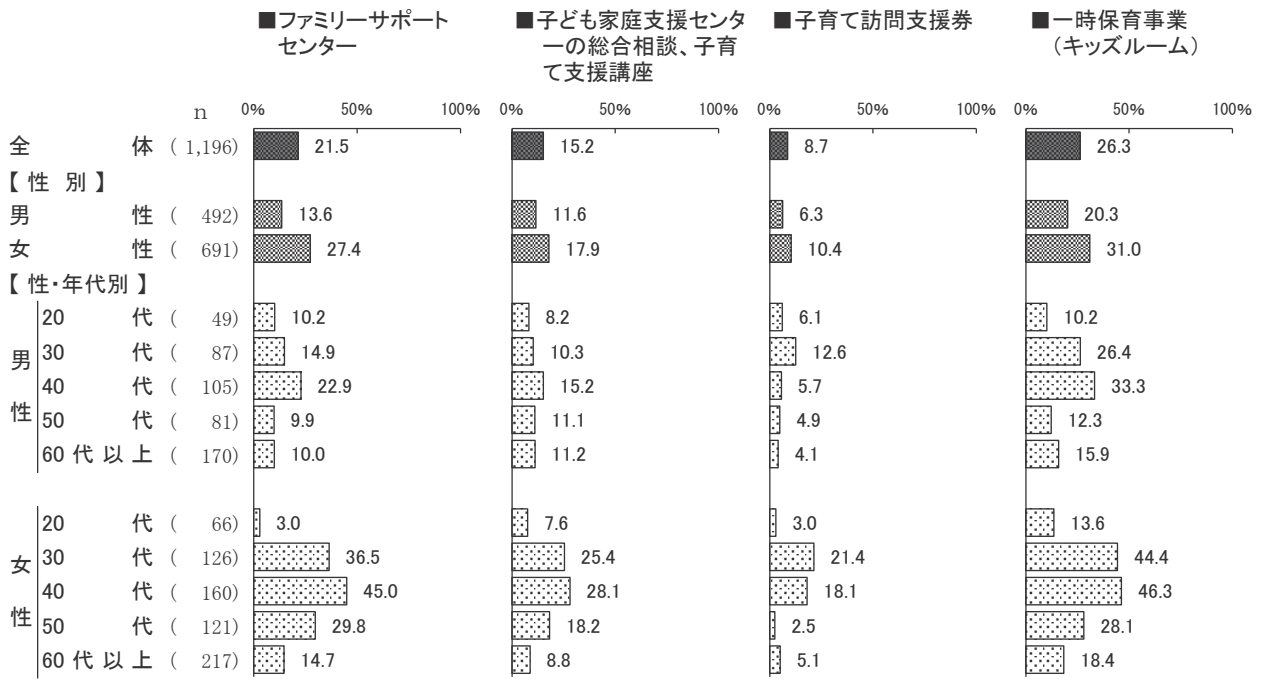
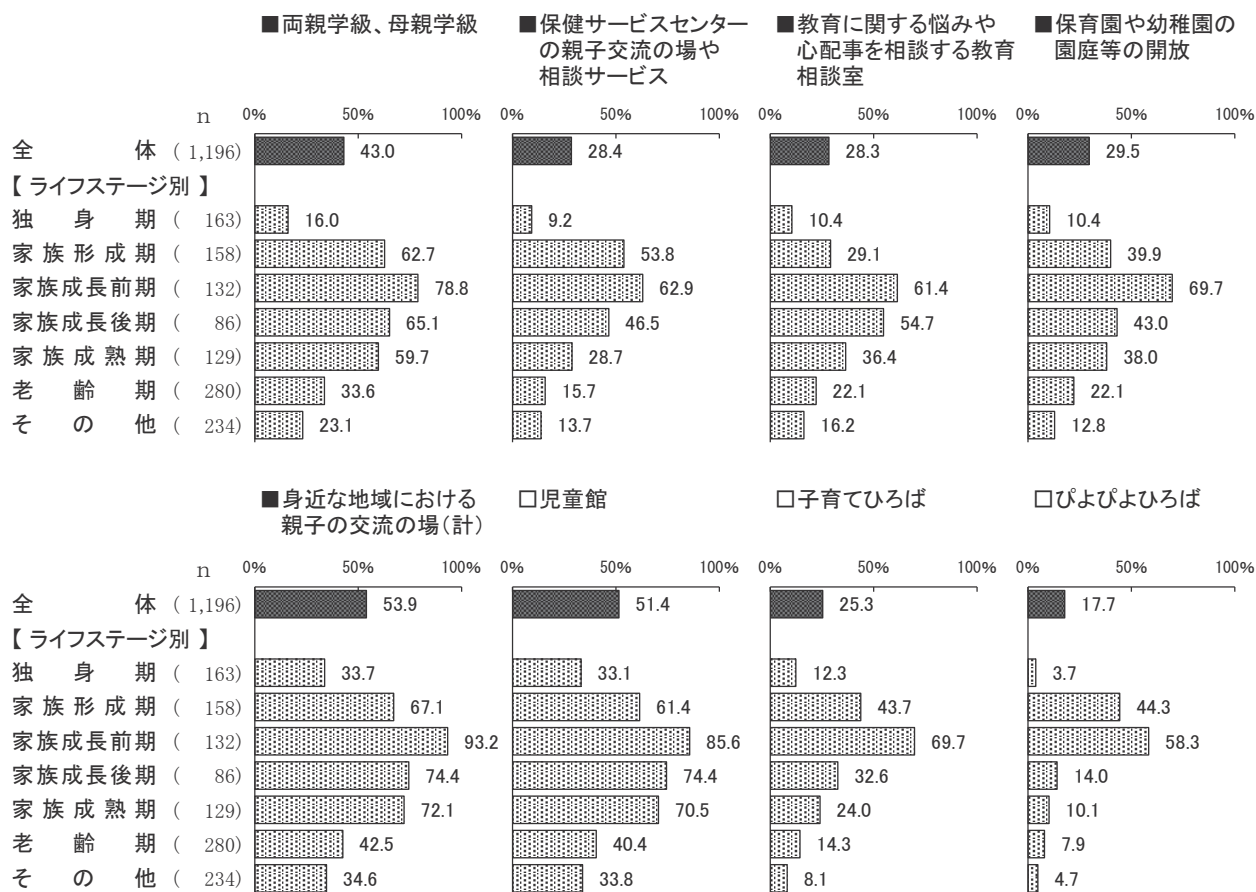


図6-2-3 子育て支援サービス（1）認知度－ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「子育て訪問支援券」を除く項目で家族成長前期で最も多くなっており、「児童館」が8割半ば、「両親学級、母親学級」が8割近く、「保育園や幼稚園の園庭等の開放」、「子育てひろば」がともにほぼ7割となっている。家族形成期では「両親学級、母親学級」、「児童館」がともに6割を超え、「保健サービスセンターの親子交流の場や相談サービス」が5割を超え、「一時保育事業（キッズルーム）」が5割近く、「子育てひろば」、「ぴよぴよひろば」は4割半ばとなっている。また、独身期では「児童館」が3割を超え、「両親学級、母親学級」が1割半ば、「子育てひろば」、「教育に関する悩みや心配事を相談する教育相談室」、「保育園や幼稚園の園庭等の開放」などが1割台となっている。（図6-2-3）

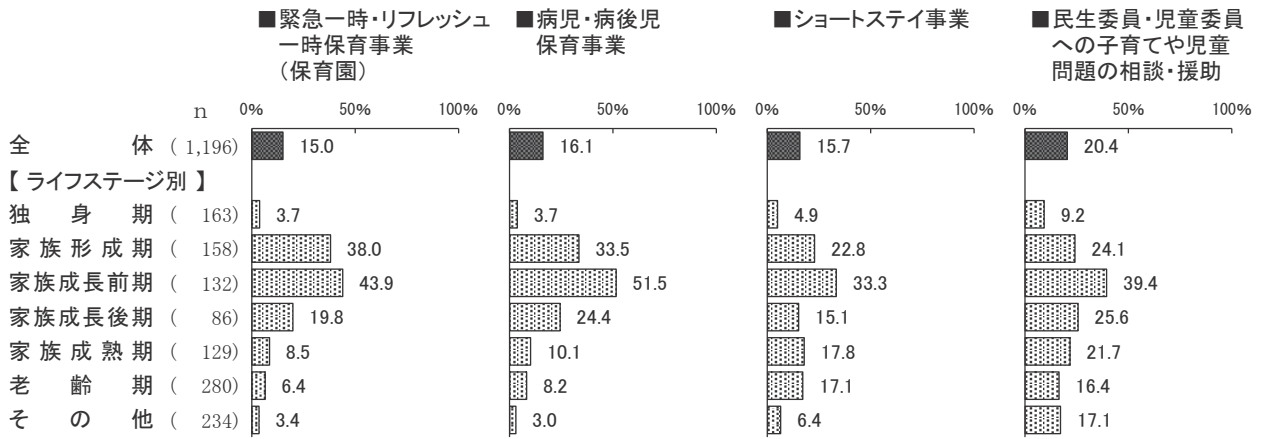
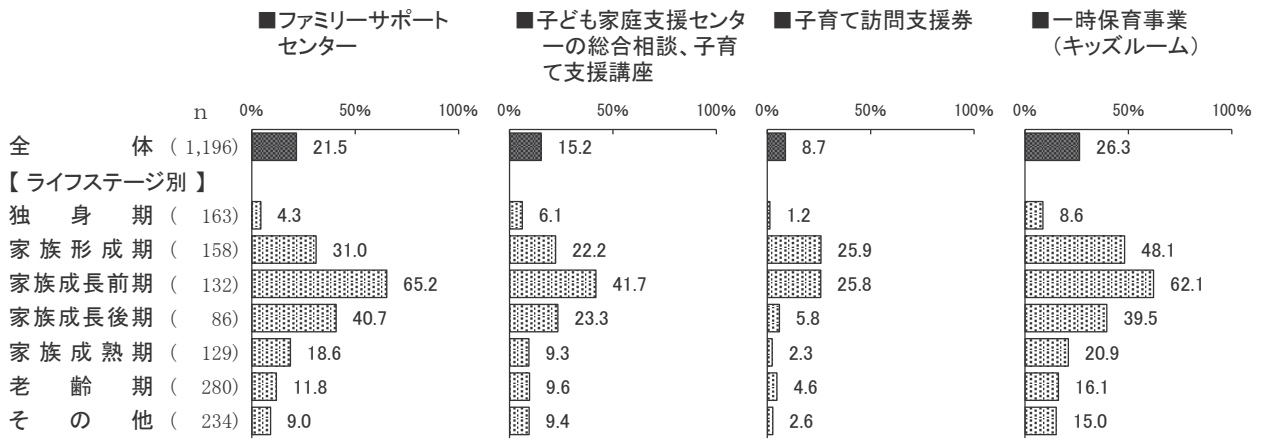
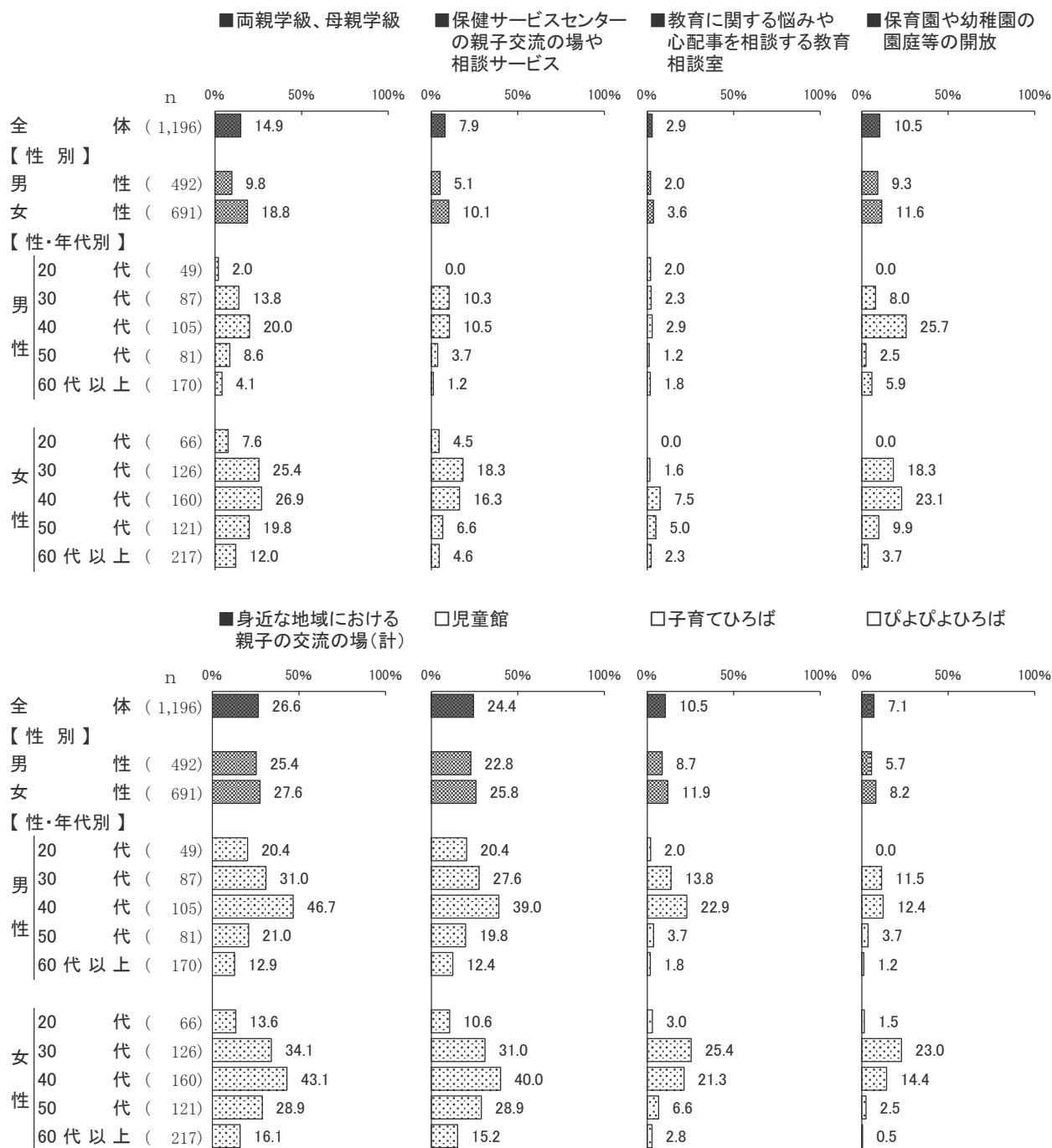


図6-2-4 子育て支援サービス（2）利用経験—性別／性・年代別



利用経験について性別にみると、ほとんどの項目で女性のほうが多く、「両親学級、母親学級」で9.0ポイント、「保健サービスセンターの親子交流の場や相談サービス」で5.0ポイント高くなっているが、認知度に比べ、男女間の差が小さくなっている。

性・年代別にみると、ほとんどの項目で女性30代または40代が多く、「両親学級、母親学級」が2割半ば、「保健サービスセンターの親子交流の場や相談サービス」が2割近く、「保育園や幼稚園の園庭等の開放」が2割前後、「児童館」が3～4割、「子育てひろば」が2割を超えている。また、加えて男性40代も女性30代や40代と同程度またはそれ以上の割合となっており、「両親学級、母親学級」が2割、「保育園や幼稚園の園庭等の開放」が2割半ば、「児童館」が4割近く、「子育てひろば」が2割を超えている。（図6-2-4）



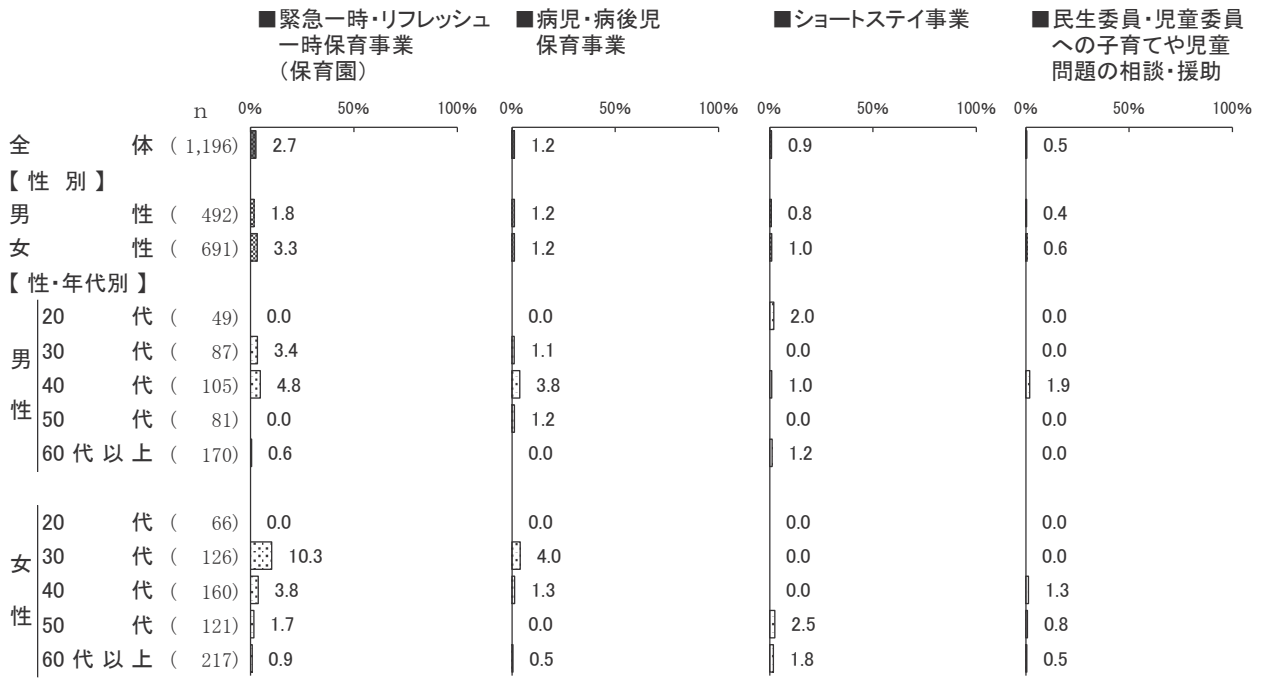
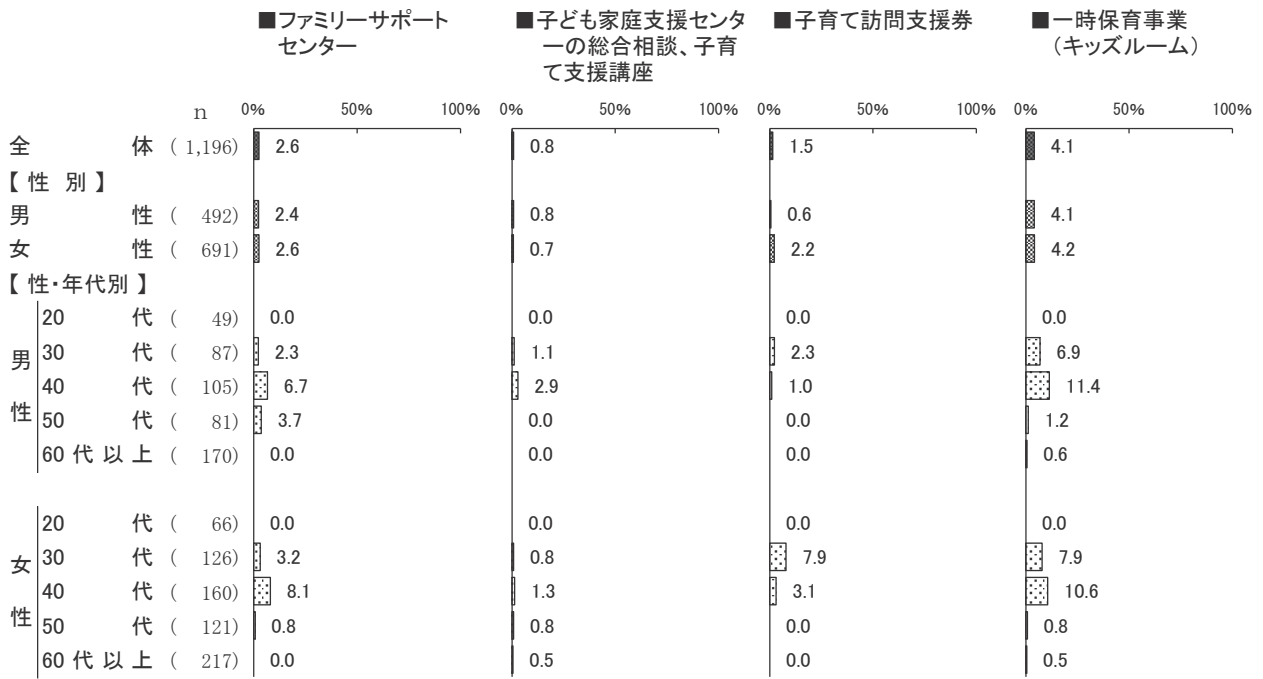
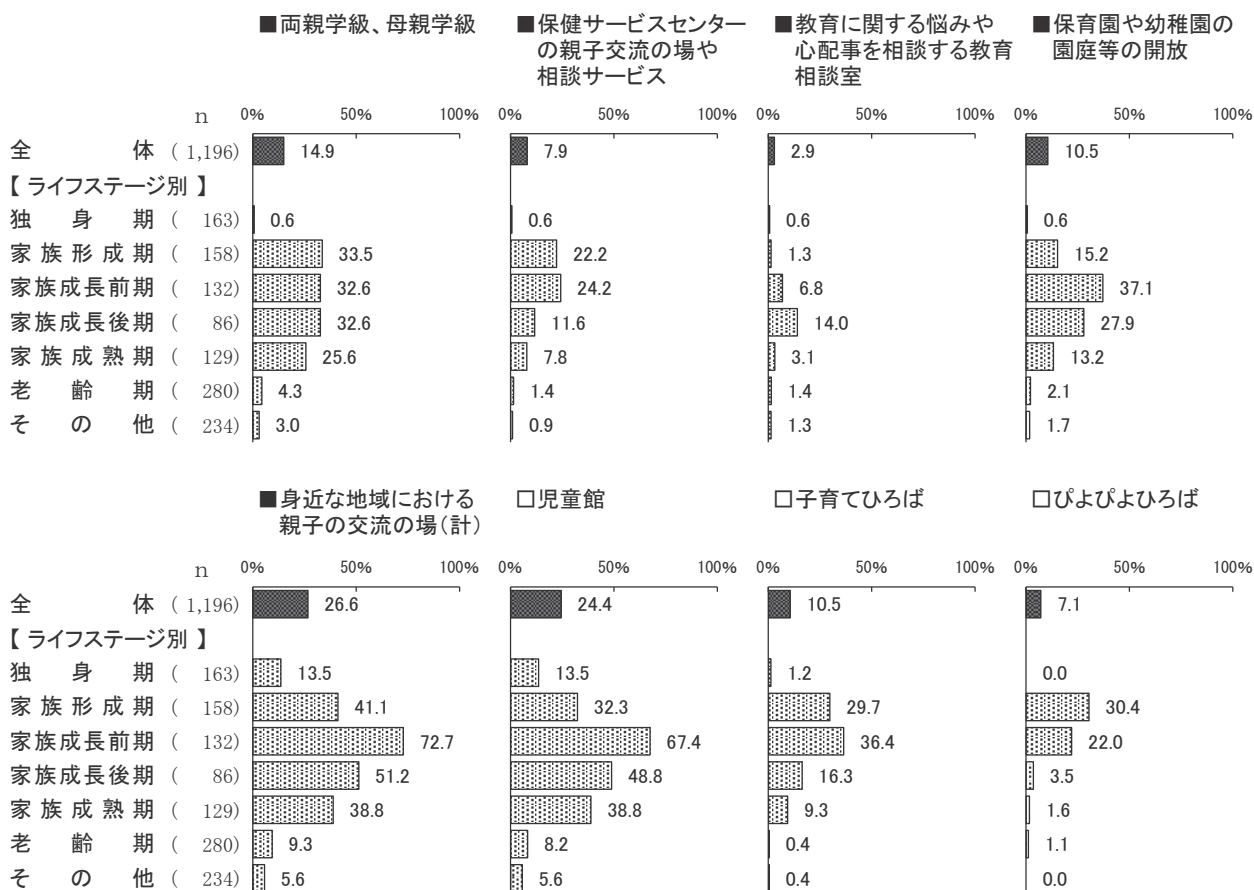


図6-2-5 子育て支援サービス（2）利用経験—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、「両親学級、母親学級」は家族形成期、家族成長前期、家族成長後期でそれぞれ3割を超えている。「保健サービスセンターの親子交流の場や相談サービス」は家族形成期、家族成長前期でともに2割を超えている。その他、家族成長前期で他のステージより多いのは「保育園や幼稚園の園庭等の開放」がともに4割近く、「児童館」が7割近く、「子育てひろば」が3割半ば、「ファミリーサポートセンター」、「一時保育事業（キッズルーム）」がそれぞれ1割を超えている。また、家族成長後期で他のステージより多いのは「教育に関する悩みや心配事を相談する教育相談室」が1割半ばとなっている。（図6-2-5）

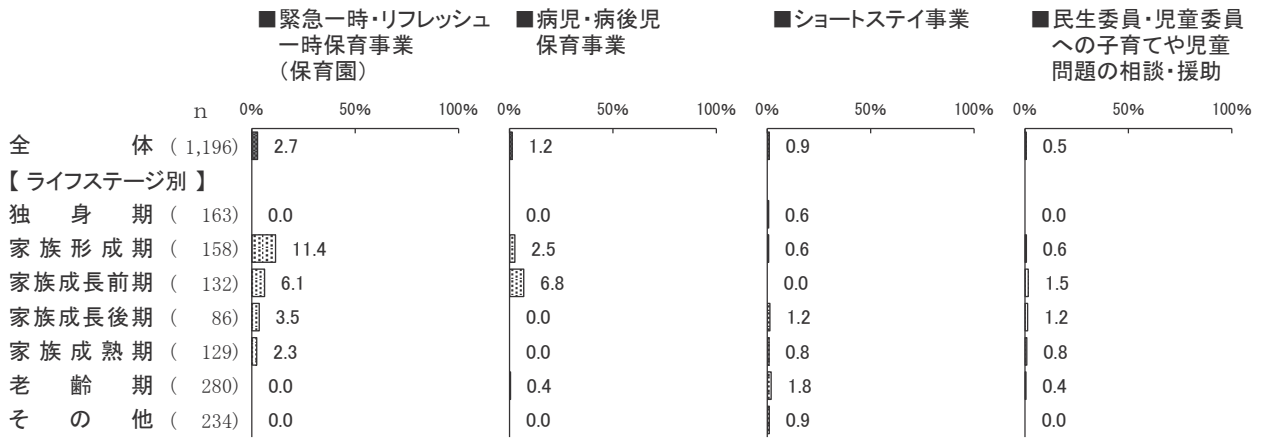
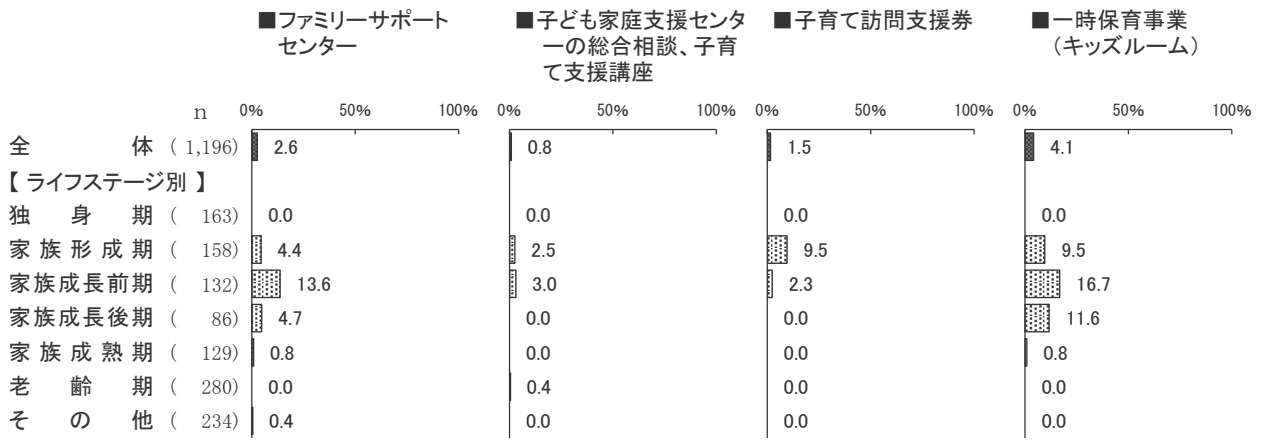
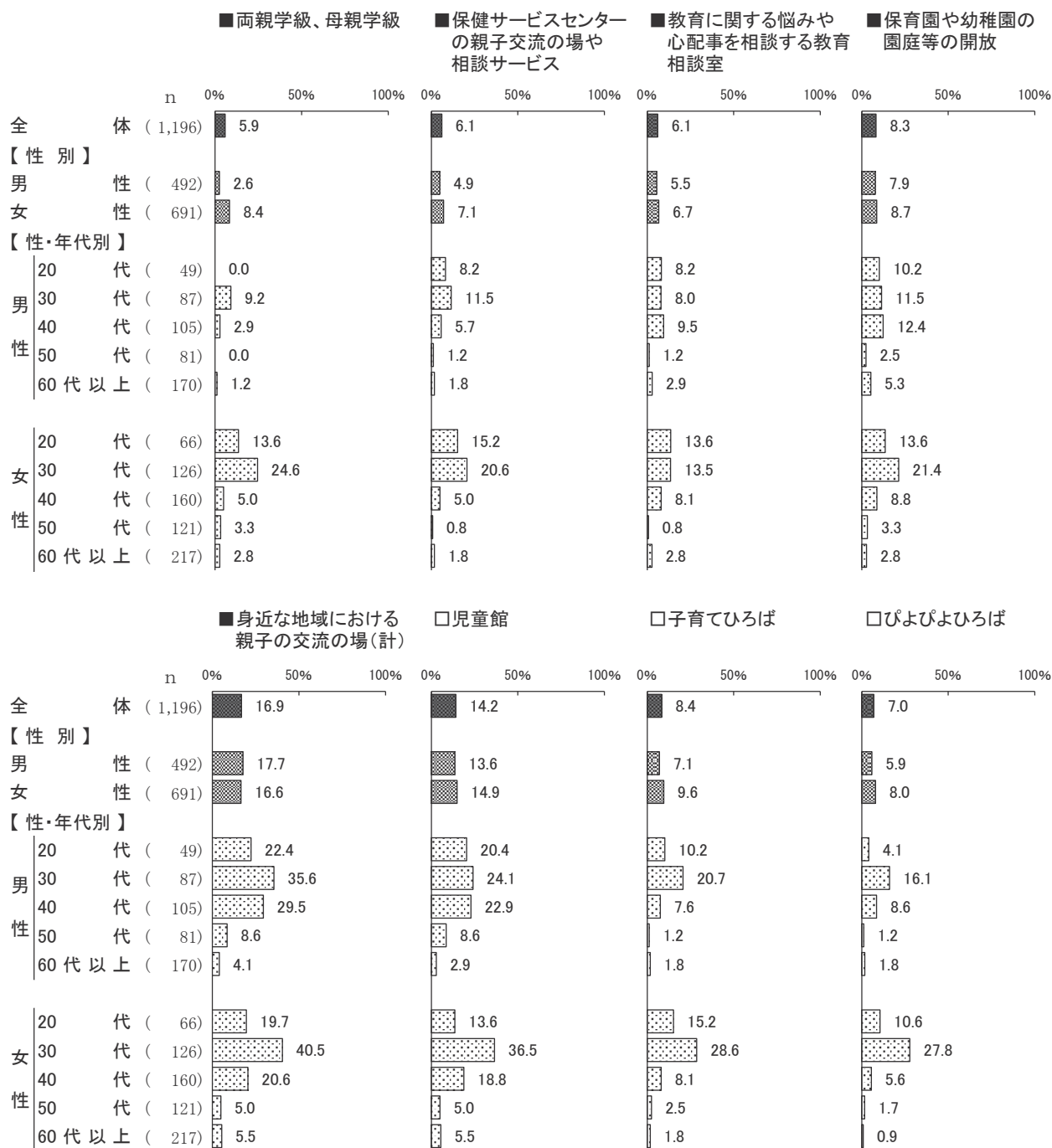


図6-2-6 子育て支援サービス(3)利用意向-性別/性・年代別



利用意向について性別にみると、ほとんどの項目で女性のほうが高いが「両親学級、母親学級」の5.8ポイント差を除いて、その差は小さくなっている。

性・年代別にみると、ほとんどの項目で女性30代で最も多く、「両親学級、母親学級」が2割半ば、「児童館」が3割半ば、「子育てひろば」、「ぴよぴよひろば」、「一時保育事業(キッズルーム)」がそれぞれ3割近くなどとなっている。(図6-2-6)

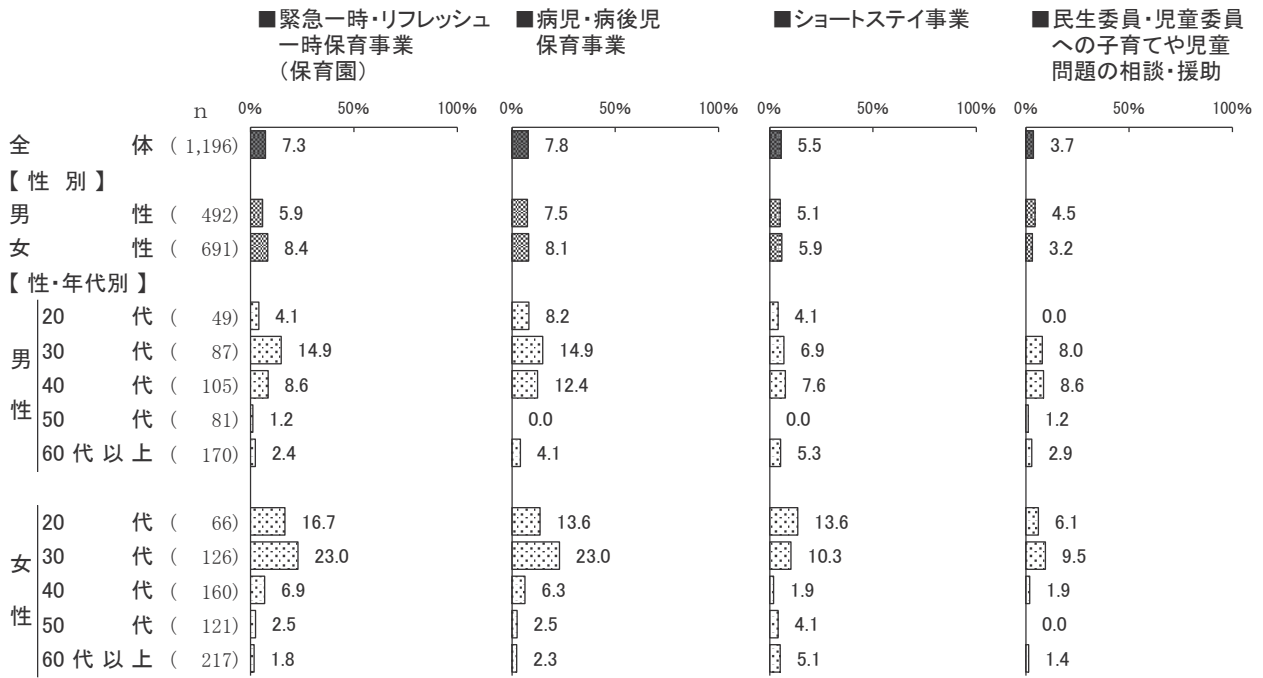
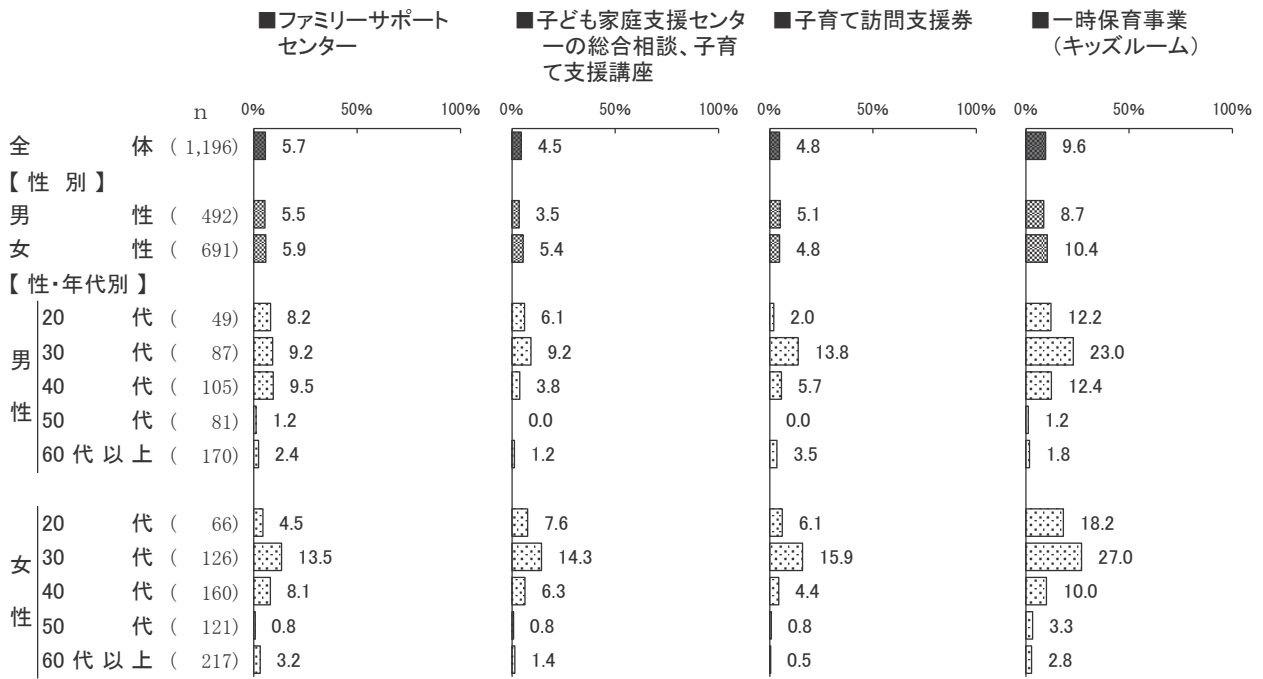
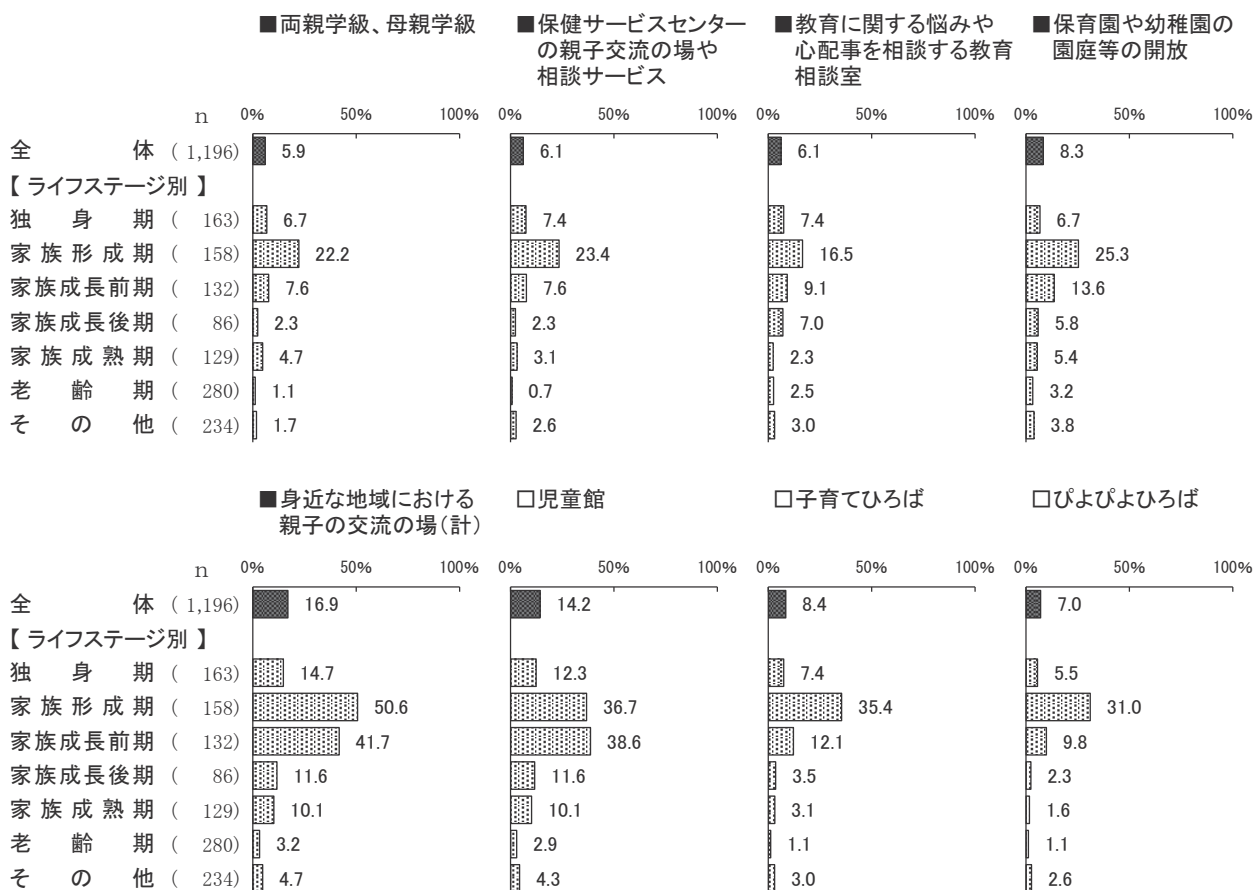
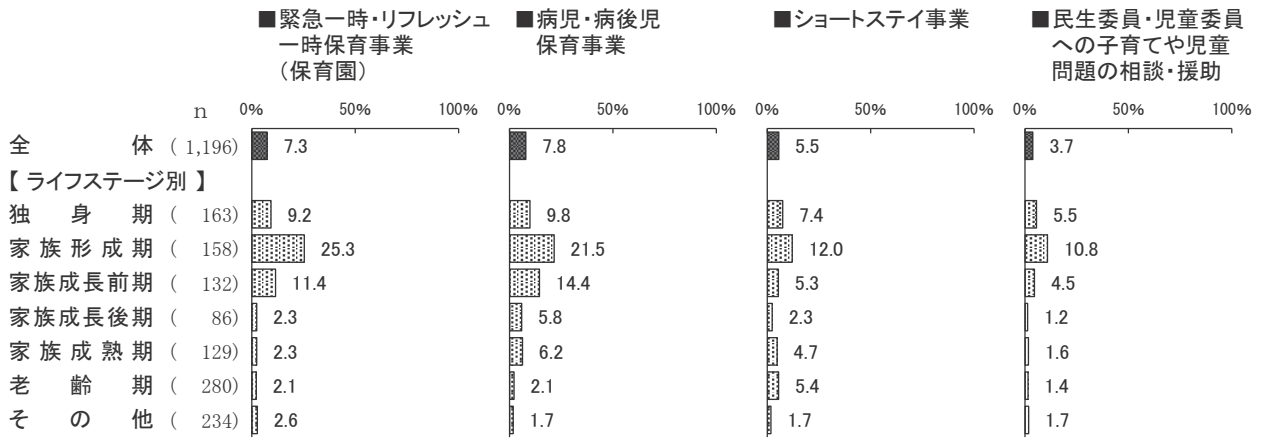
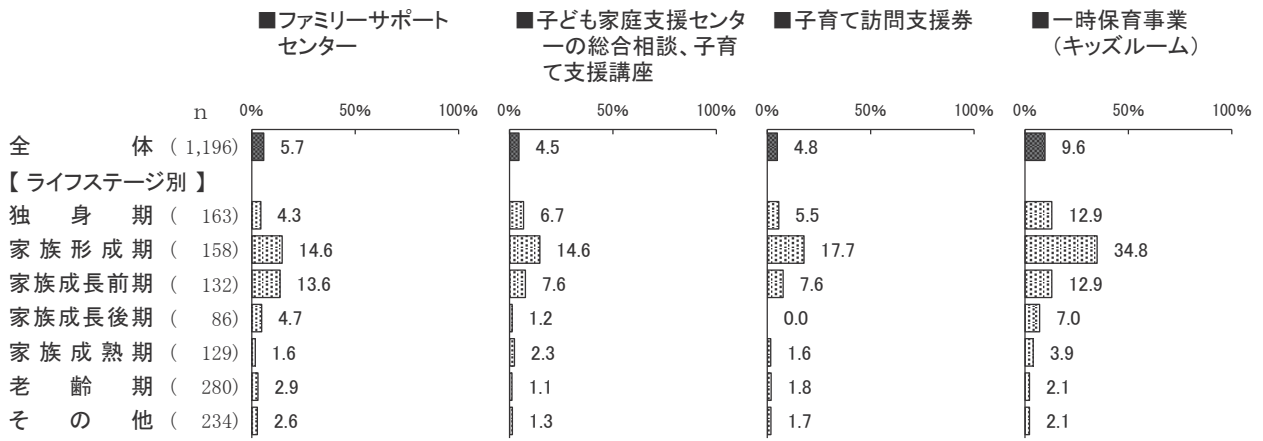


図6-2-7 子育て支援サービス(3)利用意向-ライフステージ別



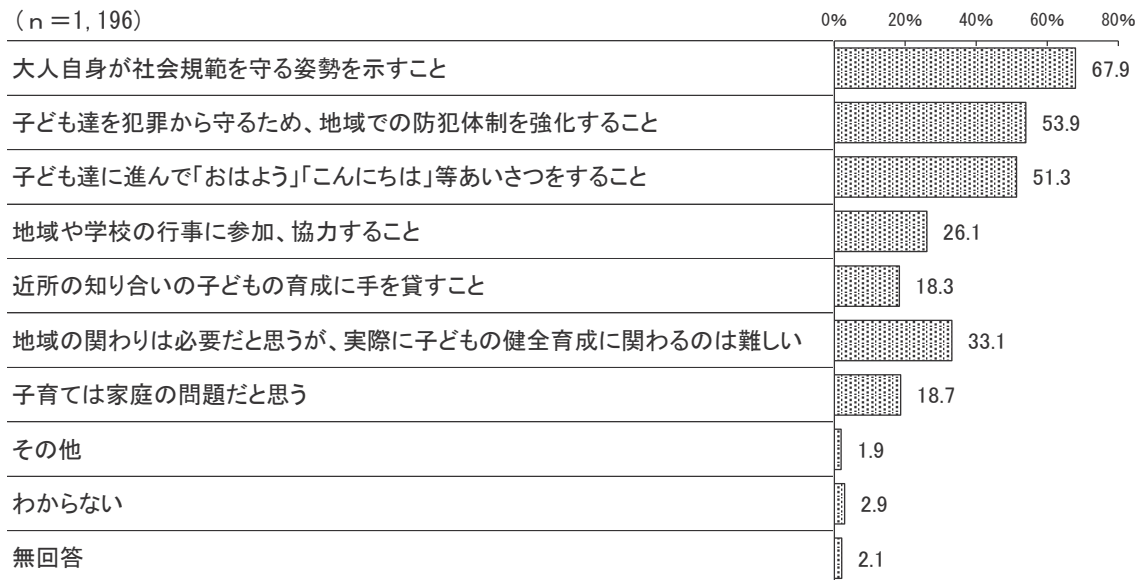
ライフステージ別にみると、「児童館」は家族成長前期で4割近くと最も多いが、「児童館」を除く項目は家族形成期で最も多くなっており、「子育てひろば」、「ぴよぴよひろば」、「一時保育事業(キッズルーム)」がそれぞれ3割を超え、「両親学級、母親学級」、「保健サービスセンターの親子交流の場や相談サービス」、「保育園や幼稚園の園庭等の開放」、「緊急一時・リフレッシュ一時保育事業(保育園)」、「病児・病後児保育事業」がそれぞれ2割台となっている。(図6-2-7)



### 6-3 青少年健全育成に関して地域の大人たちが行うべきこと

問25 青少年健全育成に関して地域の大人たちができること、また、やるべきことは何だと思えますか。次の中からいくつでもお選びください。(〇はいくつでも)

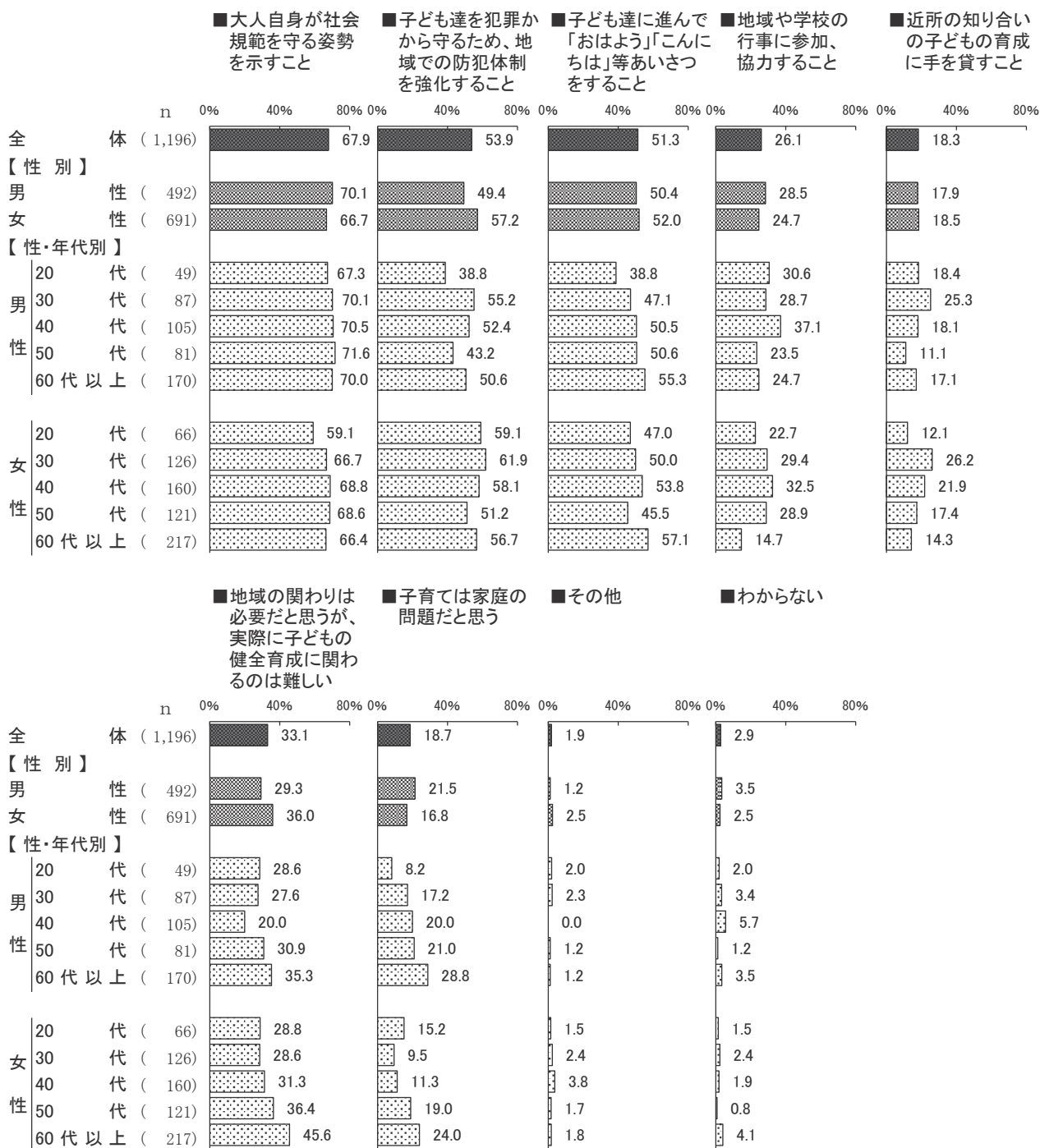
図6-3-1 青少年健全育成に関して地域の大人たちが行うべきこと



青少年健全育成に関して地域の大人たちが行うべきことについてたずねたところ、「大人自身が社会規範を守る姿勢を示すこと」(67.9%)が7割近くと最も多く、次いで「子ども達を犯罪から守るため、地域での防犯体制を強化すること」(53.9%)、「子ども達に進んで『おはよう』『こんにちは』等あいさつをすること」(51.3%)、「地域や学校の行事に参加、協力すること」(26.1%)などの順となっている。一方、「地域の関わりは必要だと思うが、実際に子どもの健全育成に関わるのは難しい」(33.1%)が3割を超え、「子育ては家庭の問題だと思う」(18.7%)が2割近くとなっている。(図6-3-1)



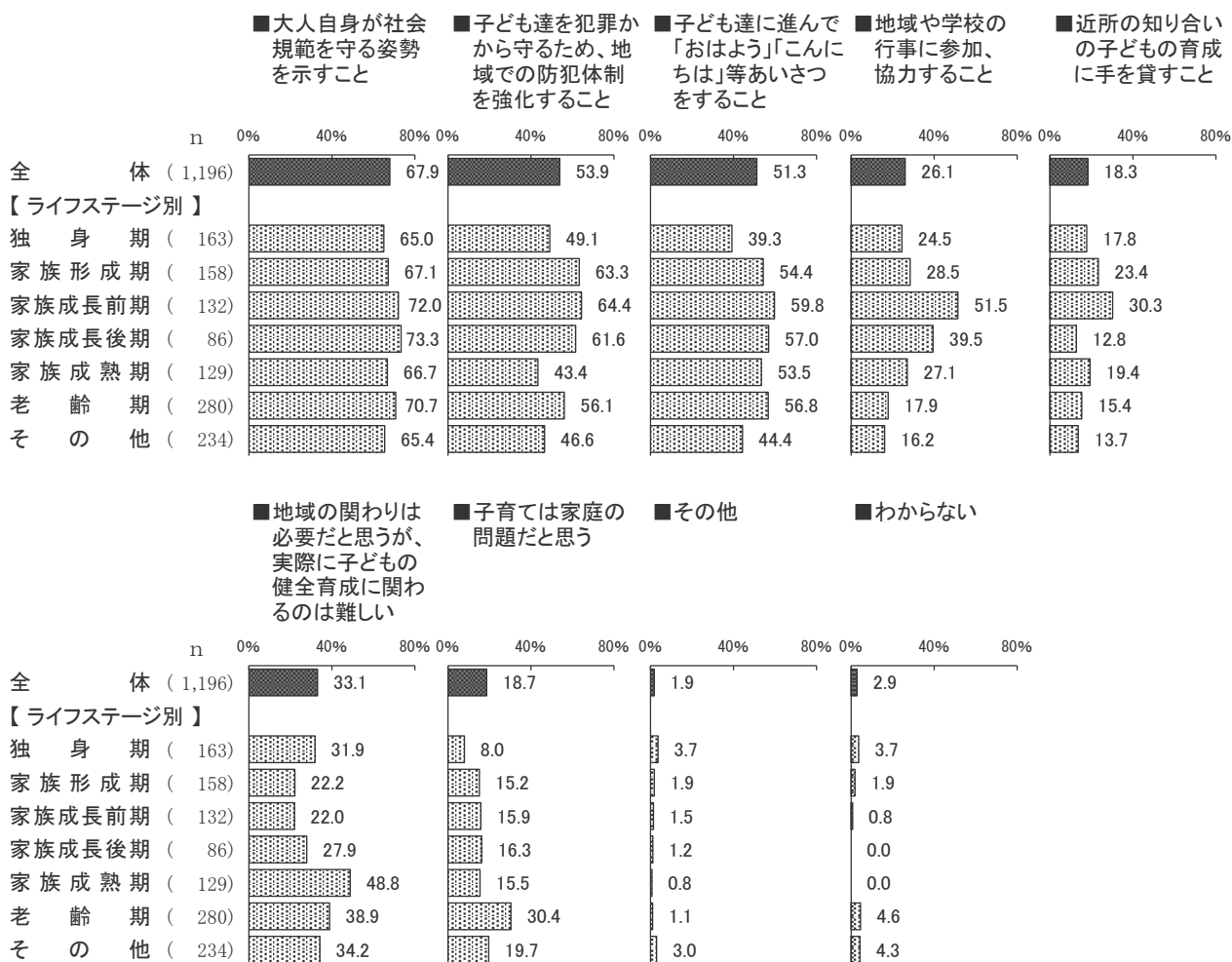
図6-3-2 青少年健全育成に関して地域の大人たちが行うべきこと—性別／性・年代別



性別にみると、女性のほうが「子ども達を犯罪から守るため、地域での防犯体制を強化すること」で7.8ポイント多く、男性のほうが「地域や学校の行事に参加、協力すること」で3.8ポイント、「大人自身が社会規範を守る姿勢を示すこと」で3.4ポイント高くなっている。一方、「地域の関わりは必要だと思うが、実際に子どもの健全育成に関わるのは難しい」は女性のほうが6.7ポイント、「子育ては家庭の問題だと思う」は男性のほうが4.7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「子ども達を犯罪から守るため、地域での防犯体制を強化すること」は女性30代、40代でともに6割近くと多くなっている。「子ども達に進んで『おはよう』『こんにちは』等あいさつをすること」は男女ともにおおむね年代が高いほど多く、女性60代で6割近く、男性60代で5割半ばとなっている。「地域や学校の行事に参加、協力すること」は男女ともに40代で3割台と多くなっている。「近所の知り合いの子ども達の育成に手を貸すこと」は男女ともに2割半ばと多くなっている。一方、「地域の関わりは必要だと思うが、実際に子どもの健全育成に関わるのは難しい」、「子育ては家庭の問題だと思う」は男女ともにおおむね年代が高いほど多い傾向となっている。(図6-3-2)

図6-3-3 青少年健全育成に関して地域の大人たちが行うべきこと—ライフステージ別

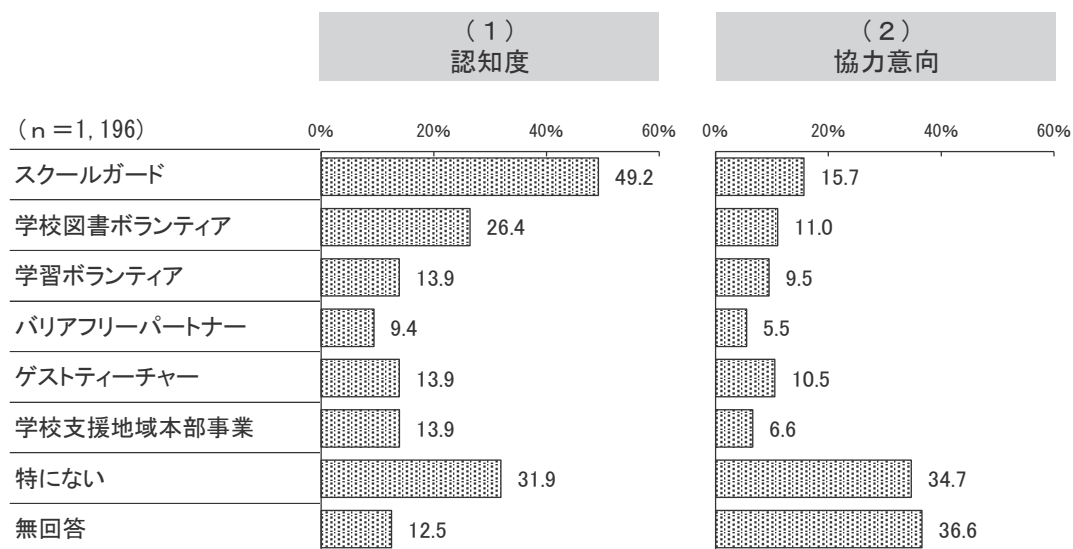


ライフステージ別にみると、「子ども達を犯罪から守るため、地域での防犯体制を強化すること」は家族形成期、家族成長前期、家族成長後期でそれぞれ6割を超え、「地域や学校の行事に参加、協力すること」は家族成長前期でほぼ5割、「近所の知り合いの子ども達の育成に手を貸すこと」は家族成長前期で3割と多くなっている。一方、「地域の関わりは必要だと思うが、実際に子どもの健全育成に関わるのは難しい」は家族成熟期で5割近く、「子育ては家庭の問題だと思う」は老齢期で3割と多くなっている。(図6-3-3)

## 6-4 学校支援活動の認知度・今後の協力意向

- 問26 区立の小中学校では、次のような学校支援活動が実施されています。  
 次の(1)(2)について、それぞれいくつでもお選びください。  
 (1)ご存知の活動をすべてお選びください。(〇はいくつでも)  
 (2)今後(今後も)協力したい活動をすべてお選びください。(〇はいくつでも)

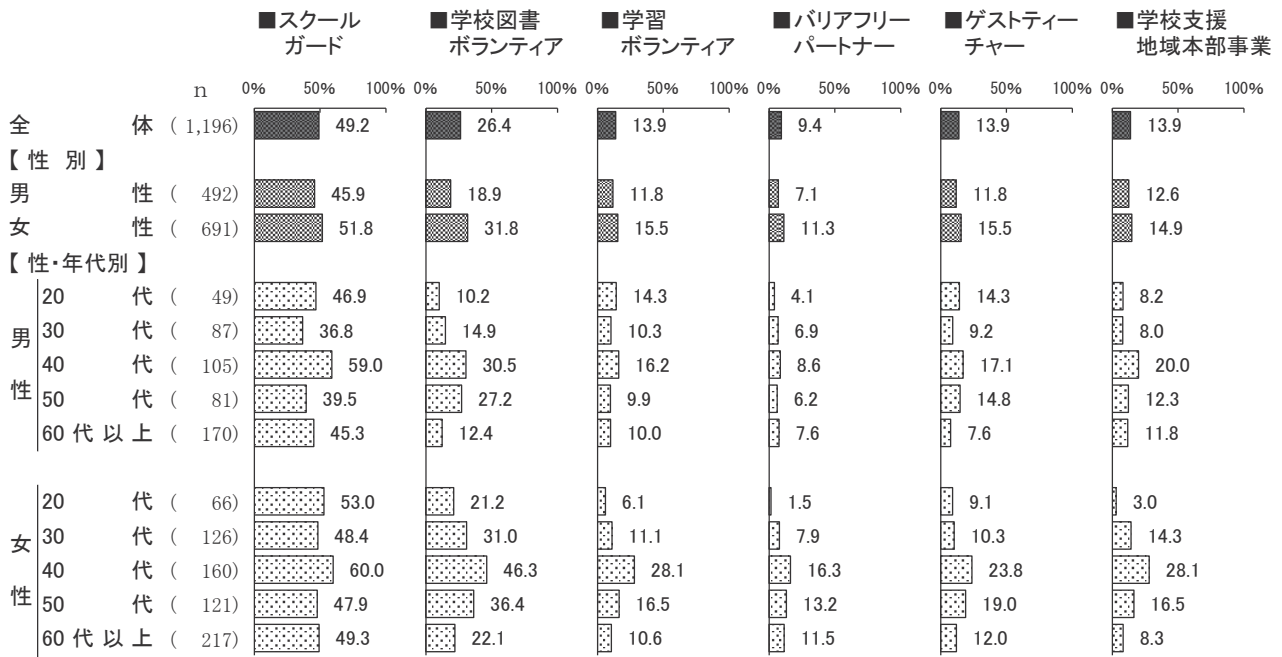
図6-4-1 学校支援活動の認知度・今後の協力意向



学校支援活動の認知度についてたずねたところ、「スクールガード」(49.2%)がほぼ5割と最も多く、次いで「学校図書ボランティア」(26.4%)、「学習ボランティア」(13.9%)などの順となっている。

協力意向についてたずねたところ、「スクールガード」(15.7%)が1割半ば、「学校図書ボランティア」(11.0%)、「ゲストティーチャー」(10.5%)がほぼ1割となっている。一方、「特にない」が3割半ばとなっている。(図6-4-1)

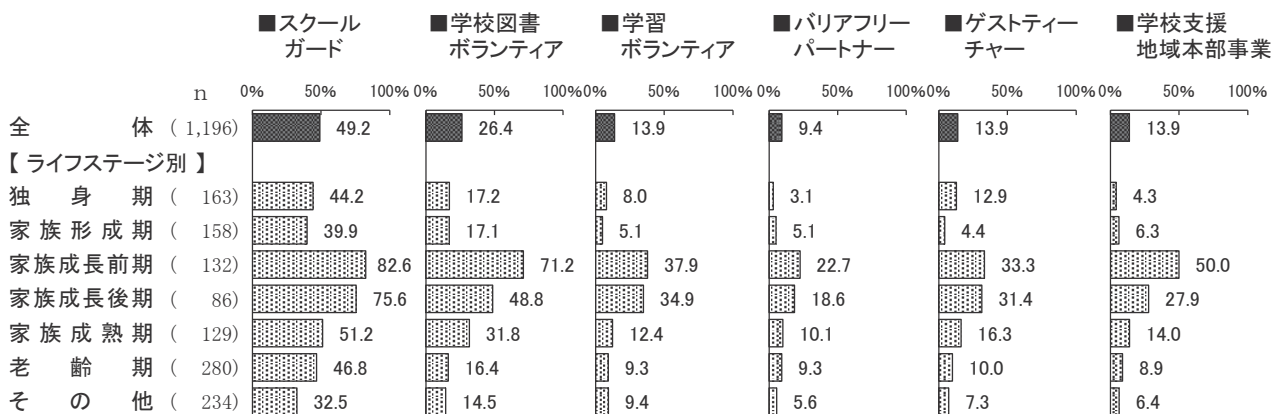
図6-4-2 学校支援活動(1)認知度-性別/性・年代別



認知度について性別にみると、すべての項目で女性のほうが高く、「学校図書ボランティア」で13.0ポイント、「スクールガード」で5.9ポイント高くなっている。

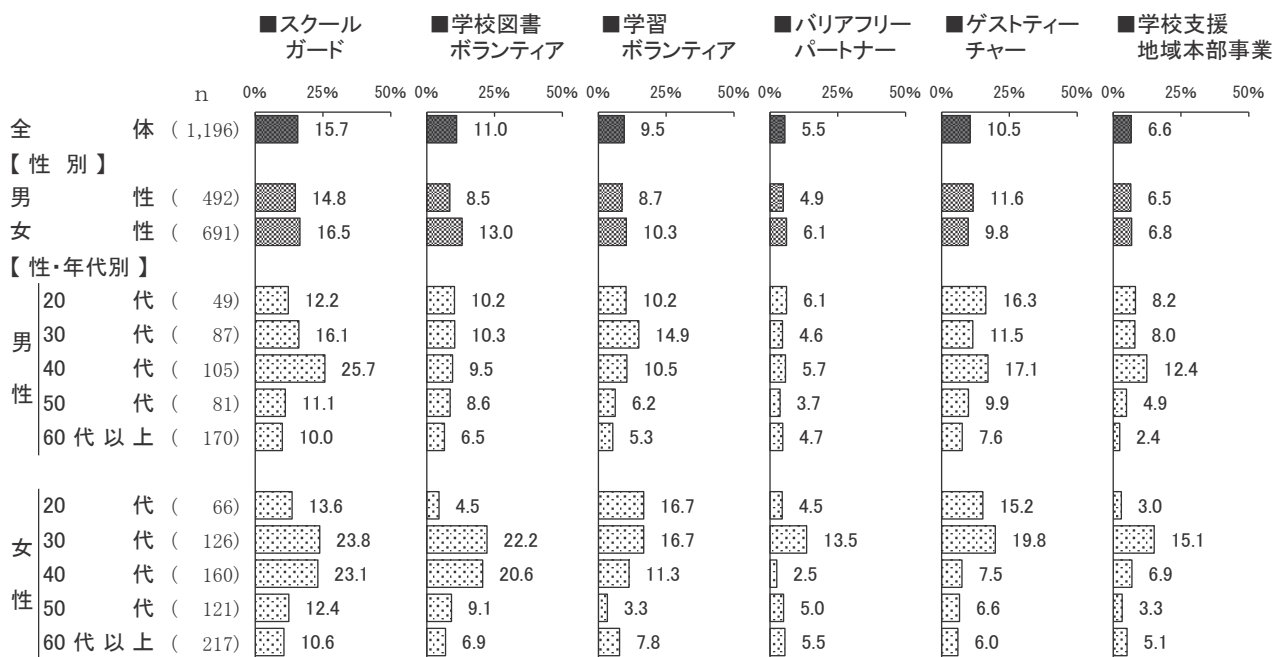
性・年代別にみると、全般的に男女ともに40代で多い傾向で、「スクールガード」は男女ともに6割、「学校図書ボランティア」は女性40代で4割半ば、男性40代で3割となっている。「ゲストティーチャー」は女性40代で2割を超え、「学校支援地域本部事業」は女性40代で3割近く、男性40代で2割となっている。(図6-4-2)

図6-4-3 学校支援活動(1)認知度-ライフステージ別



ライフステージ別にみると、すべての項目で家族成長前期で最も多く、次いで家族成長後期で多くなっている。家族成長前期では「スクールガード」が8割を超え、「学校図書ボランティア」がほぼ7割、「学校支援地域本部事業」が5割となっている。(図6-4-3)

図6-4-4 学校支援活動(2) 協力意向—性別/性・年代別

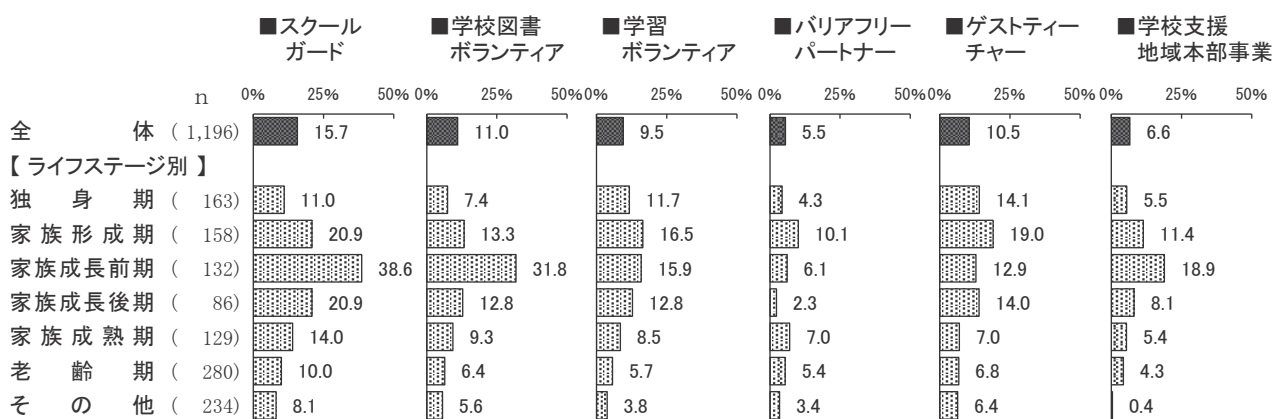


協力意向について性別にみると、「ゲストティーチャー」を除く項目で女性のほうが高く、「学校図書ボランティア」で4.5ポイント多くなっている。

性・年代別にみると、「スクールガード」は男性40代で2割半ば、女性30代、40代でともに2割を超え、「学校図書ボランティア」は女性30代、40代でともに2割を超えている。

(図6-4-4)

図6-4-5 学校支援活動(2) 協力意向—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、家族成長前期で「スクールガード」が4割近く、「学校図書ボランティア」がほぼ3割、「学校支援地域事業本部」が2割と多く、家族形成期で「ゲストティーチャー」が2割近く、「学習ボランティア」が1割半ば、「バリアフリーパートナー」が1割となっている。(図6-4-5)



## 7 高齢者

- 
- 7-1 高齢者あんしん相談センターの認知度
  - 7-2 高齢者あんしん相談センターの認知事業内容
-



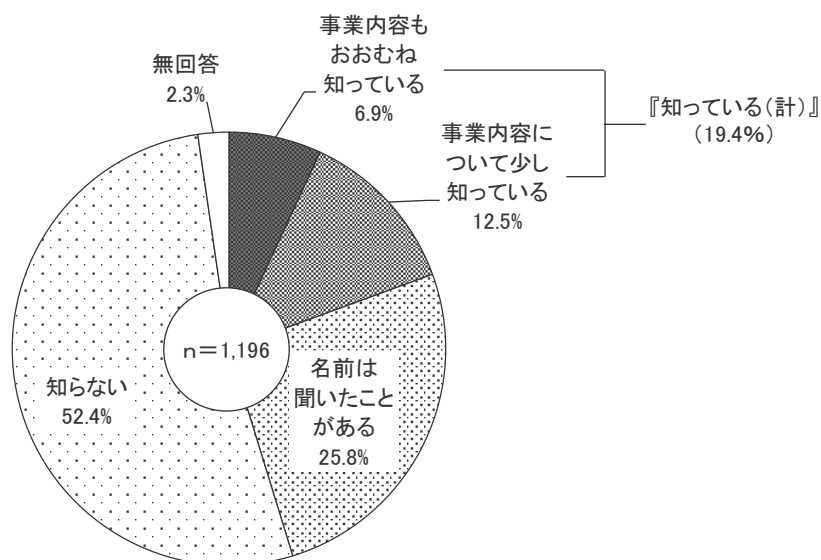


## 7 高齢者

### 7-1 高齢者あんしん相談センターの認知度

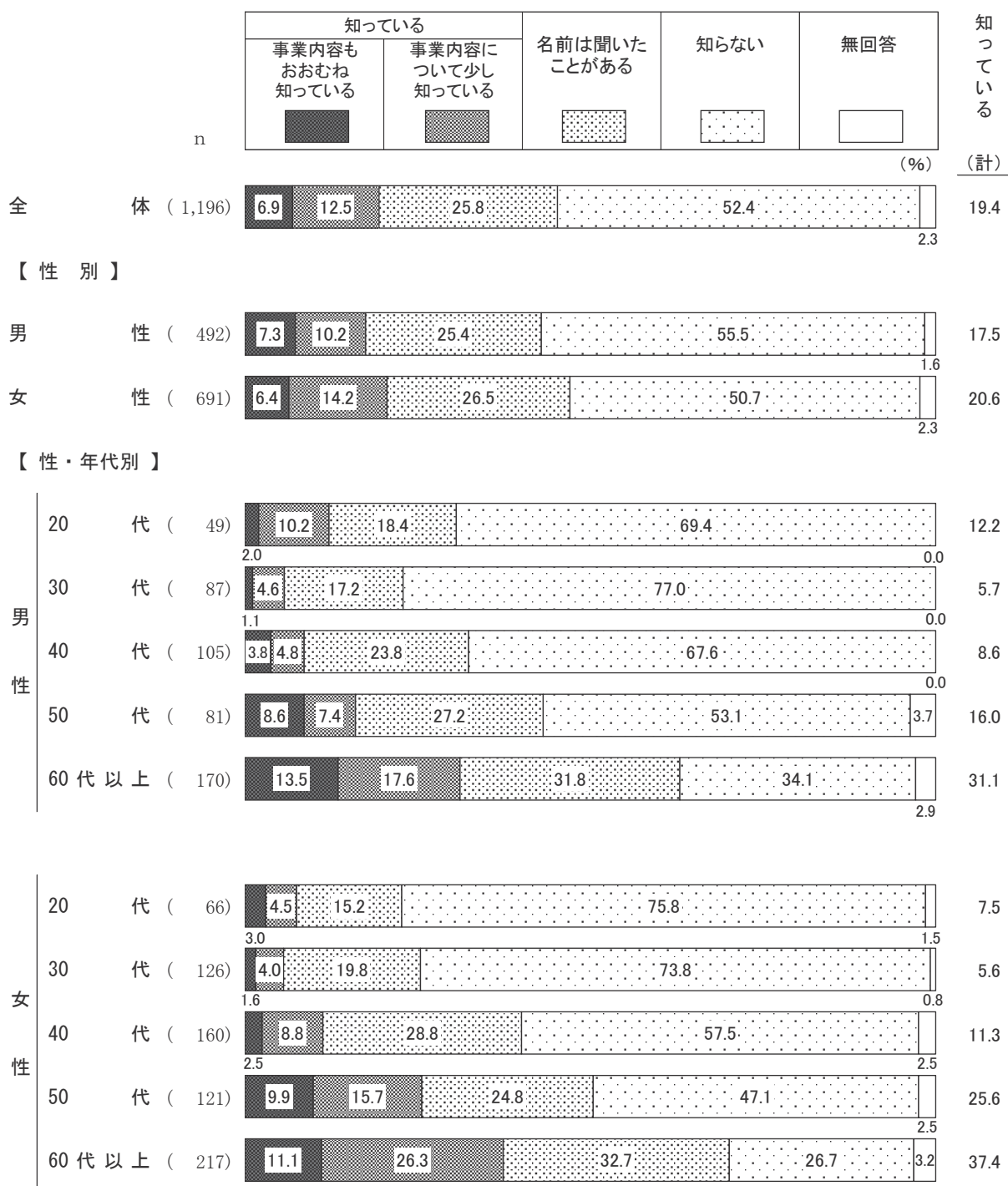
問27 あなたは、地域における高齢者の相談窓口である、「高齢者あんしん相談センター（地域包括支援センター）」を知っていますか。（○は1つ）

図7-1-1 高齢者あんしん相談センターの認知度



高齢者あんしん相談センターの認知度についてたずねたところ、「事業内容もおおむね知っている」（6.9%）、「事業内容について少し知っている」（12.5%）を合わせた『知っている（計）』（19.4%）はほぼ2割、「名前が聞いたことがある」（25.8%）は2割半ばとなっている。一方、「知らない」（52.4%）は5割を超えている。（図7-1-1）

図7-1-2 高齢者あんしん相談センターの認知度—性別／性・年代別

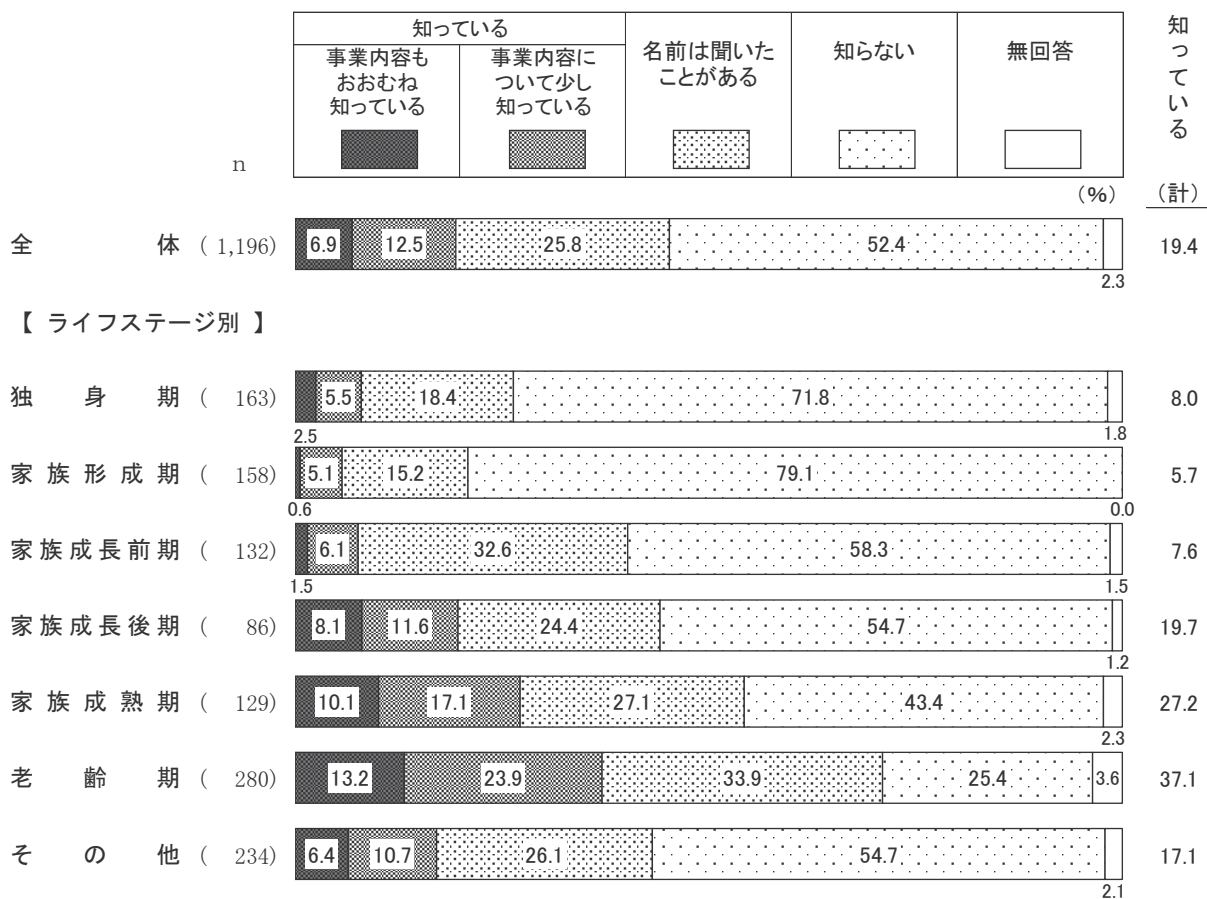


性別にみると、『知っている（計）』は女性のほうが3.1ポイント高く、「知らない」は男性のほうが4.8ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『知っている（計）』は男女ともに30代以降の年代で年代が高いほど多く、男女ともに30代で5%台に対し、60代以上で3割を超えている。「名前が聞いたことがある」は男女ともにおおむね年代が高いほど多く、男女ともに60代以上で3割を超えている。

(図7-1-2)

図7-1-3 高齢者あんしん相談センターの認知度—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、『知っている（計）』は老齢期で4割近くと最も多く、家族成熟期で3割近くとなっている。「名前は聞いたことがある」は家族成長前期、老齢期でともに3割を超えている。一方、「知らない」は独身期でほぼ7割、家族形成期でほぼ8割となっている。

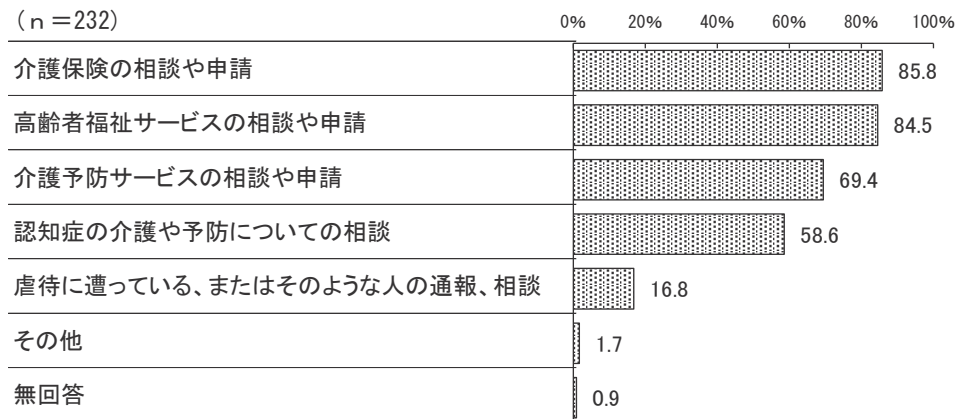
(図7-1-3)

## 7-2 高齢者あんしん相談センターの認知事業内容

【問27で「1. 事業内容もおおむね知っている」または「2. 事業内容について少し知っている」と回答した方に】

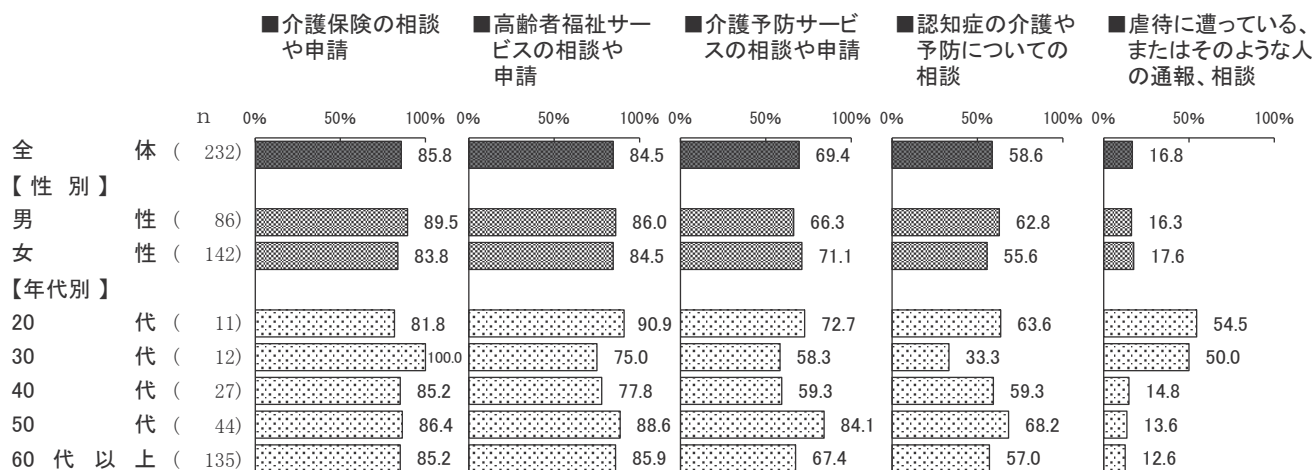
問27-1 「高齢者あんしん相談センター(地域包括支援センター)」の事業内容について、知っているものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

図7-2-1 高齢者あんしん相談センターの認知事業内容



高齢者あんしん相談センターの事業内容について「事業内容もおおむね知っている」、「事業内容について少し知っている」と答えた方(232人)に、知っている事業内容をたずねたところ、「介護保険の相談や申請」(85.8%)、「高齢者福祉サービスの相談や申請」(84.5%)がともに8割半ばと多く、次いで「介護予防サービスの相談や申請」(69.4%)、「認知症の介護や予防についての相談」(58.6%)などの順となっている。(図7-2-1)

図7-2-2 高齢者あんしん相談センターの認知事業内容—性別／年代別



性別にみると、男性のほうが「認知症の介護や予防についての相談」で7.2ポイント、「介護保険の相談や申請」で5.7ポイント高く、女性のほうが「介護予防サービスの相談や申請」で4.8ポイント高くなっている。（図7-2-2）



## 8 消費者相談

---

8-1 消費者相談コーナーの認知・利用状況

---



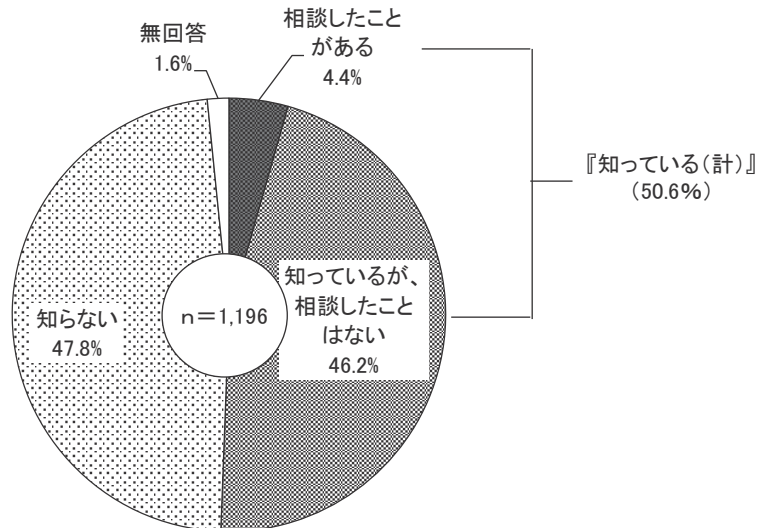


## 8 消費者相談

### 8-1 消費者相談コーナーの認知・利用状況

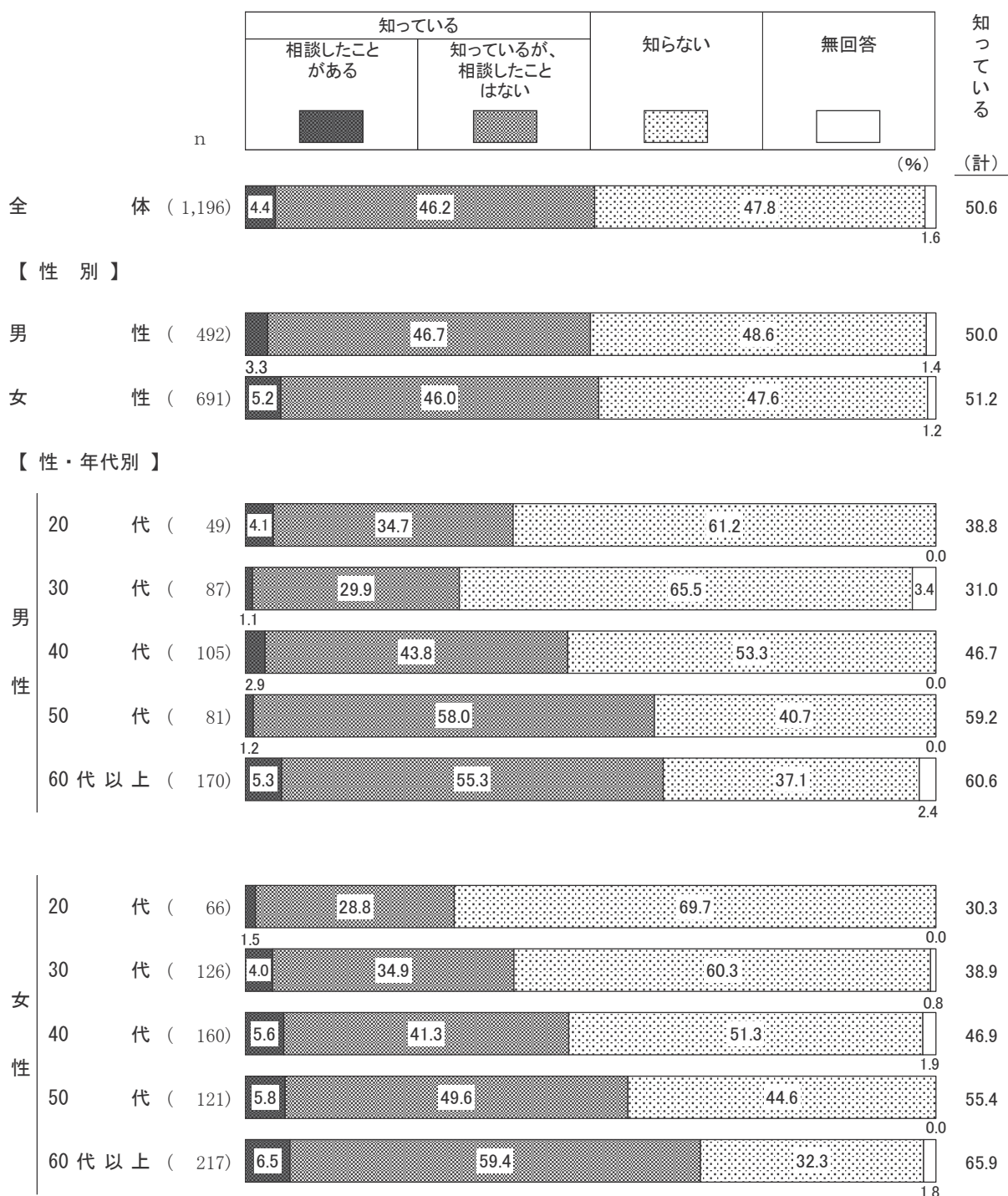
問28 あなたは、消費生活センターに「消費者と事業者との間に生じたトラブルを相談するコーナー」があることを知っていますか。(○は1つ)

図8-1-1 消費者相談コーナーの認知・利用状況



消費者相談コーナーの認知・利用状況についてたずねたところ、「相談したことがある」(4.4%)は5%未満となっており、「知っているが、相談したことはない」(46.2%)を合わせた『知っている(計)』(50.6%)はほぼ5割となっている。(図8-1-1)

図 8-1-2 消費者相談コーナーの認知・利用状況—性別／性・年代別



性別にみると、「相談したことがある」は女性のほうがわずかに高くなっているが、『知っている（計）』は男女間に差はみられない。

性・年代別にみると、「相談したことがある」は男性60代以上、女性40代以降の年代でそれぞれ5%を超えている。『知っている（計）』は男女ともにおおむね年代が高いほど多い傾向で、男性50代、60代以上でともにほぼ6割、女性50代で5割半ば、60代以上で6割半ばと多くなっている。一方、「知らない」は男女ともに20代、30代で6割を超えている。（図8-1-2）

## 9 文化・スポーツ振興

- 
- 9-1 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて  
区民の関心・意識を高めるために期待する取組
  - 9-2 2020年東京オリンピック・パラリンピック終了後に  
残るレガシー（遺産）として期待するもの
  - 9-3 普段の運動頻度
-

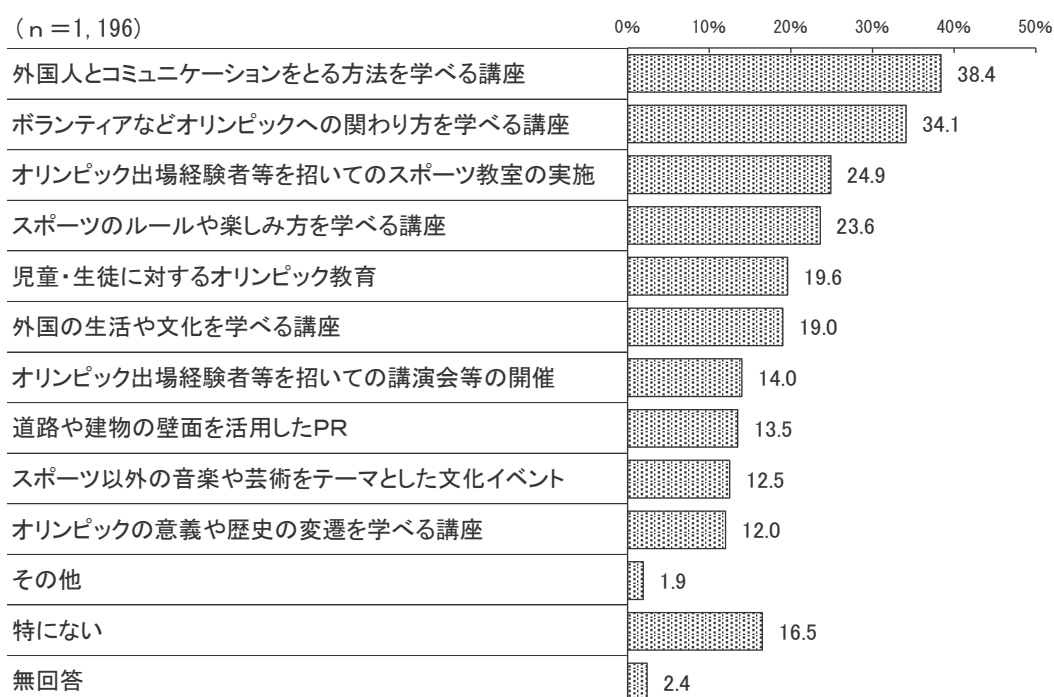


## 9 文化・スポーツ振興

### 9-1 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて区民の関心・意識を高めるために期待する取組

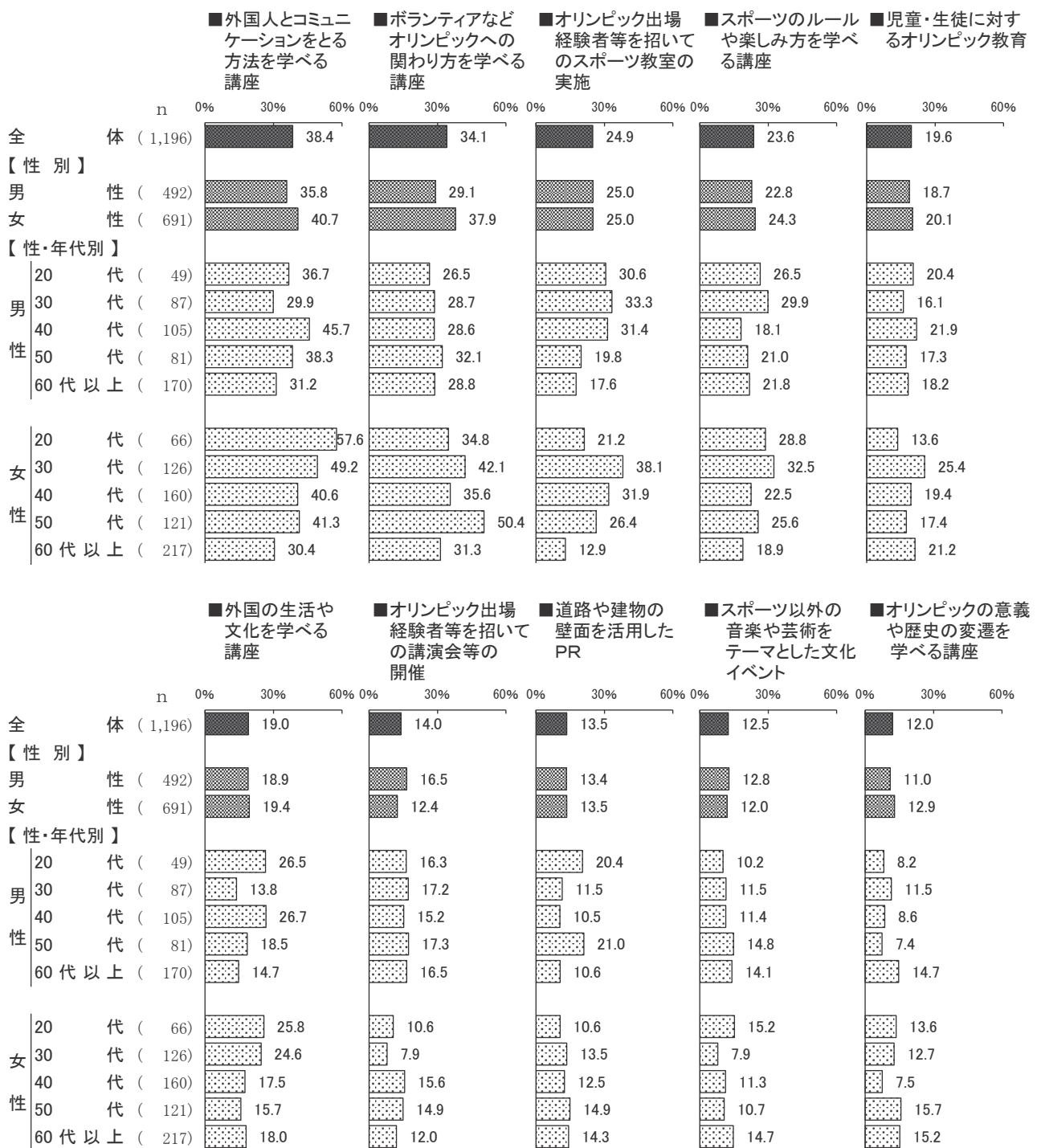
問29 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、区民の関心と意識を高めるための取組として期待するものは何ですか。  
次の中からあてはまるものを3つまで選んで、右の欄に番号をご記入ください。

図9-1-1 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて区民の関心・意識を高めるために期待する取組



2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて区民の関心・意識を高めるために期待する取組についてたずねたところ、「外国人とのコミュニケーションをとる方法を学べる講座」(38.4%)が4割近くと最も多く、次いで「ボランティアなどオリンピックへの関わり方を学べる講座」(34.1%)、「オリンピック出場経験者等を招いてのスポーツ教室の実施」(24.9%)、「スポーツのルールや楽しみ方を学べる講座」(23.6%)などの順となっている。  
(図9-1-1)

図9-1-2 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて  
区民の関心・意識を高めるために期待する取組—性別／性・年代別



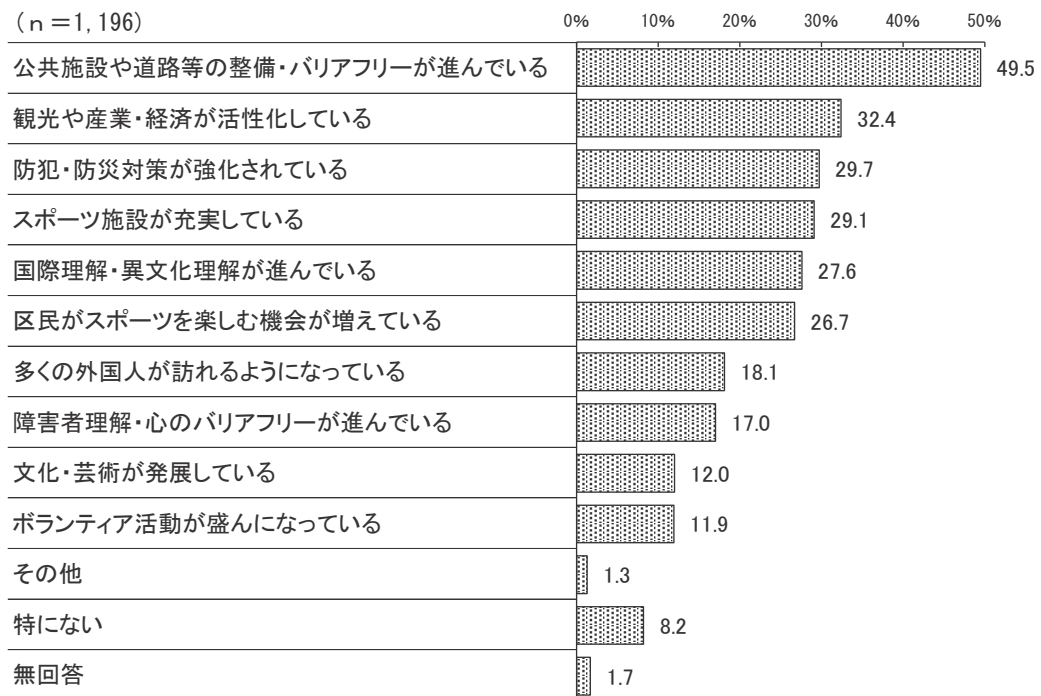
性別にみると、女性のほうが「ボランティアなどオリンピックへの関わり方を学べる講座」で8.8ポイント、「外国人とコミュニケーションをとる方法を学べる講座」で4.9ポイント高く、男性のほうが「オリンピック出場経験者を招いての講演会等の開催」で4.1ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「外国人とコミュニケーションをとる方法を学べる講座」は女性はおおむね年代が低いほど多く、女性20代で6割近く、30代で5割となっている。「ボランティアなどオリンピックへの関わり方を学べる講座」は女性50代で5割、「オリンピック出場経験者等を招いてのスポーツ教室の実施」は男性20代から40代、女性30代、40代でそれぞれ3割を超えている。(図9-1-2)

9-2 2020年東京オリンピック・パラリンピック終了後に残るレガシー（遺産）として期待するもの

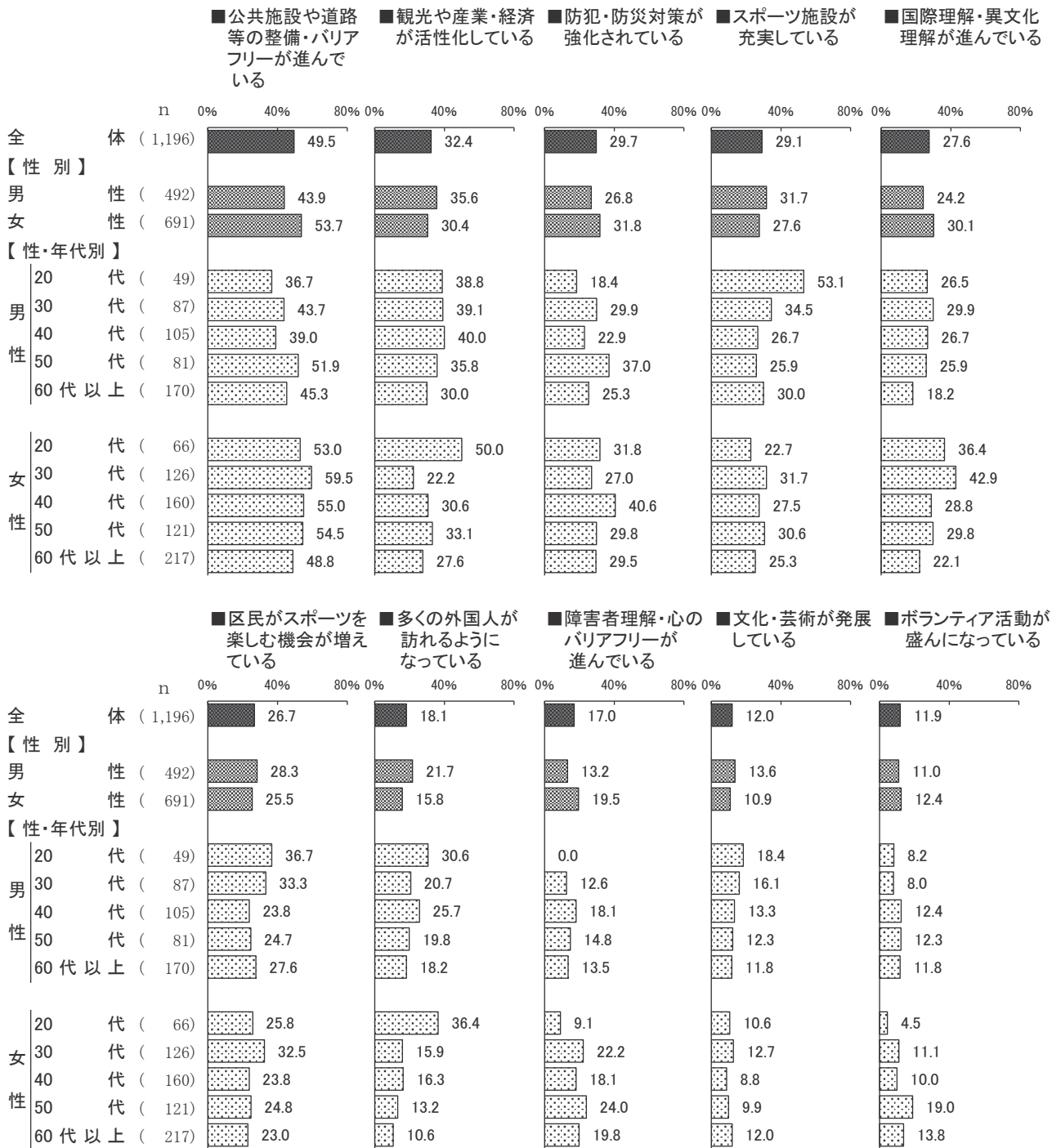
問30 2020年東京オリンピック終了後に残るレガシー（遺産）として、どのようなものを期待しますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで、右の欄に番号をご記入ください。

図9-2-1 2020年東京オリンピック・パラリンピック終了後に残るレガシー（遺産）として期待するもの



2020年東京オリンピック・パラリンピック終了後に残るレガシー（遺産）として期待するものについてたずねたところ、「公共施設や道路等の整備・バリアフリーが進んでいる」（49.5%）がほぼ5割と最も多く、次いで「観光や産業・経済が活性化している」（32.4%）、「防犯・防災対策が強化されている」（29.7%）、「スポーツ施設が充実している」（29.1%）、「国際理解・異文化理解が進んでいる」（27.6%）、「区民がスポーツを楽しむ機会が増えている」（26.7%）などの順となっている。（図9-2-1）

図9-2-2 2020年東京オリンピック・パラリンピック終了後に残る  
レガシー（遺産）として期待するもの—性別／性・年代別



性別にみると、女性のほうが「公共施設や道路等の整備・バリアフリーが進んでいる」で9.8ポイント、「障害者理解・心のバリアフリーが進んでいる」で6.3ポイント、「国際理解・異文化理解が進んでいる」で5.9ポイント高く、男性のほうが「多くの外国人が訪れるようになっている」で5.9ポイント、「観光や産業・経済が活性化している」で5.2ポイント、「スポーツ施設が充実している」で4.1ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「公共施設や道路等の整備・バリアフリーが進んでいる」は女性30代で6割近く、「観光や産業・経済が活性化している」は女性20代で5割、「スポーツ施設が充実している」は男性20代で5割を超え、「国際理解・異文化理解が進んでいる」は女性30代で4割を超え、「多くの外国人が訪れるようになっている」は女性20代で3割半ばと多くなっている。

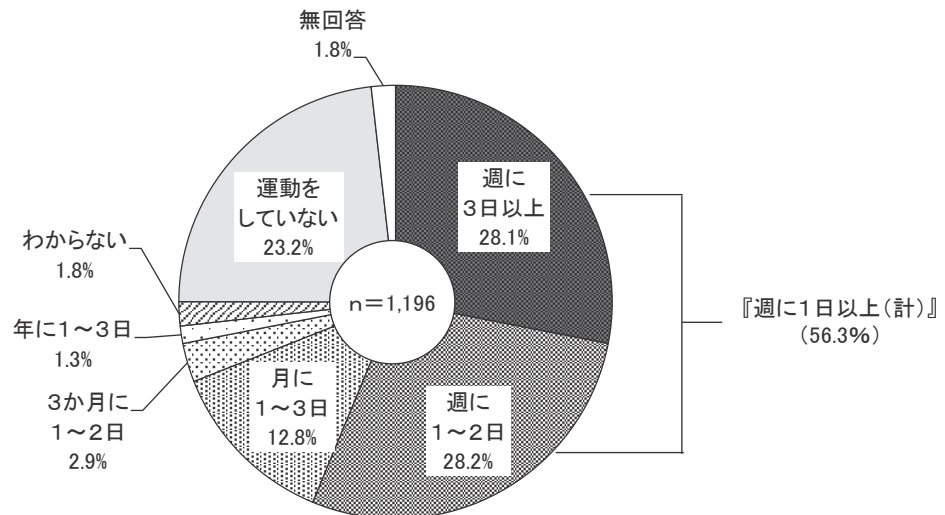
(図9-2-2)



9-3 普段の運動頻度

問31 あなたは普段、どのくらいの頻度で運動(ウォーキングやラジオ体操を含む)をしていますか。  
(○は1つ)

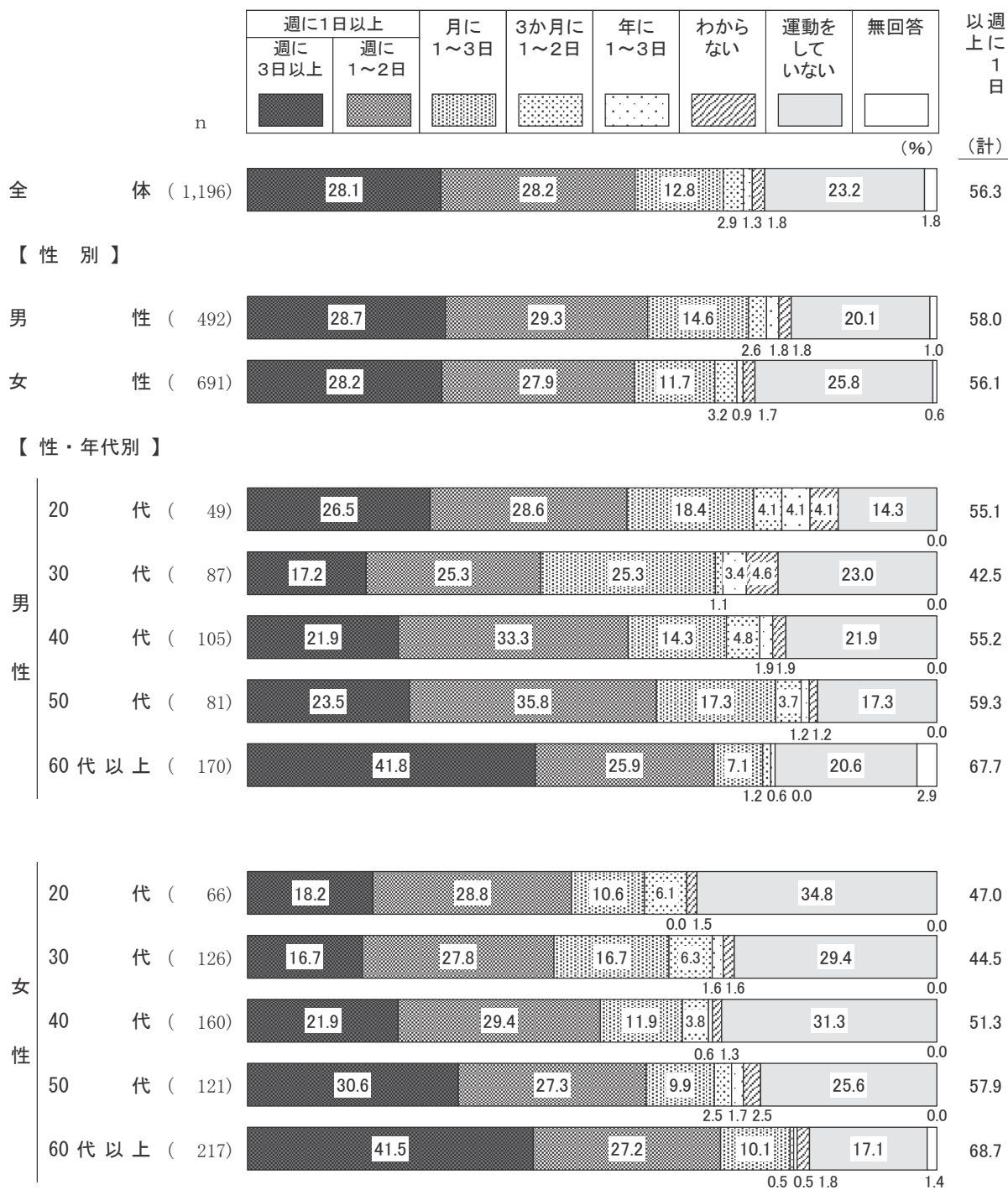
図9-3-1 普段の運動頻度



普段の運動頻度についてたずねたところ、「週に3日以上」(28.1%)、「週に1~2日」(28.2%)がともに3割近くとなっており、合わせた『週に1日以上(計)』(56.3%)が5割半ばと半数を超えている。一方、「運動をしていない」(23.2%)は2割を超えている。

(図9-3-1)

図9-3-2 普段の運動頻度－性別／性・年代別



性別にみると、運動をしている人の運動頻度については男女間で大きな差は見られないが、「運動をしていない」は女性のほうが5.7ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、『週に1日以上（計）』は男女ともに30代以降で年代が高いほど多く、男女ともに60代以上で7割近くとなっている。男女ともに30代で4割前半と最も少なくなっている。（図9-3-2）

# 10 循環型社会

---

10-1 「2R」推進のために区が重点的に行うべきこと

---

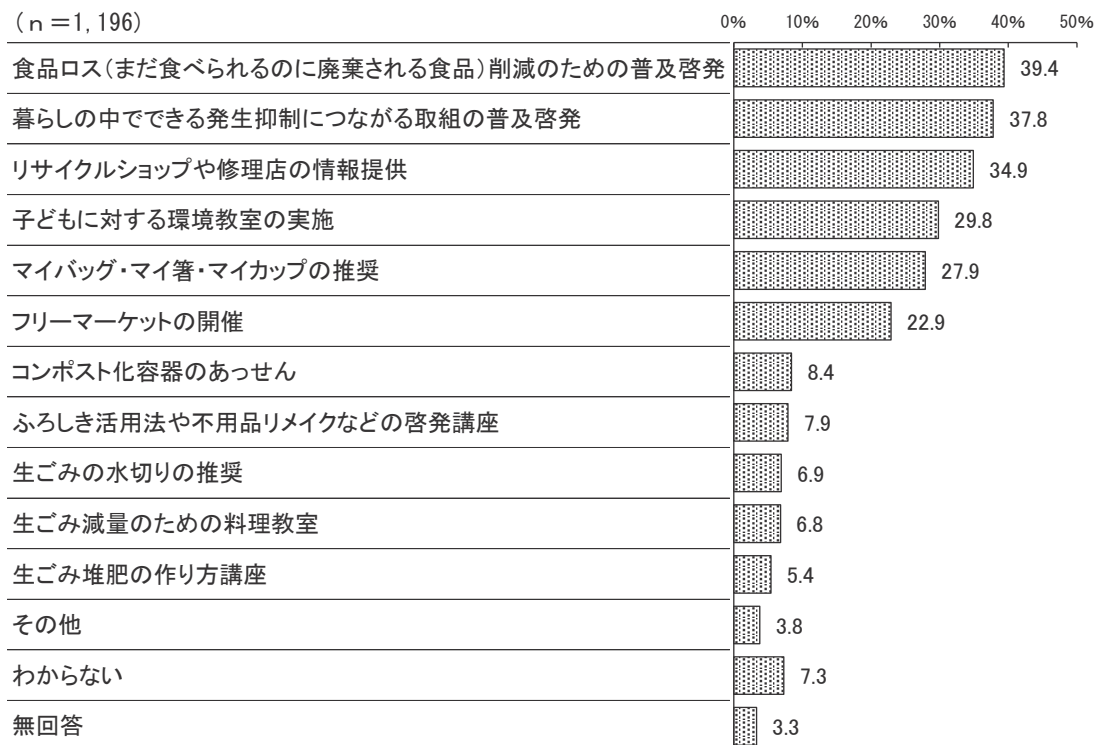


## 10 循環型社会

### 10-1 「2R」推進のために区が重点的に行うべきこと

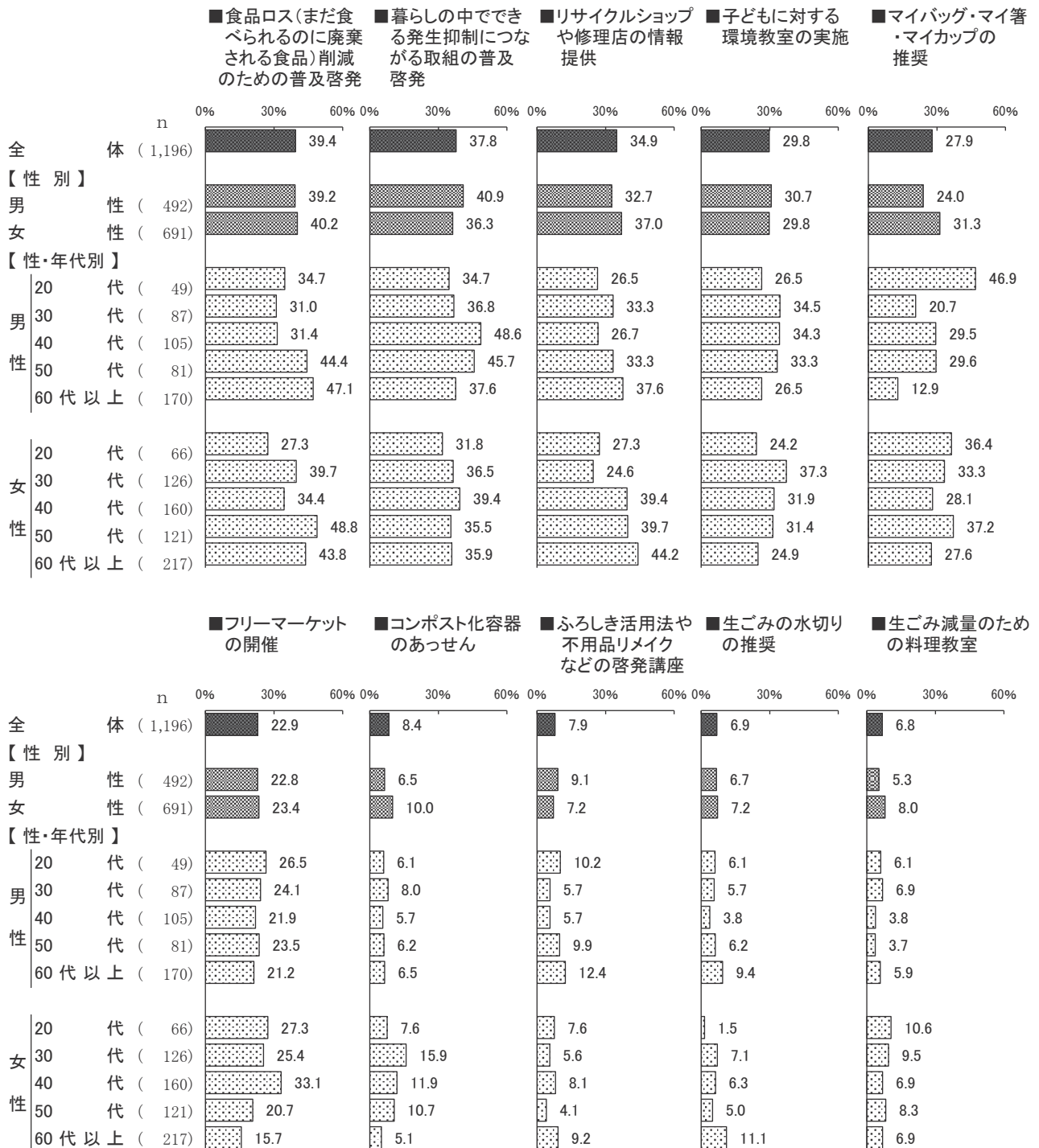
問32 区では循環型社会の実現に向けて、「2R(リデュース:発生抑制、リユース:再使用)」の取組をリサイクルに先立って推進していきます。「2R(リデュース:発生抑制、リユース:再使用)」推進のためには、区はどのようなことを重点的に行うべきと考えますか。次の中からあてはまるものを3つまで選んで、下の欄に番号をご記入ください。

図10-1-1 「2R」推進のために区が重点的に行うべきこと



循環型社会の実現に向けた「2R」推進のために区が重点的に行うべきことについてたずねたところ、「食品ロス(まだ食べられるのに廃棄される食品)削減のための普及啓発」(39.4%)が4割近くと最も多く、次いで「暮らしの中のできる発生抑制につながる取組の普及啓発」(37.8%)、「リサイクルショップや修理店の情報提供」(34.9%)、「子どもに対する環境教室の実施」(29.8%)、「マイバッグ・マイ箸・マイカップの推奨」(27.9%)、「フリーマーケットの開催」(22.9%)などの順となっている。(図10-1-1)

図10-1-2 循「2R」推進のために区が重点的に行うべきこと【上位10項目】—性別／性・年代別



性別にみると、女性のほうが「マイバッグ・マイ箸・マイカップの推奨」で7.3ポイント、「リサイクルショップや修理店の情報提供」で4.3ポイント高く、男性のほうが「暮らしの中でできる発生抑制につながる取組の普及啓発」で4.6ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「食品ロス(まだ食べられるのに廃棄される食品)削減のための普及啓発」は男女ともに50代、60代以上で4割を超え、「暮らしの中でできる発生抑制につながる取組の普及啓発」は男性40代、50代でともに4割台、「リサイクルショップや修理店の情報提供」は女性60代以上で4割半ば、「マイバッグ・マイ箸・マイカップの推奨」は男性20代で4割半ばと多くなっている。(図10-1-2)

# 11 議会

- 
- 11-1 区議会活動の認知媒体
  - 11-2 区議会のホームページの閲覧状況
  - 11-3 区議会の活動として期待すること
-



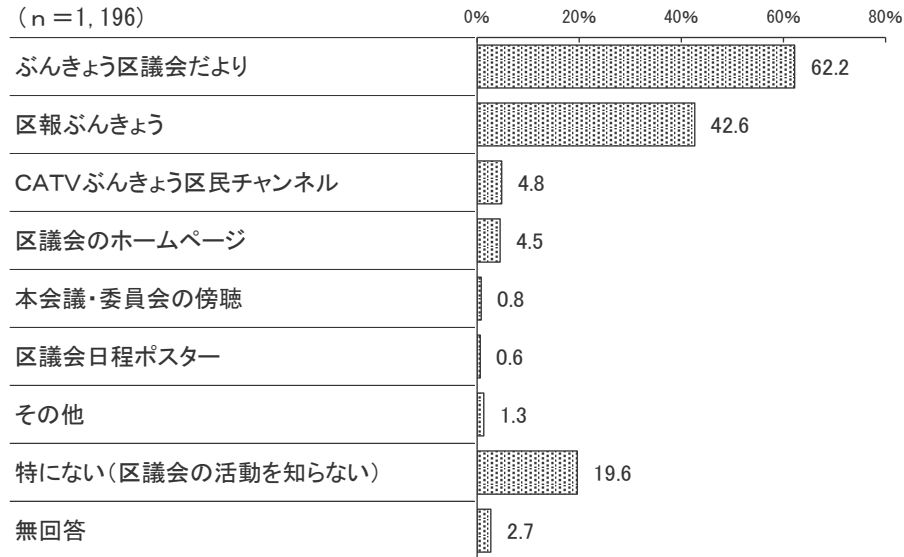


# 11 議会

## 11-1 区議会活動の認知媒体

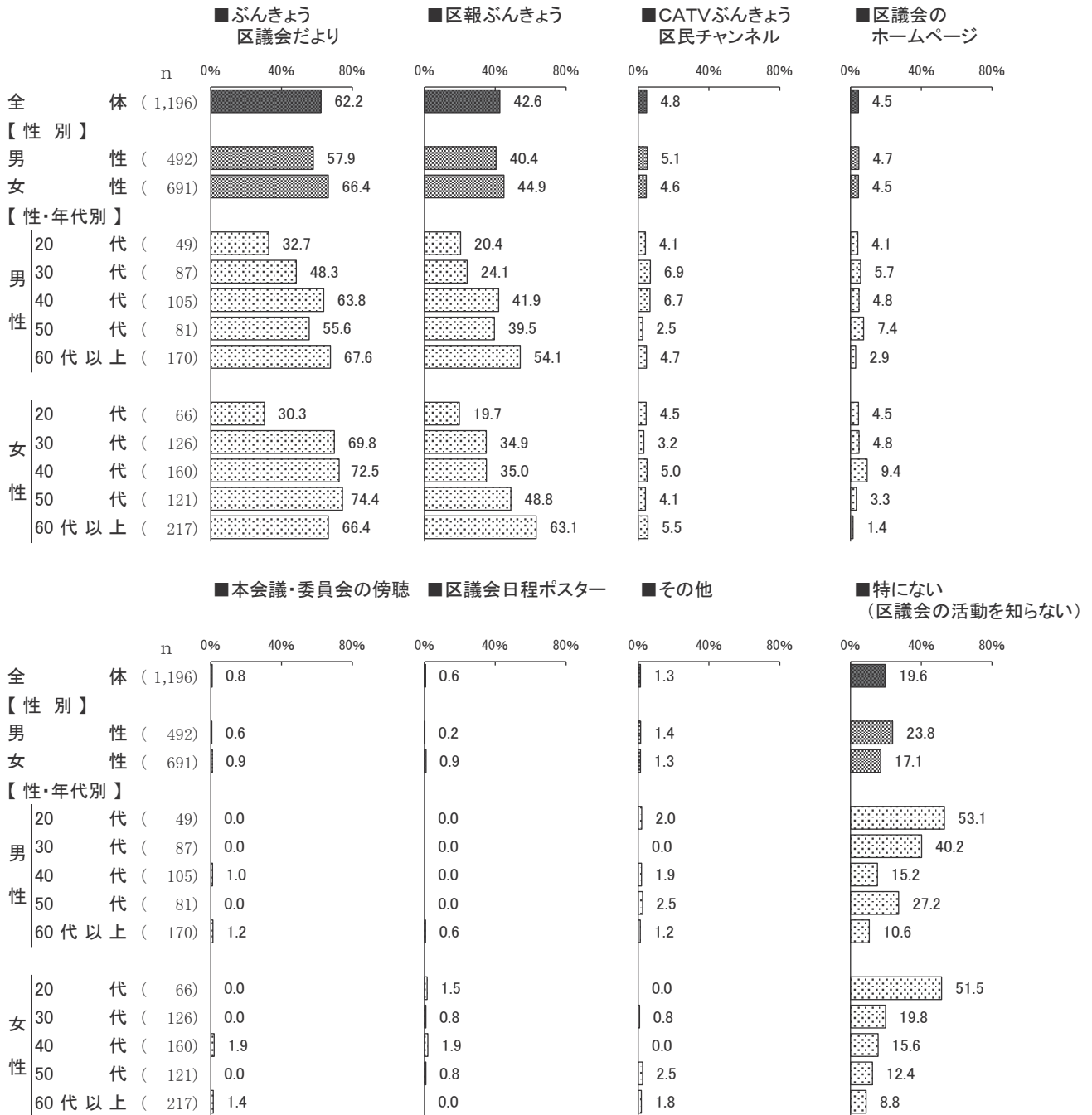
問33 あなたは、区議会の活動を、どのようにしてお知りになっていますか。  
次の中からいくつでもお選びください。(〇はいくつでも)

図11-1-1 区議会活動の認知媒体



区議会活動の認知媒体をたずねたところ、「ぶんきょう区議会だより」(62.2%)が6割を超え最も多く、「区報ぶんきょう」(42.6%)が4割を超え次いでいるが、それ以外の項目は5%未満となっている。一方、「特にない(区議会の活動を知らない)」(19.6%)はほぼ2割となっている。(図11-1-1)

図11-1-2 区議会活動の認知媒体—性別／性・年代別



性別にみると、女性のほうが「ぶんきょう区議会だより」で8.5ポイント、「区報ぶんきょう」で4.5ポイント高くなっている。一方、男性は「特にない（区議会の活動を知らない）」が6.7ポイント高くなっている。

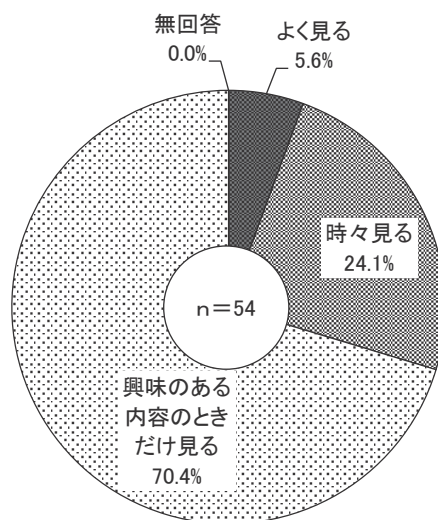
性・年代別にみると、「ぶんきょう区議会だより」は男女ともに20代で3割台と少なくなっている。「区報ぶんきょう」は男女ともに年代が高いほど多くなっており、男女ともに20代で2割程度であるのに対し、男性60代以上で5割半ば、女性60代以上で6割を超えている。一方、「特にない（区議会の活動を知らない）」は男女ともに20代で5割を超えている。（図11-1-2）

## 11-2 区議会のホームページの閲覧状況

【問33で「2. 区議会のホームページ」と回答した方に】

問33-1 あなたは、区議会ホームページをどの程度閲覧されていますか。(○は1つ)

図11-2-1 区議会のホームページの閲覧状況

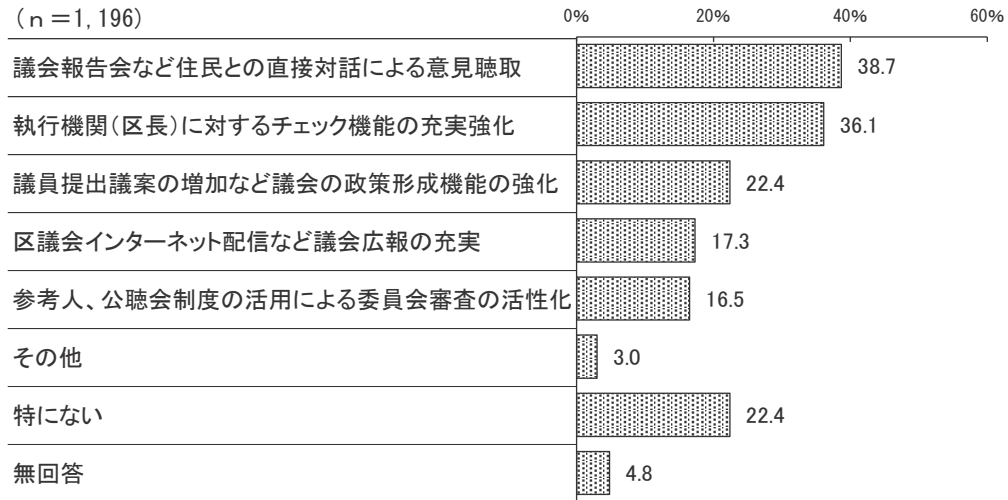


区議会活動の認知媒体について「区議会のホームページ」と答えた人（54人）に、区議会ホームページの閲覧頻度をたずねたところ、「よく見る」（5.6%）が1割未満、「時々見る」（24.1%）が2割半ば、「興味のある内容のときだけ見る」（70.4%）がほぼ7割となっている。（図11-2-1）

11-3 区議会の活動として期待すること

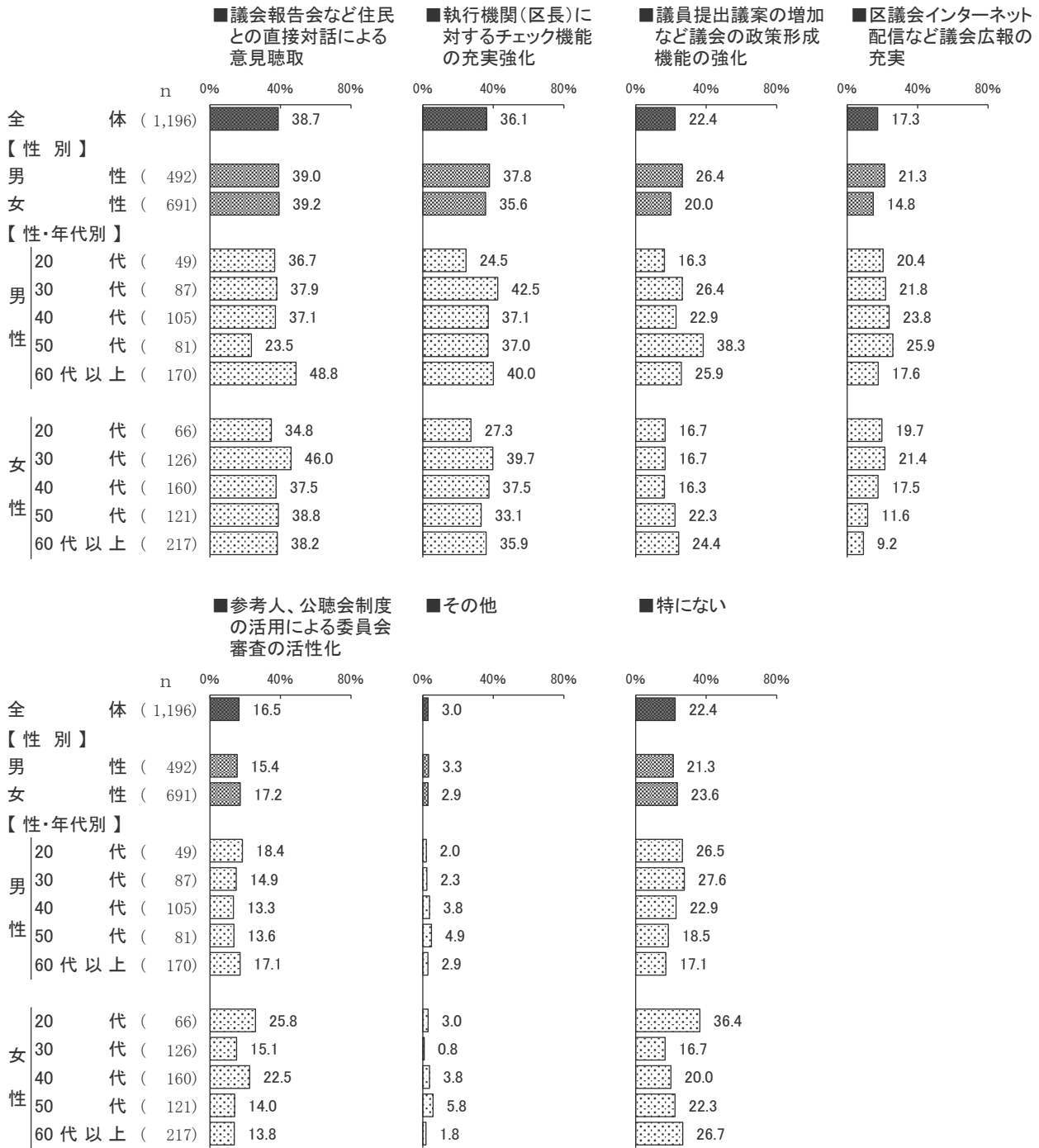
問34 地方議会の活性化や議会改革が求められています、区議会の活動として期待することはどれですか。次の中からいくつでもお選びください。(〇はいくつでも)

図11-3-1 区議会の活動として期待すること



区議会の活動として期待することについてたずねたところ、「議会報告会など住民との直接対話による意見聴取」(38.7%)が4割近くと最も多く、次いで「執行機関(区長)に対するチェック機能の充実強化」(36.1%)、「議員提出議案の増加など議会の政策形成機能の強化」(22.4%)などの順となっている。(図11-3-1)

図11-3-3 区議会の活動として期待すること－性別／性・年代別



性別にみると、男性のほうが「区議会インターネット配信など議会広報の充実」で6.5ポイント、「議員提出議案の増加など議会の政策形成機能の強化」で6.4ポイント高くなっている。

性・年代別にみると、「議会報告会など住民との直接対話による意見聴取」は男性60代以上で5割近く、女性30代で4割半ば、「執行機関(区長)に対するチェック機能の充実強化」は男性30代、60代でともに4割以上、「議員提出議案の増加など議会の政策形成機能の強化」は男性50代で4割近くとなっている。(図11-3-3)



## 12 広聴

- 
- 12-1 区役所本庁の窓口の利用状況
  - 12-2 区役所本庁窓口での対応職員の印象
-



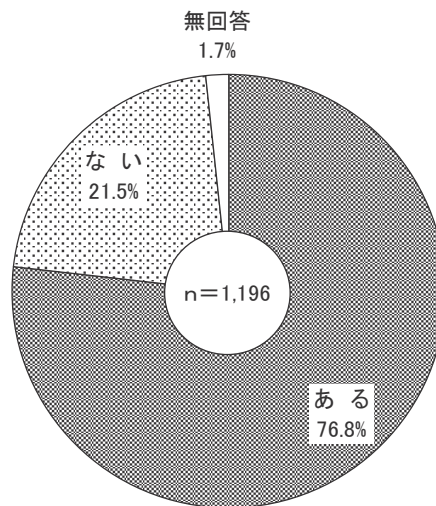


## 12 広聴

### 12-1 区役所本庁の窓口の利用状況

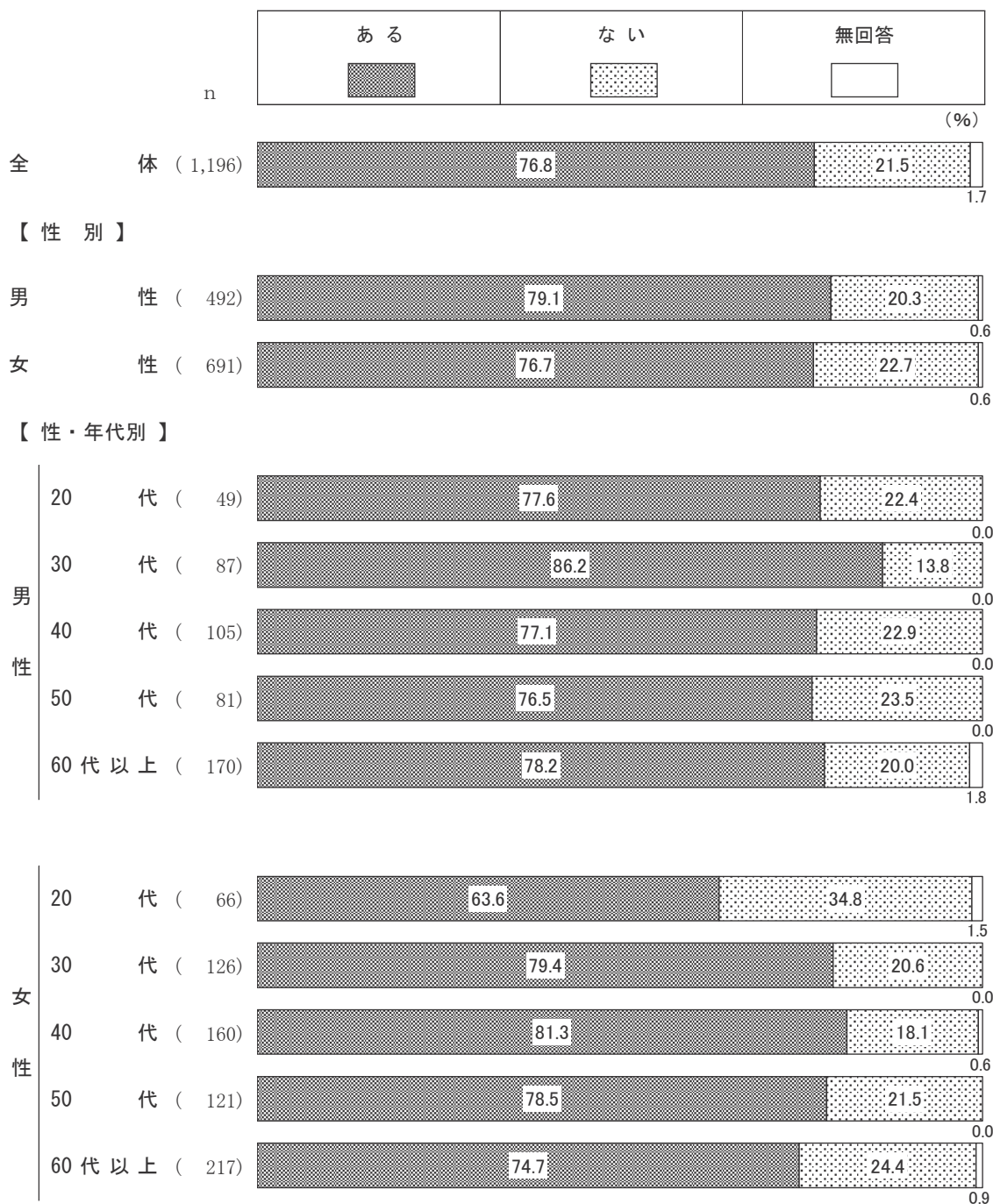
問35 あなたは、過去2年くらいの間に区役所本庁の窓口を利用したことがありますか。  
(○は1つ)

図12-1-1 区役所本庁の窓口の利用状況



過去2年間の区役所本庁の窓口の利用状況についてたずねたところ、利用したことが「ある」(76.8%)が7割半ばを占めている。(図12-1-1)

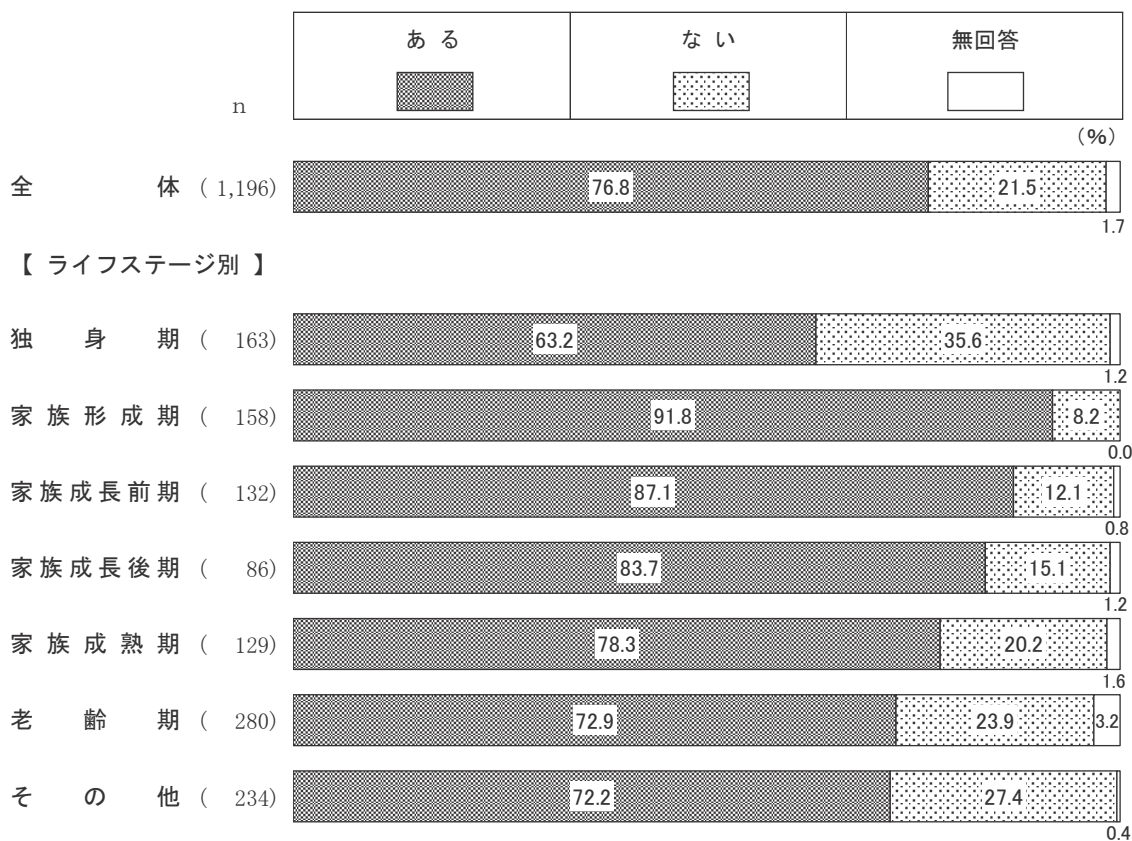
図12-1-2 区役所本庁の窓口の利用状況—性別／性・年代別



性別にみると、男女間に大きな差はみられない。

性・年代別にみると、「ある」は男性30代で8割半ば、女性40代でほぼ8割となっている。一方、「ない」は女性20代で3割半ばとなっている。(図12-1-2)

図12-1-3 区役所本庁の窓口の利用状況—ライフステージ別



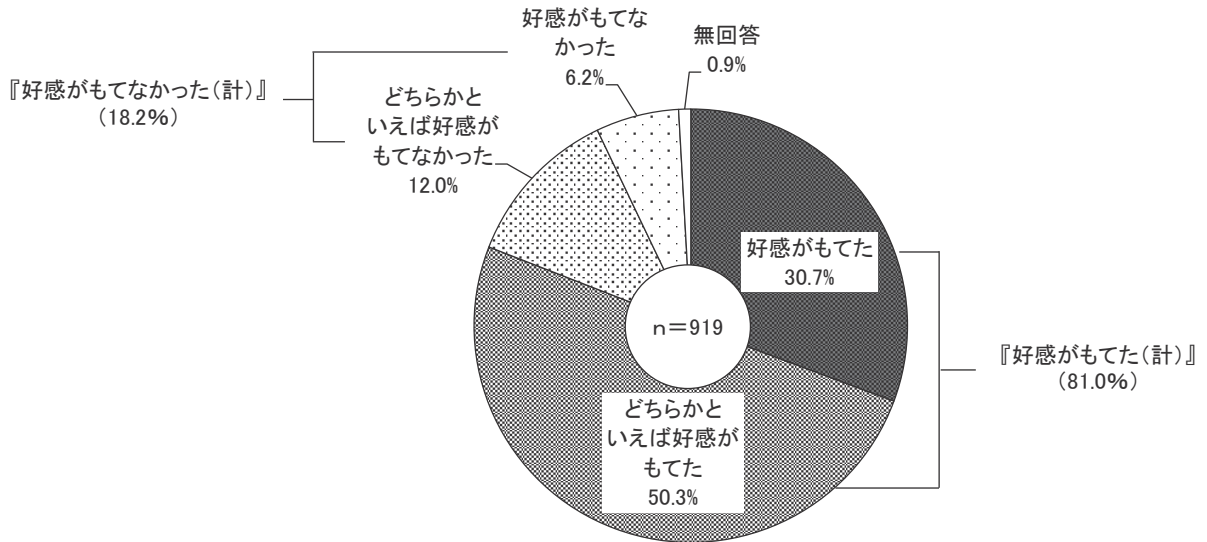
ライフステージ別にみると、「ある」は家族形成期で9割を超え、家族成長前期で9割近く、家族成長後期で8割半ばと多く、家族形成期以降ではライフステージが上がるほど少なくなっている。一方、独身期は6割台となっている。(図12-1-3)

## 12-2 区役所本庁窓口での対応職員の印象

【問35で「1. ある」と回答した方に】

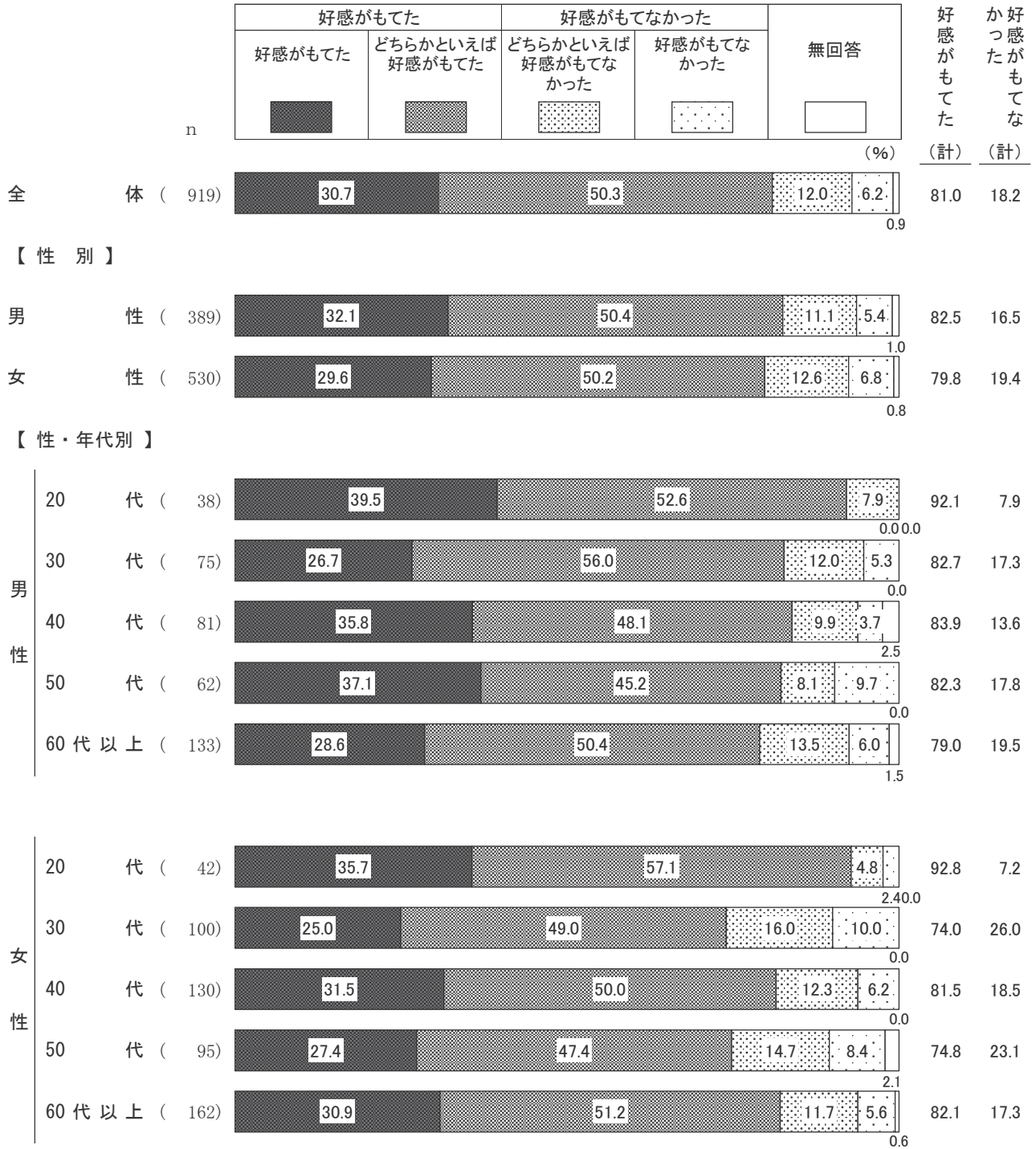
問35-1 その時の職員の対応はいかがでしたか。(○は1つ)

図12-2-1 区役所本庁窓口での対応職員の印象



過去2年間に区役所本庁の窓口を利用したことが「ある」と答えた方(919人)に、区役所本庁窓口での対応職員の印象についてたずねたところ、「好感がもてた」(30.7%)が3割、「どちらかといえば好感がもてた」(50.3%)が5割となっており、合わせた『好感がもてた(計)』(81.0%)はほぼ8割となっている。一方、『好感がもてなかった(計)』(18.2%)は2割近くとなっている。(図12-2-1)

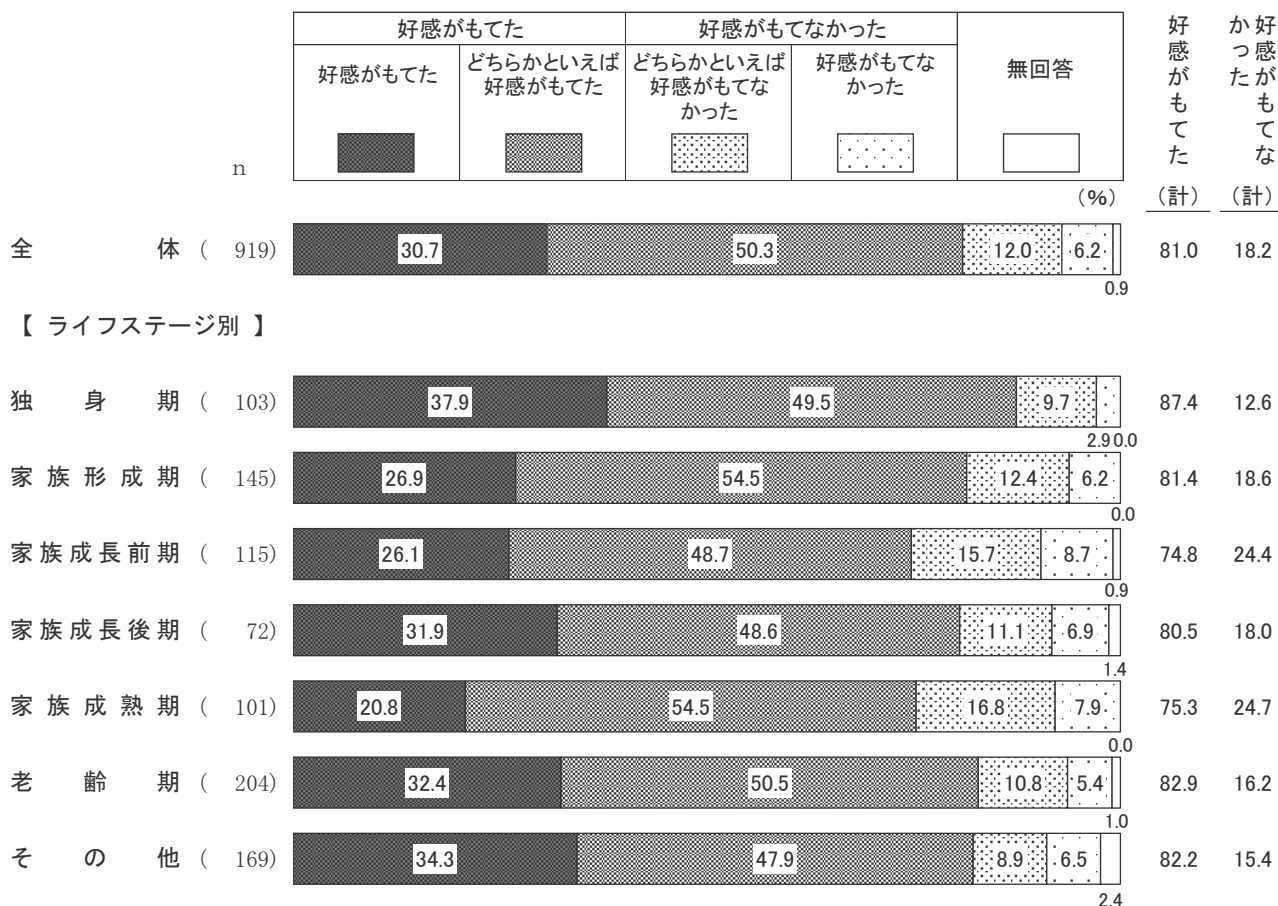
図12-2-2 区役所本庁窓口での対応職員の印象－性別／性・年代別



性別にみると、『好感がもてた（計）』は男女間で大きな差はみられない。

性・年代別にみると、『好感がもてた（計）』は男女ともに20代で9割を超え多くなっている。女性30代、50代はともに7割半ばと少なくなっており、『好感がもてなかった（計）』が2割を超えている。（図12-2-2）

図12-2-3 区役所本庁窓口での対応職員の印象—ライフステージ別



ライフステージ別にみると、『好感が持てた（計）』は独身期で9割近くと多く、家族成長前期、家族成熟期でともに7割半ばと少なくなっている。（図12-2-3）

### Ⅲ 質問と回答





# 第23回 文京区政に関する世論調査

## ～ ご協力のお願い ～

皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

さて、文京区では、区政の各分野について区民の皆様が日頃感じていらっしゃることをお伺いし、今後の区政に役立てるために「文京区政に関する世論調査」を3年ごとに実施しております。本年度は7月25日号の区報でお知らせしましたとおり、8月中旬より実施することとなりました。

調査にあたりまして、区内にお住まいの20歳以上の方々の中から無作為にあなた様をはじめ、500人の方を調査対象者に選ばせていただきました。調査の結果は「こういった意見が何%」という形でしか発表いたしませんので、個人のお名前などが公表されることは一切ありません。

ご多忙のところ、誠に恐縮ではございますが、この調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成27年8月

文京区長 成澤 廣 修

なお、ご回答は郵送によるご返送、もしくはインターネットによるご回答のいずれかをお願いいたします。インターネットによるご回答をされる場合には、次のIDおよびパスワードを入力しログインのうえ回答サイトにお入りください。

【あなたのID・パスワード】（※インターネットでご回答いただく場合のログイン用）

※なお、このID・パスワードはランダムに配付しています。どなたがどのID・パスワードであるかは照合できないようになっており、個人を特定するものではありませんのでご安心ください。

ご記入にあたってのご留意点、ご回答方法の詳細は次のページをご参照ください。

**ご回答期限 : 9月4日(金)まで**

【お問い合わせ先】

文京区 企画政策部 広報課 広聴・相談担当

〒112-8555 東京都文京区春日一丁目16番21号

電話 : 03-5803-1129 (直通)

FAX : 03-5803-1331

## 【 ご記入にあたってのお願い 】

- 回答は、必ずあて名の方ご自身がお答えください。
- 特にことわりのない限り、全ての質問にお答えください。
- 回答は、あてはまる番号を○印で囲むものと、あてはまる番号をご記入いただくものがあります。
- 質問文に（○は1つ）（○はいくつでも）（3つまで）などのことわり書きがあります。これはお答えいただく数を意味します。
- 「その他」を選んだ場合には（ ）内に具体的な内容をご記入ください。

## 【 ご回答の方法 】

「郵送」にてご返送、もしくは「インターネット」によるご回答のどちらか一方でご回答くださいますようお願いいたします。

### ◎「郵送」にてご返送の場合 …

ご記入いただいた調査票を同封の返信用封筒に入れて切手を貼らずにご投函ください。

### ◎「インターネット」にてご回答の場合 …

- 文京区ホームページより <http://www.city.bunkyo.lg.jp/>

文京区ホームページのトップページにある

「注目情報『第23回 文京区政に関する世論調査を実施しています』」内のURLから「電子申請」サイトにお入りいただきご回答ください。

- 二次元コード（QRコード）より

下記二次元コードを読み取ると、回答ページのログイン画面に直接お入りいただけます。

≪ スマートフォン用 ≫



≪ 携帯電話用 ≫



※携帯電話の機種により対応していない場合があります。

※ご回答いただく際は、表紙にある個別のIDおよびパスワードによりサイトにお入りいただき、入力フォームからご回答ください。

**ご回答期限 : 9月4日（金）まで**

### 【 お問い合わせ先 】

文京区 企画政策部 広報課 広聴・相談担当

〒112-8555 東京都文京区春日一丁目16番21号

電話 : 03-5803-1129 (直通)

FAX : 03-5803-1331

# 1. 定住意向

問1 あなたは、文京区にお住まいになって何年になりますか。(〇は1つ) n=1,196

1. 5年未満	22.2%	4. 15~19年	9.9%
2. 5~9年	13.4%	5. 20~24年	5.8%
3. 10~14年	10.1%	6. 25年以上	38.0%
		無回答	0.7%

問2 あなたは、これからも文京区に住み続けたいと思いますか。(〇は1つ) n=1,196

1. ずっと住み続けたい	56.4%	3. いずれは転出したい	3.3%	→ 問3へ
2. 当分の間は住んでいたい	34.7%	4. 近いうちに転出するつもり	1.8%	
		5. わからない	2.8%	
		無回答	0.9%	

【問2で「1. ずっと住み続けたい」または「2. 当分の間は住んでいたい」と回答した方に】

問2-1 住み続けたいと思う理由は何ですか。  
次の中からあてはまるものを3つまで選んで、右の欄に番号をご記入ください。

n=1,090

↓ 番号を記入

1. 通勤・通学などの交通の便がよい	77.8%
2. 緑や街並みなどが整備されている	36.8%
3. 図書館、学校、保育園などの公共機関が整備されている	29.7%
4. 福祉施設や医療施設が整備されている	23.9%
5. 地元の商店などで生活に必要なものがそろい、便利である	18.8%
6. 生まれ育った地域であり、愛着がある	24.7%
7. 持ち家のため、住み続けたい	46.5%
8. その他(具体的に：)	11.2%
無回答	0.3%



1つめ
2つめ
3つめ

# 2. 区政運営

問3 次の区の施策のうち、あなたが満足に感じているものはどれですか。  
次の中からあてはまるものを3つまで選んで、下の欄に番号をご記入ください。

番号を記入 →

1つめ	2つめ	3つめ

n=1,196

1. 学校教育施策	23.6%	15. 清掃・リサイクル施策	26.3%
2. 生涯学習施策	10.1%	16. 環境施策	11.3%
3. レクリエーション・スポーツ・芸術振興施策	15.4%	17. 住宅・定住施策	3.4%
4. 伝統文化保存施策	10.9%	18. 公園・緑化・景観施策	32.1%
5. 地域内外の人との交流推進施策	2.4%	19. 防災施策	6.2%
6. 保健衛生施策	9.0%	20. コミュニティ振興施策	1.7%
7. 子育て支援施策	10.8%	21. NPO・ボランティア振興施策	1.2%
8. 高齢者施策	8.6%	22. 中小企業・商業振興施策	0.8%
9. 心身障害者施策	2.4%	23. 観光・国際施策	2.1%
10. ひとり親施策	0.8%	24. 消費者保護施策	0.6%
11. 低所得者施策	1.6%	25. 地域情報化施策	1.8%
12. 青少年施策	0.6%	26. その他( )	1.0%
13. 男女平等参画施策	0.5%	27. 特にない	19.6%
14. 都市整備施策	5.1%	無回答	1.9%

問4 次の区の施策のうち、あなたが**不満**に感じているものはどれですか。  
次の中からあてはまるものを**3つまで**選んで、下の欄に番号をご記入ください。

番号を記入 →	1つめ	2つめ	3つめ

n=1,196

1.	学校教育施策	5.7%	15.	清掃・リサイクル施策	7.3%
2.	生涯学習施策	4.3%	16.	環境施策	6.6%
3.	レクリエーション・スポーツ・芸術振興施策	6.6%	17.	住宅・定住施策	10.0%
4.	伝統文化保存施策	2.5%	18.	公園・緑化・景観施策	9.9%
5.	地域内外の人との交流推進施策	4.1%	19.	防災施策	9.4%
6.	保健衛生施策	2.8%	20.	コミュニティ振興施策	3.0%
7.	子育て支援施策	13.9%	21.	NPO・ボランティア振興施策	2.4%
8.	高齢者施策	18.0%	22.	中小企業・商業振興施策	3.6%
9.	心身障害者施策	3.3%	23.	観光・国際施策	5.2%
10.	ひとり親施策	1.8%	24.	消費者保護施策	3.4%
11.	低所得者施策	7.4%	25.	地域情報化施策	4.7%
12.	青少年施策	1.3%	26.	その他（ ）	3.5%
13.	男女平等参画施策	1.2%	27.	特にない	31.6%
14.	都市整備施策	10.2%		無回答	3.3%

問5 次の区の施策のうち、あなたが**さらに力を入れるべきだ**と考えるものはどれですか。  
**順位をつけて3つまで**選び、下の欄に番号をご記入ください。

1 位	<input type="text"/>	2 位	<input type="text"/>	3 位	<input type="text"/>
-----	----------------------	-----	----------------------	-----	----------------------

n=1,196

	1位	2位	3位	1～3位計	
1.	学校教育施策	8.7%	5.2%	2.7%	16.6%
2.	生涯学習施策	3.5%	1.5%	2.4%	7.4%
3.	レクリエーション・スポーツ・芸術振興施策	3.5%	3.8%	2.3%	9.6%
4.	伝統文化保存施策	2.5%	1.0%	2.0%	5.5%
5.	地域内外の人との交流推進施策	0.8%	1.8%	1.0%	3.6%
6.	保健衛生施策	2.5%	2.0%	1.8%	6.4%
7.	子育て支援施策	17.7%	8.5%	2.9%	29.2%
8.	高齢者施策	19.9%	11.3%	4.0%	35.2%
9.	心身障害者施策	1.2%	2.6%	0.8%	4.6%
10.	ひとり親施策	0.8%	2.5%	1.3%	4.6%
11.	低所得者施策	2.1%	4.1%	4.0%	10.2%
12.	青少年施策	0.3%	1.8%	1.0%	3.1%
13.	男女平等参画施策	0.2%	0.5%	0.9%	1.6%
14.	都市整備施策	4.2%	3.8%	3.7%	11.7%
15.	清掃・リサイクル施策	2.5%	3.5%	2.7%	8.7%
16.	環境施策	2.1%	4.3%	4.1%	10.5%
17.	住宅・定住施策	2.8%	4.3%	5.5%	12.5%
18.	公園・緑化・景観施策	4.0%	4.8%	6.2%	15.0%
19.	防災施策	4.8%	7.5%	7.9%	20.2%
20.	コミュニティ振興施策	0.8%	1.5%	1.5%	3.8%
21.	NPO・ボランティア振興施策	0.1%	0.5%	1.5%	2.1%
22.	中小企業・商業振興施策	0.6%	1.6%	2.0%	4.2%
23.	観光・国際施策	2.3%	2.1%	3.3%	7.7%
24.	消費者保護施策	0.4%	0.8%	2.7%	3.9%
25.	地域情報化施策	1.0%	1.0%	2.4%	4.4%
26.	その他（具体的に： ）	1.2%	0.3%	0.6%	2.0%
27.	特にない	8.7%	16.3%	27.4%	27.5%
	無回答	1.1%	1.1%	1.1%	1.0%

問6 あなたは、区の財政状況に関心がありますか。(〇は1つ)

n=1,196

1. 大いにある	17.5%	3. あまりない	19.3%	→ 問7へ
2. 少しはある	45.0%	4. わからない	15.0%	
		無回答	3.3%	

【問6で「1. 大いにある」または「2. 少しはある」と回答した方に】

問6-1 区の財政状況について、どのような印象をお持ちですか。(〇は1つ)

n=747

1. 極めて厳しい	2.7%	4. まだまだ余裕がある	17.9%
2. 厳しい	20.6%	5. わからない	19.7%
3. 普通	38.3%	無回答	0.8%

【全員の方にお聞きします】

問7 財政の健全化を更に進めていくためには、今後どのようなことに力を入れていくべきだと考えますか。

次の中からあてはまるものを3つまで選んで、下の欄に番号をご記入ください。

番号を記入 →

1つめ	2つめ	3つめ

n=1,196

1. 公共施設の老朽化や移転等に伴い、現施設や跡施設の有効活用を図る	43.1%
2. 職員数の適正化などにより、人件費を抑制する	45.7%
3. 費用対効果の検証を踏まえて、必要性が低くなった事業を廃止・縮小する	54.3%
4. 特定の人が利便を受けるサービスや施設利用に対しては、応分の負担をしていただく	32.8%
5. 民間との役割分担を見直し、民間委託や指定管理者制度を積極的に利用する	28.0%
6. 区民やNPOなどとの協働を推進して、公共サービスの提供を行う	16.6%
7. 区民の意向を踏まえて、行政サービスの水準を見直す	26.4%
8. その他(具体的に： )	2.5%
9. わからない	5.6%
無回答	1.0%

### 3. 協働・協治

問8 区内でNPO、ボランティア団体及び町会・自治会等の地域に貢献する活動を行っている団体、組織やグループの活動に参加していますか。  
次の中から参加しているものをすべてお選びください。(〇はいくつでも) n=1,196

1. 町会・自治会	23.7%	6. 企業による奉仕活動	0.8%
2. PTA	7.0%	7. 個人的なグループ・サークル	6.9%
3. 青少年健全育成会	1.2%	8. その他(具体的に: )	1.9%
4. NPO法人	1.4%	9. 参加していない	64.5%
5. ボランティア団体	3.1%	無回答	2.8%

#### 【問8で「1.」から「8.」と回答した方に】

問8-1 その活動はどのような分野ですか。  
次の中から参加しているものをすべてお選びください。(〇はいくつでも) n=391

1. 区のイベント・行事の運営	15.3%	10. 国際交流(協力)活動	2.3%
2. 町内会などの地域活動	61.1%	11. 社会福祉活動	4.9%
3. 防犯・地域安全活動	19.4%	12. 保健・医療・衛生活動	1.5%
4. 自主防災活動や災害援助活動	8.7%	13. 自然・環境保護活動	2.6%
5. 子どもの健全育成活動	16.4%	14. 交通安全活動	8.2%
6. スポーツ活動	13.6%	15. 募金活動、チャリティーバザー	14.6%
7. 文化・芸術活動	10.5%	16. その他	3.6%
8. 人々の学習活動支援・指導活動	2.3%	(具体的に: )	
9. 観光振興活動	0.8%	無回答	4.6%

#### 【全員の方にお聞きします】

問9 今後参加してみたいと思う地域での活動はどのような分野ですか。  
次の中から参加してみたいものをすべてお選びください。(〇はいくつでも) n=1,196

1. 区のイベント・行事の運営	11.6%	10. 国際交流(協力)活動	18.9%
2. 町内会などの地域活動	16.1%	11. 社会福祉活動	10.2%
3. 防犯・地域安全活動	11.4%	12. 保健・医療・衛生活動	6.7%
4. 自主防災活動や災害援助活動	8.4%	13. 自然・環境保護活動	14.5%
5. 子どもの健全育成活動	14.7%	14. 交通安全活動	3.8%
6. スポーツ活動	20.1%	15. 募金活動、チャリティーバザー	6.5%
7. 文化・芸術活動	30.5%	16. その他(具体的に: )	0.9%
8. 人々の学習活動支援・指導活動	8.4%	17. 特にない	26.7%
9. 観光振興活動	9.7%	無回答	2.0%

## 4. 防災・安全・まちづくり

問10 あなたは、災害に備えてどのような対策をとっていますか。  
次の中からいくつでもお選びください。（〇はいくつでも）

n=1,196

1. 食料・飲料水の確保	69.7%
2. 消火器・救急セットなどの用意	36.7%
3. ラジオ、懐中電灯等の非常持ち出し品の用意	61.9%
4. 貴重品を持ち出す準備	21.9%
5. 家具等の転倒防止	37.9%
6. ガラスの飛散防止	8.4%
7. 建物の耐震性および耐火性の確保	18.9%
8. 避難所等への避難方法の確認	28.0%
9. 家族との連絡方法・集合場所の確認	37.9%
10. 防災訓練への参加	11.7%
11. その他（具体的に： )	0.8%
12. 特に何もしていない	9.2%
無回答	0.6%

問11 区では災害時に災害情報等を広域的に伝達する目的で、区内学校や公園等に「防災行政無線（屋外スピーカー）」を設置しています。防災訓練時や試験放送等で年に数回、「防災行政無線（屋外スピーカー）」を使用し放送を行っていますが、あなたは聞いたことがありますか。（〇は1つ）

n=1,196

1. 聞いたことがあるが、とてもうるさかった	1.1%
2. 聞いたことがあり、よく聞こえた	22.7%
3. 聞いたことはあるが、何を言っているのかよく聞き取れなかった	34.6%
4. 聞いたことはない	40.8%
無回答	0.8%

問12 区では、緊急性を強調するため、「防災行政無線（屋外スピーカー）」を災害時のみ使用するよう考えています。「防災行政無線（屋外スピーカー）」の使用方法について、あなたがもっとも適当と思うものを次の中からいずれか1つお選びください。（〇は1つ）

n=1,196

1. 夕焼けチャイムのように定期的に流したほうがよい	15.2%
2. 区のイベント情報など不定期でも流したほうがよい	6.6%
3. 大雨・洪水警報等の事前の災害情報も流したほうがよい	42.1%
4. これまでどおり災害時のみ流したほうがよい	34.4%
無回答	1.6%

問13 地震による電気火災を防ぐため、設定値以上の震度の地震発生時に自動的に電気の供給を遮断する「感震ブレーカー」の設置が推奨されています。あなたのご自宅では「感震ブレーカー」の設置を行っていますか。（〇は1つ）

n=1,196

1. 設置している	27.1%
2. 設置はしていないが、今後設置する予定である	15.5%
3. 設置はしておらず、今後設置する予定はない	48.2%
無回答	9.2%

問14 区が行っている次の防犯対策事業について、今後特に力を入れてほしいと思うものはどれですか。次の中からあてはまるものを**3つまで**選んで、下の欄に番号をご記入ください。

番号を記入 →	1つめ	2つめ	3つめ

n=1,196

1. 安全・安心まちづくりを推進する地区の指定	25.8%
2. 町会等が整備する防犯カメラ費用の補助	60.4%
3. 防犯パトロール用資器材等の購入費用の補助	19.8%
4. 防犯パトロール用資器材等の貸出し	15.6%
5. 青色パトロールカーによる巡回パトロール	54.7%
6. 「文の京」安心・防災メールの配信	15.6%
7. 防犯イベント・キャンペーンの実施	16.4%
8. その他（具体的に： )	2.2%
9. 特にない	8.0%
無回答	1.6%

問15 自転車の安全利用推進のためには、区はどのようなことを重点的に行うべきと考えますか。次の中からあてはまるものを**3つまで**選んで、下の欄に番号をご記入ください。

番号を記入 →	1つめ	2つめ	3つめ

n=1,196

1. 自転車レーン・専用通行帯等の自転車専用走行空間整備による歩行者と自転車との分離促進	71.7%
2. 広報や自転車実技教室・体験型交通安全教室等による自転車利用者のマナー向上	30.2%
3. 無灯火・迷惑走行・信号無視等の危険運転への指導取締りの強化	58.9%
4. 放置自転車への警告・撤去の強化	30.8%
5. 駅周辺の商業・集客施設等の自転車駐車場の整備	53.2%
6. その他（具体的に： )	4.0%
7. わからない	1.3%
無回答	0.4%

問16 「シェアサイクル事業」を行ううえで、重要であると思われるものはどれですか。次の中からあてはまるものを**3つまで**選んで、下の欄に番号をご記入ください。

※「シェアサイクル事業」とは…

地域内に複数の専用のサイクルポート（自転車の貸出・返却拠点）を設置し、どのポートで自転車を借りてどのポートで返却してもよいシステムを構築した貸し自転車事業

番号を記入 →	1つめ	2つめ	3つめ

n=1,196

1. 駅近くのサイクルポート	63.3%	6. 近隣区と連携したシステム	41.2%
2. 観光地近くのサイクルポート	19.3%	7. その他	3.3%
3. 職場近くのサイクルポート	5.1%	（具体的に： )	
4. 使いやすい料金システム	60.9%	8. わからない	9.9%
5. 安全な自転車走行空間	40.5%	無回答	2.7%



問17 あなたがお住まいの周辺地域のまち並み・景観について、どのように感じますか。  
(○は1つ)

n=1,196

1. 満足している	22.2%	4. どちらかといえば不満である	9.5%
2. どちらかといえば満足している	36.0%	5. 不満である	3.5%
3. 普通	25.3%	6. あまり考えたことはない	2.6%
		無回答	0.8%

問18 区では、平成21年4月1日から「文京区歩行喫煙等の禁止に関する条例」を施行し、区内の公共の場所（屋外に限る）における歩きタバコポイ捨て及び駅出入口前などの重点地域での路上喫煙を禁止しています。このことをご存じですか。(○は1つ)

n=1,196

1. よく知っている	53.5%
2. 聞いたことはあるが内容はよく知らない	24.9%
3. 知らない	20.7%
無回答	0.8%

## 5. コミュニティ

問19 あなたの世帯は、町会や自治会に加入していますか。(○は1つ)

n=1,196

1. 加入している	66.4%	2. 加入していない	32.6%	無回答	1.0%
-----------	-------	------------	-------	-----	------

問20 あなたは今後、町会や自治会活動に参加したいと思いますか。(○は1つ)

n=1,196

1. 参加したい	12.7%	3. 参加したくない	18.6%
2. 機会があれば参加したい	35.9%	4. どちらともいえない	31.4%
		無回答	1.3%

問21 町会・自治会に期待する内容はどのようなことですか。  
次の中からいくつでもお選びください。(○はいくつでも)

n=1,196

1. 防災・防犯活動	65.9%
2. 交通事故防止活動	18.5%
3. 清掃・リサイクル活動事業などの環境活動	35.0%
4. お祭りなどのイベント	41.1%
5. 地域親睦・交流活動	28.6%
6. 高齢者・障害者・児童に対する福祉活動	37.3%
7. 行政との連携	22.0%
8. 募金活動	4.6%
9. その他（具体的に： )	0.7%
10. 特にない	10.4%
無回答	1.2%

問22 多様な文化や考え方、性別や年代を超えた価値観が問われる現代社会において、国際化は言語だけでなく、社会や地域、教育現場や職場にもその必要性が求められています。今後、国際化に対応していくために特に必要だと感じることは何ですか。

次の中からいくつでもお選びください。(〇はいくつでも)

n=1,196

1. 障害・性別・国籍・宗教等に囚われない教育（学校・生涯）の提供	66.7%
2. 障害・性別・国籍・宗教等に囚われない労働環境の整備	49.2%
3. 職場におけるハラスメント（障害・性別・国籍・宗教等）に対する理解	40.9%
4. 教育現場におけるハラスメント（障害・性別・国籍・宗教等）に対する理解	46.9%
5. 地域や家庭におけるハラスメント（障害・性別・国籍・宗教等）に対する理解	38.0%
6. その他（具体的に： )	3.3%
7. わからない	11.7%
無回答	2.8%

## 6. 子育て・教育

問23 子育て支援策として、区はどのような施策を実施すべきと思いますか。

次の中からあてはまるものを3つまで選んで、下の欄に番号をご記入ください。

番号を記入 →

1つめ	2つめ	3つめ

n=1,196

1. 保育園・育成室等の保育サービスの充実	60.9%
2. 職場での育児休暇制度の充実など就労と育児の両立支援の推進	30.2%
3. 安心して育てるための環境の整備（道路の段差解消、公園整備など）	24.6%
4. 子どもを育てる親が情報交換できる場の整備	9.6%
5. 子育て情報の提供や各種相談サービスの充実	13.4%
6. 乳幼児等の健康の維持及び増進のための保健サービスの充実	7.4%
7. 経済的な支援の充実	23.9%
8. 一時預かり保育などの充実	33.4%
9. 児童虐待防止対策の充実	14.0%
10. 防犯等の子どもの安全対策の充実	24.7%
11. 非行等の防止対策の充実	12.5%
12. ボランティアなどによる地域での子育て支援体制の整備	10.7%
13. その他（具体的に： )	2.8%
14. わからない	5.4%
無回答	1.7%

問24 子育て支援サービスについてお伺いします。

次の(1)～(3)について、それぞれいくつでもお選びください。

(1) ご存知のサービスをすべてお選びください。

(2) 利用したことがあるサービスをすべてお選びください。

(3) 今後(今後も)利用したいサービスをすべてお選びください。

n=1,196

		(1) 知っている サービス	(2) 利用した ことがある サービス	(3) 今後 (今後も) 利用したい サービス
(○はタテ方向↓にそれぞれいくつでも)		↓	↓	↓
1	両親学級、母親学級	43.0	14.9	5.9
2	保健サービスセンターの親子交流の場や相談サービス	28.4	7.9	6.1
3	教育に関する悩みや心配事を相談する教育相談室	28.3	2.9	6.1
4	保育園や幼稚園の園庭等の開放	29.5	10.5	8.3
5 ～ 7	5 児童館	51.4	24.4	14.2
	6 身近な地域における親子の交流の場	25.3	10.5	8.4
	7 ぴよぴよひろば (子ども家庭支援センター内)	17.7	7.1	7.0
8	ファミリーサポートセンター	21.5	2.6	5.7
9	子ども家庭支援センターの総合相談、子育て支援講座	15.2	0.8	4.5
10	子育て訪問支援券	8.7	1.5	4.8
11	一時保育事業(キッズルーム)	26.3	4.1	9.6
12	緊急一時・リフレッシュ時保育事業(保育園)	15.0	2.7	7.3
13	病児・病後児保育事業	16.1	1.2	7.8
14	ショートステイ事業	15.7	0.9	5.5
15	民生委員・児童委員への子育てや児童問題の相談・援助	20.4	0.5	3.7
16	特にない	23.7	36.0	33.7
	無回答	10.8	31.8	41.1

問25 青少年健全育成に関して地域の大人たちができること、また、やるべきことは何だと思えますか。

次の中からいくつでもお選びください。(○はいくつでも)

n=1,196

1.	大人自身が社会規範を守る姿勢を示すこと	67.9%
2.	子ども達に進んで「おはよう」「こんにちは」等あいさつをすること	51.3%
3.	地域や学校の行事に参加、協力すること	26.1%
4.	子ども達を犯罪から守るため、地域での防犯体制を強化すること	53.9%
5.	近所の知り合いの子ども の育成に手を貸すこと	18.3%
6.	地域の関わりは必要だと思うが、実際に子どもの健全育成に関わるのは難しい	33.1%
7.	子育ては家庭の問題だと思う	18.7%
8.	その他(具体的に: )	1.9%
9.	わからない	2.9%
	無回答	2.1%

問26 区立の小中学校では、次のような学校支援活動が実施されています。  
次の(1)(2)について、それぞれいくつでもお選びください。

- (1) ご存知の活動をすべてお選びください。  
(2) 今後(今後も)協力したい活動をすべてお選びください。

n=1,196

(○はタテ方向↓にそれぞれいくつでも)

	(1) 知っている 活動	(2) 今後 (今後も) 協力したい 活動
1 スクールガード 〔登下校等の見守りを行うボランティア〕	49.2	15.7
2 学校図書ボランティア 〔児童に本の読み聞かせ等を行うボランティア〕	26.4	11.0
3 学習ボランティア 〔学校において学習指導等を行うボランティア〕	13.9	9.5
4 バリアフリーパートナー 〔学校での特別な支援を必要とする子どもたちを支援するボランティア〕	9.4	5.5
5 ゲストティーチャー 〔授業で特技や専門分野等を子どもたちに教えるボランティア〕	13.9	10.5
6 学校支援地域本部事業 〔PTAや地域の人が、ボランティアで学校運営をサポートする事業〕	13.9	6.6
7 特にない	31.9	34.7
無回答	12.5	36.6

## 7. 高齢者

問27 あなたは、地域における高齢者の相談窓口である、  
「高齢者あんしん相談センター(地域包括支援センター)」を知っていますか。  
(○は1つ)

n=1,196

1. 事業内容もおおむね知っている	6.9%	→ 問28へ
2. 事業内容について少し知っている	12.5%	
3. 名前は聞いたことがある	25.8%	
4. 知らない	52.4%	
無回答	2.3%	

【問27で「1. 事業内容もおおむね知っている」または「2. 事業内容について少し知っている」と回答した方に】

問27-1 「高齢者あんしん相談センター(地域包括支援センター)」の事業内容について、  
知っているものをすべてお選びください。(○はいくつでも)

n=232

1. 介護保険の相談や申請	85.8%
2. 高齢者福祉サービスの相談や申請	84.5%
3. 介護予防サービスの相談や申請	69.4%
4. 認知症の介護や予防についての相談	58.6%
5. 虐待に遭っている、またはそのような人の通報、相談	16.8%
6. その他(具体的に： )	1.7%
無回答	0.9%

## 8. 消費者相談

問28 あなたは、消費生活センターに「消費者と事業者との間に生じたトラブルを相談するコーナー」があることをご存知ですか。（〇は1つ） n=1,196

- |                     |       |
|---------------------|-------|
| 1. 相談したことがある        | 4.4%  |
| 2. 知っているが、相談したことはない | 46.2% |
| 3. 知らない             | 47.8% |
| 無回答                 | 1.6%  |

## 9. 文化・スポーツ振興

問29 2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けて、区民の関心と意識を高めるための取組として期待するものは何ですか。

次の中からあてはまるものを**3つまで**選んで、下の欄に番号をご記入ください。

番号を記入 →	1つめ	2つめ	3つめ

n=1,196

- |                                |       |
|--------------------------------|-------|
| 1. オリンピック出場経験者等を招いての講演会等の開催    | 14.0% |
| 2. オリンピック出場経験者等を招いてのスポーツ教室の実施  | 24.9% |
| 3. スポーツ以外の音楽や芸術をテーマとした文化イベント   | 12.5% |
| 4. 道路や建物の壁面を活用したPR             | 13.5% |
| 5. 児童・生徒に対するオリンピック教育           | 19.6% |
| 6. 外国の生活や文化を学べる講座              | 19.0% |
| 7. 外国人とコミュニケーションをとる方法を学べる講座    | 38.4% |
| 8. オリンピックの意義や歴史の変遷を学べる講座       | 12.0% |
| 9. スポーツのルールや楽しみ方を学べる講座         | 23.6% |
| 10. ボランティアなどオリンピックへの関わり方を学べる講座 | 34.1% |
| 11. その他（具体的に： _____）           | 1.9%  |
| 12. 特にない                       | 16.5% |
| 無回答                            | 2.4%  |

問30 2020年東京オリンピック終了後に残るレガシー（遺産）として、どのようなものを期待しますか。次の中からあてはまるものを**3つまで**選んで、下の欄に番号をご記入ください。

番号を記入 →	1つめ	2つめ	3つめ

n=1,196

- |                             |       |
|-----------------------------|-------|
| 1. スポーツ施設が充実している            | 29.1% |
| 2. 公共施設や道路等の整備・バリアフリーが進んでいる | 49.5% |
| 3. 区民がスポーツを楽しむ機会が増えている      | 26.7% |
| 4. 多くの外国人が訪れるようになっている       | 18.1% |
| 5. 観光や産業・経済が活性化している         | 32.4% |
| 6. 防犯・防災対策が強化されている          | 29.7% |
| 7. 文化・芸術が発展している             | 12.0% |
| 8. ボランティア活動が盛んになっている        | 11.9% |
| 9. 障害者理解・心のバリアフリーが進んでいる     | 17.0% |
| 10. 国際理解・異文化理解が進んでいる        | 27.6% |
| 11. その他（具体的に： _____）        | 1.3%  |
| 12. 特にない                    | 8.2%  |
| 無回答                         | 1.7%  |

問31 あなたは普段、どのくらいの頻度で運動（ウォーキングやラジオ体操を含む）をしていますか。  
（〇は1つ） n=1,196

1. 週に3日以上	28.1%	5. 年に1～3日	1.3%
2. 週に1～2日	28.2%	6. わからない	1.8%
3. 月に1～3日	12.8%	7. 運動をしていない	23.2%
4. 3か月に1～2日	2.9%	無回答	1.8%

## 10. 循環型社会

問32 区では循環型社会の実現に向けて、「2R（リデュース：発生抑制、リユース：再使用）」の取組をリサイクルに先立って推進していきます。「2R（リデュース：発生抑制、リユース：再使用）」推進のためには、区はどのようなことを重点的に行うべきと考えますか。次の中からあてはまるものを**3つまで**選んで、下の欄に番号をご記入ください。

番号を記入 →

1つめ	2つめ	3つめ

n=1,196

1. 暮らしの中でできる発生抑制につながる取組の普及啓発	37.8%
2. 子どもに対する環境教室の実施	29.8%
3. マイバッグ・マイ箸・マイカップの推奨	27.9%
4. ふろしき活用法や不用品リメイクなどの啓発講座	7.9%
5. 食品ロス（まだ食べられるのに廃棄される食品）削減のための普及啓発	39.4%
6. 生ごみ減量のための料理教室	6.8%
7. 生ごみの水切りの推奨	6.9%
8. 生ごみ堆肥の作り方講座	5.4%
9. コンポスト化容器のあっせん	8.4%
10. フリーマーケットの開催	22.9%
11. リサイクルショップや修理店の情報提供	34.9%
12. その他（具体的に： )	3.8%
13. わからない	7.3%
無回答	3.3%

## 11. 議会

問33 あなたは、区議会の活動を、どのようにしてお知りになっていますか。次の中から**いくつでも**お選びください。（〇はいくつでも） n=1,196

1. ぶんきょう区議会だより	62.2%
2. 区議会のホームページ	→ 問33-1へ（該当しない方は問34へ） 4.5%
3. 区議会日程ポスター	0.6%
4. 本会議・委員会の傍聴	0.8%
5. 区報ぶんきょう	42.6%
6. CATVぶんきょう区民チャンネル	4.8%
7. その他（具体的に： )	1.3%
8. 特にない（区議会の活動を知らない）	19.6%
無回答	2.7%

【問33で「2. 区議会のホームページ」と回答した方に】

問33-1 あなたは、区議会ホームページをどの程度閲覧されていますか。(〇は1つ) n=54

1. よく見る	5.6%
2. 時々見る	24.1%
3. 興味のある内容のときだけ見る	70.4%
無回答	0.0%

【全員の方にお聞きします】

問34 地方議会の活性化や議会改革が求められています。区議会の活動として期待することはどれですか。次の中からいくつでもお選びください。(〇はいくつでも) n=1,196

1. 執行機関(区長)に対するチェック機能の充実強化	36.1%
2. 議員提出議案の増加など議会の政策形成機能の強化	22.4%
3. 議会報告会など住民との直接対話による意見聴取	38.7%
4. 参考人、公聴会制度の活用による委員会審査の活性化	16.5%
5. 区議会インターネット配信など議会広報の充実	17.3%
6. その他(具体的に: )	3.0%
7. 特になし	22.4%
無回答	4.8%

12. 広聴

問35 あなたは、過去2年くらいの間に区役所本庁の窓口を利用したことがありますか。(〇は1つ) n=1,196

1. ある 76.8%	2. ない 21.5%	→ F1へ	無回答 1.7%
-------------	-------------	-------	----------

【問35で「1. ある」と回答した方に】

問35-1 その時の職員の対応はいかがでしたか。(〇は1つ) n=919

1. 好感がもてた 30.7%	3. どちらかといえば好感がもてなかった 12.0%
2. どちらかといえば好感がもてた 50.3%	4. 好感がもてなかった 6.2%
無回答 0.9%	

■ 最後に、あなたとご家族のことについておたずねします

F1 あなたの性別はどちらですか。(〇は1つ) n=1,196

1. 男性 41.1%	2. 女性 57.8%	無回答 1.1%
-------------	-------------	----------

F2 あなたの年齢はおいくつですか。(〇は1つ) n=1,196

1. 20~29歳 9.7%	4. 50~59歳 16.9%
2. 30~39歳 17.8%	5. 60~64歳 8.6%
3. 40~49歳 22.2%	6. 65歳以上 24.0%
	無回答 0.8%

※裏面に続きます →

F 3 あなたのご職業は次のどれですか。（〇は1つ）

n=1,196

1. 自営業・事業主	11.3%	4. 労務・サービス業	6.7%	7. 無職	13.2%
2. 管理職・自由業	10.1%	5. 主婦	20.9%	8. その他	5.4%
3. 事務職・技術職	28.5%	6. 学生	3.0%	無回答	0.9%

F 4 一緒に住んでいるご家族は、**あなたを含めて**何人ですか。（〇は1つ）

n=1,196

1. 1人	20.5%	3. 3人	26.1%	5. 5人	6.2%
2. 2人	28.5%	4. 4人	15.1%	6. 6人以上	2.8%
				無回答	0.9%

F 5 あなたの現在のお住まいは、次のどれにあたりますか。（〇は1つ）

n=1,196

1. 一戸建て持ち家	34.7%	4. 賃貸マンション・アパート	28.3%
2. 一戸建て借家	3.1%	5. 社宅、寮など	2.2%
3. 分譲マンション	29.1%	6. その他（ 無回答	1.7% 0.9%

F 6 あなたご自身は、次のどれにあたりますか。（〇は1つ）

※同居・別居を問わず、現在の状況をお答えください。

n=1,196

◎独身である	1. 20～39歳	13.6%
	2. 40～64歳	12.6%
	3. 65歳以上	6.5%
◎配偶者がいて 子どもがいない	4. 本人 20～39歳	5.4%
	5. 本人 40～64歳	6.9%
	6. 本人 65歳以上	3.8%
◎配偶者がいて 子どもがいる	7. 一番上の子どもが小学校入学前	7.8%
	8. 一番上の子どもが小・中学生	11.0%
	9. 一番上の子どもが高校生・大学生（短大・大学院・専門学校等含む）	7.2%
	10. 本人が64歳以下で、一番上の子どもが学校卒業	10.8%
	11. 本人が65歳以上で、一番上の子どもが学校卒業	13.0%
	無回答	1.2%

F 7 あなたはどちらの地区にお住まいですか。（〇は1つ）

n=1,196

1. 根津、弥生、本郷、湯島、西片、白山（1丁目）、向丘（1丁目）	23.9%
2. 後楽、春日、水道、小石川（1～4丁目）、関口（1丁目）、小日向（1丁目） 白山（2丁目）	18.7%
3. 千駄木、本駒込、向丘（2丁目）、白山（5丁目）	25.8%
4. 千石、白山（3・4丁目）、大塚（3・4丁目）、小石川（5丁目）	16.5%
5. 音羽、目白台、大塚（1・2・5・6丁目）、関口（2・3丁目）、小日向（2～4丁目）	14.5%
無回答	0.7%

ご協力ありがとうございました

～ 皆さまからの貴重なご意見を、区の施策に活かしてまいります ～



# 第23回 文京区政に関する世論調査 報告書

---

平成27年12月発行

印刷物番号 C0115008

- [ 発行 ] 文京区企画政策部広報課  
〒112-8555 文京区春日1丁目16番21号  
☎ 03(5803)1129 (直通)
- [ 実施 ] 株式会社総合企画  
〒111-0053 台東区浅草橋1丁目7番2号  
☎ 03(5829)6203

---

資源有効利用のため再生紙を使用しています。

